

奈良県結婚・子育て実態調査

報告書

平成31年 3月

奈良県

【 目 次 】

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	1
2 調査の実施概要	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査項目	1
(3) 調査方法	3
(4) 抽出方法	3
(5) 調査期間	3
(6) 回収結果	3
(7) 標本の代表性と全国比較	3
(8) 調査結果の表示方法	5
第2章 夫婦調査の結果	7
1 回答者の属性	7
(1) 夫婦の年齢等	7
(2) 家族構成・子ども	9
2 就労状況	13
(1) 現在までの各時期の夫婦の就労状況	13
(2) 妻の妊娠・出産後の就労状況	22
(3) 現在の夫婦の就労状況	27
(4) 未就労の妻の今後の就労希望	36
(5) 就労経験者の退職時期と理由	42
3 出会い・結婚	45
(1) 出会いのきっかけ	45
(2) 結婚を決めたきっかけ	46
4 家事・育児の分担や夫婦の関係	47
(1) パートナーとの関係	47
(2) 家事の分担状況	51
(3) 育児の分担状況	52
5 子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手	56
(1) 子育ての不安感や負担感	56
(2) 妻の出産前後の精神的・肉体的な不安感	60
(3) 妻の妊娠期の気持ちや状態	61
(4) 妻の子育てがしんどいと感じた要因	62
(5) 妻の家事や育児を実際に助けてくれた（くれている）人	63
(6) 子育てに関する相談相手	64
(7) 子育ての楽しさ・つらさ	66
6 男性の育児や家事への関わり	68
(1) 夫は育児を積極的にする男性か	68
(2) 夫の子育ての関わり方	68
(3) 夫が子育てに関わらない理由	69
7 子どもを持つことへの考え	70
(1) 理想の子どもの人数	70
(2) 理想の子ども数を持つ理由	71

(3) 今後の子どもの予定	72
(4) 予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由	73
(5) 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因	74
8 家族観・子ども観	75
(1) 結婚・家族・子育てに関する意識	75
9 子育て支援策	82
(1) 奈良県は結婚して子どもを生み育てやすいところだと思うか	82
(2) 父親の育児休暇・休業取得	84
(3) 父親の育児休暇・休業の取得期間	84
(4) 男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由	85
(5) 保育サービスで望むこと	86
(6) あれば良いと思う住民同士の助け合い	88
(7) 子育て支援に関する重要度	89
(8) 子育て支援に関する満足度	90
(9) 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況	95
(10) 「地域の子育て支援拠点」を利用しなかった理由	101
10 自由記述意見	102
第3章 独身者調査の結果	104
1 回答者の属性	104
(1) 年齢	104
(2) 性別	105
(3) 親との同居／別居	105
(4) 結婚経験の有無	106
(5) 子どもの有無・人数	107
2 就労状況	108
(1) 就労形態・職種・勤め先の従業員数	108
(2) 就労状況	111
3 結婚観	117
(1) 結婚することの利点の有無	117
(2) 独身生活の利点の有無	120
(3) 希望するライフコース	123
(4) 結婚意欲	129
(5) 結婚時期についての考え	130
(6) 希望結婚年齢	131
(7) 交際相手と知り合うきっかけの希望	132
(8) 現在独身でいる理由	133
(9) 結婚相手を決める際に重視すること	135
(10) 結婚することの障害	137
4 子どもに関すること	140
(1) 希望する子ども数	140
(2) 最初の子どもの持ちたい年齢	141
(3) 子育てに対する考え	142
(4) 身近な状況について	143
5 結婚・家庭・子どもを持つことへの考え方	145
(1) 将来設計について	145

(2) 結婚、家族、子育てに関する意識.....	146
6 結婚・子育て支援策	153
(1) 重要と考える子育て支援策.....	153
(2) 婚活サイト等の利用状況.....	155
(3) 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うか.....	155
(4) 子どもを産み育てやすいと感じる地域.....	158
7 自由記述意見	159
第4章 グループインタビュー調査の結果.....	160
1 最近の若者の結婚事情について.....	160
2 最近の若者の子育て事情について.....	162
資料	165
1. 夫婦調査用	165
2. 独身者調査用	189

第1章 調査の概要

1 調査の目的

県民の結婚や子どもを持つこと、子育てに関する意識や現状を把握し、奈良県において子どもを
生み育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施した。

2 調査の実施概要

(1) 調査対象

- ・夫婦調査：平成30年9月1日現在で結婚している50歳未満の男女（届出の有無を問わない）
- ・独身者調査：平成30年9月1日現在で18歳以上50歳未満の独身の男女

(2) 調査項目

夫婦調査、独身者調査のいずれも、平成25年に実施した「奈良県子育て実態調査」の項目を
ベースに、一部の項目を削除し、新たな項目を追加。調査項目等内容について、統計の専門有識者
に協力を得た。

①夫婦調査

調査項目	質問項目
①回答者の属性	・夫婦の出生年月・結婚生活を始めた年月・初再婚の別 ・家族構成
②妊娠・出産	・子どもの数 ・誕生の時期・里帰り出産・里帰り期間
③就労状況	・現在までの各時期の夫婦の就労形態・職種・勤務先の従業員数・通勤時間（片道） ・妊娠・出産後の妻の就労形態・職種・勤務先の従業員数・通勤時間（片道） ・現在の夫婦の就労状況 1週間の労働時間（平均）・年収・勤続年数・仕事継続の見通し・出勤時刻（平均）・帰宅時刻（平均）・睡眠時間（勤務日）・通勤時間（片道）・不規則勤務の有無 ・妻の就労希望の有無 ・妻の希望する就労形態・勤務地 ・妻が就労を希望しない理由 ・妻が就労しようと思う条件 ・妻が仕事を辞めた時期 ・妻が仕事を辞めた理由
④出会い・結婚	・知り合ったきっかけ ・結婚を決めたきっかけ
⑤家事・育児の分担や夫婦の関係	・パートナーとの関係 ・家事の分担状況 ・育児の分担状況

調査項目	質問項目
⑥子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての不安感・負担感 ・時期別の妻の不安感 ・妻の妊娠期の状況 ・妻の妊娠期・出産後の不安の要因 ・妻の家事や育児を助けてくれた人・助けてほしかった人
⑦子育てに関する相談等	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てについて相談できる人の有無及び人数 ・相談できる人 ・子育てが楽しいと感じる度合い ・子どもが就学前の頃の不安や悩みの内容
⑧男性の育児や家事への関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・夫は育児を積極的にする男性か ・妻からみた夫の子育ての関わり方 ・夫からみた夫の子育ての関わり方 ・夫か子育てに関わらない理由
⑨子ども数等	<ul style="list-style-type: none"> ・理想の子ども数・1人以上の理由 ・出産予定の子ども数・出産を希望する時期 ・「予定子ども数」が「理想子ども数」より少ない理由 ・子育てや教育にお金がかかりすぎる要因
⑩結婚・子育て等に関する意識	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚・家庭・子育てに関する意識
⑪子育て支援策	<ul style="list-style-type: none"> ・奈良県での子育てのしやすさ ・父親の育児休暇・休業取得の必要性・取得期間 ・男性の育児休暇・休業取得率が低い理由 ・保育サービスで望むこと ・あればいいと思う住民同士の助け合い ・子育て支援策に関する重要度・満足度 ・過去に利用した制度や施設 ・地域子育て支援拠点を利用しなかった理由
⑫自由記述意見	<ul style="list-style-type: none"> ・本調査や結婚・出産・子育て・少子化などに関する自由意見

②独身者調査

調査項目	質問項目
①回答者の属性	<ul style="list-style-type: none"> ・出生年月・性別・親との同(別)居 ・結婚歴・子どもの有無 ・現在までの就労形態・職種・勤務先の従業員数 ・現在の就労状況 <ul style="list-style-type: none"> 1週間の労働時間(平均)・年収・勤続年数・仕事継続の見通し・出勤時刻(平均)・帰宅時刻(平均)・睡眠時間(勤務日)・通勤時間(片道)・不規則勤務の有無
②結婚観	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚の利点の有無・具体的な利点 ・独身生活の利点の有無・具体的な利点
③希望するライフコース	<ul style="list-style-type: none"> ・理想とする人生・実際になりそうな人生・パートナーとなる異性に望む人生

調査項目	質問項目
④結婚意欲等	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚に対する考え ・結婚するタイミング・希望する結婚年齢 ・希望する出会いのきっかけ ・現在独身でいる理由 ・結婚相手を決めるとき重視すること ・結婚の障害の有無・内容
⑤希望する子ども数	・希望する子どもの数・最初の子どもの持ちたい年齢
⑥子育てに対する考え	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てが楽しいと感じる度合い ・小さな子どもとふれ合ったり世話をした経験の有無
⑦結婚・子育て等に関する意識	・将来設計の有無
	・結婚・家庭・子育てに関する意識
⑧結婚・子育て支援策	・子育て支援策に関する重要度
	・婚活サイト等の利用状況
	・奈良県での子育てしやすさ
	・結婚して子どもを生き育てやすいと感じる地域
⑨自由記述意見	・本調査や結婚・出産・子育て・少子化などに関する自由意見

(3) 調査方法

郵送法

(4) 抽出方法

県内市町村から 306 地点を系統抽出し、当該地点内から選挙人名簿に基づく無作為抽出により上記の調査対象に該当する方を選定。

(5) 調査期間

平成 30 年 9 月 5 日～平成 30 年 10 月 24 日

(6) 回収結果

	配布数	送達不能数	回収数	無効票	有効回答数	有効回答率
夫婦調査	3,978	15	1,313	9	1,304	32.9%
独身者調査	3,978	33	777	9	768	19.5%

(7) 標本の代表性と全国比較

夫婦調査並びに独身者調査の回答者がどの程度母集団を反映しているかを検証するため、平成27年国勢調査の奈良県結果（以下、「国勢調査」という。）及び平成27年に国立社会保障・人口問題研究所が実施した「第15回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」（以下、「全国調査」という。）の調査結果との比較を行った。

なお、全国調査との比較については、全国での結果と、奈良県での結果とを比較しているため、必ずしも傾向が一致するとは限らない。

①夫婦調査

夫婦調査の対象となった世帯の妻の年齢の分布をみると、30歳未満の割合が全国調査及び国勢調査の割合に比べてやや低くなっているが、その他の年代については全国調査及び国勢調査の分布状況とほぼ一致している。おおむね母集団の年齢構成に沿った回答が得られた。

妻の年齢	平成 30 年県調査		平成 27 年全国調査		平成 27 年国勢調査	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
総数	1,228	100.0	5,334	100.0	132,097	100.0
19歳以下	0	0.0	4	0.1	136	0.1
20～24歳	5	0.4	75	1.4	1,891	1.4
25～29歳	66	5.4	397	7.4	9,829	7.4
30～34歳	207	16.9	820	15.4	20,201	15.3
35～39歳	288	23.5	1,203	22.6	28,147	21.3
40～44歳	332	27.0	1,547	29.0	36,831	27.9
45～49歳	330	26.9	1,288	24.1	35,062	26.5

*年齢不詳・50歳以上除く

②独身者調査

独身者調査については、国勢調査の結果に比べ、男性の30歳未満の各年代の割合がやや低く、30歳代及び45～49歳の年代層の割合がやや高くなっている。女性は18～19歳の割合が低く、20歳代及び40歳代の各年代の割合がやや高くなっている。全国調査と比べると、男性は30歳未満、女性は18～24歳の年代層の割合が低く、男性は35歳以上、女性は30歳以上の各年代の割合が高くなっている。今回調査と国勢調査及び全国調査について、全年齢を対象とした集計結果をみる際には、回答された年代層のウェイトに違いがあることを考慮する必要がある。

	独身男性					
	平成 30 年県調査		平成 27 年全国調査		平成 27 年国勢調査	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
総数	300	100.0	3,942	100.0	122,576	100.0
18～19歳	24	8.0	419	10.6	13,870	11.3
20～24歳	68	22.7	923	23.4	30,263	24.7
25～29歳	47	15.7	788	20.0	22,183	18.1
30～34歳	44	14.7	575	14.6	16,026	13.1
35～39歳	45	15.0	458	11.6	14,050	11.5
40～44歳	37	12.3	445	11.3	14,550	11.9
45～49歳	35	11.7	334	8.5	11,634	9.5

	独身女性					
	平成 30 年県調査		平成 27 年全国調査		平成 27 年国勢調査	
	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)	人数 (人)	構成比 (%)
総数	462	100.0	3,424	100.0	121,854	100.0
18～19歳	20	4.3	381	11.1	13,903	11.4
20～24歳	124	26.8	1,023	29.9	31,349	25.7
25～29歳	101	21.9	754	22.0	21,877	18.0
30～34歳	58	12.6	412	12.0	14,802	12.1
35～39歳	47	10.2	323	9.4	13,031	10.7
40～44歳	60	13.0	299	8.7	14,468	11.9
45～49歳	52	11.3	232	6.8	12,424	10.2

*年齢不詳除く

(8) 調査結果の表示方法

- ①設問ごとの集計母数は、グラフ中に「N=***」と表記し、クロス集計のグラフ・図表では、集計区分ごとの集計母数を「N=***」と表記している。
- ②集計結果の百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入した値を表記している。このため、単数回答設問の選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- ③複数回答設問では、当該設問に回答すべき回答者数を母数として選択肢ごとにそれぞれ構成比を求めている。そのため、構成比の合計は通常100.0%にはならない。
- ④本文中の「今回調査」及び図表中の表記における「H30 県調査」は、本調査の結果を表している。また、本調査は、質問項目により次の調査結果と比較を行っている。

調査名称	本文・図表の表記	調査の実施概要
奈良県子育て実態調査	前回調査、H25 県調査	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 25 年度実施（奈良県） ○調査対象（数） <ul style="list-style-type: none"> ①夫婦調査：奈良県内に居住する妻の年齢 50 歳未満の夫婦（回答者は妻）2,115 人 ②独身者調査：奈良県内に居住する 18 歳以上 50 歳未満の独身男女 1,822 人 ○調査方法 訪問留置調査 ○回収結果（回収率） <ul style="list-style-type: none"> ①夫婦調査：1,884 人（89.1%） ②独身者調査：1,591 人（87.3%）
奈良県少子化実態調査	H20 県調査	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 20 年度実施（奈良県） ○調査対象（数） <ul style="list-style-type: none"> ①夫婦調査：奈良県内に居住する妻の年齢 50 歳未満の夫婦（回答者は妻）1,549 人 ②独身者調査：奈良県内に居住する 18 歳以上 50 歳未満の独身男女 1,549 人 ○調査方法 訪問留置調査 ○回収結果（回収率） <ul style="list-style-type: none"> ①夫婦調査：982 人（63.4%） ②独身者調査：985 人（63.6%）
第 15 回出生動向基本調査	全国調査、H27 全国調査	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 27 年度実施（国立社会保障・人口問題研究所） ○調査対象（数） <ul style="list-style-type: none"> ①夫婦調査：年齢 50 歳未満の有配偶女性 7,511 人 ②独身者調査：18 歳以上 50 歳未満の独身男女 11,442 人 ○調査方法 配票自計、密封回収方式 ○回収結果（回収率） <ul style="list-style-type: none"> ①夫婦調査：6,598 人（87.8%） ②独身者調査：8,752 人（76.5%）

また、一部の質問項目については、平成 8 年度に本県が実施した「これからの子育てや保育に関する県民意識調査」の結果と比較を行っており、本文・図表には「H8 県調査」と表記している。なお、調査の年度等の記載の無い図表は今回の調査結果である。

- ⑤全国調査や前回調査結果との比較をする図表については、対象を同一にして比較するため、原則、今回調査の対象を絞って集計している。
- ⑥今回調査の調査方法は郵送法であり、訪問留置調査を実施した平成 20 年・25 年の県調査及び平成 27 年の全国調査結果とは方法が異なるため、結果の単純比較はできないが、本調査目的を達成するための参考データとして、比較結果を有効活用する。
- ⑦夫婦調査の過去の調査および全国調査は妻のみを回答の対象としているが、今回の調査は、新たに夫も回答の対象としている。
- ⑧独身者調査では、結婚経験のない者を「未婚者」として表記している。
- ⑨今回の調査結果をまとめるにあたり、下記有識者の協力を得た。

梅田直美（奈良県立大学地域創造学部准教授）

小崎恭弘（大阪教育大学教育学部准教授）

清水益治（帝塚山大学現代生活学部こども学科教授）

筒井淳也（立命館大学産業社会学部教授）

新川泰弘（関西福祉科学大学教育学部准教授）

（五十音順）

第2章 夫婦調査の結果

1 回答者の属性

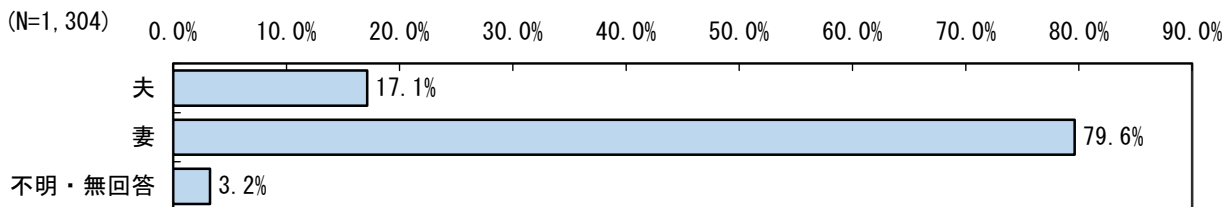
(1) 夫婦の年齢等

問1 あなた方ご夫婦のうち、①回答される方に○をつけていただき、ご夫婦双方の②出生年月、③結婚生活を始めた年月および④初再婚の別について、あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。

①回答者

回答者の性別は、「妻」が79.6%、「夫」が17.1%となっている。

図表 回答者

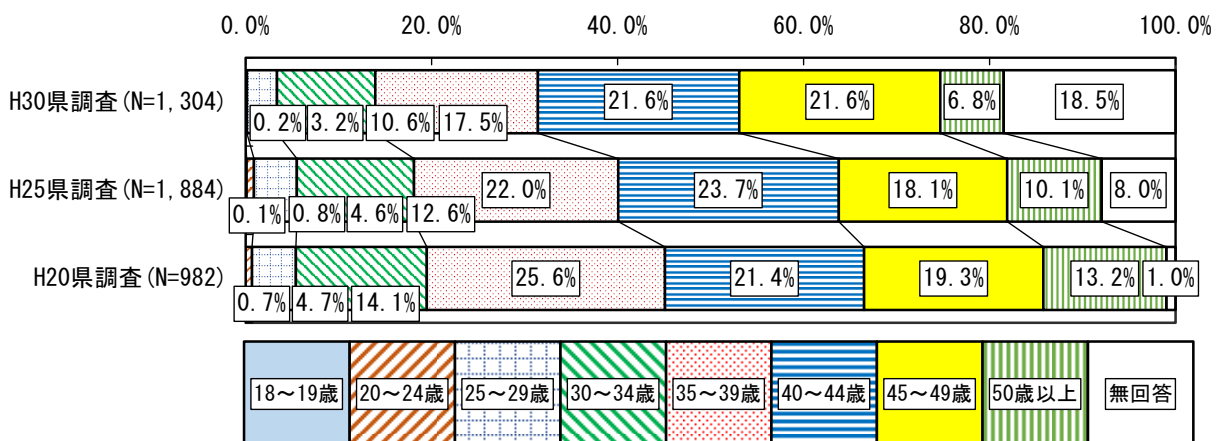


②夫婦の年齢

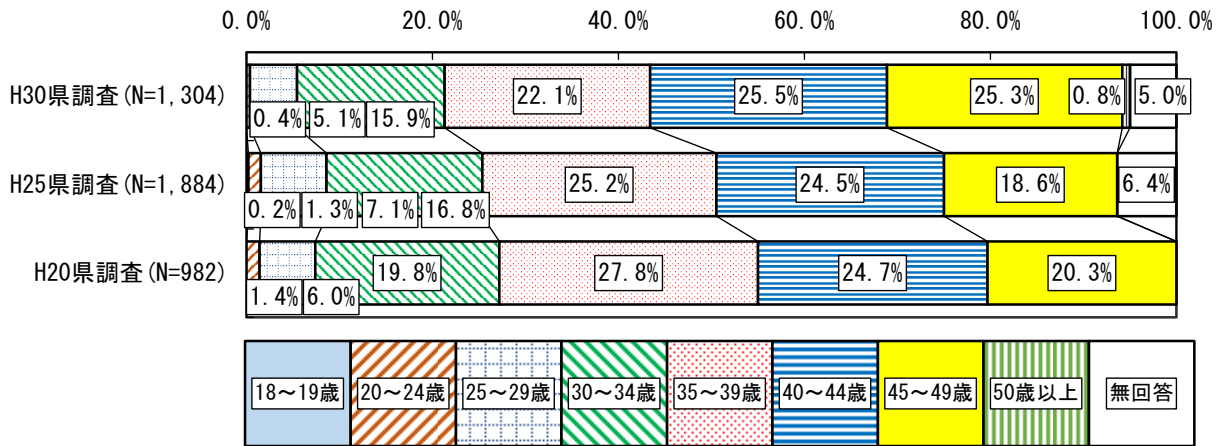
夫の年齢は、「40～44歳」「45～49歳」がともに21.6%で、前回調査に比べて、「45～49歳」の割合が3.5ポイント上昇し、「35～39歳」及び「50歳以上」の各割合が3ポイント以上低下している。

妻の年齢は、「40～44歳」が25.5%、「45～49歳」が25.3%で、前回調査に比べて、40歳代の割合が7.7ポイント上昇している。

図表 夫の年齢



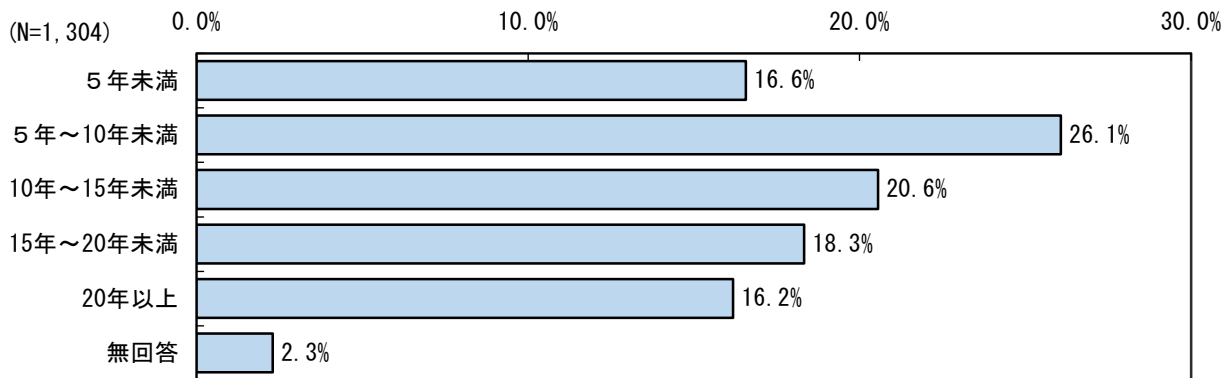
図表 妻の年齢



③婚姻期間

婚姻期間は、「5年～10年未満」が26.1%、「10年～15年未満」が20.6%で、15年未満が全体の約6割を占める。

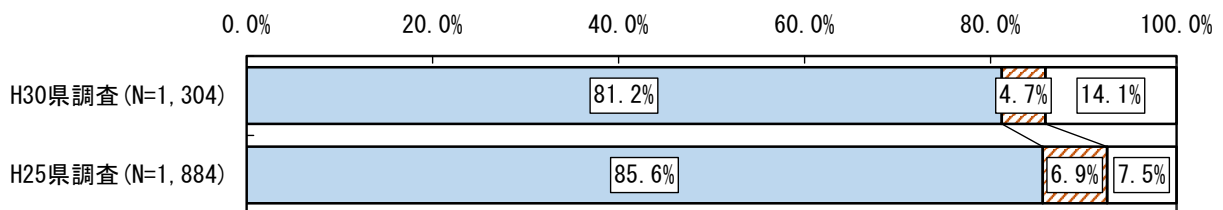
図表 婚姻期間



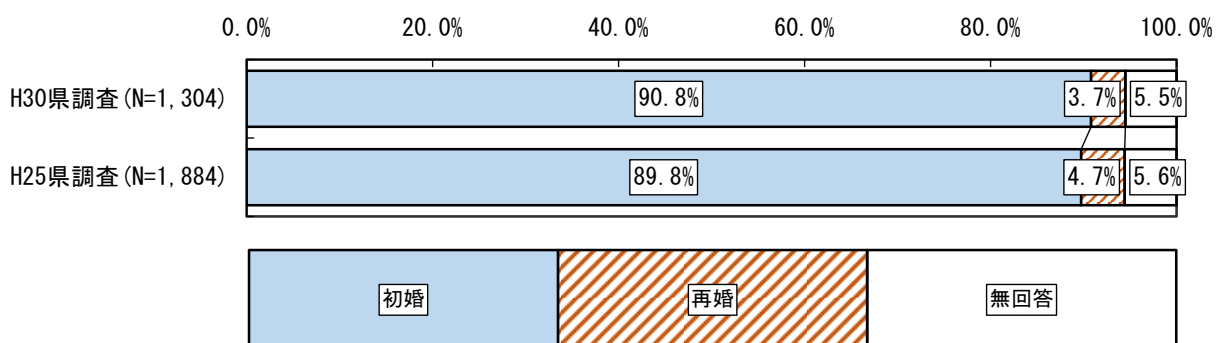
④初・再婚の別

初・再婚の別は、妻は「初婚」が90.8%、「再婚」が3.7%であり、夫は「初婚」が81.2%、「再婚」が4.7%となっている。

図表 初・再婚の別（夫）



図表 初・再婚の別（妻）



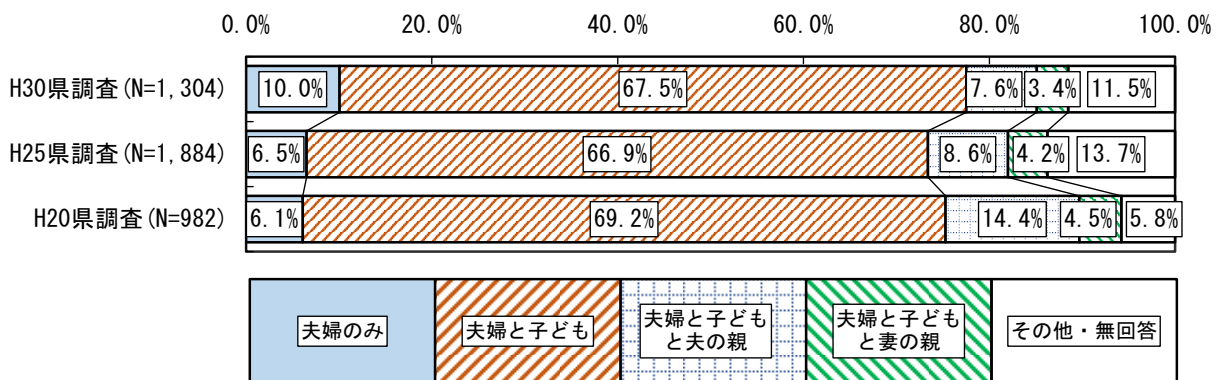
(2) 家族構成・子ども

問2 あなたが現在一緒に住んでいる人すべてについて、あてはまる番号すべてに○をつけ、() 内に人数を記入してください。

①家族構成

家族構成は、「夫婦と子ども」が67.5%で最も多い。前回調査時も「夫婦と子ども」が66.9%で最も多かったが、今回 0.6 ポイント上昇している。また、「夫婦のみ」も、前回調査の 6.5%から10.0%に3.5 ポイント上昇している。

図表 家族構成

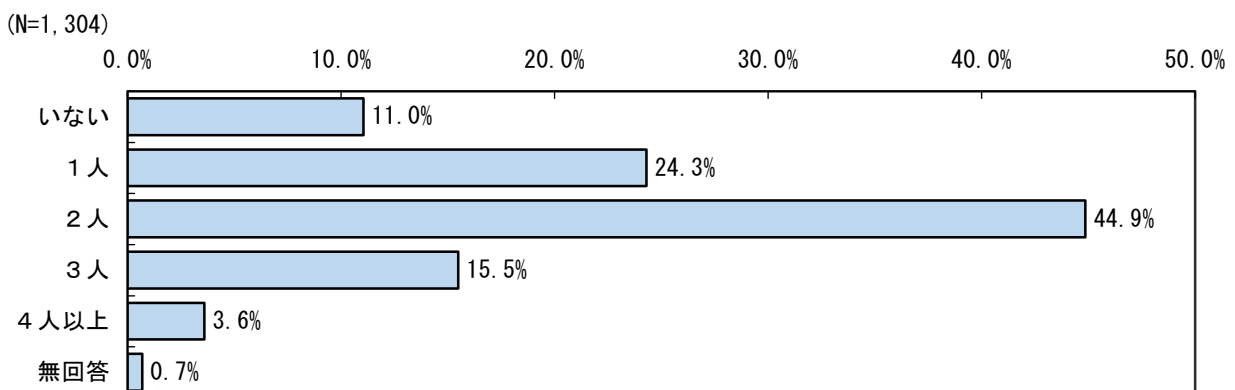


②子どもの人数

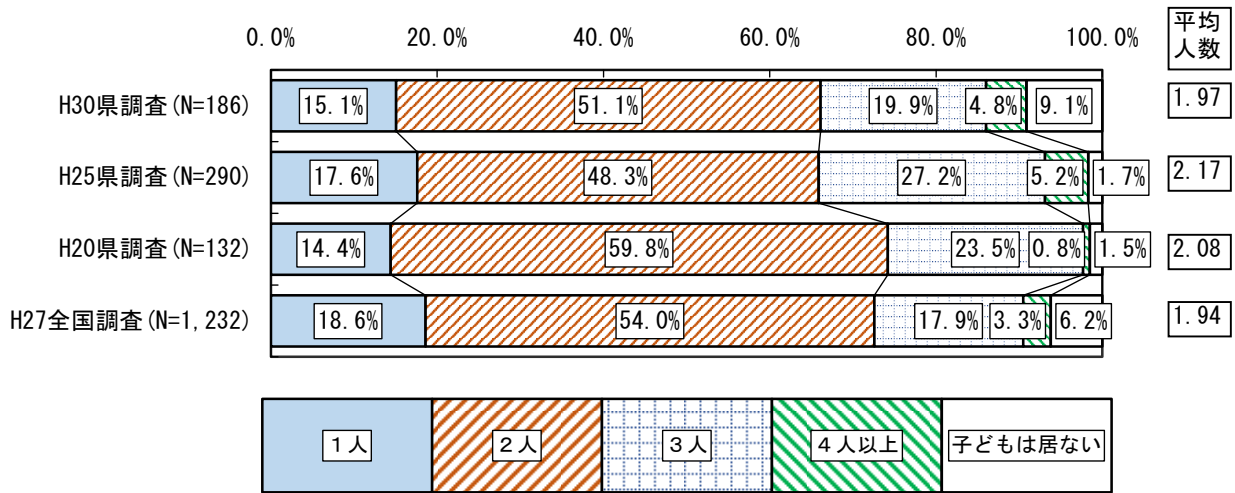
問3 あなた方ご夫婦のお子さん（成人を含む）は現在何人ですか。下記に人数をご記入ください。

子どもがいる世帯は88.3%で、結婚年数15～19年以上の初婚同士の世帯では90.9%と前回調査(98.3%)に比べ7.4ポイント減少している。夫婦の完結出生児数（夫婦の最終的な平均出生子ども数・全国調査にあわせ結婚持続期間が15～19年の夫婦間の子ども数と定義）をみると、1.97人であり、前回調査の結果(2.17)に比べ低下したが、全国調査結果(1.94)よりはやや多い。子どもの数では、前回調査の結果に比べ「2人」の割合は上昇し、「3人」の割合が低下したが、全国調査の結果とは「2人」も「3人」も同水準だった。

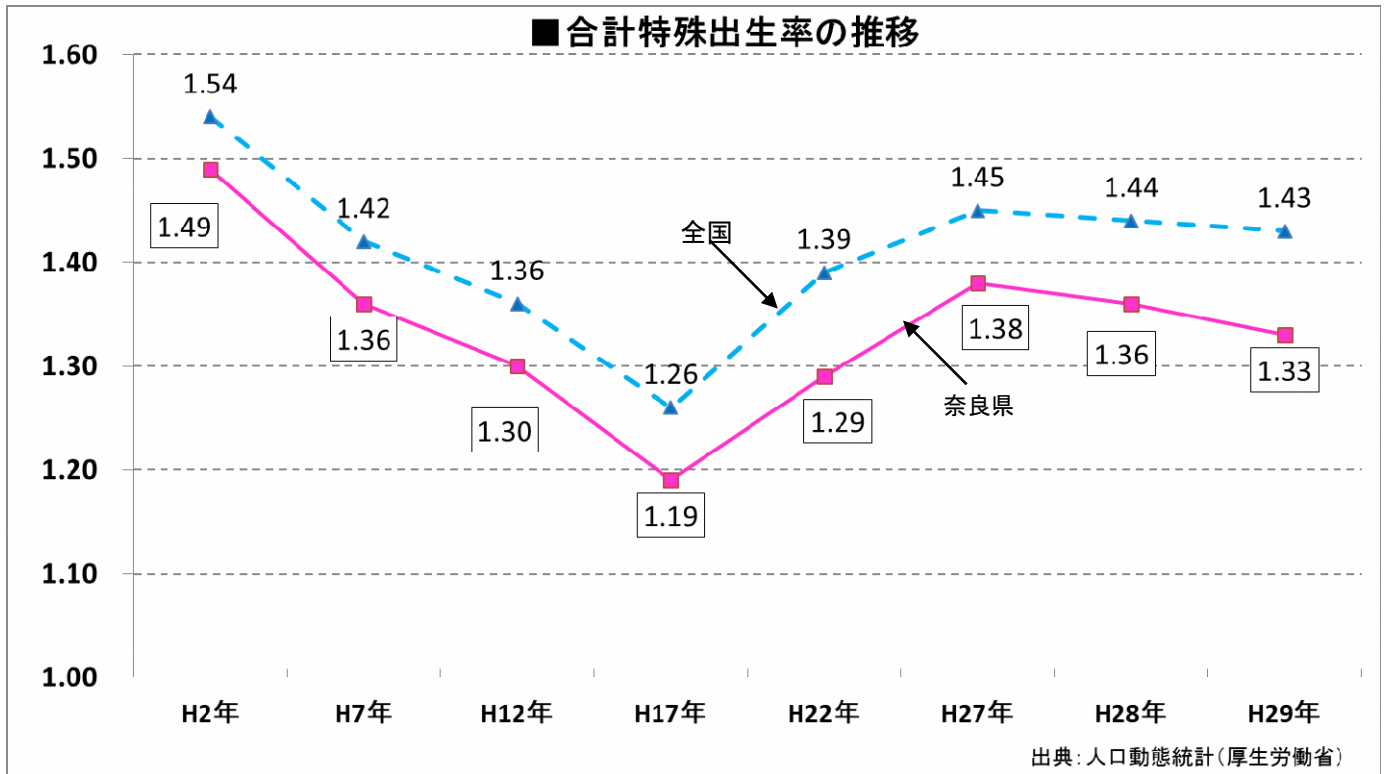
図表 子どもの人数



図表 子どもの人数（結婚年数15～19年以上、初婚同士）



【参考】



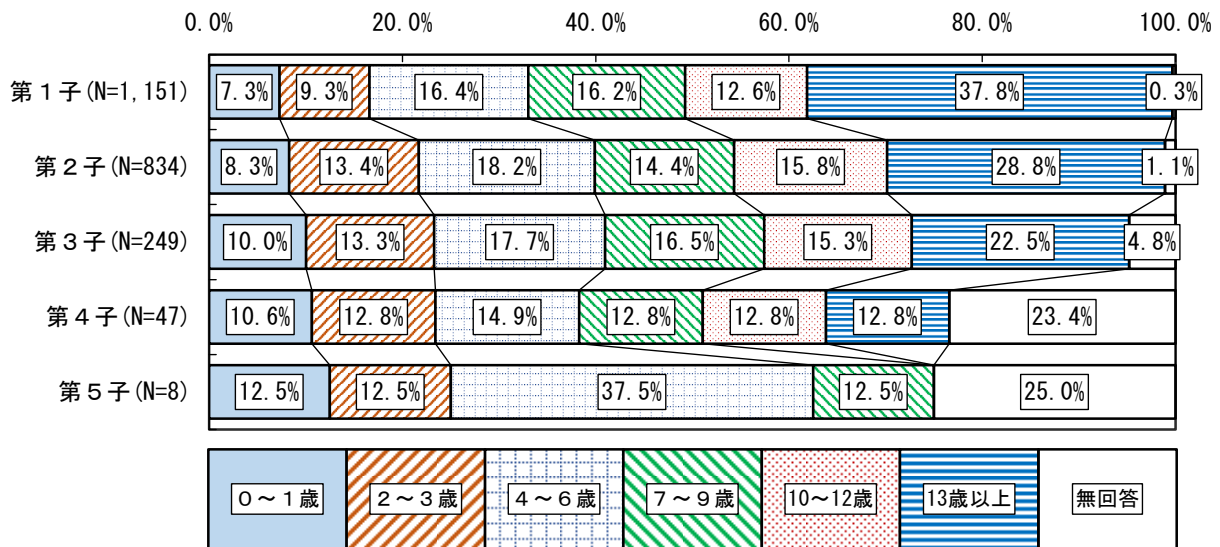
※合計特殊出生率は15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。(既婚・独身の別は問わない)

③子どもの年齢

問 3-1 あなた方ご夫婦のおさんの誕生の時期を記入してください。里帰り出産をした場合は（県内外は問いません）中央欄に○をつけ、里帰り期間（産後）についてあてはまるものに○をつけてください。（第5子までの記入で結構です）

子どもの年齢は、第1子から第3子では「13歳以上」が最も多く、次いで「4～6歳」となっている。第4子及び第5子では「4～6歳」が最も多い。第1子が12歳以下の夫婦の割合は61.8%、6歳以下の夫婦の割合は33.0%となっている。

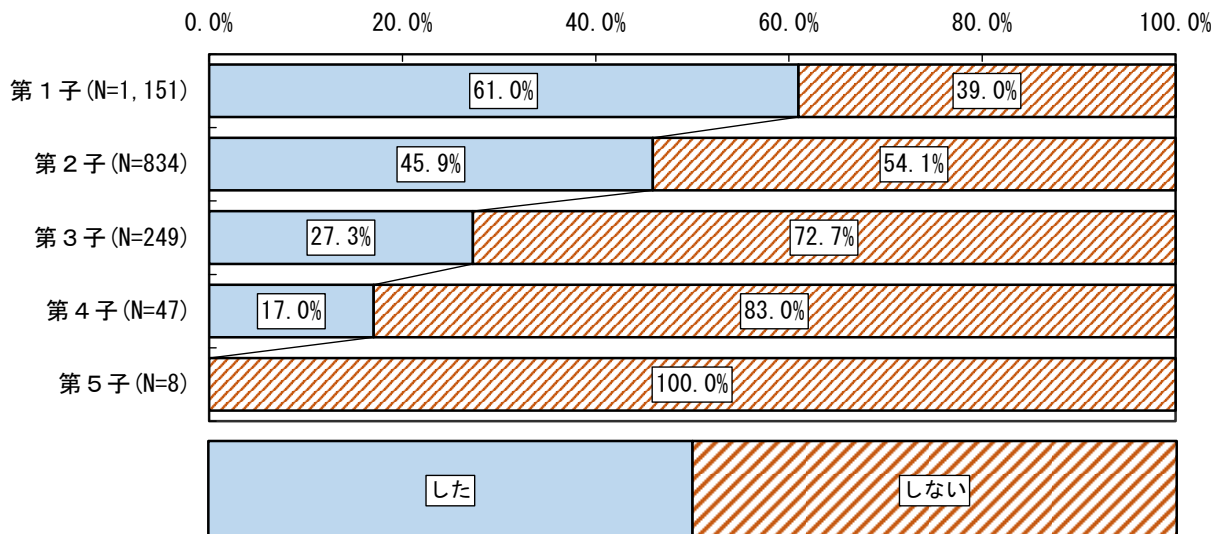
図表 子どもの年齢



④里帰り出産の有無

里帰り出産をしたのは、第1子では61.0%、第2子では45.9%となっている。子どもの数が増えるにつれて里帰り出産の割合は低下していき、第5子では0.0%となっている。

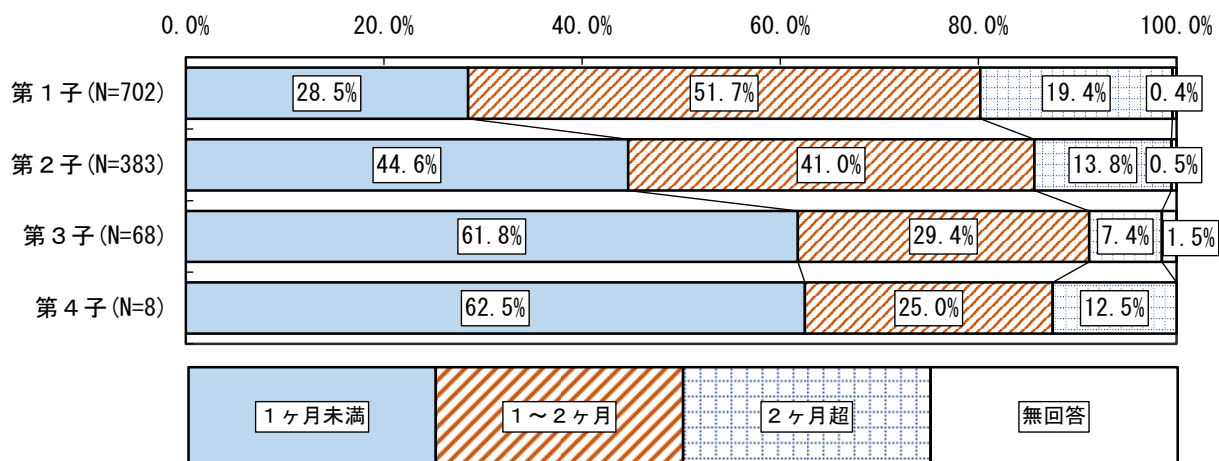
図表 里帰り出産の有無



⑤里帰り期間（産後）

産後の里帰り期間は、第1子では「1～2ヶ月」が最も多く、第2子から第4子では「1ヶ月未満」が最も多くなっている。子どもの数が増えるにつれて里帰り期間は短くなっていく傾向にある。

図表 里帰り期間（産後）



※第5子は該当者なし

2 就労状況

(1) 現在までの各時期の夫婦の就労状況

問4 あなた方ご夫婦のいろいろな時期のお仕事についておたずねします。下のa~hの各時期におけるご夫婦双方の①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

①就労状況

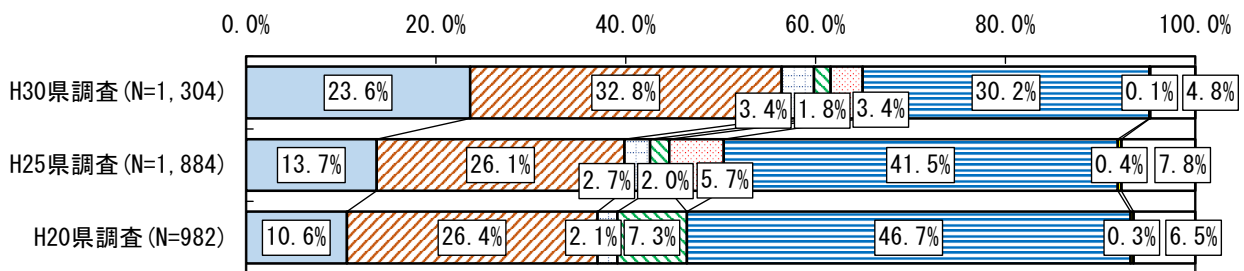
現在就労している妻の割合は 65.0%、無職（学生含む）の妻の割合は 30.2%となっている。就労している妻のうち、「パート・アルバイト」の割合が 32.8%で最も多く、「派遣・嘱託・契約社員」の割合（3.4%）と合わせた非正規雇用職員は 36.2%、「正規職員」は 23.6%となっている。

前回調査に比べて、「正規職員」の割合が 9.9ポイント上昇しているが、「パート・アルバイト」の割合も 6.7ポイント上昇しているため、非正規雇用職員の割合が 7.4ポイント上昇している。

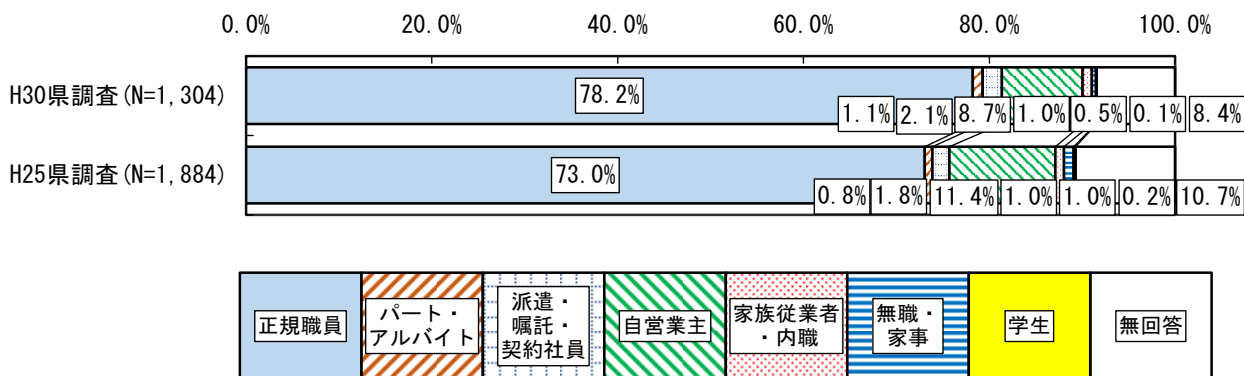
現在就労している夫の割合は 91.1%で、「正規職員」が 78.2%となっている。「パート・アルバイト」及び「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用職員は 3.2%となっている。

前回調査に比べて、「正規職員」の割合が 5.2ポイント上昇し、「自営業主」の割合が 2.7ポイント低下している。非正規雇用職員の割合には大きな変化はない。

図表 現在の就労状況（妻）



図表 現在の就労状況（夫）

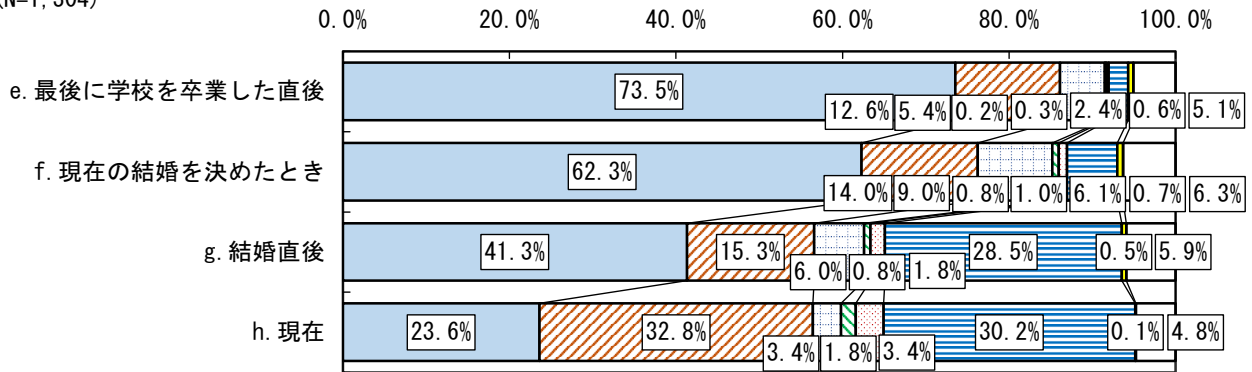


【時期別】

時期別の就労状況は、妻の場合、「正規職員」は最後に学校を卒業した直後が73.5%で最も高いが、現在に近づくにつれ割合が低くなっている。夫の場合、「正規職員」は現在の結婚を決めたときが79.4%で最も高いが、その後の変化は少ない。

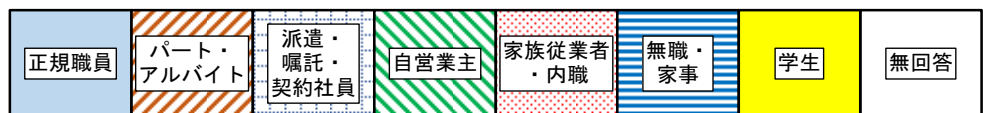
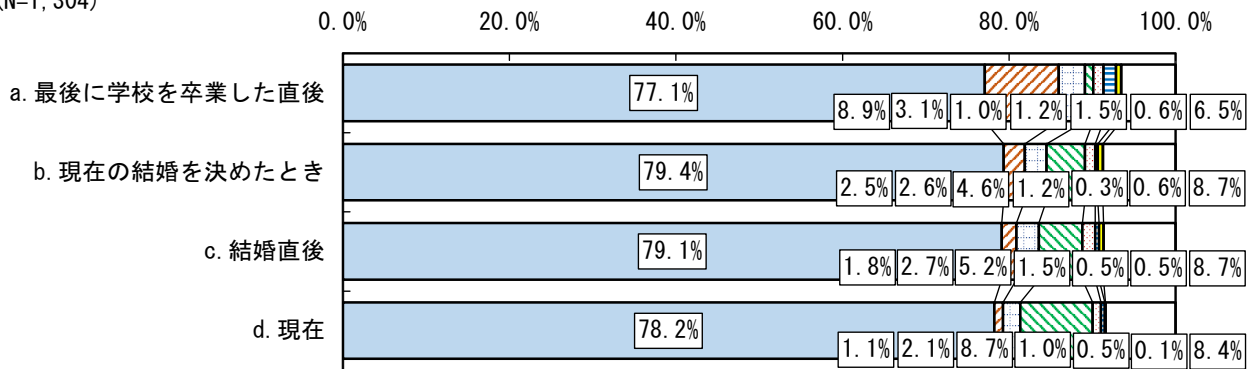
図表 時期別・就労状況（妻）

(N=1,304)



図表 時期別・就労状況（夫）

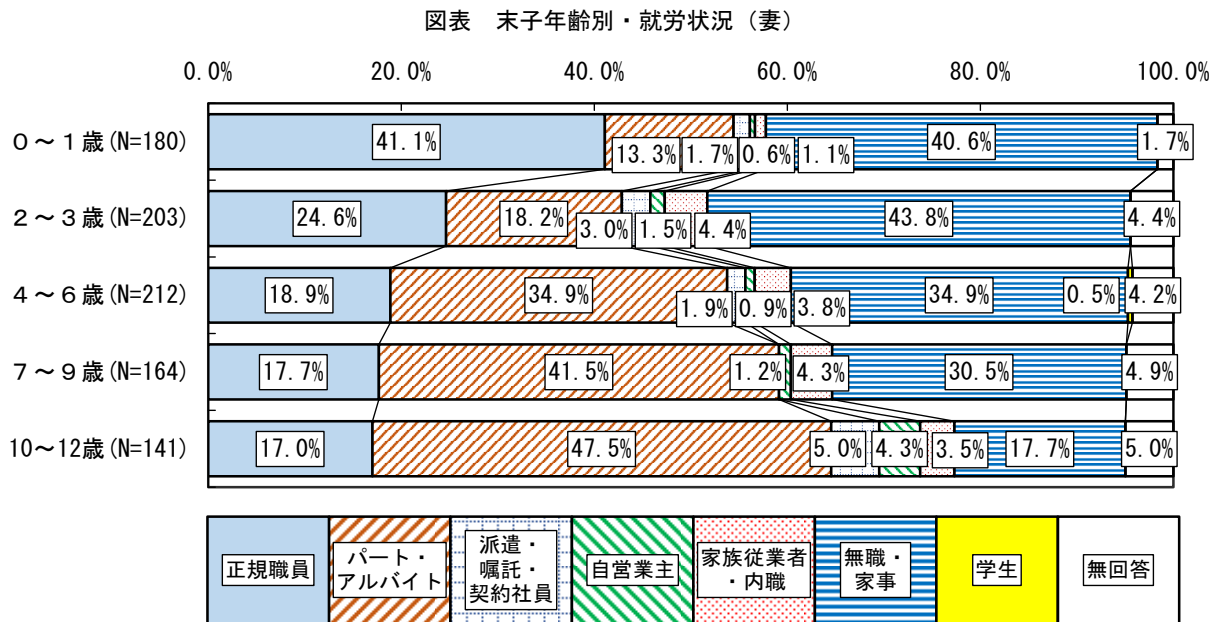
(N=1,304)



【末子年齢別】

末子の年齢別に子どものいる妻の就労状況をみると、「無職・家事」の割合は末子の年齢が上がるにつれ低くなっていき、就労している割合が高くなるが、その就労形態は「パート・アルバイト」が多くなっていく。

就労している妻のうち、「正規職員」の割合は末子の年齢が0～1歳の母親が41.1%と最も高く、すべての末子の年齢において、50%以上の妻が何らかの仕事についており、10～12歳では、8割近くの妻が働いている。

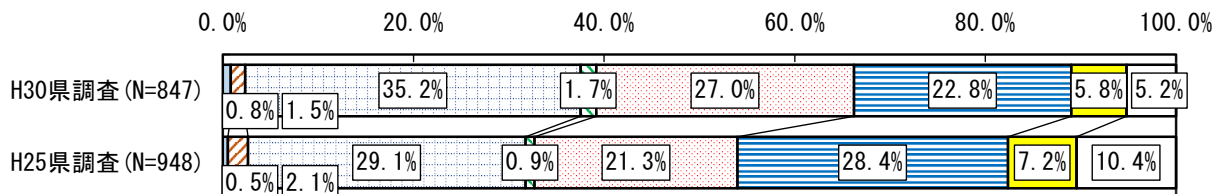


②職種

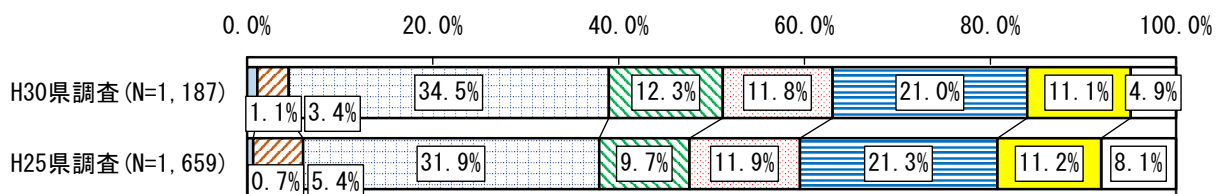
現在の職種をみると、妻では「専門職」が 35.2%で最も多く、次いで「事務職」(27.0%)、「販売・サービス職」(22.8%)となっている。前回調査に比べて、「専門職」「事務職」の割合がそれぞれ5ポイント以上上昇し、「販売・サービス職」の割合が5ポイント以上低下している。

夫では「専門職」が 34.5%で最も多く、次いで「販売・サービス職」(21.0%)、「管理職」(12.3%)となっている。前回調査に比べて、各職種の割合に大きな変化はない。

図表 職種（妻）



図表 職種（夫）

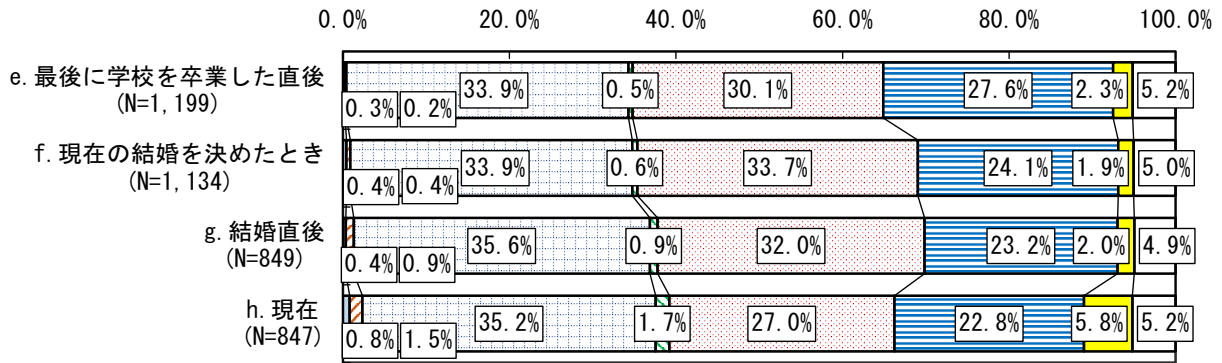


【時期別】

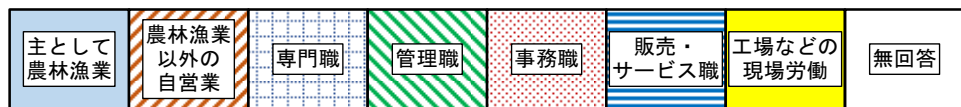
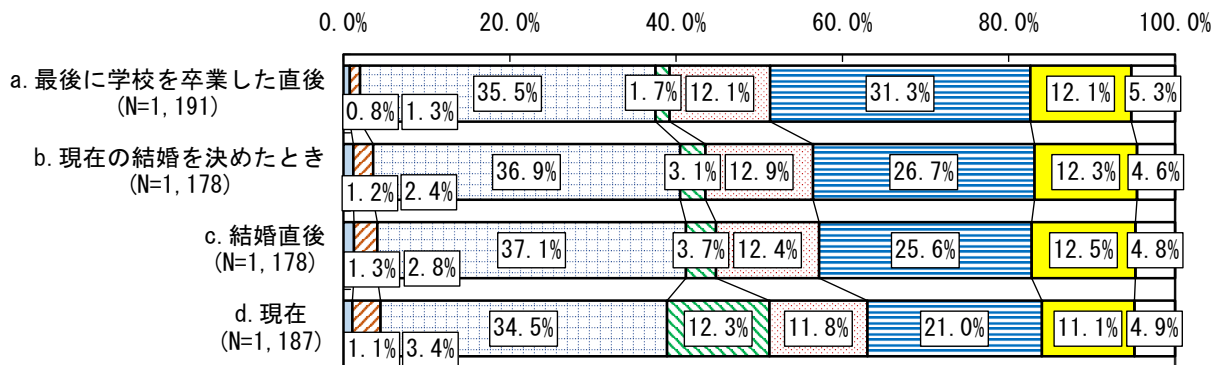
時期別に、職種をみると、妻の場合、最後に学校を卒業した直後から現在までの間にかけて、大きな変動はない。

夫の場合、「販売・サービス職」の割合は最後に学校を卒業した直後から現在までの間に約 10 ポイント低下しているが、「管理職」の割合は約 10 ポイント上昇している。

図表 時期別 職種（妻）



図表 時期別 職種（夫）

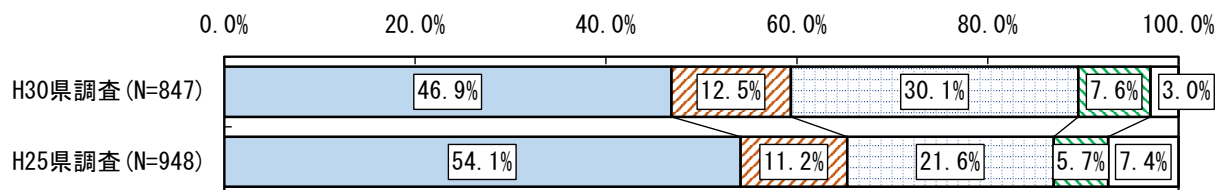


③勤め先の従業員数

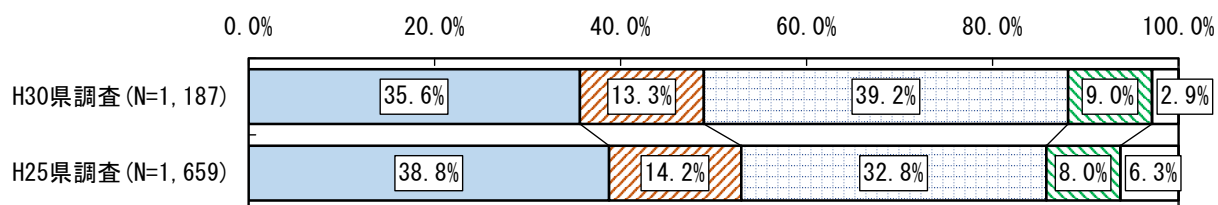
勤め先の従業員数をみると、妻では「1～99人」が46.9%で最も多く、次いで「300人以上」(30.1%)、「100～299人」(12.5%)となっている。前回調査に比べて、「300人以上」の割合が8.5ポイント上昇し、「1～99人」の割合が7.2ポイント低下している。

夫では「300人以上」が39.2%で最も多く、次いで「1～99人」(35.6%)、「100～299人」(13.3%)となっている。前回調査に比べて、「300人以上」の割合が6.4ポイント上昇し、「1～99人」の割合が3.2ポイント低下している。

図表 勤め先の従業員数（妻）



図表 勤め先の従業員数（夫）

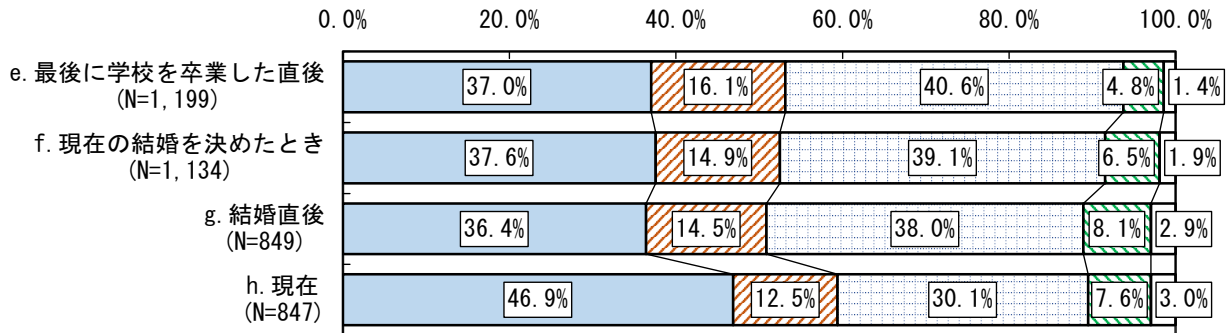


【時期別】

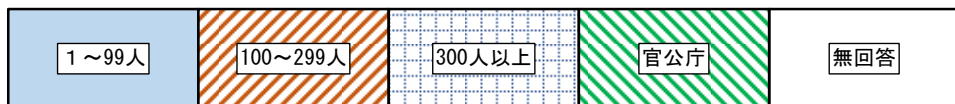
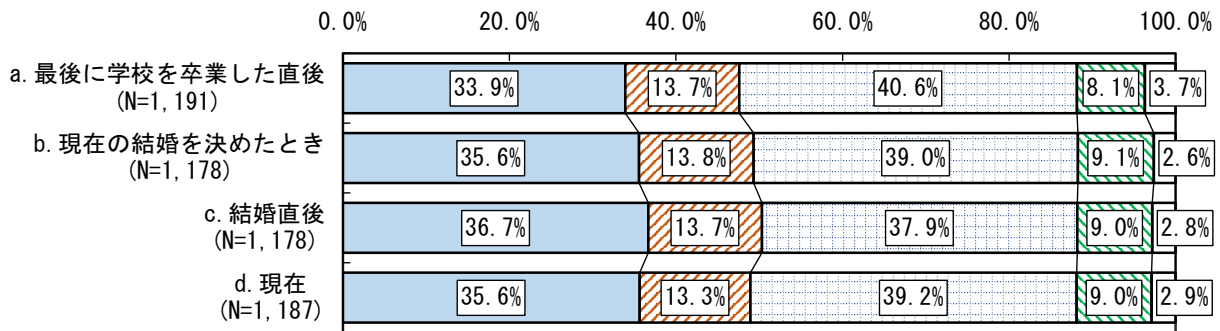
時期別に、勤め先の従業員数をみると、妻の場合、最後に学校を卒業した直後から現在までの間にかけて、「1～99人」の割合が9.9ポイント上昇し、一方で「300人以上」の割合が10.5ポイント低下している。

夫の場合、各職種の割合は全体として微増減であり、大きな変化はない。

図表 時期別 勤め先の従業員数（妻）



図表 時期別 勤め先の従業員数（夫）

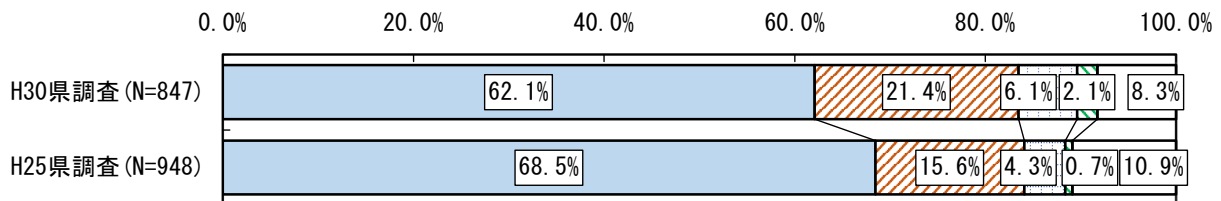


④通勤時間

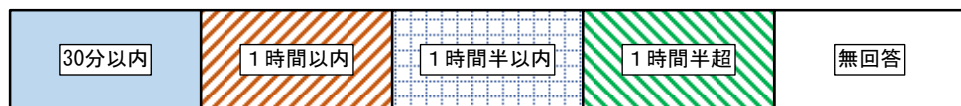
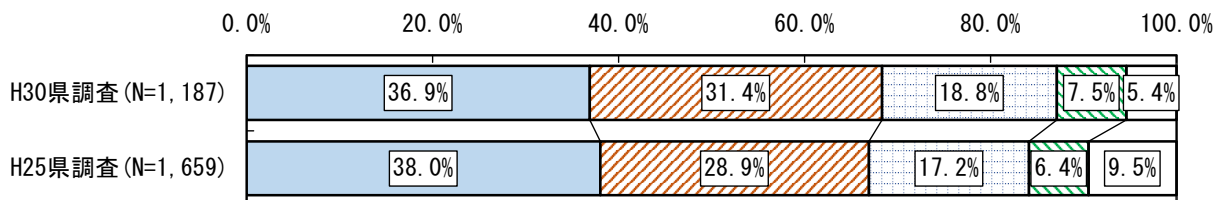
通勤時間（片道）をみると、妻では「30分以内」が62.1%で最も多く、次いで「1時間以内」（21.4%）、「1時間半以内」（6.1%）となっている。前回調査に比べて、「30分以内」の割合が6.4ポイント低下し、一方で「1時間以内」の割合が5.8ポイント上昇している。

夫では「30分以内」が36.9%で最も多く、次いで「1時間以内」（31.4%）、「1時間半以内」（18.8%）となっている。前回調査に比べて、各通勤時間の割合に大きな変化はない。

図表 通勤時間（妻）



図表 通勤時間（夫）

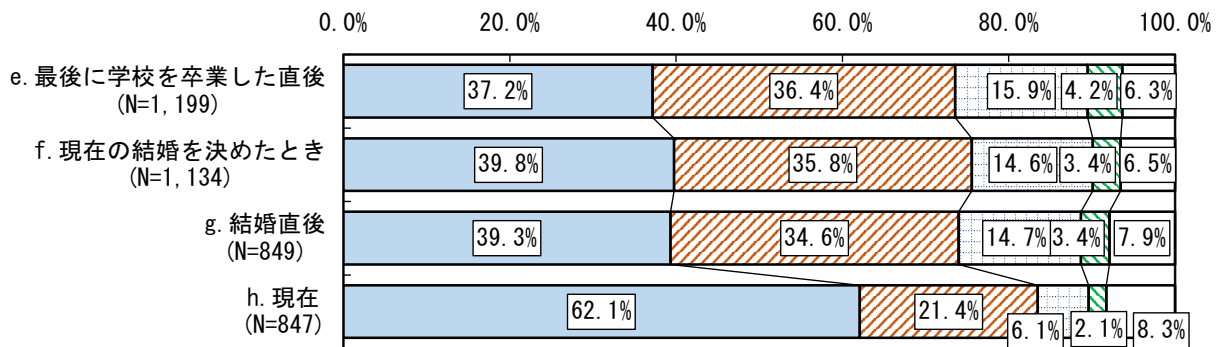


【時期別】

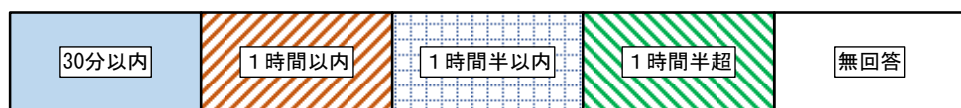
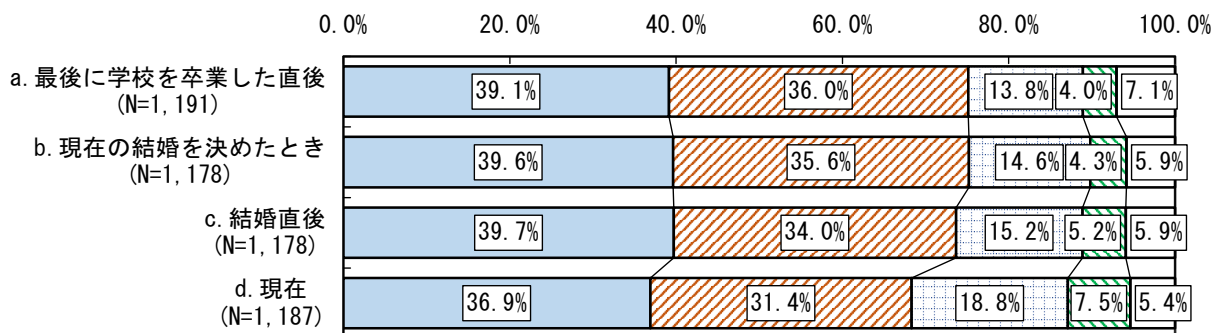
時期別に、通勤時間（片道）をみると、妻の場合、最後に学校を卒業した直後から現在までの間にかけて、「30分以内」の割合が24.9ポイント上昇し、一方で「1時間以内」「1時間半以内」「1時間半超」の割合が低下している。

夫の場合、最後に学校を卒業した直後から現在までの間にかけて、「1時間半以内」の割合が5.0ポイント上昇し、一方で「1時間以内」の割合がそれぞれ4.6ポイント低下している。

図表 時期別 通勤時間（妻）



図表 時期別 通勤時間（夫）



(2) 妻の妊娠・出産後の就労状況

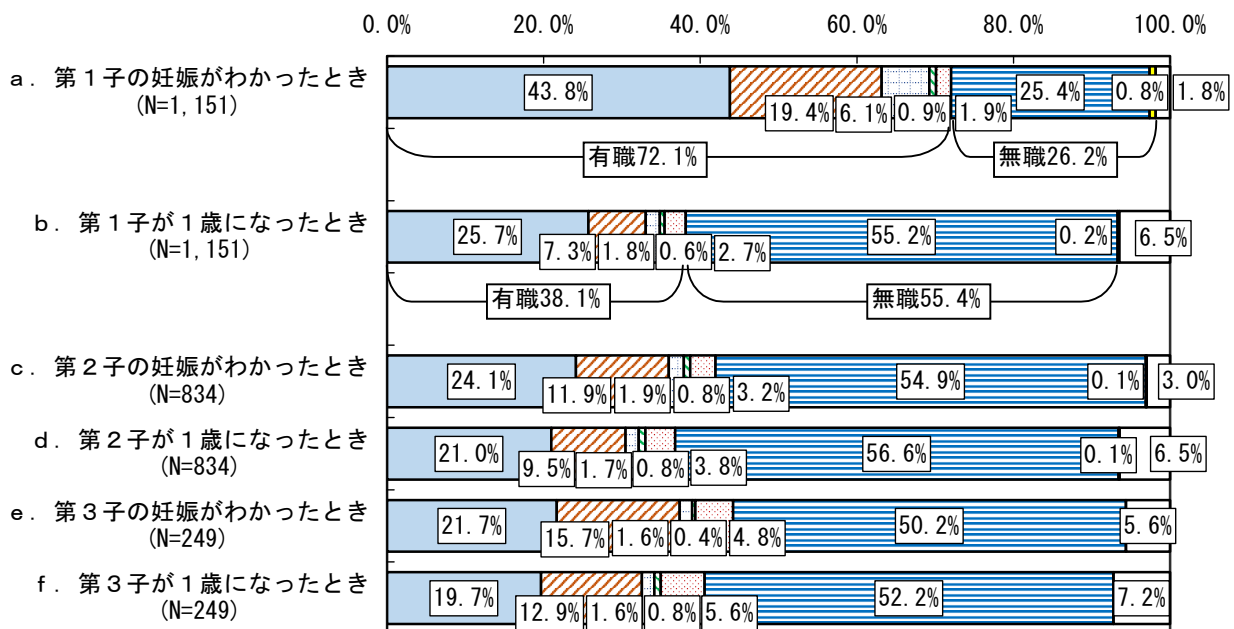
お子さんをお持ちの方にうかがいます。それ以外の方は問5へお進みください。

問 4-1 あなた方ご夫婦がお子さんをお持ちになったときの妻（妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答）のお仕事についておたずねします。下の a~f の各時期における①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

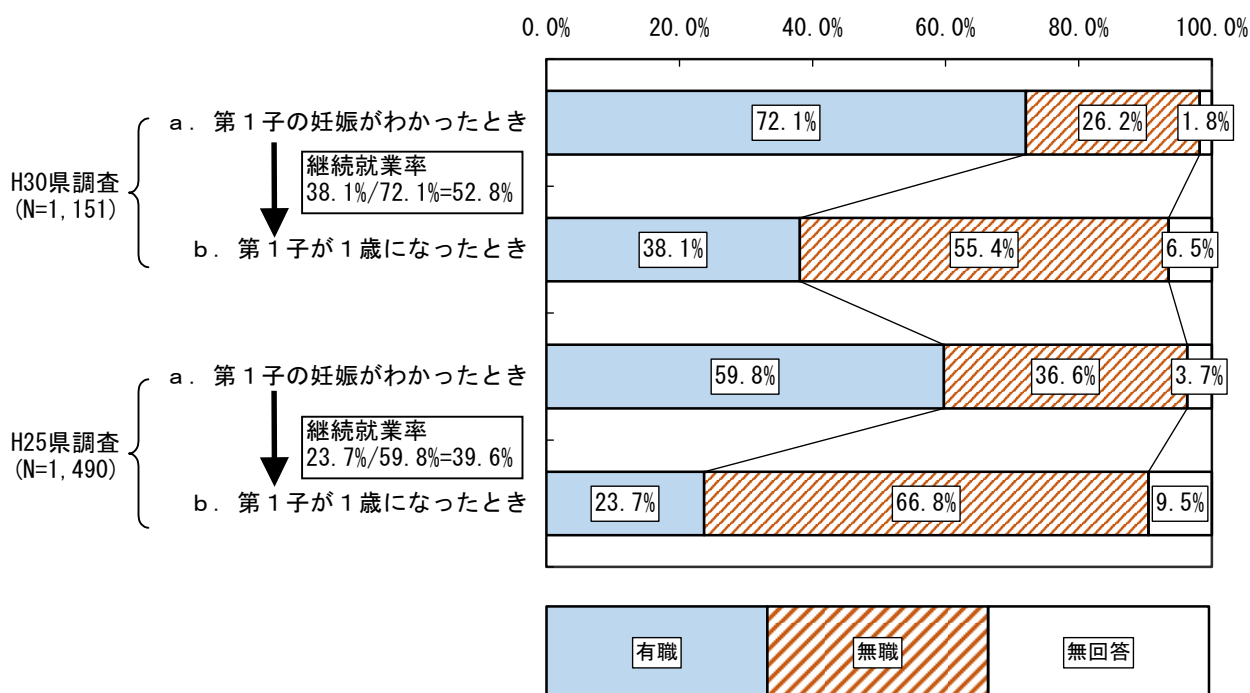
①妻の就労状況

第1子妊娠時に就労している妻の割合は72.1%で、そのうち「正規職員」の割合が43.8%、「パート・アルバイト」等の非正規雇用職員の割合が25.5%となっている。第1子が1歳になった時には、就労している妻の割合は38.1%までに低下し、「無職・家事」が25.4%が55.2%に増加している。第1子出産前後の継続就業率を前回調査と比較すると、39.6%から52.8%に伸びたことが分かる。（妻の第1子出産を機に退職した割合は、前回調査の約6割から約5割に減少した）。

図表 妻の妊娠・出産後の就労状況



図表 第1子出産前後の妻の就労状況



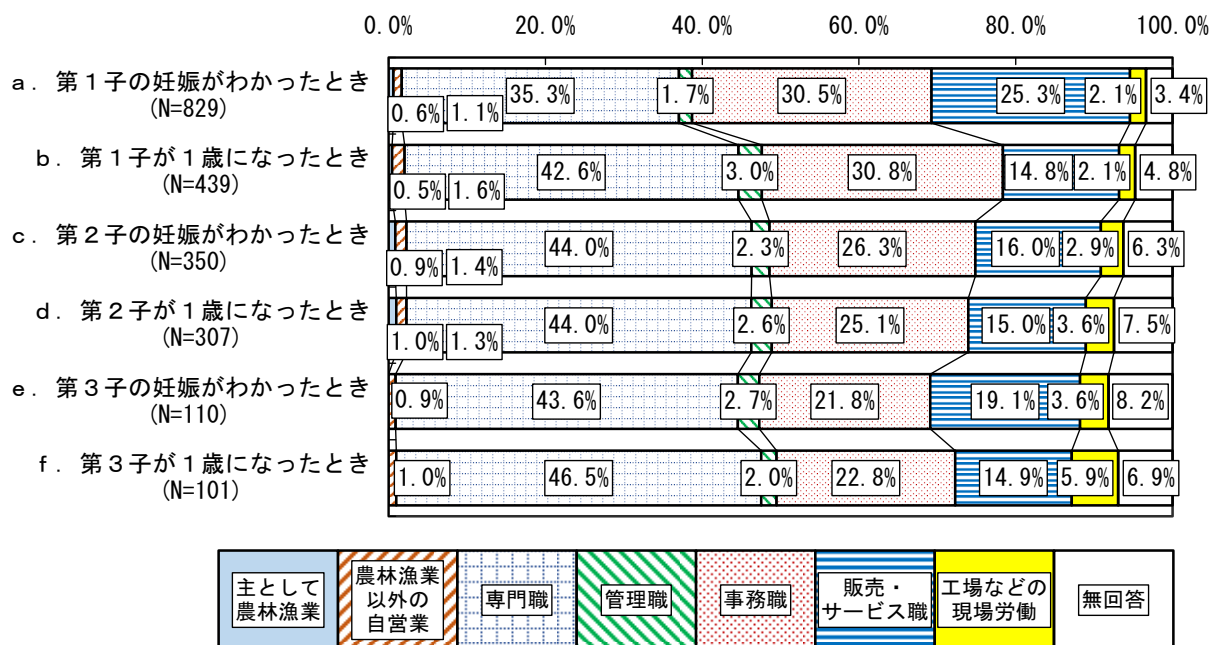
図表 妻の妊娠・出産後の就労状況 (前回)

時期	母数	正規職員	パート・アルバイト	派遣・嘱託・契約社員	自営業主	家族従業者・内職	無職・家事	学生	無回答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	1,645	31.7%	17.9%	6.0%	1.2%	3.2%	35.0%	0.9%	4.1%
b. 第1子が1歳になったとき	1,645	12.5%	6.1%	0.7%	1.2%	3.3%	65.8%	0.1%	10.3%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	1,201	12.7%	8.9%	1.1%	1.3%	4.2%	66.8%	0.0%	5.1%
d. 第2子が1歳になったとき	1,201	10.0%	7.7%	0.5%	1.2%	4.8%	66.7%	0.0%	9.1%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	382	10.2%	11.0%	1.0%	1.8%	7.3%	63.9%	0.0%	4.7%
f. 第3子が1歳になったとき	382	8.6%	9.4%	1.0%	1.8%	8.9%	62.0%	0.0%	8.1%

②妻の妊娠・出産後の職種

妻の妊娠・出産後の職種については、「専門職」の割合は、第1子・第3子において、妊娠がわかったときより1歳になったときのほうが同じか高くなっている。一方、「販売・サービス職」の割合は、第1子・第2子・第3子ともに、妊娠がわかったときより1歳になったときのほうが低くなっている。

図表 妻の妊娠・出産後の職種



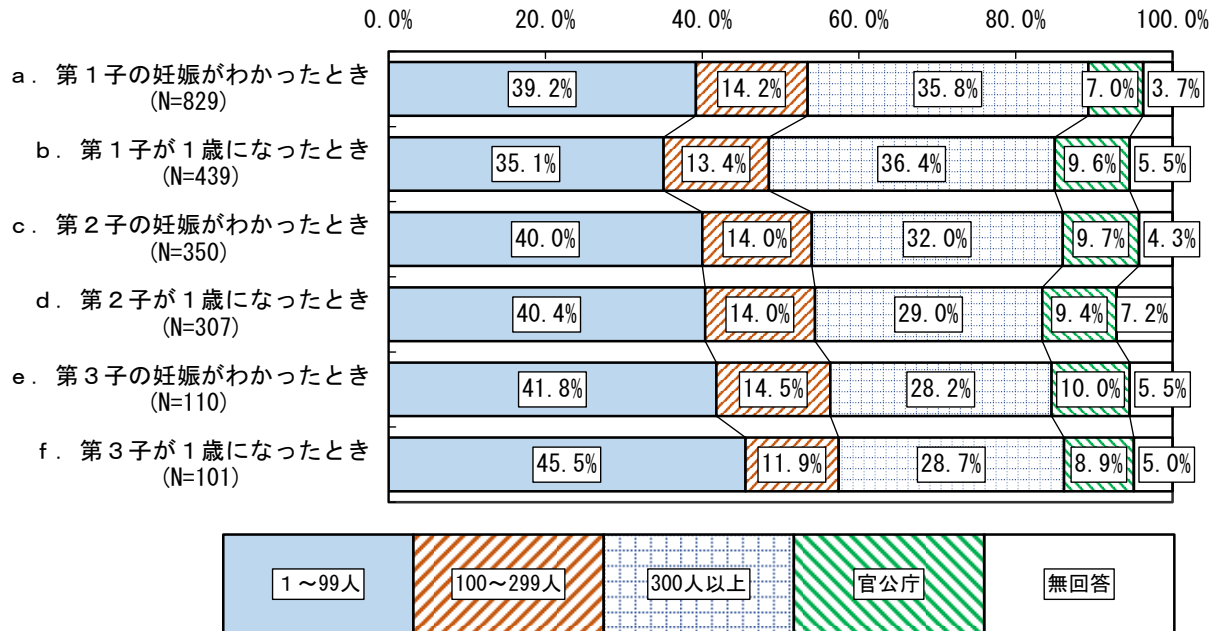
図表 妻の妊娠・出産後の職種（前回）

時期	母数	主として農林漁業	営農林漁業以外の自	専門職	管理職	事務職	販売・サービス職	働工場などの現場労働	無回答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	986	0.1%	1.2%	29.2%	0.5%	33.1%	25.6%	5.3%	5.1%
b. 第1子が1歳になったとき	392	0.3%	3.1%	36.5%	1.3%	27.8%	20.7%	3.8%	6.6%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	338	0.3%	3.3%	35.2%	1.2%	24.9%	22.8%	4.1%	8.3%
d. 第2子が1歳になったとき	291	0.3%	4.1%	35.7%	1.4%	23.4%	21.0%	4.1%	10.0%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	120	0.0%	6.7%	38.3%	0.8%	12.5%	29.2%	5.0%	7.5%
f. 第3子が1歳になったとき	114	0.0%	7.9%	35.1%	0.9%	14.9%	28.1%	3.5%	9.6%

③妻の妊娠・出産後の勤め先の従業員数

妻の妊娠・出産後の勤め先の従業員数については、「1～99人」の割合は、第1子では、妊娠がわかったときより1歳になったときのほうが4.1ポイント低く、第3子では、妊娠がわかったときより1歳になったときのほうが3.7ポイント高くなっている。「300人以上」の割合は、第2子では、妊娠がわかったときより1歳になったときのほうが3.0ポイント低くなっている。

図表 妻の妊娠・出産後の従業員数



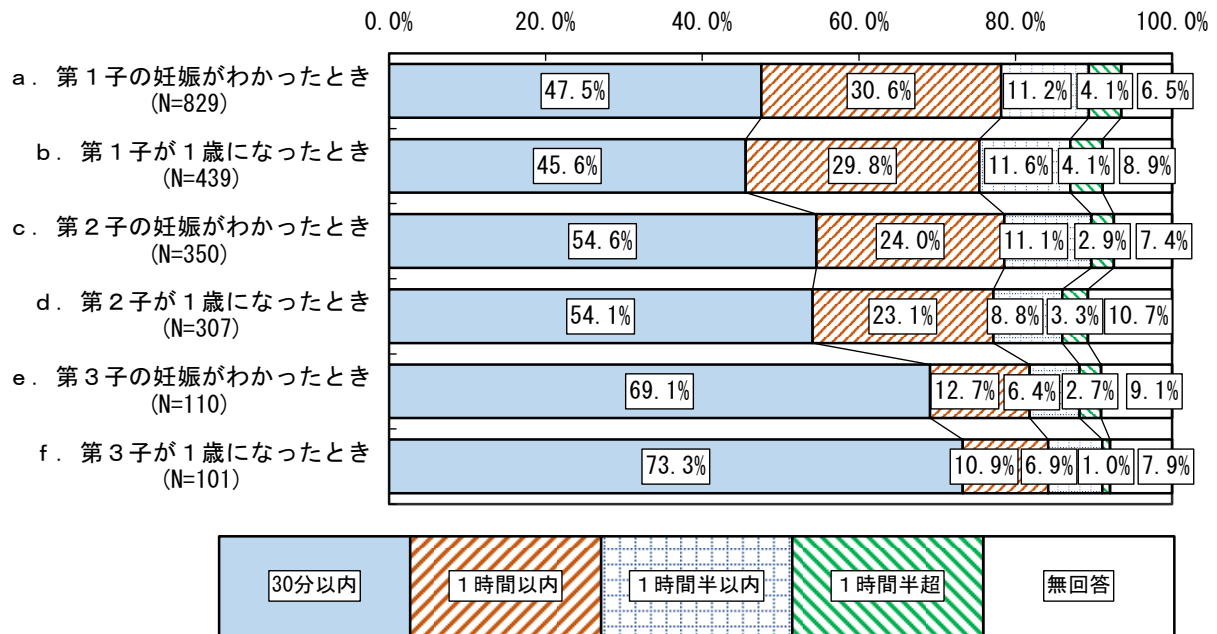
図表 妻の妊娠・出産後の従業員数（前回）

時期	母数	1 5 9 9 人	1 0 0 5 2 9 9 人	3 0 0 人 以 上	官 公 庁	無 回 答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	986	43.7%	13.7%	29.4%	6.3%	6.9%
b. 第1子が1歳になったとき	392	41.3%	11.0%	27.6%	10.7%	9.4%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	338	47.6%	12.7%	22.2%	9.2%	8.3%
d. 第2子が1歳になったとき	291	49.8%	11.7%	18.6%	10.0%	10.0%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	120	62.5%	10.0%	14.2%	7.5%	5.8%
f. 第3子が1歳になったとき	114	60.5%	13.2%	12.3%	7.9%	6.1%

④妻の妊娠・出産後の通勤時間

妻の妊娠・出産後の通勤時間については、子どもの数が増えていくと通勤時間が短くなる傾向があり、第3子になると「30分以内」の割合が約7割となる。出生順位別に妊娠・出産後の通勤時間を比較すると、両者の間に大きな差はない。

図表 妻の妊娠・出産後の通勤時間



図表 妻の妊娠・出産後の通勤時間（前回）

時期	母数	30分以内	1時間以内	1時間半以内	1時間半超	無回答
a. 第1子の妊娠がわかったとき	986	51.0%	26.9%	10.3%	1.8%	9.9%
b. 第1子が1歳になったとき	392	56.1%	20.9%	9.4%	2.0%	11.5%
c. 第2子の妊娠がわかったとき	338	63.3%	17.8%	6.5%	0.3%	12.1%
d. 第2子が1歳になったとき	291	63.9%	16.8%	5.5%	0.3%	13.4%
e. 第3子の妊娠がわかったとき	120	69.2%	18.3%	2.5%	0.0%	10.0%
f. 第3子が1歳になったとき	114	72.8%	14.0%	1.8%	0.9%	10.5%

(3) 現在の夫婦の就労状況

現在夫婦どちらか、または両方がお仕事をお持ちの方にかかっています（夫婦双方のことを回答ください）。それ以外の方は問6へお進みください。

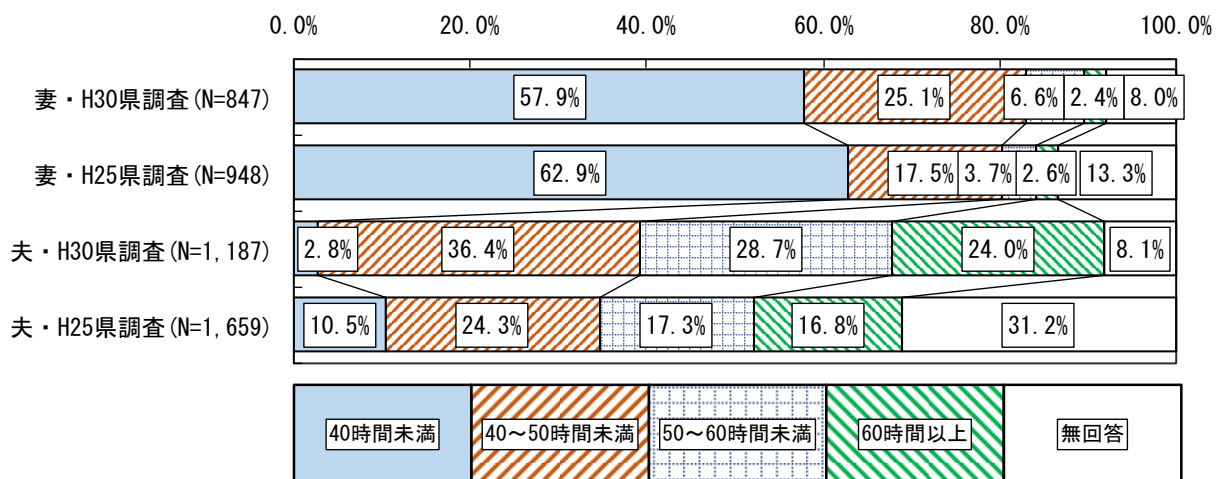
問5 あなた方ご夫婦の現在のお仕事について、次の①～⑨までの項目に、該当する数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

① 1週間の平均的な労働時間

1週間の平均的な労働時間をみると、妻では「40時間未満」が57.9%で最も多く、次いで「40～50時間未満」(25.1%)となっている。前回調査に比べて、「40～50時間未満」の割合が7.6ポイント上昇し、「40時間未満」の割合が5.0ポイント低下している。

夫では「40～50時間未満」が36.4%で最も多く、次いで「50～60時間未満」(28.7%)で、40時間以上が89.1%となっている。前回調査に比べて、「40時間未満」の割合が7.7ポイント低下し、「40～50時間未満」「50～60時間未満」「60時間以上」の割合がそれぞれ約7～12ポイント上昇している。※前回調査は無回答が多いことに留意する必要がある。

図表 1週間の平均的な労働時間

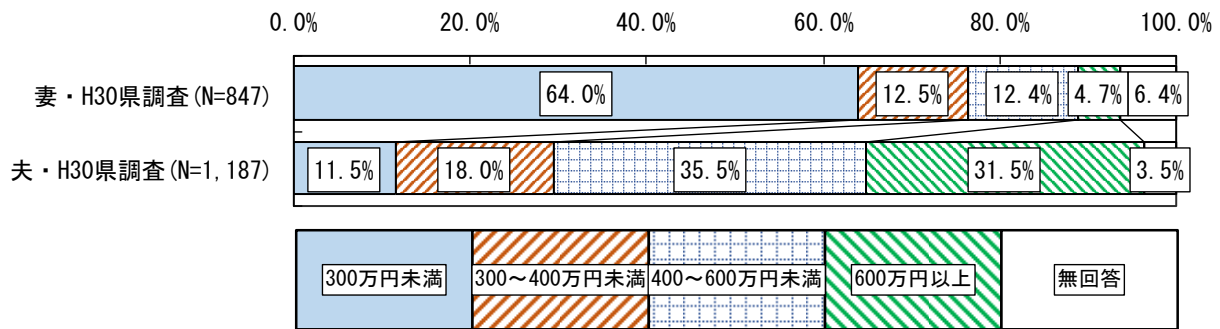


②年間の収入

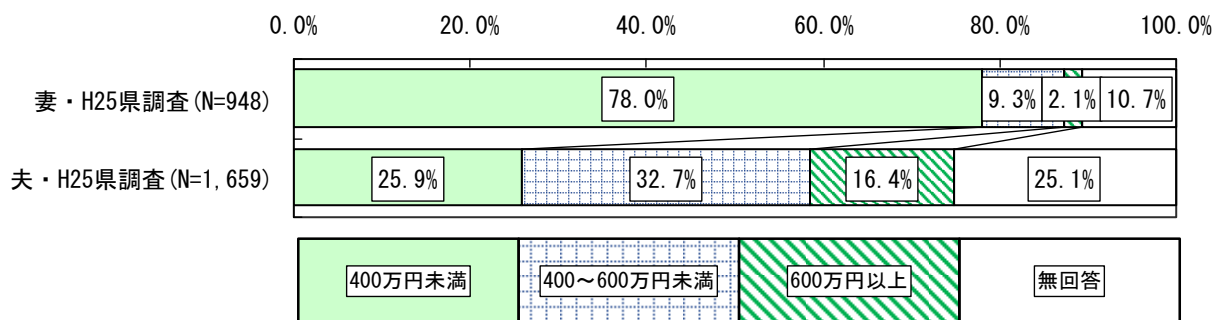
年間の収入をみると、妻では「300万円未満」が64.0%で最も多く、次いで「300～400万円未満」(12.5%)となっている。前回調査に比べて、「400～600万円未満」の割合が3.1ポイント上昇している。

夫では「400～600万円未満」が35.5%で最も多く、次いで「600万円以上」(31.5%)となっている。前回調査に比べて、「600万円以上」の割合が15.1ポイント、400万円未満の割合が3.6ポイント上昇している。※前回調査は無回答が多いことに留意する必要がある。

図表 年間の収入



図表 年間の収入(前回)

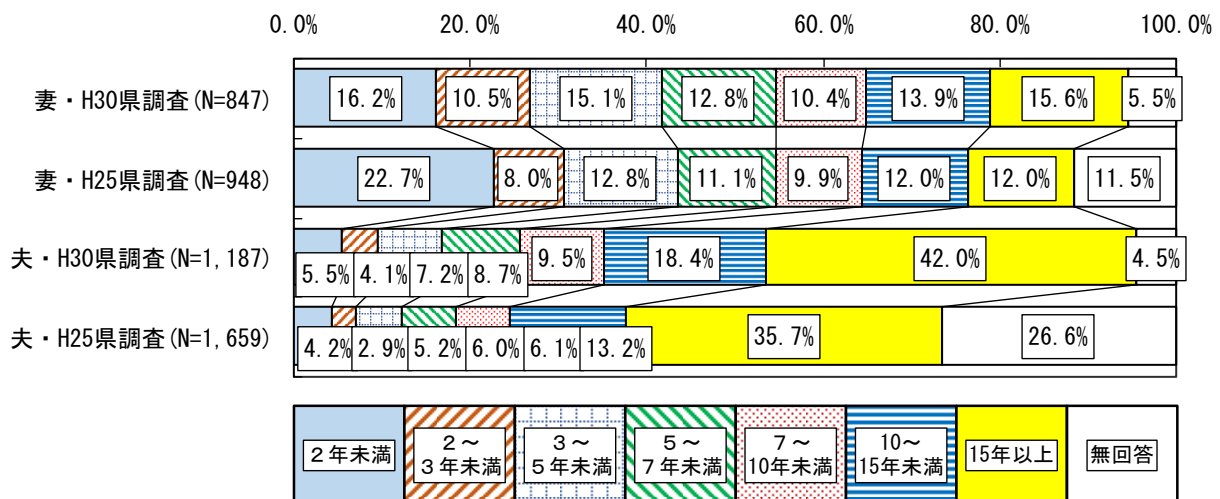


③現在の仕事の継続年数

現在の仕事の継続年数をみると、妻では「2年未満」が16.2%で最も多く、次いで「15年以上」(15.6%)、「3～5年未満」(15.1%)となっている。

夫では「15年以上」が42.0%で最も多く、次いで「10～15年未満」(18.4%)、「7～10年未満」(9.5%)となっている。

図表 仕事の継続年数



④今後の就労継続の見通し

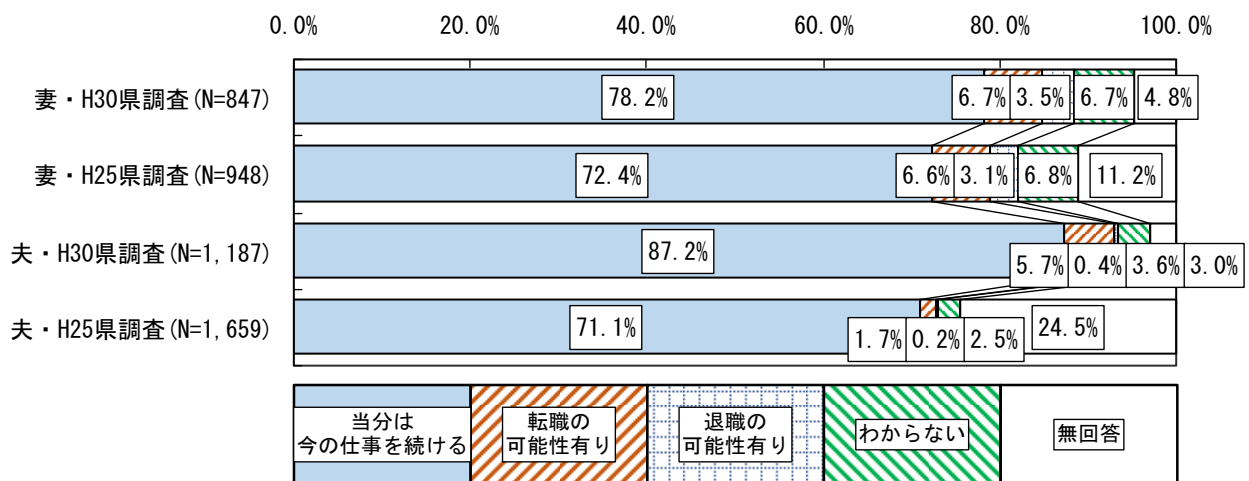
今後の就労継続の見通しをみると、妻では「当分は今の仕事を続ける」が78.2%で最も多くなっており、転職や退職の可能性は10.2%と就労継続に比べて少ない。前回調査に比べて、「当分は今の仕事を続ける」の割合が5.8ポイント上昇している。

夫では「当分は今の仕事を続ける」が87.2%で最も多くなっており、転職や退職の可能性は6.1%と就労継続に比べて少ない。前回調査に比べて、「当分は今の仕事を続ける」の割合が16.1ポイント上昇している。※前回調査は無回答が多いことに留意する必要がある。

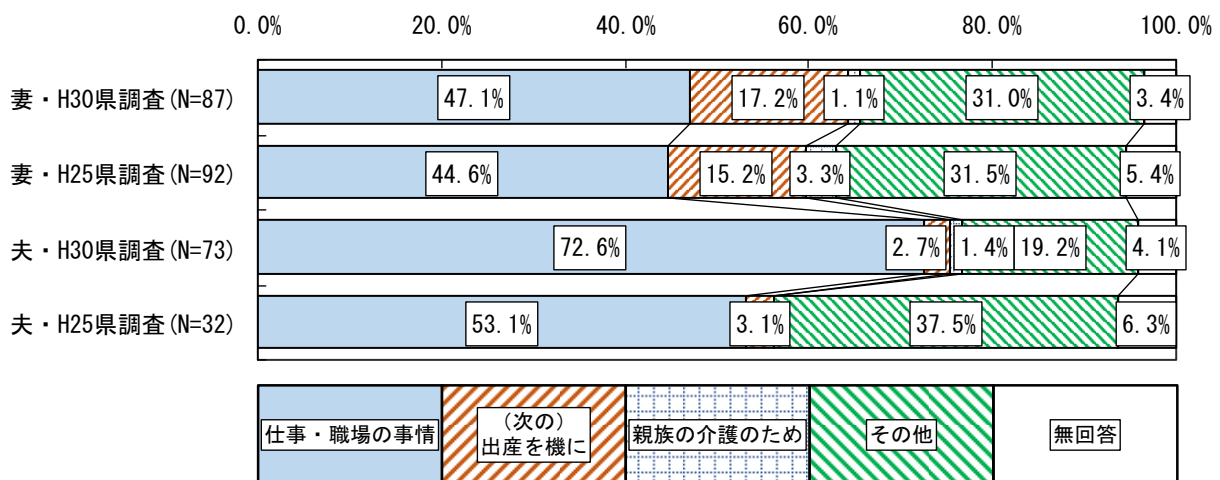
また、予想される転職や退職の理由をみると、妻では、「その他」を除いて、「仕事・職場の事情」が47.1%で最も多く、次いで「(次の) 出産を機に」(17.2%)となっている。前回調査に比べて、各転職や退職の理由の割合に大きな変化はない。

夫では、「その他」を除いて、「仕事・職場の事情」が72.6%で最も多く、次いで「(次の) 出産を機に」(2.7%)となっている。前回調査に比べて、「仕事・職場の事情」の割合が19.5ポイント上昇している。

図表 今後の就労継続の見通し



図表 転職・退職の理由

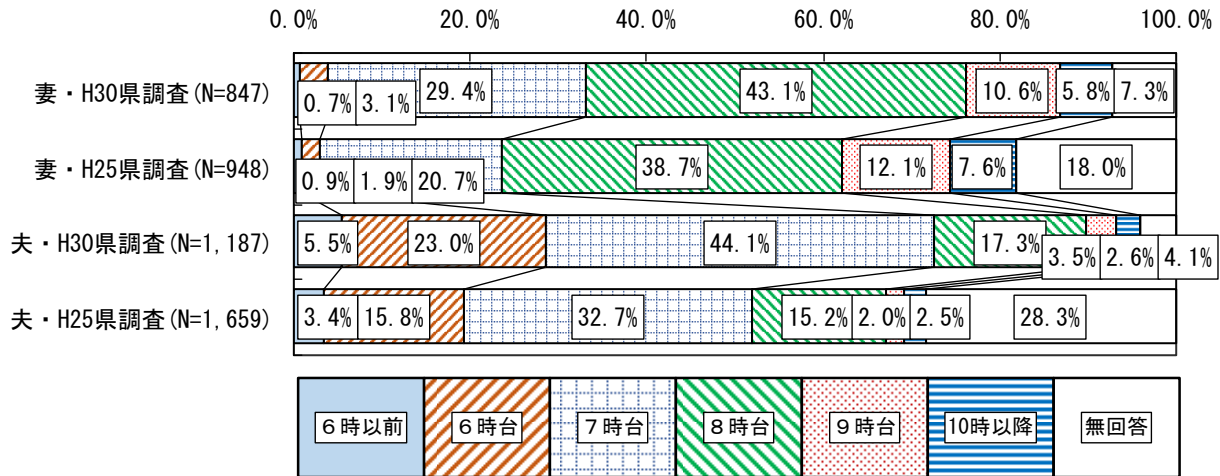


⑤平均的な出勤時刻

平均的な出勤時刻をみると、妻では「8時台」が43.1%で最も多く、次いで「7時台」(29.4%)、「9時台」(10.6%)となっている。前回調査に比べて、「7時台」の割合が8.7ポイント上昇している。

夫では「7時台」が44.1%で最も多く、次いで「6時台」(23.0%)、「8時台」(17.3%)となっている。前回調査に比べて、「7時台」の割合が11.4ポイント、「6時台」の割合が7.2ポイント上昇している。※前回調査は無回答が多いことに留意する必要がある。

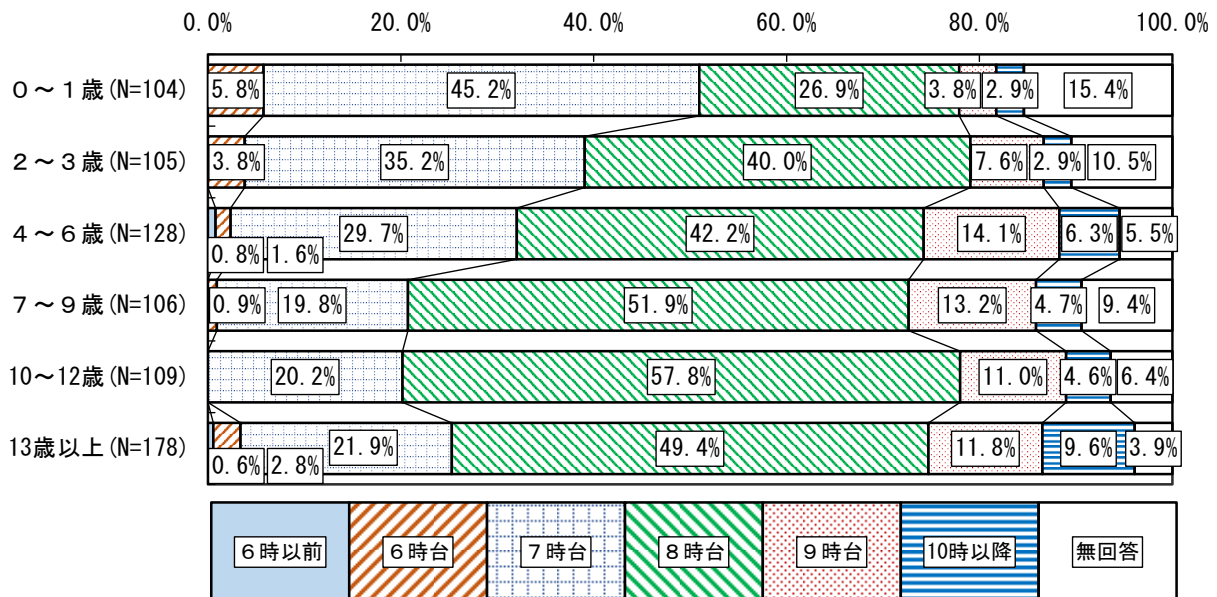
図表 平均的な出勤時刻



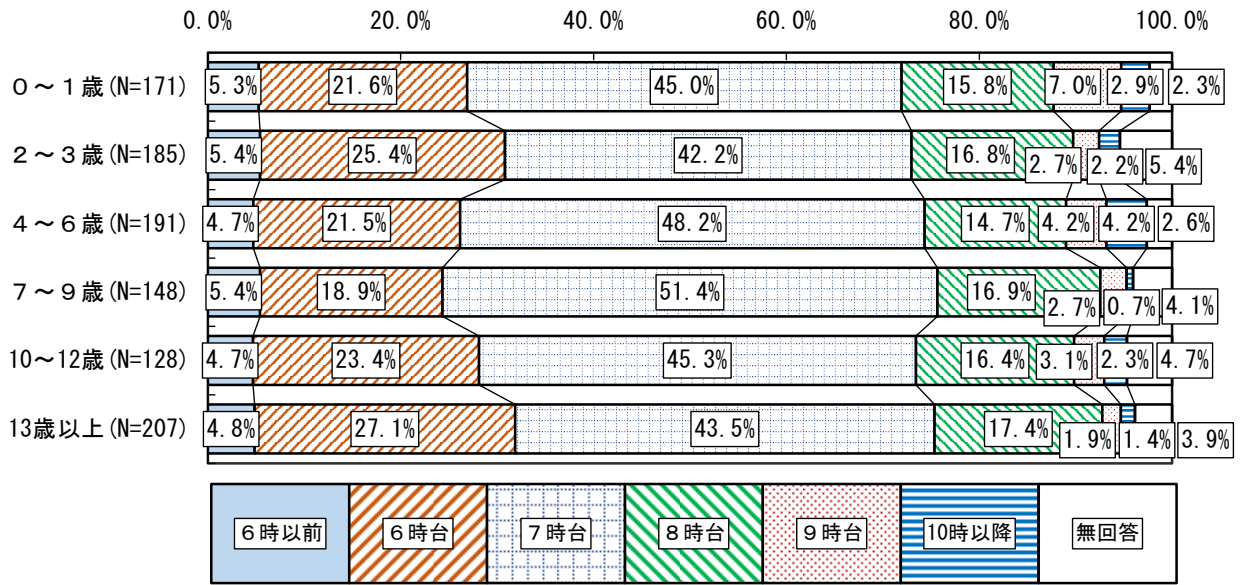
【末子年齢別】

末子の年齢別にみると、妻では「7時台」の割合は、0～1歳児を持つ母親で高く、年齢が上がるとともに、その割合は低下する傾向である。一方、2歳以上の子どもを持つ母親では、「8時台」の割合のほうが高くなっている。一方、夫では子どもの年齢に関係なく、「7時台」の割合が4割以上で高くなっている。

図表 末子年齢別 平均的な出勤時刻（妻）



図表 末子年齢別 平均的な出勤時刻（夫）

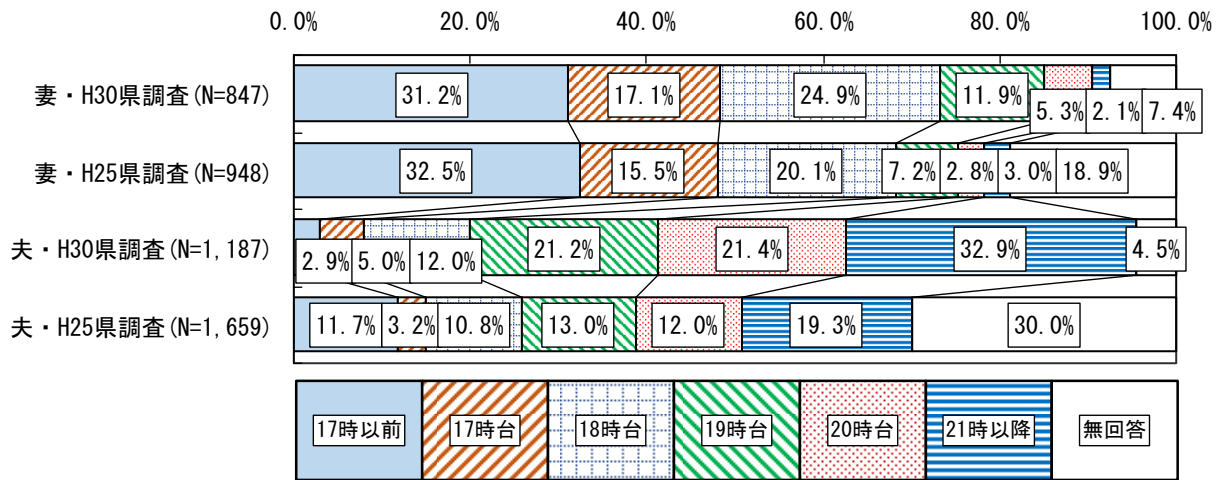


⑥平均的な帰宅時刻

平均的な帰宅時刻をみると、妻では「17 時以前」が 31.2%で最も多く、次いで「18 時台」(24.9%)、「17 時台」(17.1%) となっている。前回調査に比べて、「18 時台」の割合が 4.8 ポイント、「19 時台」の割合が 4.7 ポイント上昇している。

夫では「21 時以降」が 32.9%で最も多く、次いで「20 時台」(21.4%)、「19 時台」(21.2%) となっている。前回調査に比べて、「17 時以前」の割合が 8.8 ポイント低下し、「19 時台」「20 時台」「21 時以降」の割合がそれぞれ約 8～14 ポイント上昇している。※前回調査は無回答が多いことに留意する必要がある。

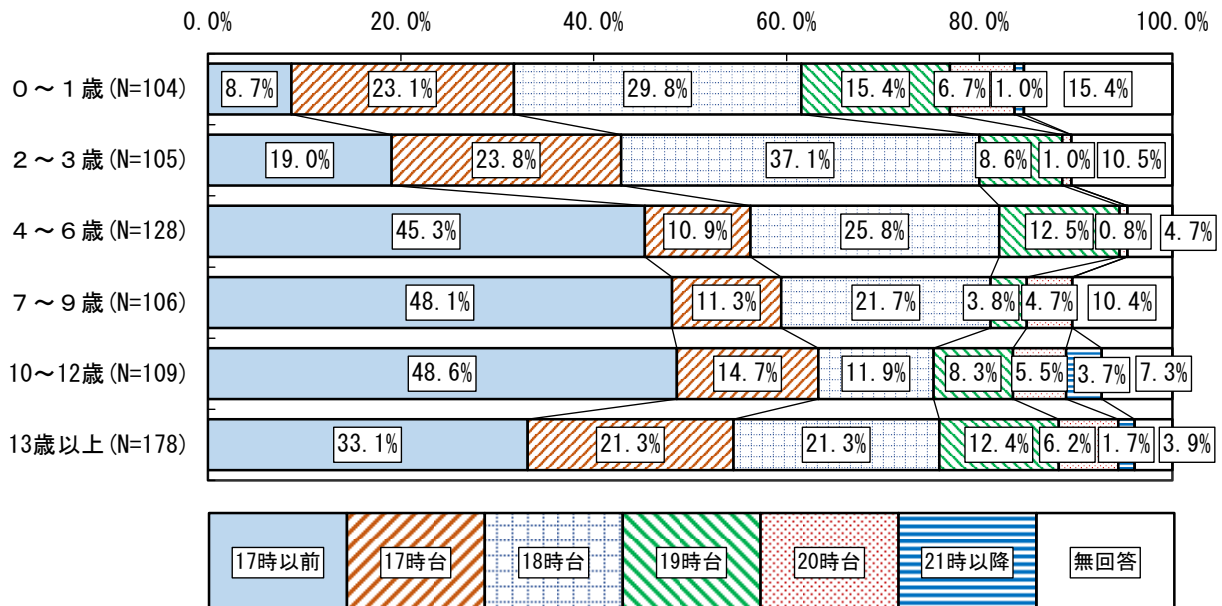
図表 平均的な帰宅時刻



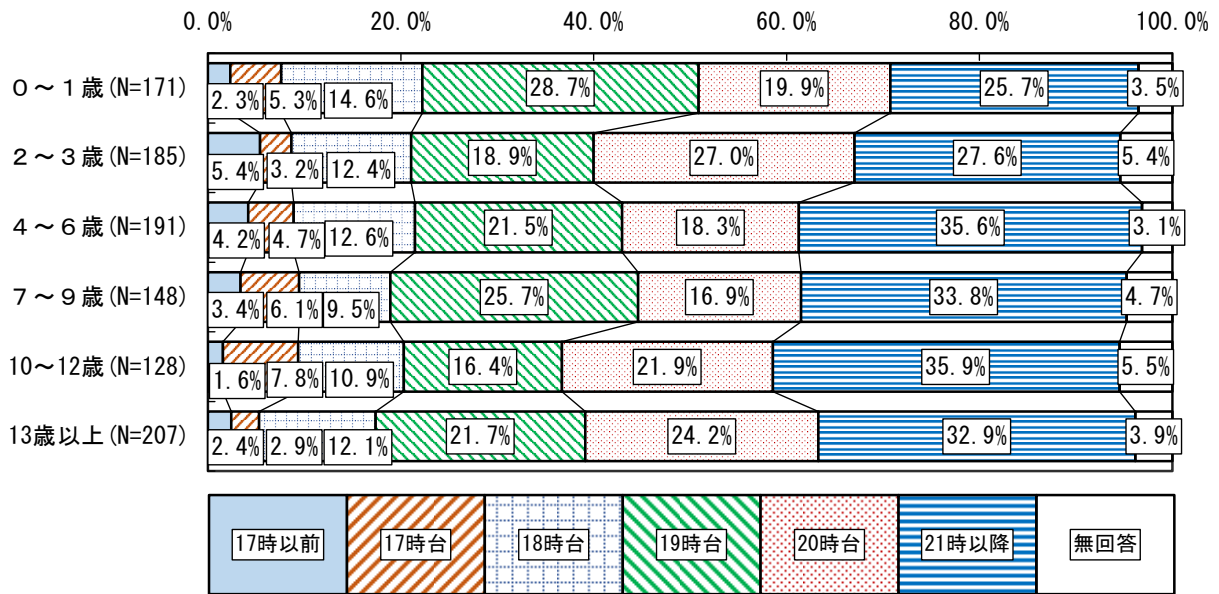
【末子年齢別】

末子の年齢別で、平均的な帰宅時刻をみると、4～12 歳児を持つ母親で「17 時以前」の割合が 4 割台を占めている。3 歳児までの母親では、「17 時台」及び「18 時台」の各割合が高くなっている。夫では 4 歳以上では「21 時以降」が 3 割以上となっている一方、1 歳未満では「19 時台」が最も多くなっている。

図表 末子年齢別 平均的な帰宅時刻 (妻)



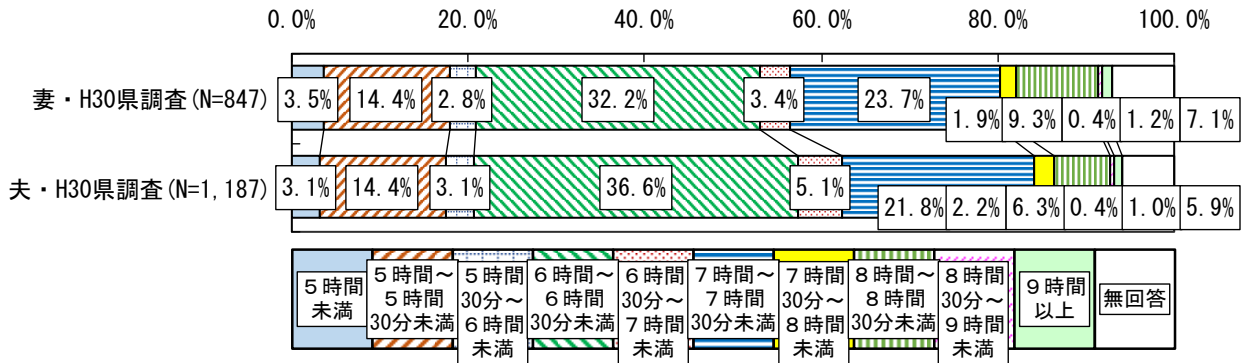
図表 末子年齢別 平均的な帰宅時刻（夫）



⑦勤務日の睡眠時間

勤務日の睡眠時間をみると、妻では「6時間～6時間30分未満」が32.2%で最も多く、次いで「7時間～7時間30分未満」(23.7%)、「5時間～5時間30分未満」(14.4%)となっている。
 夫では「6時間～6時間30分未満」が36.6%で最も多く、次いで「7時間～7時間30分未満」(21.8%)、「5時間～5時間30分未満」(14.4%)となっている。

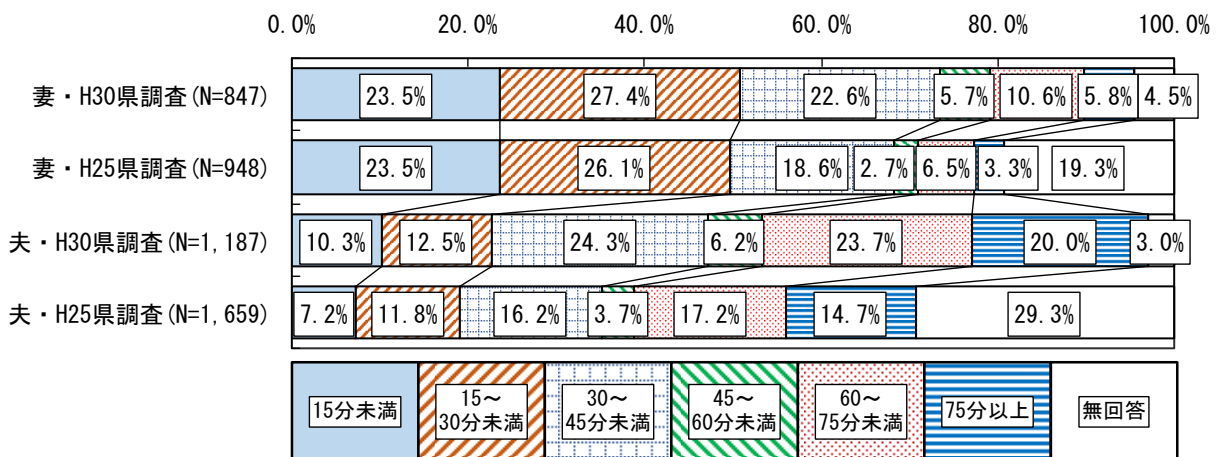
図表 勤務日の睡眠時間



⑧通勤時間(片道)

通勤時間(片道)をみると、妻では「15～30分未満」が27.4%で最も多く、次いで「15分未満」(23.5%)、「30～45分未満」(22.6%)となっている。前回調査に比べて、「60～75分未満」の割合が4.1ポイント、「30～45分未満」の割合が4.0ポイント上昇している。
 夫では「30～45分未満」が24.3%で最も多く、次いで「60～75分未満」(23.7%)、「75分以上」(20.0%)となっている。前回調査に比べて、「30～45分未満」「60～75分未満」「75分以上」の割合がそれぞれ5ポイント以上上昇している。※前回調査は無回答が多いことに留意する必要がある。

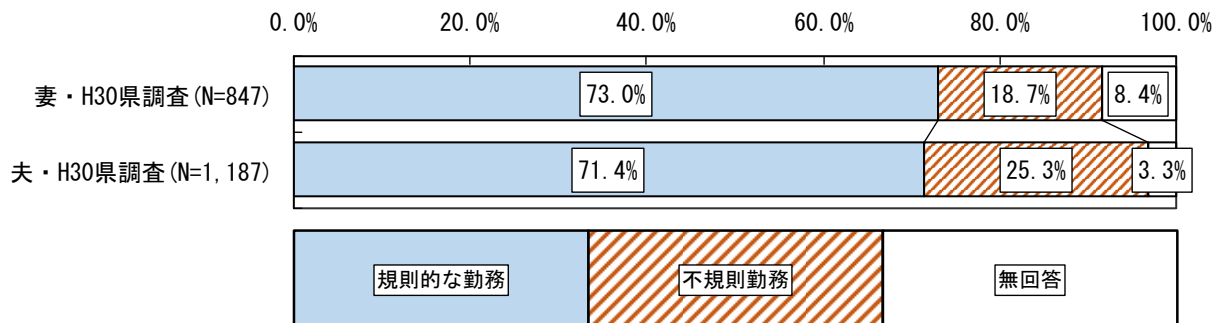
図表 通勤時間



⑨不規則勤務であるか

不規則勤務（夜勤またはシフト制勤務）であるかをみると、妻では「不規則勤務」が 18.7%、夫では「不規則勤務」が 25.3%となっている。

図表 不規則勤務であるか



(4) 未就労の妻の今後の就労希望

①未就労の妻の就労希望

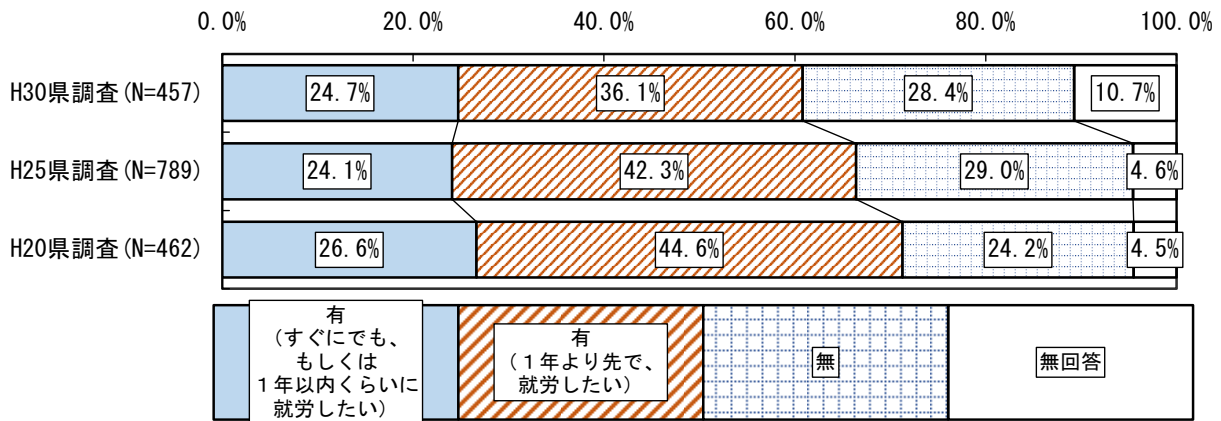
妻が現在お仕事をもちでないご夫婦についてうかがいます（妻は自分の状況、夫は妻の状況を分かる範囲で回答）。それ以外の方は問7へお進みください。

問6 あなた（あなたの妻）は、今後就労を希望されていますか。（○は1つ）

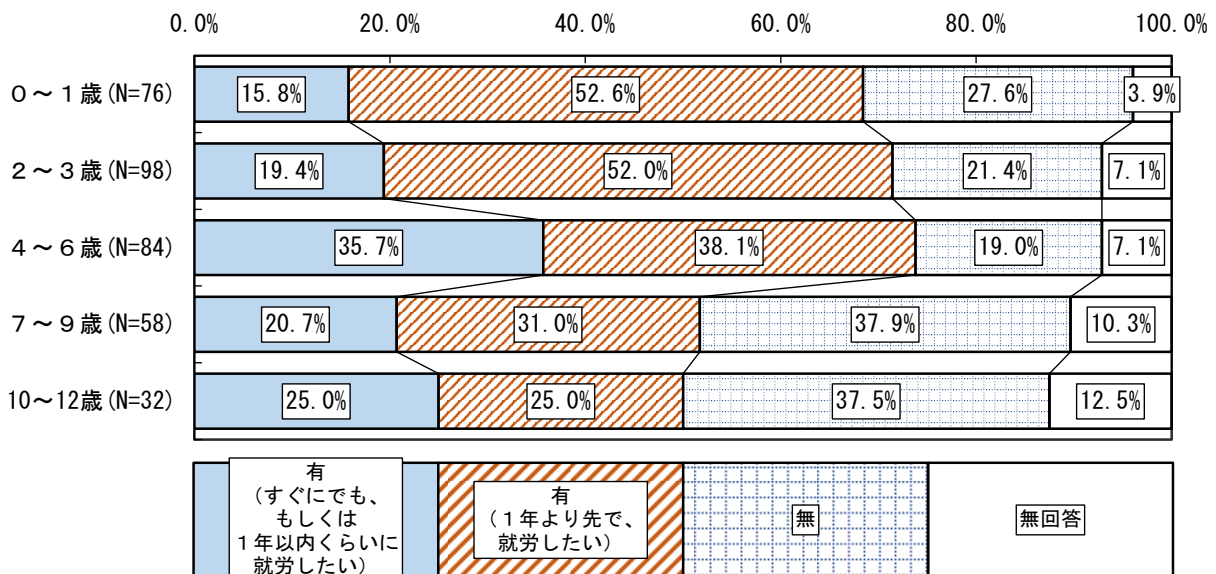
未就労の妻の就労希望をみると、「すぐにでも、もしくは1年以内くらいに就労したい」の割合は24.7%、「1年より先で、就労したい」の割合は36.1%、「希望なし」が28.4%となっている。就労希望の「有」の合計の割合は、前回調査に比べると、前回66.4%から60.8%と減少している。

末子の年齢別に就労希望をみると、末子年齢が0～6歳の母親では、就労希望「有」が7割前後となっており、特に4～6歳では、35.7%がすぐに就労したい希望がある。しかし、7歳以降では、就労希望が約5割に低下している。

図表 未就労の妻の就労希望



図表 末子の年齢別 未就労の妻の就労希望



※子どもがいて、妻が現在就労していない夫婦

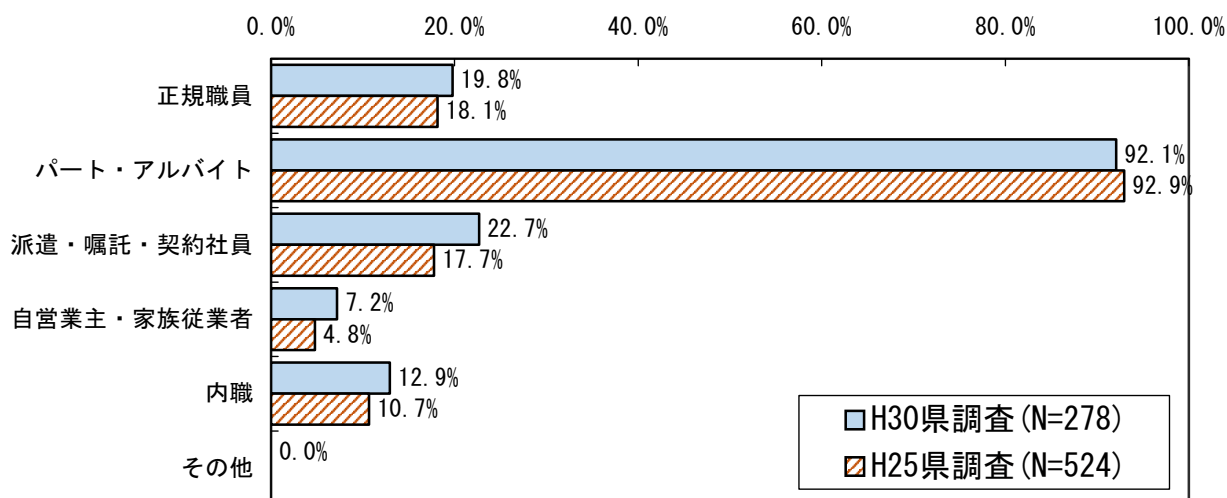
②希望就労形態

問6-1～問6-2は問6で「1」または「2」と回答した方にうかがいます。「3」を回答された方は問6-3へお進みください。妻は自分の考えを、夫は妻がどのように考えているか分かる範囲でお答え下さい。

問6-1 どのような雇用形態なら就労したいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

就労希望のある未就労の妻の希望就労形態をみると、「パート・アルバイト」が92.1%で最も多く、次いで「派遣・嘱託・契約社員」(22.7%)、「正規職員」(19.8%)となっている。前回調査に比べて、おおむね同傾向である。

図表 希望就労形態（複数回答）



※妻が現在就労していない夫婦

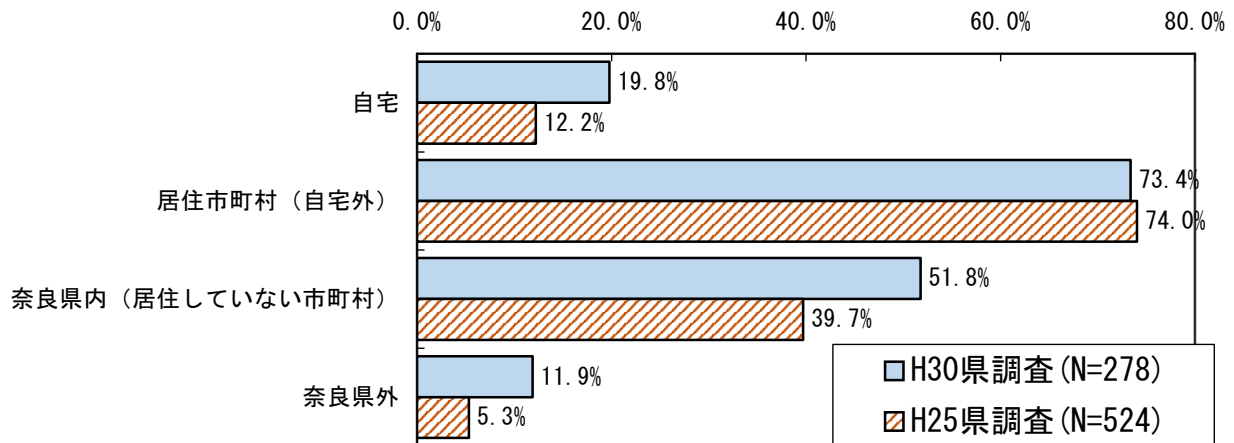
※無回答を除く

③希望勤務地

問 6-2 希望される勤務地はどちらですか。(〇はあてはまるものすべて)

就労希望のある未就労の妻の希望勤務地をみると、「居住市町村」が 73.4%で最も多く、次いで「奈良県内」(51.8%)、「自宅」(19.8%) となっている。前回調査に比べて、「奈良県内」の割合が 12.1 ポイント、「自宅」の割合が 7.6 ポイント、「奈良県外」の割合が 6.6 ポイント上昇している。

図表 希望勤務地（複数回答）



※妻が現在就労せず、今後就労希望がある夫婦

※無回答を除く

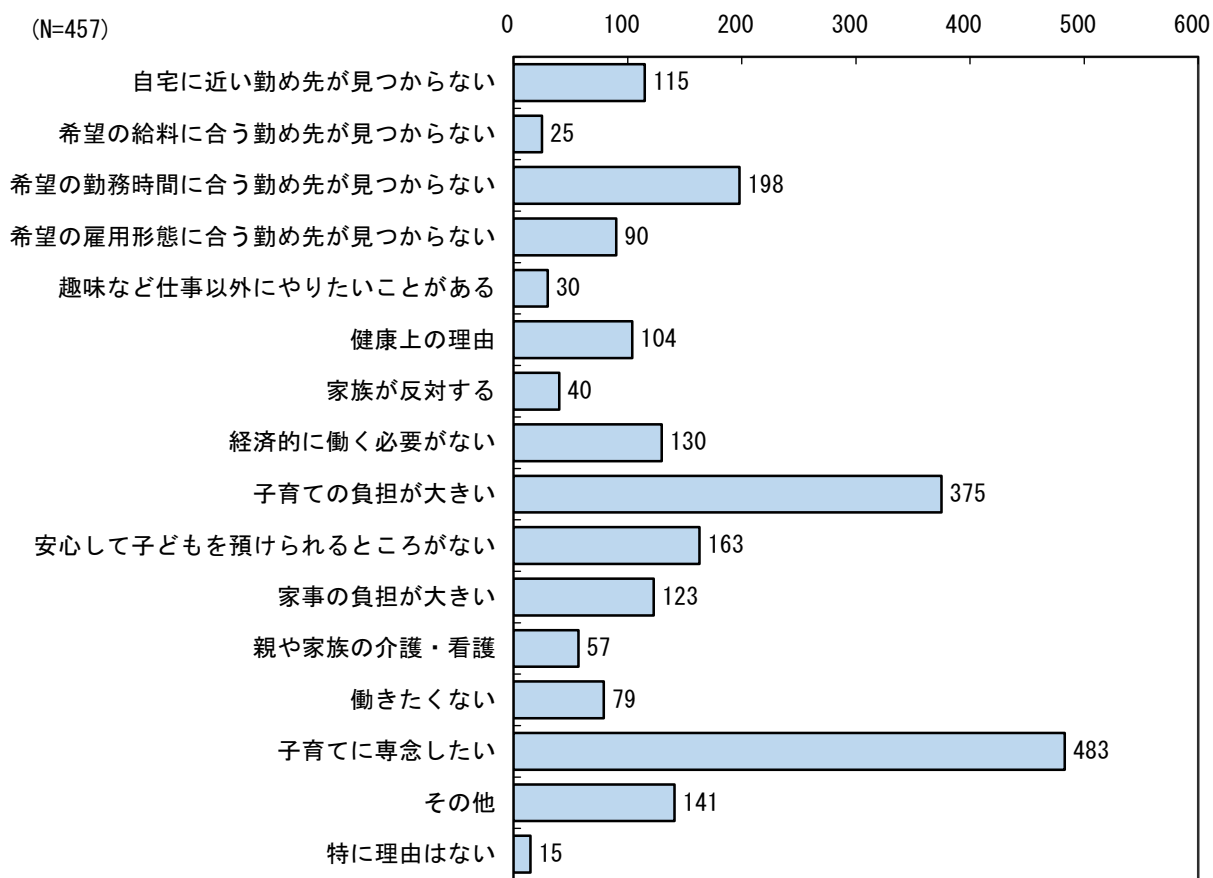
④就労していない・希望しない理由

問6-3～問6-4は問6で回答したすべての方にかがいます。

問 6-3 現在就労していない理由または今後就労を希望しない理由は何ですか。次の中から**最大の理由**、**第二の理由**、**第三の理由**をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

未就労の妻の就労していない・希望しない理由をみると、「子育てに専念したい」が483点で最も多く、次いで「子育ての負担が大きい」(375点)、「希望の勤務時間に合う勤め先が見つからない」(198点)となっている。

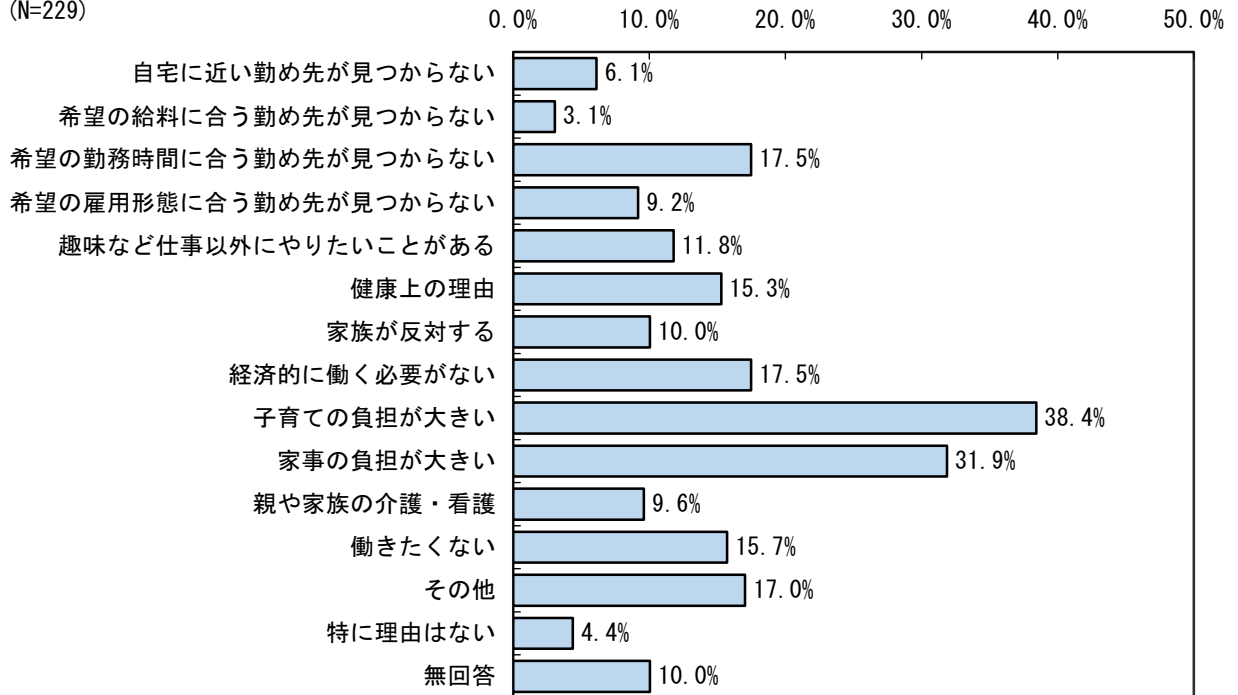
図表 就労していない・希望しない理由 (あてはまる理由を3つ選択)



※最大の理由=3点、第二の理由=2点、第三の理由=1点として点数換算

図表 (参考) 前回

(N=229)

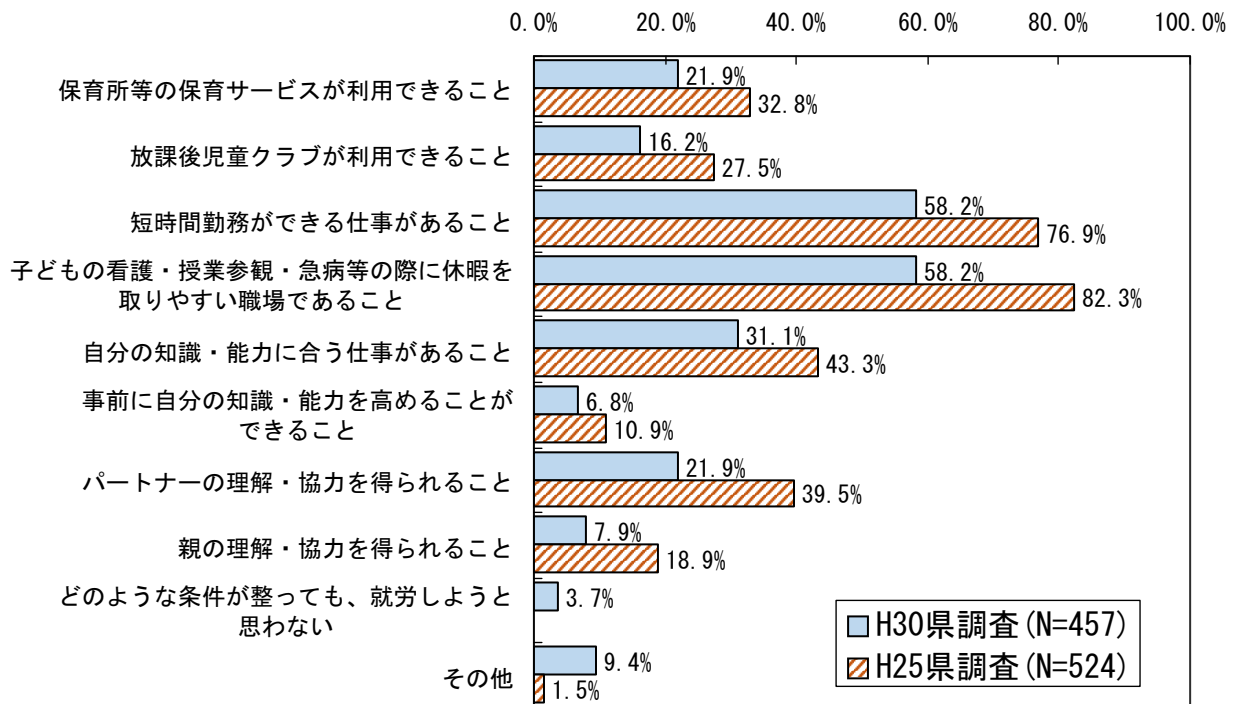


⑤就労の条件

問 6-4 今後どのような条件が整えば就労したいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○をつけてください)

未就労の妻の就労の条件をみると、「短時間勤務ができる仕事があること」「子どもの看護・授業参観・急病等の際に休暇を取りやすい職場であること」がともに 58.2%で最も多く、次いで「自分の知識・能力に合う仕事があること」(31.1%)となっている。(前回調査の集計では回答者を就労を希望する妻に限定しているため、就労を希望しない妻を含んでいる今回調査と比較して、各割合が低下している。)

図表 就労条件（複数回答）



(5) 就労経験者の退職時期と理由

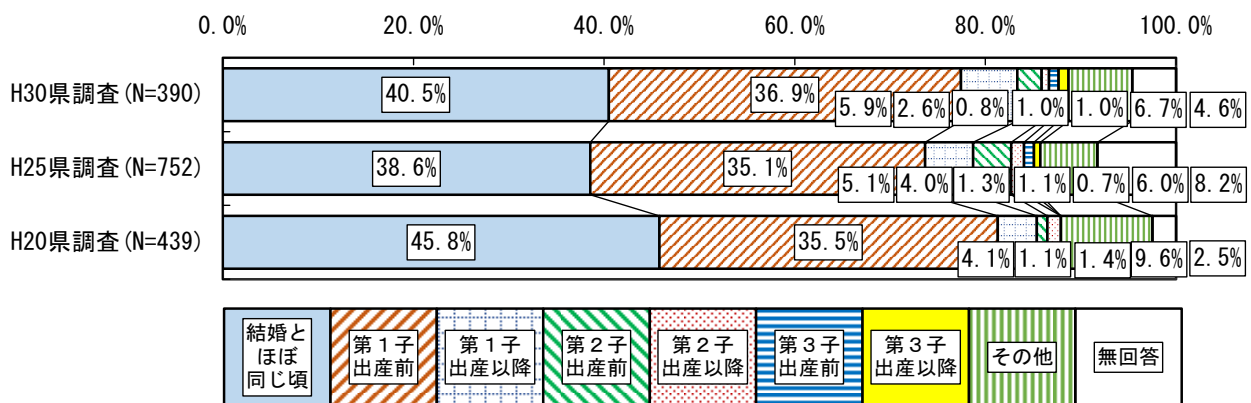
①仕事を辞めた時期

妻が以前お仕事をされていたが、現在はお仕事をお持ちでない夫婦について（妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答）うかがいます。それ以外の方は問8へお進みください。（産休・育児休業は「仕事を辞めた」と捉えません）

問7 あなた（あなたの妻）がお仕事を辞めた時期はいつごろですか。（複数回辞めている場合、初めて辞めた時期に○をつけてください。）

妻が仕事を辞めた時期をみると、「結婚とほぼ同じ頃」が40.5%で最も多く、次いで「第1子出産前」が36.9%となっている。前回調査に比べて、各時期の割合に大きな変化はない。

図表 仕事を辞めた時期

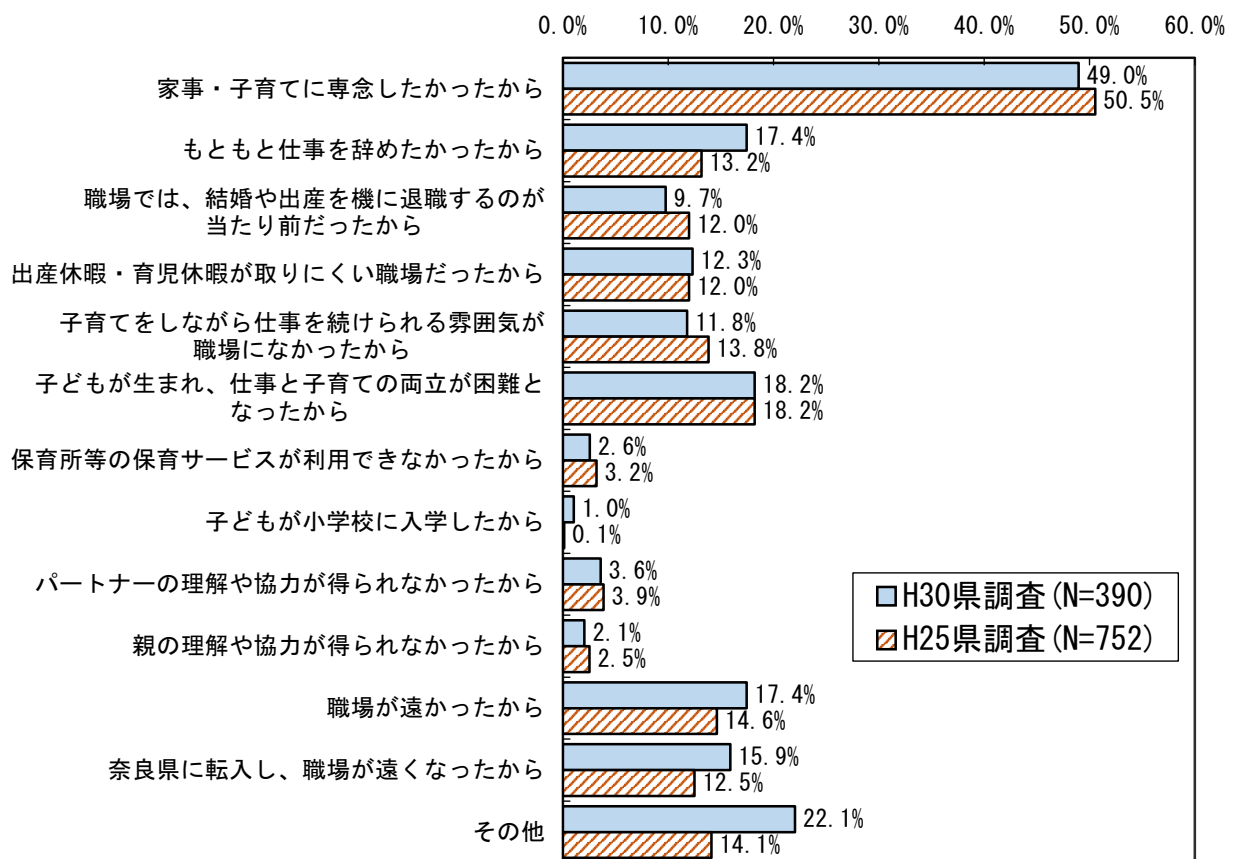


②仕事を辞めた理由

問 7-1 あなた（あなたの妻）がお仕事を辞めた理由は何でしたか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

妻が仕事を辞めた理由をみると、「その他」を除いて、「家事・子育てに専念したかったから」が49.0%で最も多く、次いで「子どもが生まれ、仕事と子育ての両立が困難となったから」（18.2%）、「もともと仕事を辞めたかったから」「職場が遠かったから」（ともに17.4%）となっている。前回調査に比べて、おおむね同傾向となっている。

図表 仕事を辞めた理由（複数回答）



図表 仕事を辞めた理由（最大）

	H30県調査 N=390	H25県調査 N=702
家事・子育てに専念したかったから	14.9%	21.5%
もともと仕事を辞めたかったから	3.3%	4.6%
職場では、結婚や出産を機に退職するのが当たり前だったから	1.0%	3.6%
出産休暇・育児休暇が取りにくい職場だったから	1.8%	1.9%
子育てをしながら仕事を続けられる雰囲気が職場になかったから	2.3%	3.3%
子どもが生まれ、仕事と子育ての両立が困難となったから	3.1%	3.4%
保育所等の保育サービスが利用できなかったから	0.3%	0.4%
子どもが小学校に入学したから	0.8%	0.1%
パートナー（夫）の理解や協力が得られなかったから	0.8%	0.4%
親の理解や協力が得られなかったから	0.3%	0.3%
職場が遠かったから	1.0%	2.3%
奈良県に転入し、職場が遠くなったから	2.3%	4.6%
その他	6.4%	3.8%
無回答	61.8%	49.9%

3 出会い・結婚

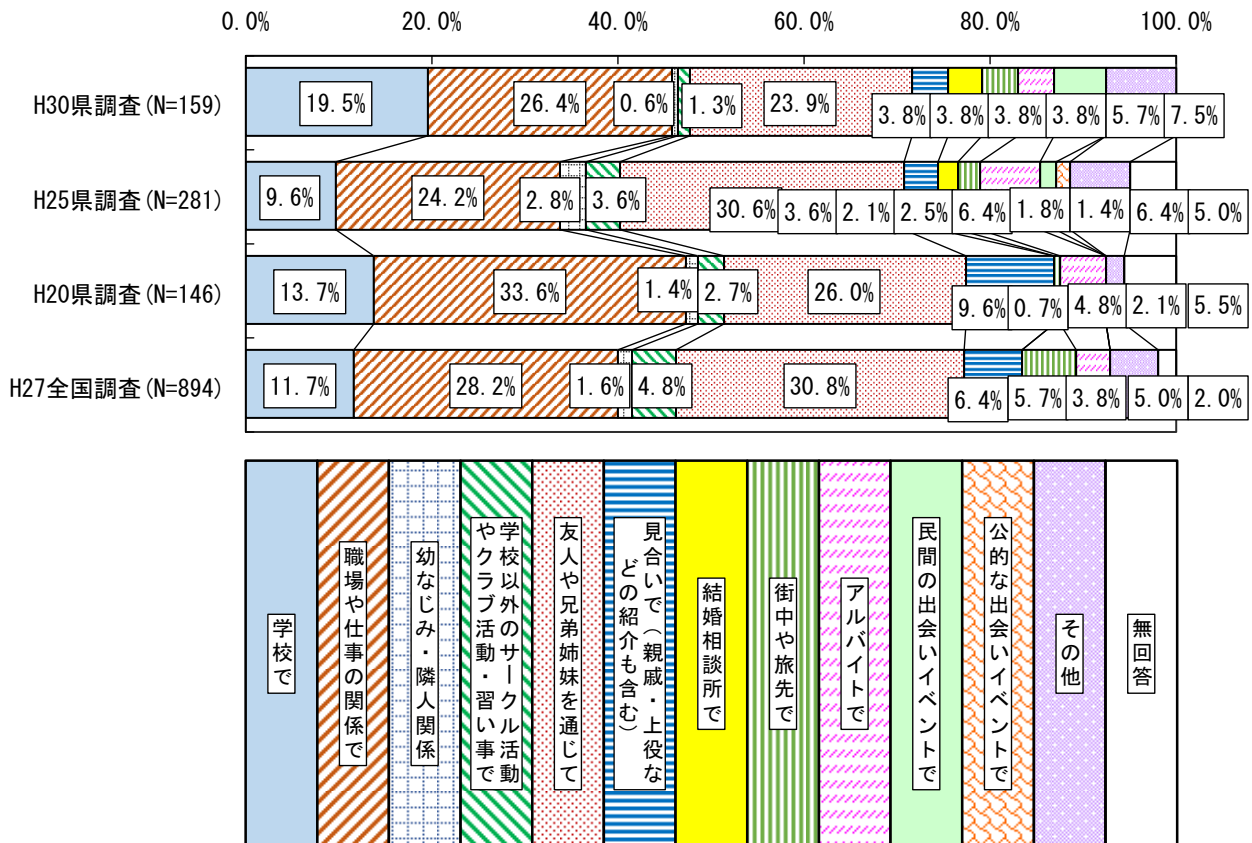
(1) 出会いのきっかけ

問8 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。(〇は1つ)

初婚同士かつ結婚5年以内の夫婦の出会いのきっかけをみると、「職場や仕事の関係で」が26.4%で最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」(23.9%)、「学校で」(19.5%)となっている。

前回調査に比べて、「学校で」の割合が9.9ポイント上昇し、「友人や兄弟姉妹を通じて」の割合が6.7ポイント低下している。全国調査の結果でも「友人や兄弟姉妹を通じて」次いで「職場や仕事の関係で」が多いのは同様だが、全国調査に比べて、「学校で」の割合が7.8ポイント多くなっている。

図表 夫婦の出会いのきっかけ（初婚同士、結婚5年以内）



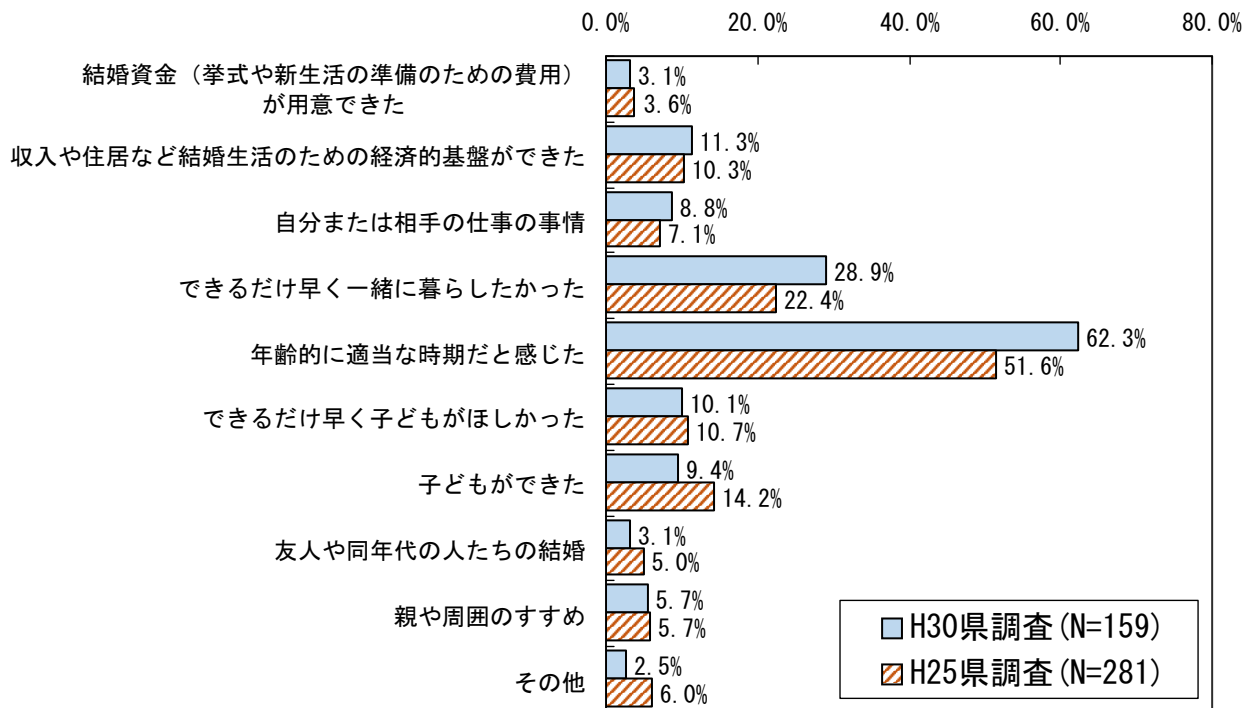
(2) 結婚を決めたきっかけ

問9 あなた方ご夫婦が、最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何ですか。(〇は2つまで)

初婚同士かつ結婚5年以内の夫婦の結婚を決めたきっかけをみると、「年齢的に適当な時期だと感じた」が62.3%で最も多く、次いで「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」(28.9%)、「収入や住居など結婚生活のための経済的基盤ができた」(11.3%)となっている。

前回調査に比べて、「年齢的に適当な時期だと感じた」の割合が10.7ポイント、「できるだけ早く一緒に暮らしたかった」の割合が6.5ポイント上昇している。

図表 結婚を決めた直接のきっかけ(あてはまる理由を2つ選択)(初婚同士、結婚5年以内)



4 家事・育児の分担や夫婦の関係

(1) パートナーとの関係

問 10 あなたとパートナー（夫または妻）との関係についてお聞きします。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

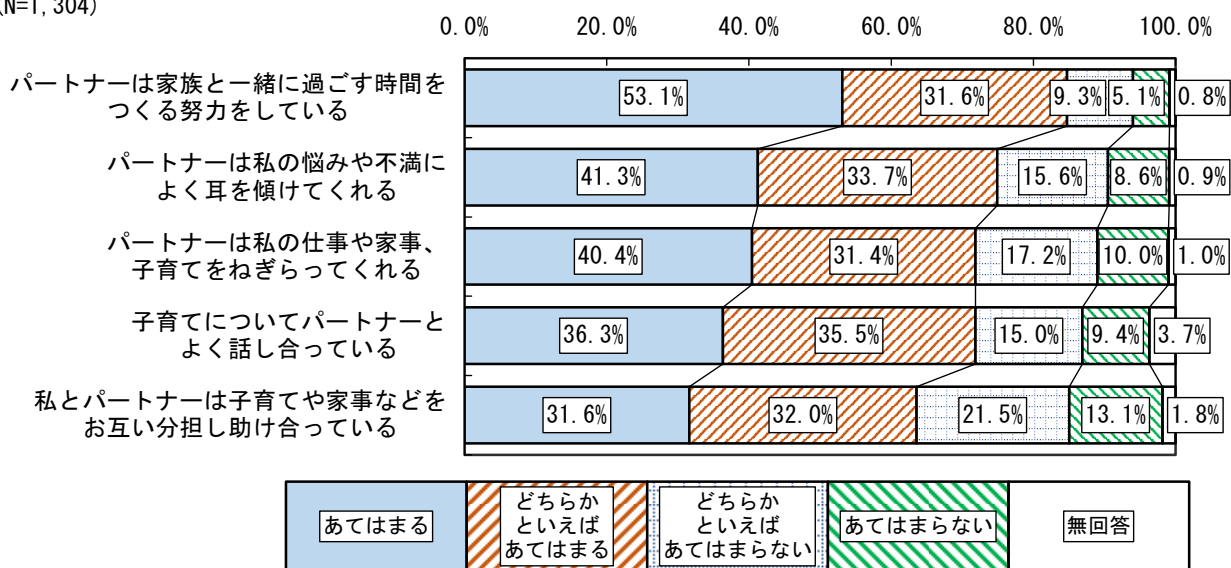
「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、「パートナーは家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている」が 84.7%で最も多く、次いで「パートナーは私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる」(75.0%)となっている。また、「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」の割合の合計は、「私とパートナーは子育てや家事などをお互い分担し助け合っている」が 34.6%で最も多く、次いで「パートナーは私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる」(27.2%)となっている。

次ページより夫婦別の調査結果を記載しているが、全体として、夫は妻に比べて、パートナーへの評価が約7～14ポイント高い傾向にある。

また、前回調査に比べて、妻のパートナーへの評価はやや高くなっている傾向にある。

図表 パートナーとの関係

(N=1,304)

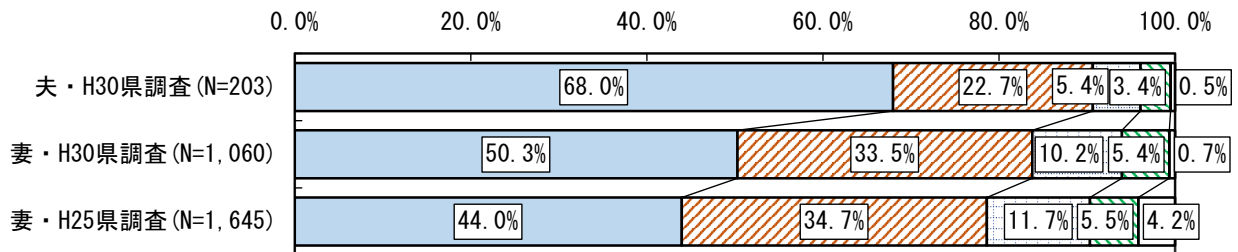


①パートナー（夫または妻）は家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている

「パートナー（夫または妻）は家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、妻では 83.8%となっている。前回調査に比べて、5.1ポイント上昇している。

夫では 90.7%となっている。

図表 パートナー（夫または妻）は家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている

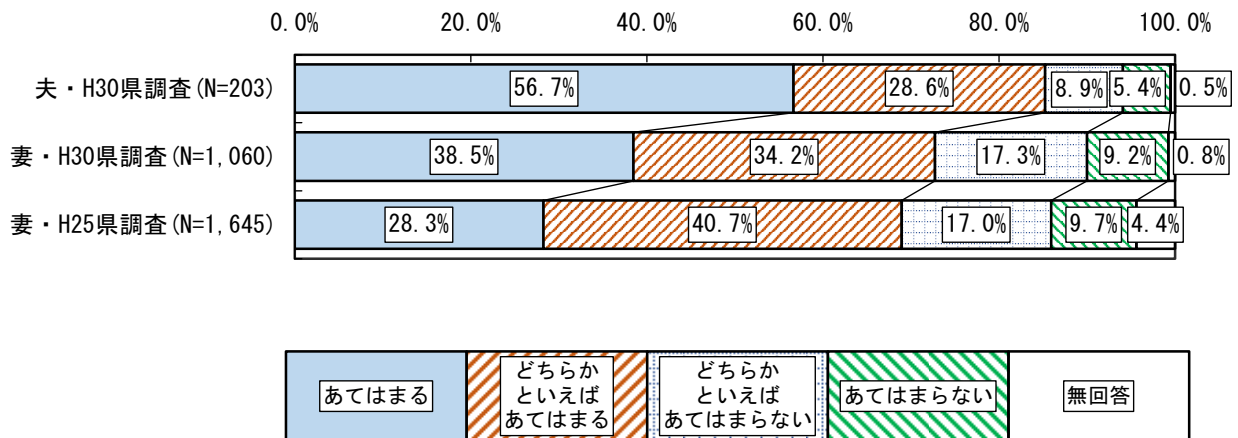


②パートナー（夫または妻）は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる

「パートナー（夫または妻）は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、妻では 72.7%となっている。前回調査に比べて、3.7ポイント上昇している。

夫では 85.3%となっている。

図表 パートナー（夫または妻）は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる

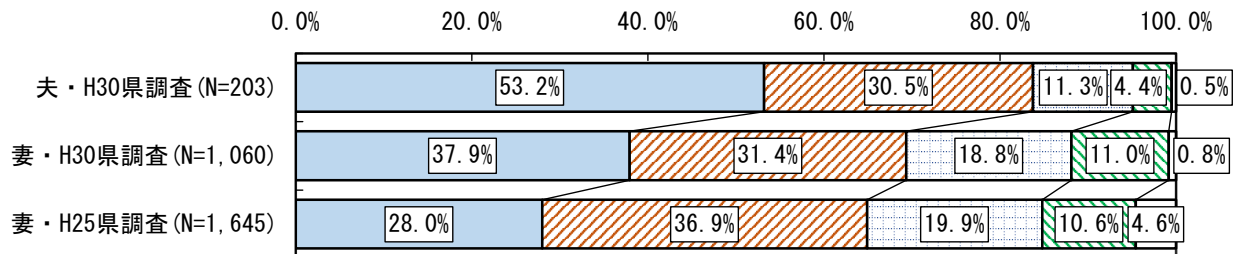


③パートナー（夫または妻）は私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる

「パートナー（夫または妻）は私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、妻では 69.3%となっている。前回調査に比べて、4.4 ポイント上昇している。

夫では 83.7%となっている。

図表 パートナー（夫または妻）は私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる

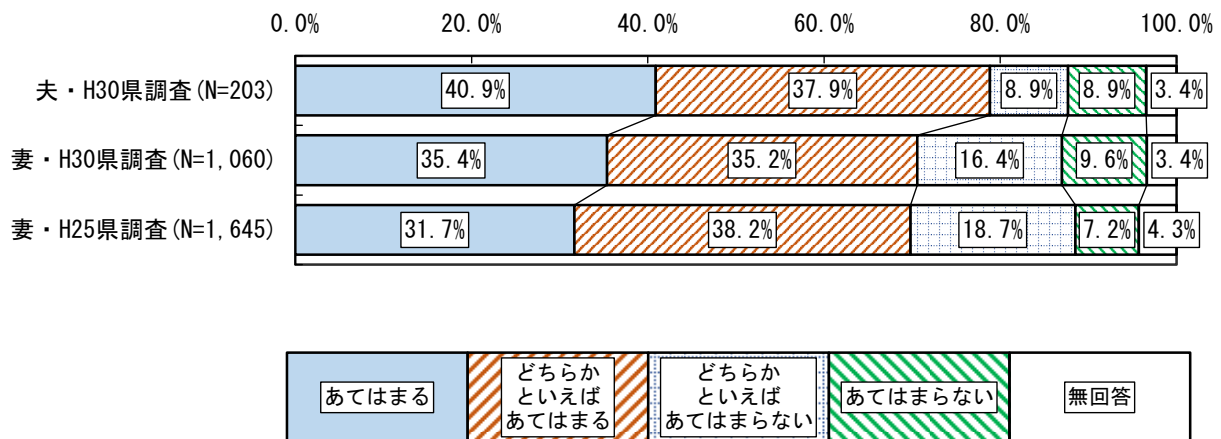


④子育てについてパートナー（夫または妻）とよく話し合っている

「子育てについてパートナー（夫または妻）とよく話し合っている」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、妻では 70.6%となっている。前回調査に比べて、0.7 ポイント上昇している。

夫では 78.8%となっている。

図表 子育てについてパートナー（夫または妻）とよく話し合っている

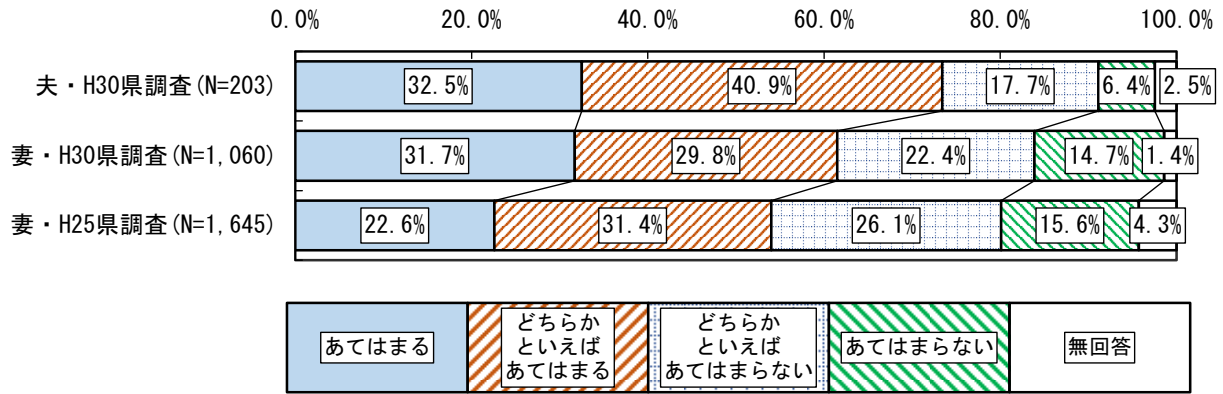


⑤私とパートナー（夫または妻）は子育てや家事などをお互い分担し助け合っている

「私とパートナー（夫または妻）は子育てや家事などをお互い分担し助け合っている」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、妻では 61.5%となっている。前回調査に比べて、7.5 ポイント上昇している。

夫では 73.4%となっている。

図表 私とパートナー（夫または妻）は子育てや家事などをお互い分担し助け合っている



(2) 家事の分担状況

問11 あなた方ご夫婦は家事をどれくらいしていますか。

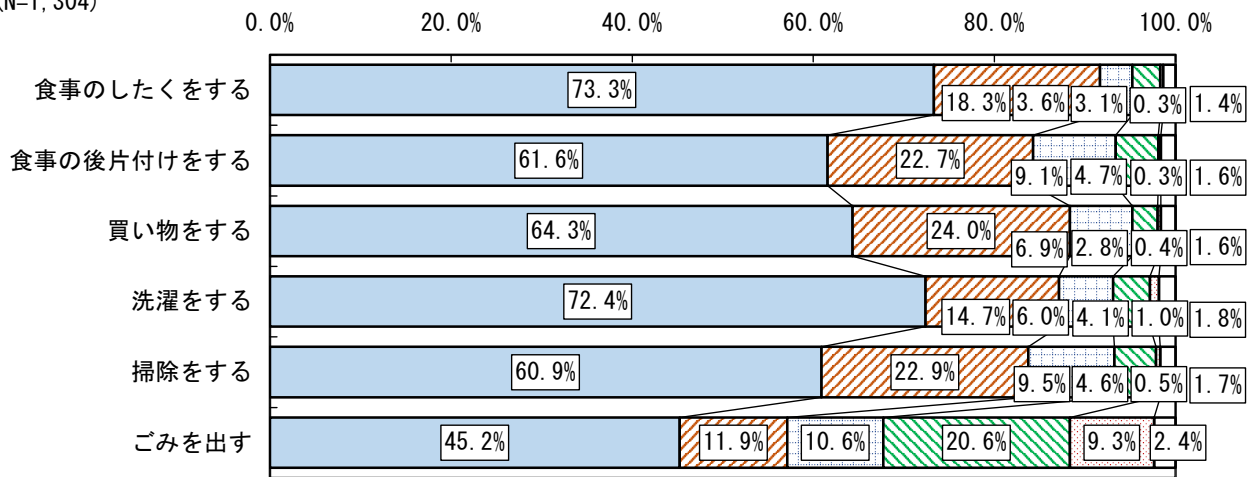
妻に夫との家事の分担状況を聞くと、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が、一番高い「食事のしたく」(91.6%)をはじめ、「ごみ出し」以外のすべての項目で80%を超えている。

夫では、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が一番高いのが「ごみ出し」の34.3%で、あとの項目はすべて2割にも満たない。反対に「まったくしていない」のは、「洗濯」(50.2%)および「食事のしたく」(47.1%)が高く、その他3割以上の項目が3項目もあるという結果である。

家事分担については、全体的に妻にかなり偏っているという結果となっている。

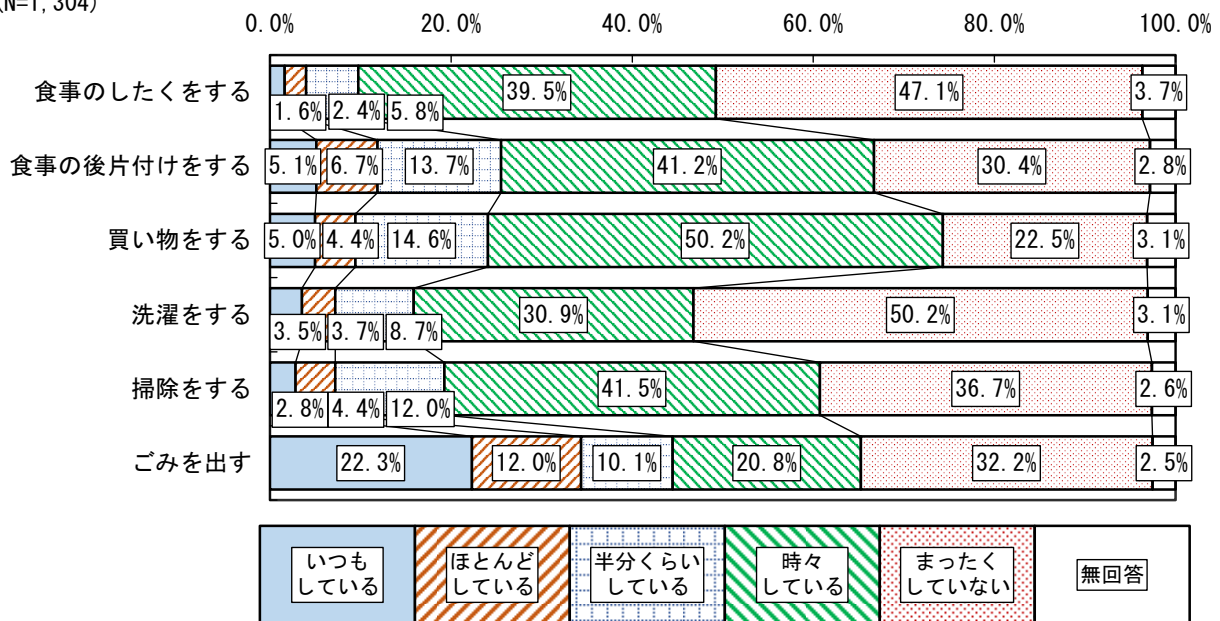
図表 家事の分担状況(妻)

(N=1,304)



図表 家事の分担状況(夫)

(N=1,304)



(3) 育児の分担状況

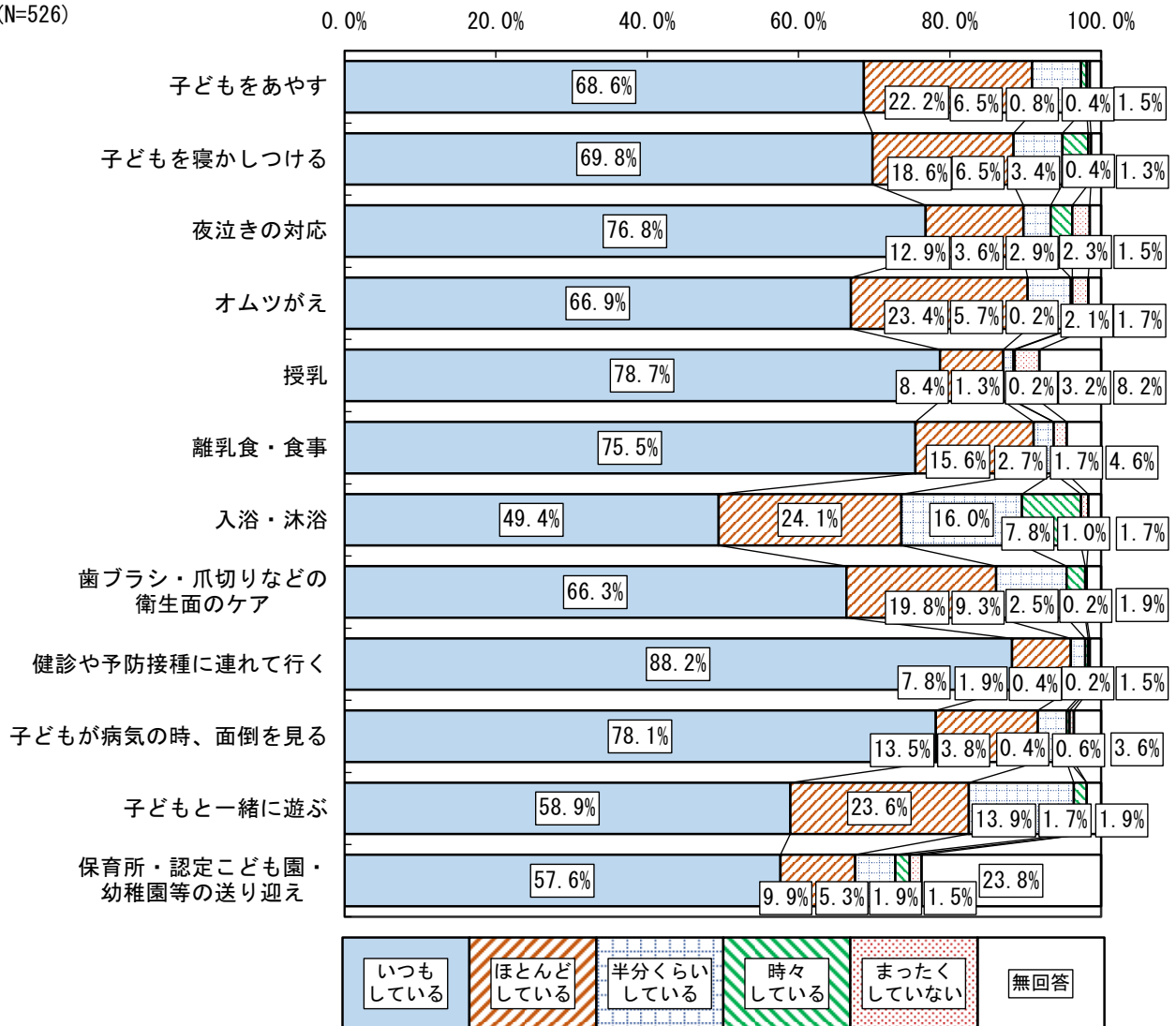
お子さんをお持ちの方にうかがいます（夫婦双方のことを回答ください）。それ以外の方は問22へお進みください

問 12 あなた方ご夫婦は育児をどれくらいしていましたか、または、現在どれくらいしていますか。

6歳未満の子どもがいる夫婦について、妻に夫との家事の分担状況を聞くと、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が、一番高い「健診や予防接種に連れて行く」（96.0%）をはじめ、12項目中8項目が9割前後となっている。あとの4項目の割合も7～8割となっている。夫では、「いつもしている」「ほとんどしている」の合計の割合が高いのが「子どもと一緒に遊ぶ」の39.6%で、次いで「子どもをあやす」（35.2%）、「入浴・沐浴」（25.6%）だが、その他の項目はほとんどが1割前後である。また、「まったくしていない」項目で3割以上のものが5項目あり、なかでも妻が子育てでしんどいと感じた要因の第1位である（問16）「夜泣きの対応」は45.8%となっている。

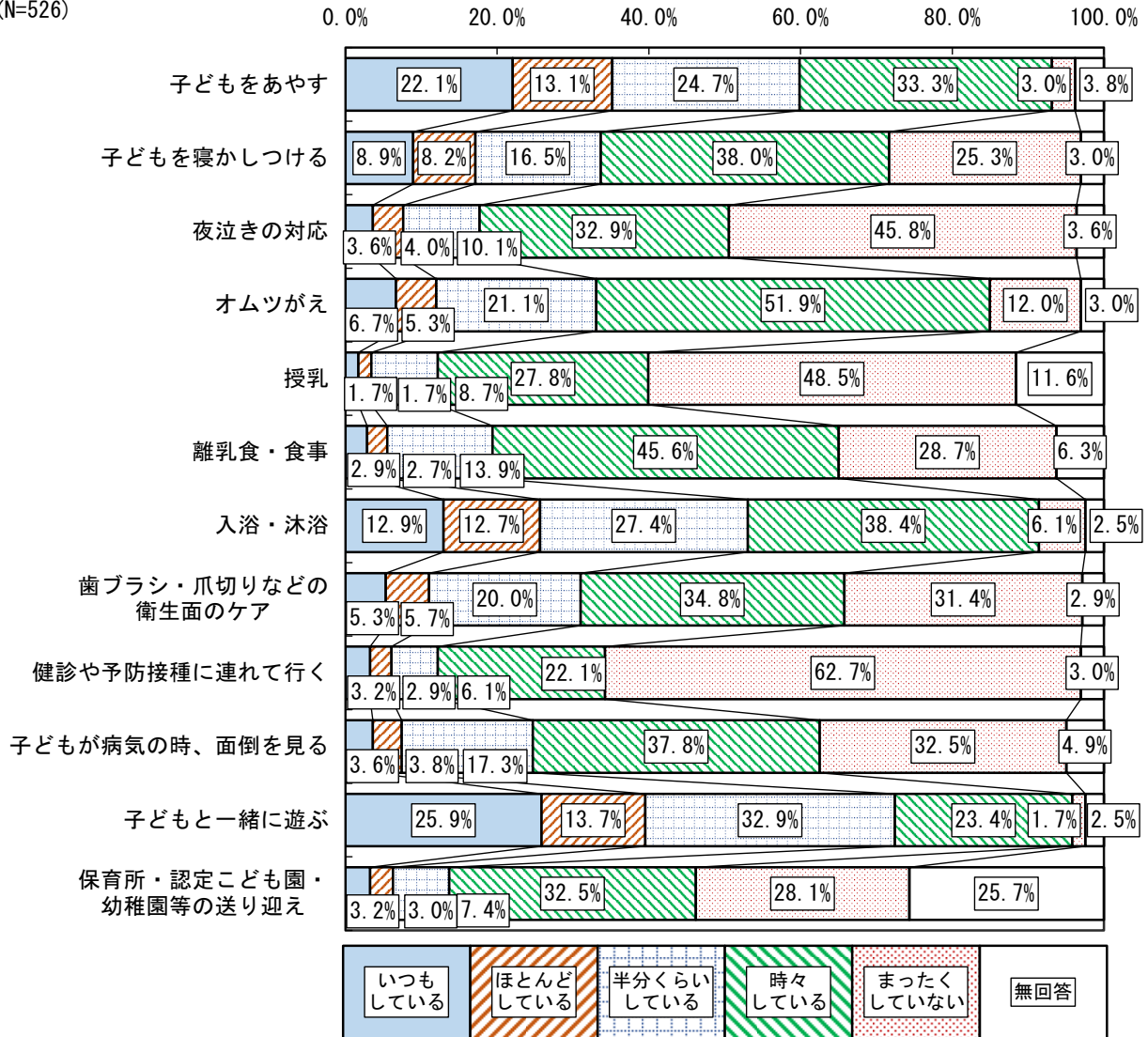
図表 育児の分担状況（6歳未満の子どもがいる妻）

(N=526)



図表 育児の分担状況（6歳未満の子どもがいる夫）

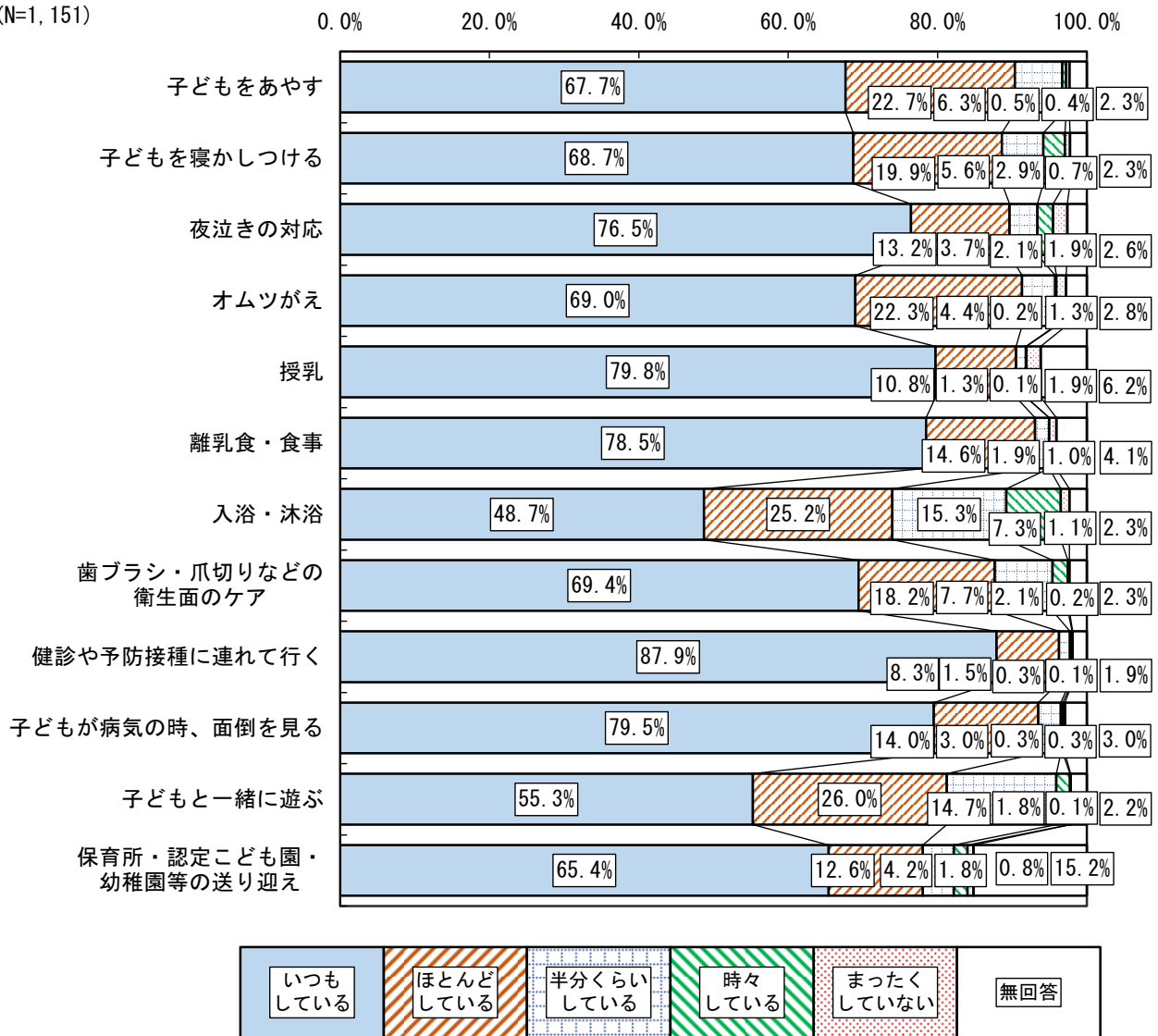
(N=526)



下記および次ページでは、前ページまでと違い、6歳未満の子どもがいる夫婦に限定せず、（6歳以上の子どもがいる夫婦を含めた）子どもがいる夫婦全体の育児の分担状況を示しているが、さほど状況に変化はなく、たとえば、最近では夫の育児の分担が増えている、といった傾向はうかがえない。

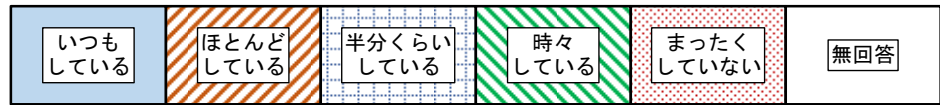
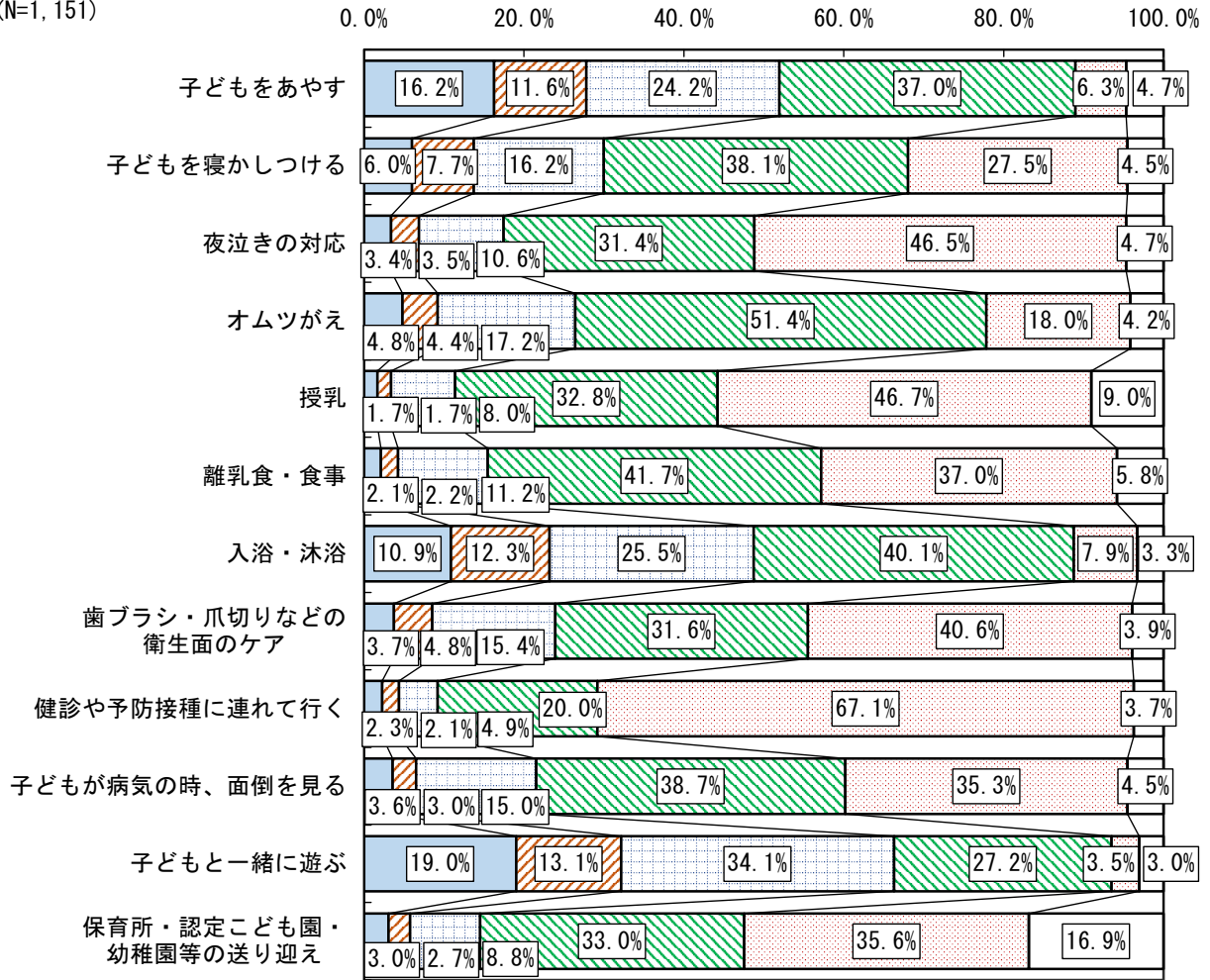
図表 育児の分担状況（子どもがいる夫婦の妻）

(N=1,151)



図表 育児の分担状況（子どもがいる夫婦の夫）

(N=1,151)



5 子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手

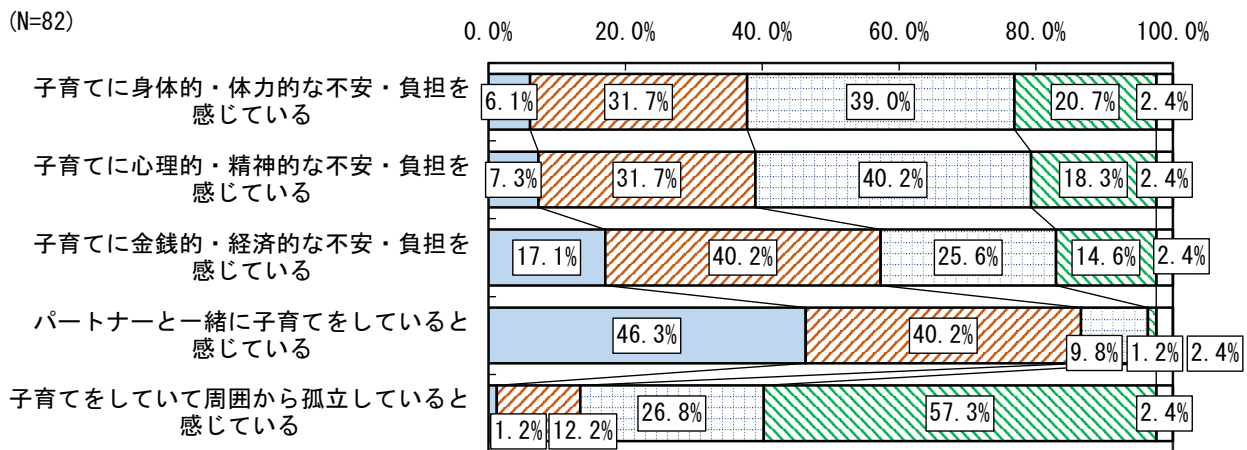
(1) 子育ての不安感や負担感

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

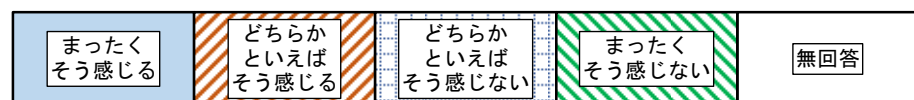
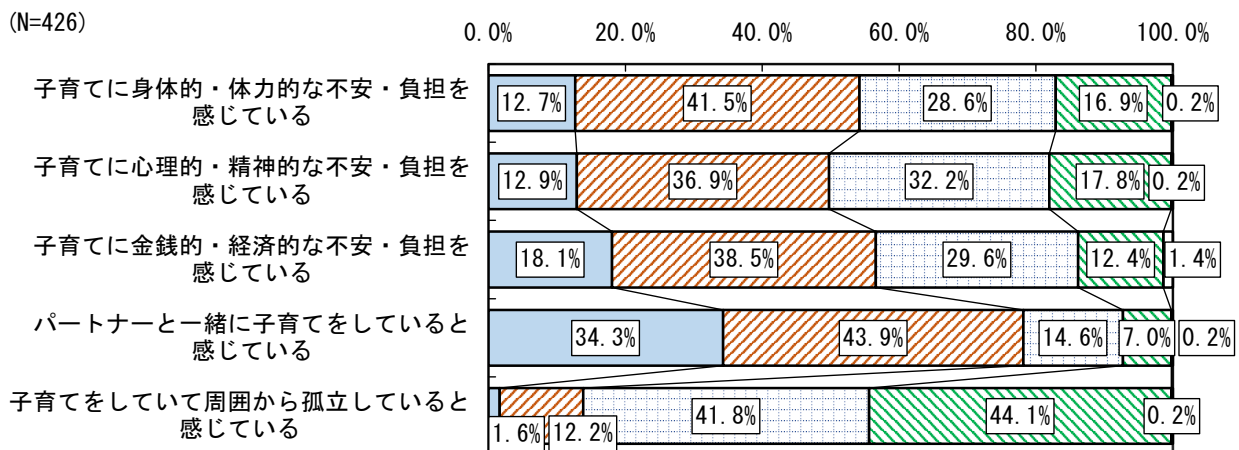
問 13 子育ての不安感や負担感などに関する以下の①～⑤の項目について、あなた自身はどのように感じていますか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

「まったくそう感じる」と「どちらかといえばそう感じる」の割合の合計をみると、妻では、夫に比べて、「子育てに身体的・体力的な不安・負担を感じている」「子育てに心理的・精神的な不安・負担を感じている」がそれぞれ10ポイント以上高く、「パートナーと一緒に子育てをしていると感じている」が8.3ポイント低くなっている。「子育てに金銭的・経済的な不安・負担を感じている」「子育てをされていて周囲から孤立していると感じている」には大きな差はみられない。

図表 子育ての不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）夫



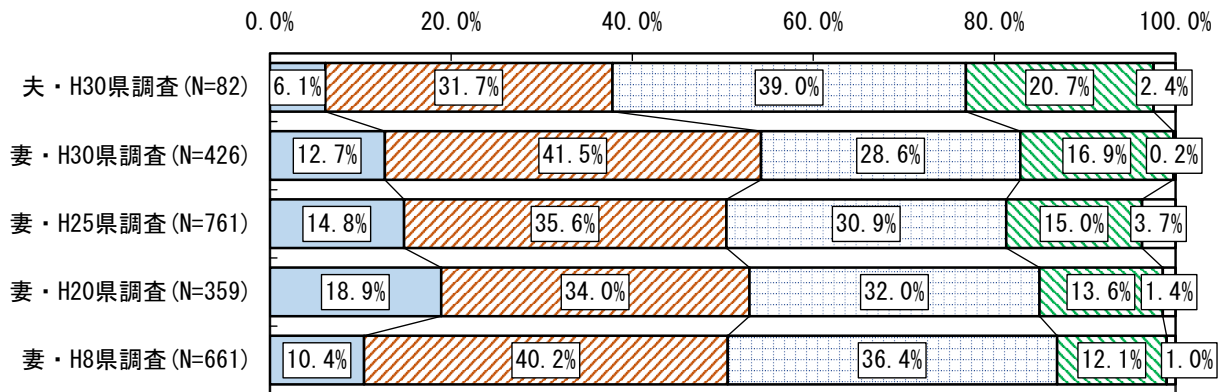
図表 子育ての不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）妻



①子育てに身体的・体力的な不安・負担を感じている

妻の「まったくそう感じる」割合は12.7%となっており、前回調査に比べて、2.1ポイント減少しているが、「どちらかといえばそう感じる」割合は増加した。夫の「まったくそう感じる」割合は6.1%となっており、妻の方がより子育ての身体的・体力的な不安感・負担感を感じている。

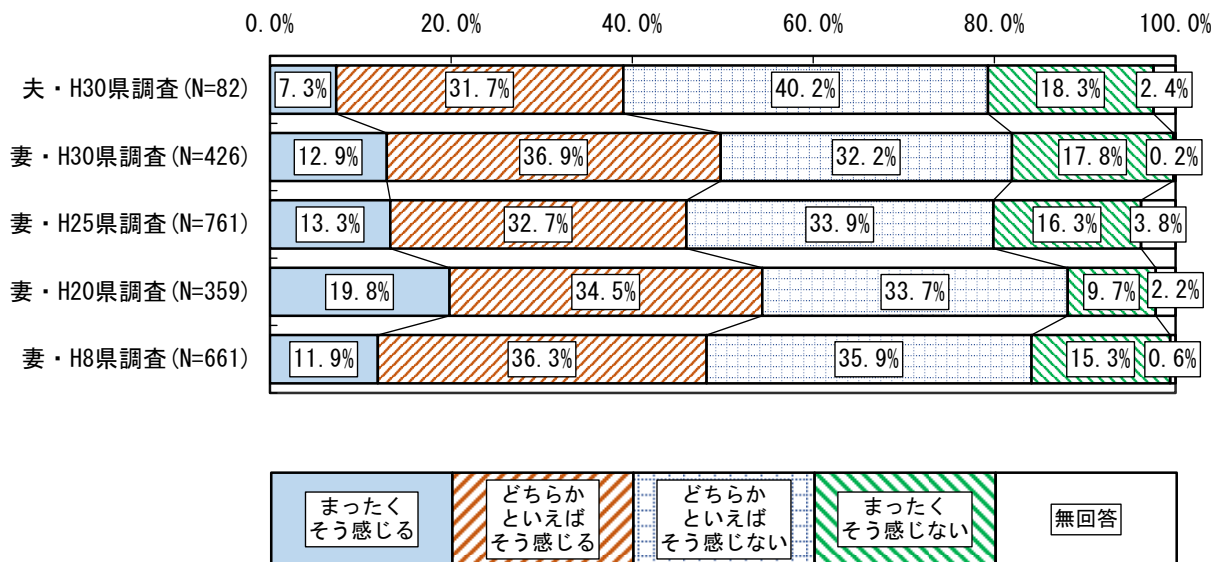
図表 身体的・体力的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



②子育てに心理的・精神的な不安・負担を感じている

妻の「まったくそう感じる」割合は12.9%となっており、前回調査に比べて、0.4ポイント減少しているが、「どちらかといえばそう感じる」割合は増加した。夫の「まったくそう感じる」割合は7.3%となっており、妻の方がより子育ての心理的・精神的な不安感・負担感を感じている。

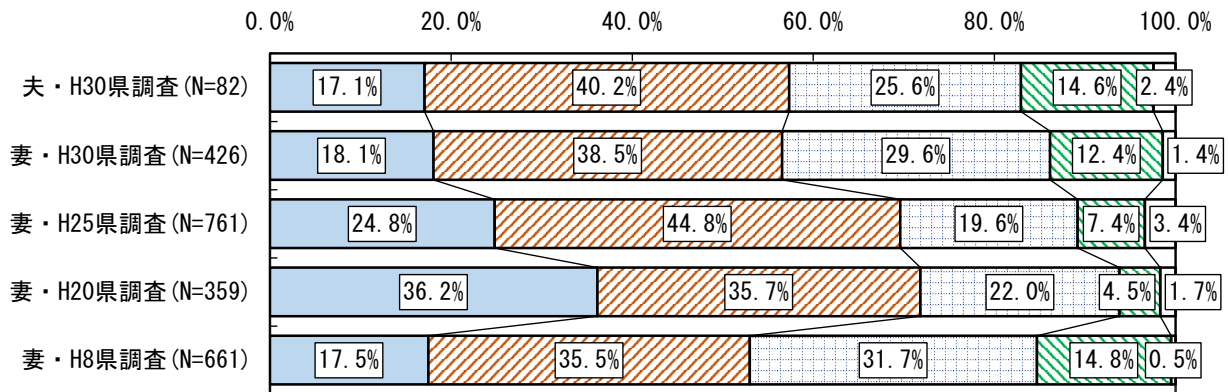
図表 心理的・精神的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



③子育てに金銭的・経済的な不安・負担を感じている

妻の「まったくそう感じる」の割合は18.1%となっており、前回調査に比べて、6.7ポイント減少している。夫の「まったくそう感じる」の割合は17.1%となっており、夫婦による差はあまりない。

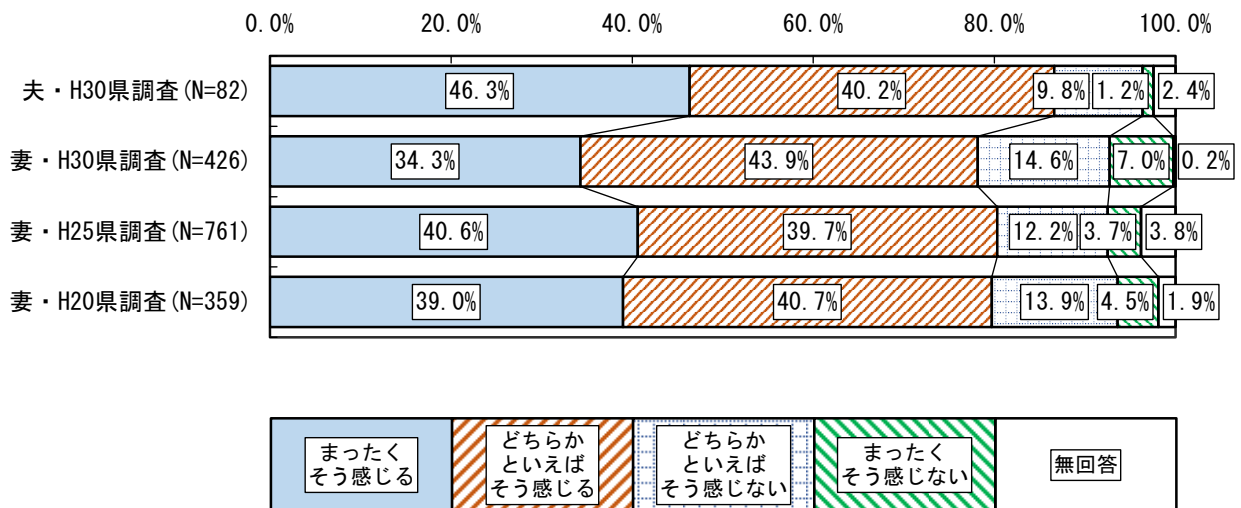
図表 金銭的・経済的な不安感・負担感（6歳未満の子どもがいる家庭）



④パートナー（夫または妻）と一緒に子育てをしていると感じている

パートナーと一緒に子育てをしていると感じている割合をみると、妻ではそう感じる割合が78.2%となっており（「まったくそう感じる」「どちらかといえばそう感じる」の割合の合計）、前回調査に比べて、2.1ポイント低下している。夫は86.5%が一体感を感じており、妻と開きがあることが分かる。

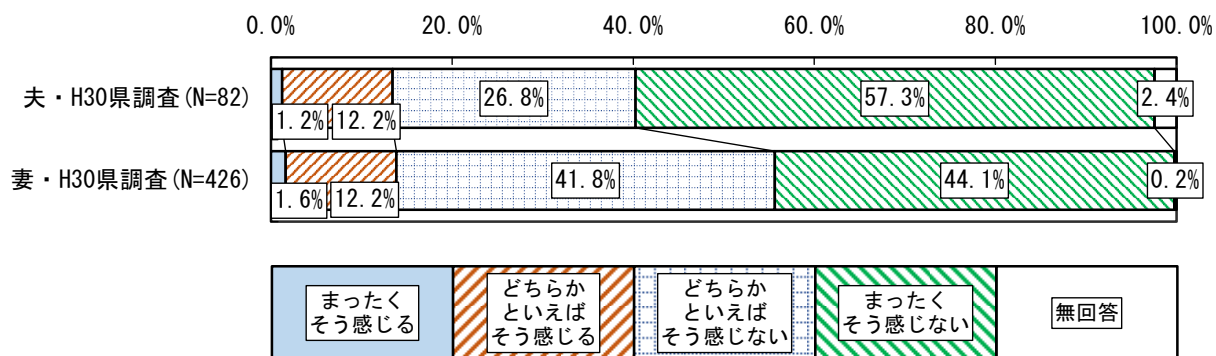
図表 パートナーとの子育て一体感（6歳未満の子どもがいる家庭）



⑤子育てをされていて周囲から孤立していると感じている

子育てをされていて周囲から孤立していると感じている割合をみると、妻では 13.8%、夫では 13.4%となっており（「まったくそう感じる」「どちらかといえばそう感じる」の割合の合計）、夫婦による差はあまりない。

図表 周囲からの孤立感（6歳未満の子どもがいる家庭）



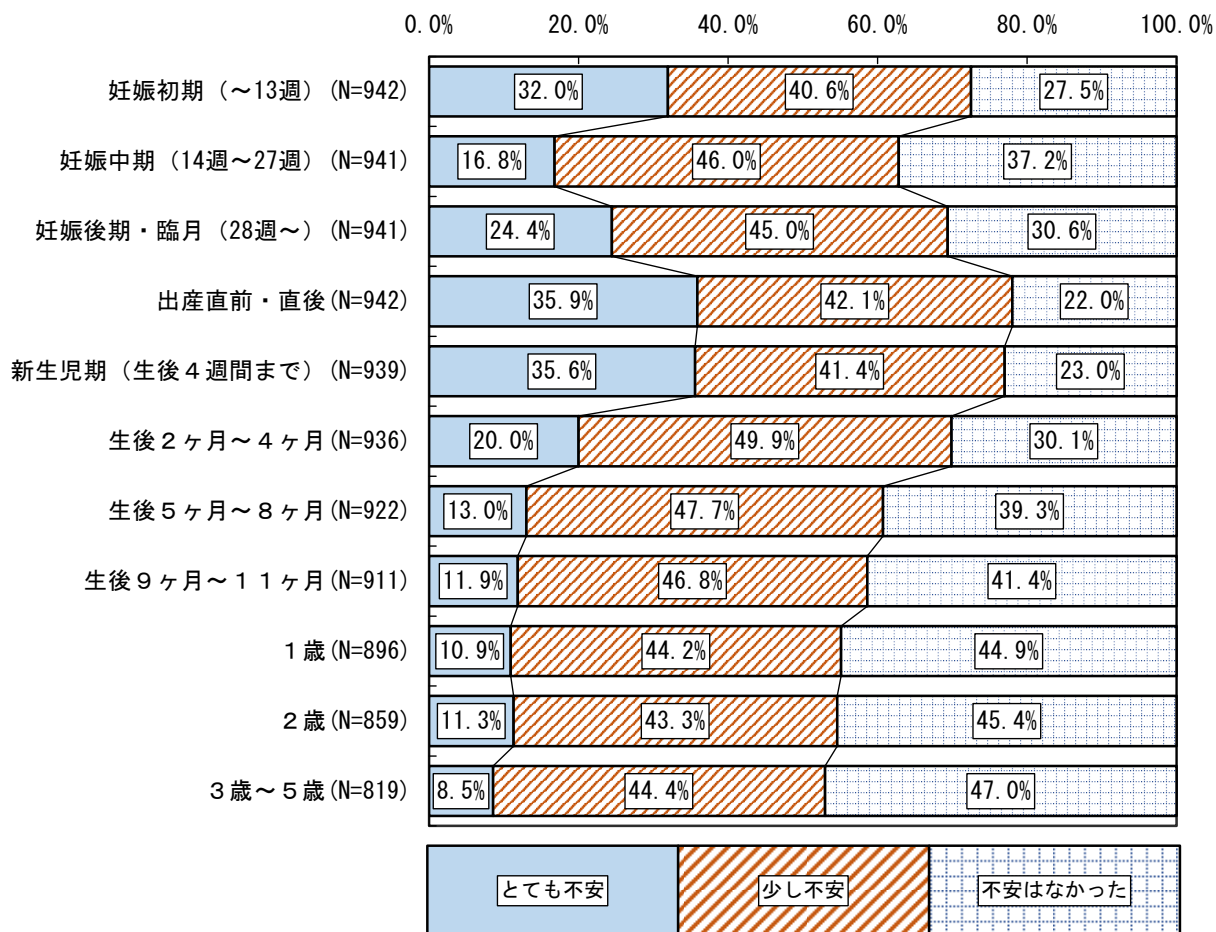
(2) 妻の出産前後の精神的・肉体的な不安感

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問 14 出産前と出産後の各時期において、精神的・肉体的な不安感がどれくらいありましたか。

「とても不安」と「少し不安」の割合を合計すると、「出産直前・直後」が 78.0%で最も多く、次いで「新生児期」(77.0%)、「妊娠初期」(72.6%)となっている。また、不安感はお産後子どもが大きくなるにつれて徐々に減っていくが、3歳～5歳になっても半数以上に不安感がある。

図表 妻の出産前後の精神的・肉体的な不安感



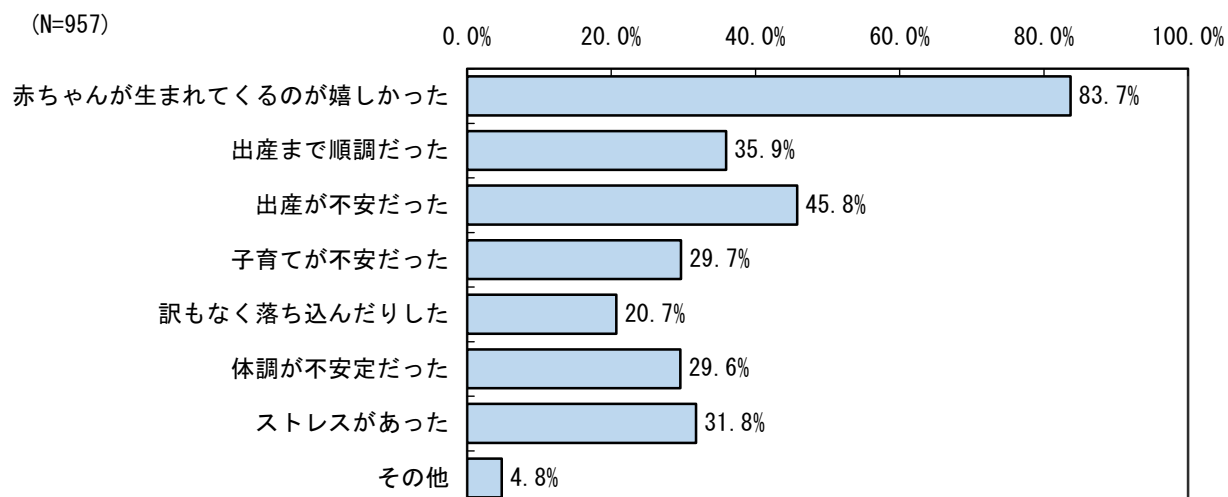
(3) 妻の妊娠期の気持ちや状態

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問 15 妊娠期の気持ちや状態でそれぞれあてはまるものはどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

妻の妊娠期の気持ちや状態は、「赤ちゃんが生まれてくるのが嬉しかった」が 83.7%で最も多く、次いで「出産が不安だった」(45.8%)、「出産まで順調だった」(35.9%)となっている。

図表 妻の妊娠期の気持ちや状態 (複数回答)



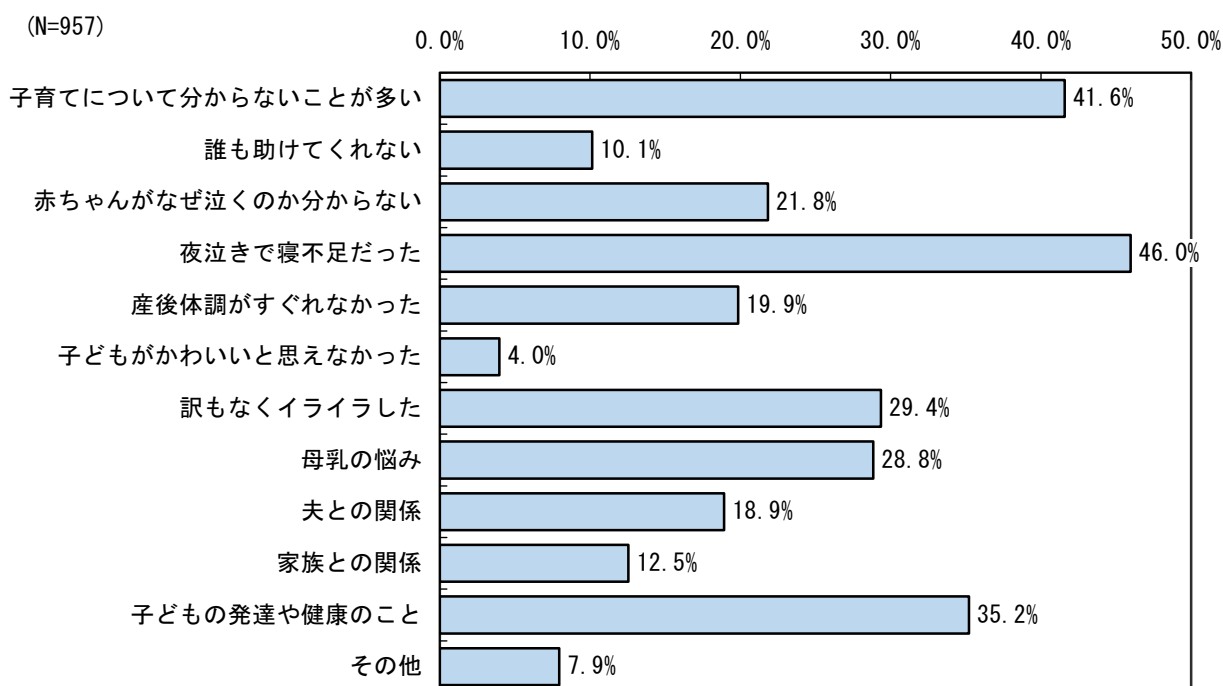
(4) 妻の子育てがしんどいと感じた要因

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問 16 問 14 で不安だった時期に、子育てがしんどいと感じた要因であてはまるものは何ですか。
(○はあてはまるものすべて)

子育てがしんどいと感じた要因を妻に聞くと、「夜泣きで寝不足だった」が 46.0%で最も多く、次いで「子育てについて分からないことが多い」(41.6%)、「子どもの発達や健康のこと」(35.2%) となっている。

図表 妻の子育てがしんどいと感じた要因 (複数回答)



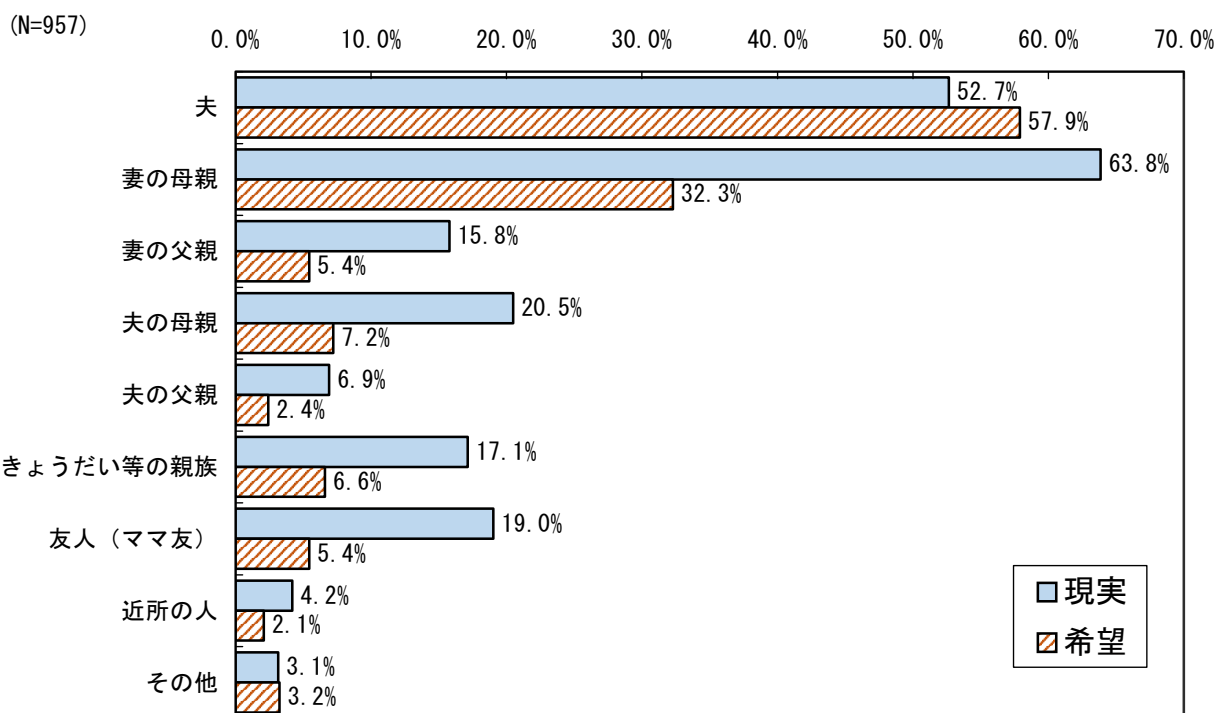
(5) 妻の家事や育児を実際に助けてくれた（くれている）人

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問 17 問 14 で不安だった時期に家事や育児を、①実際に助けてくれた（くれている）人、②助けてほしかった（ほしい）人は誰ですか。（○は1つ）

家事や育児を実際に助けてくれた（くれている）人を妻に聞くと、「妻の母親」が 63.8%で最も多く、次いで「夫」（52.7%）となっている。一方、助けてほしかった（ほしい）人は、「妻の母親」は 32.3%と低くなり、「夫」が 57.9%で最も高くなっている。

図表 妻の家事や育児を実際に助けてくれた（ほしかった）人



※単数回答だが、複数の選択肢に○をつけた回答が多数あったため、複数回答で処理

(6) 子育てに関する相談相手

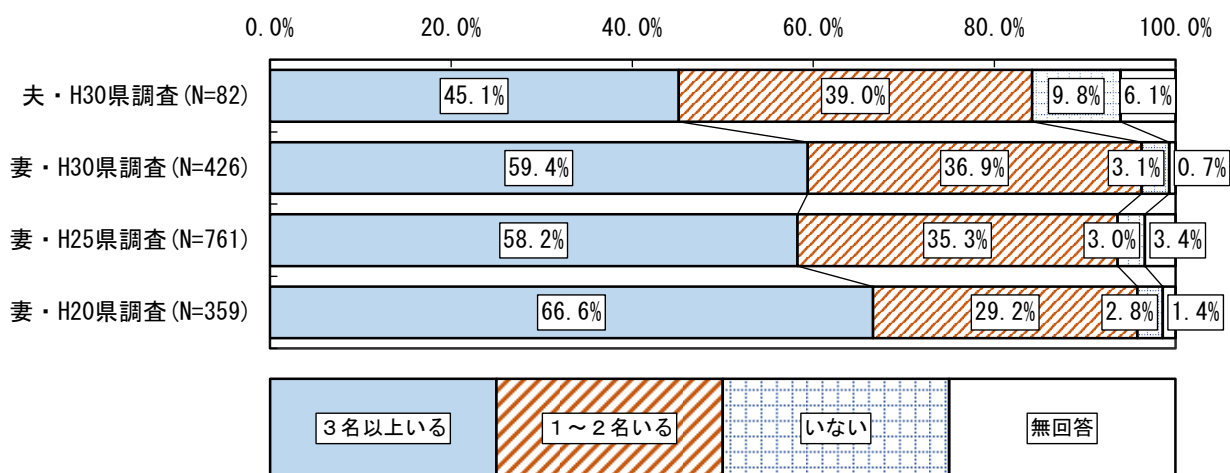
問18～問20は、小学生未満（乳幼児）のお子さんをお持ちの方にかがいます。それ以外の方は問21へお進みください。

問 18 あなたは、子育てについて、気軽に相談できる人がいますか。（○は1つ）

①子育てに関する相談相手の有無・人数

子育てに関する相談相手は、妻では「3名以上いる」の割合が59.4%で最も多くなっており、前回調査に比べて大きな差はない。夫では「いない」が9.8%と約1割存在する。

図表 子育てに関する相談相手



※ 6歳未満の子どもがいる夫婦

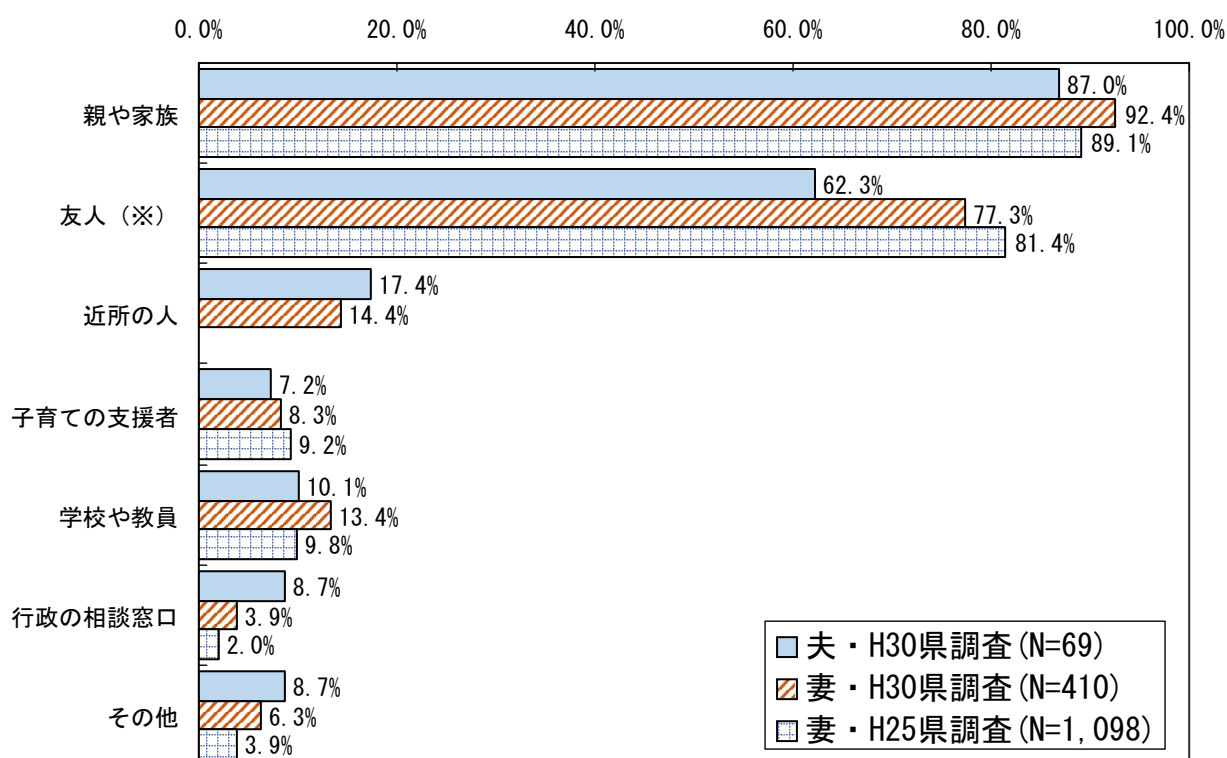
②子育てに関する相談者

問18で「1.」または「2.」と回答した方にかがいます。

問 18-1 気軽に相談できる人は誰ですか。(○はあてはまるものすべて)

子育てについて気軽に相談できる相手については、妻では「親や家族」が 92.4%で最も多く、次いで「友人」が 77.3%となっている。前回と比較すると、「親や家族」「学校や教員」などは増加している。夫でも「親や家族」が 87.0%で最も多く、次いで「友人(※)」(62.3%)となっているが、「友人」は妻に比べると少ない。

図表 子育てに関する相談者（複数回答）



(※) H25は「近所の人・友人」

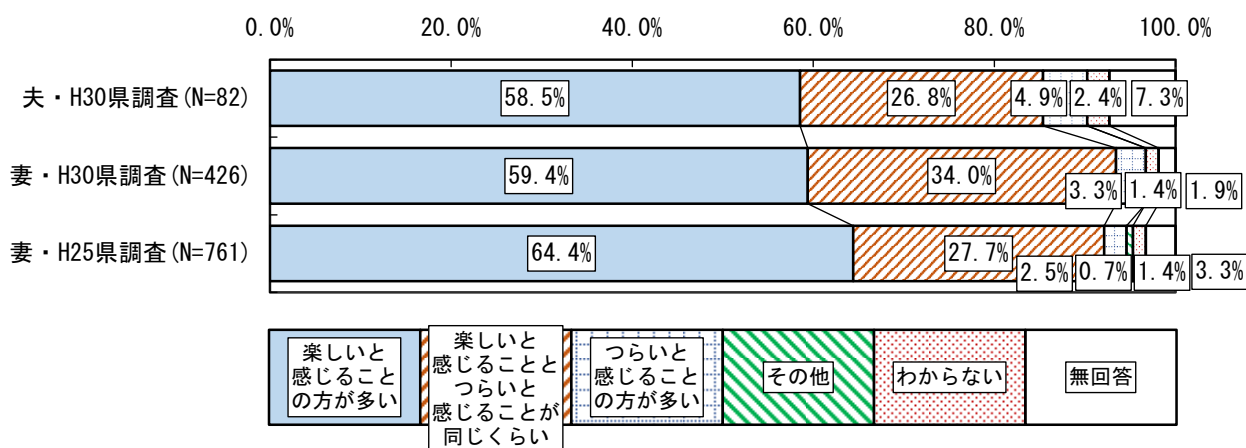
(7) 子育ての楽しさ・つらさ

①子育てが楽しいと感じる度合い

問 19 あなたは、子育てを楽しいと感じることが多いですか、それともつらいと感じることが多いですか。(〇は1つ)

「楽しいと感じることの方が多い」割合が夫婦とも同程度で、どちらも6割近く(夫 58.5%・妻 59.4%)となっており、妻では前回より減少している。また、妻では「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」の割合が前回より増加した。

図表 子育ての楽しさ・つらさ



※ 6歳未満の子どもがいる夫婦

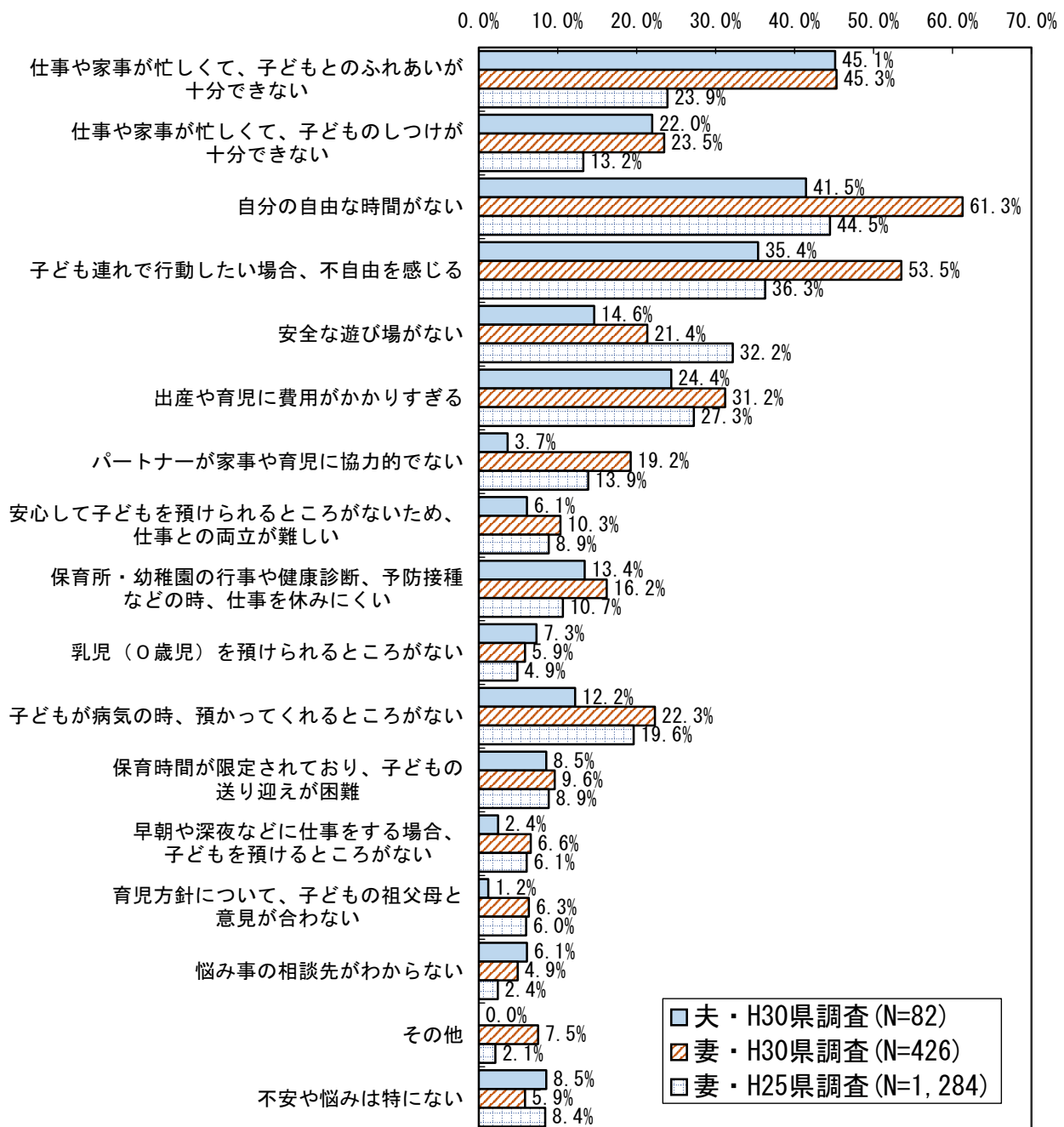
②不安や悩み

問 20 以下のような不安や悩みがありましたか（現在ありますか）。
（○はあてはまるものすべて）

就学前児童を持つ親の不安や悩みについては、妻では「自分の自由な時間がない」が 61.3%で最も多く、次いで「子ども連れで行動したい場合、不自由を感じる」(53.5%)、「仕事や家事が忙しくて、子どもとのふれあいが十分できない」(45.3%) となっている。

夫では「仕事や家事が忙しくて、子どもとのふれあいが十分できない」が 45.1%で最も多くなっている。

図表 子どもが就学前の不安や悩み（複数回答）



6 男性の育児や家事への関わり

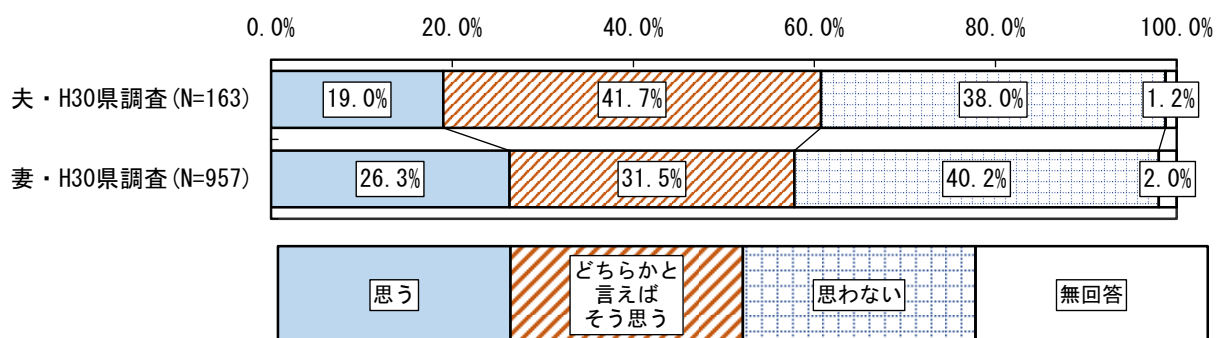
(1) 夫は育児を積極的にする男性か

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問 21 あなた（あなたの夫は）はイクメン（育児を積極的にする男性）だと思いますか。（〇は1つ）

夫が育児を積極的にする男性と思う妻は 57.8%であり、夫の回答は 60.7%とほぼ同程度となっている（「思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計）。

図表 夫は育児を積極的にする男性か



(2) 夫の子育ての関わり方

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

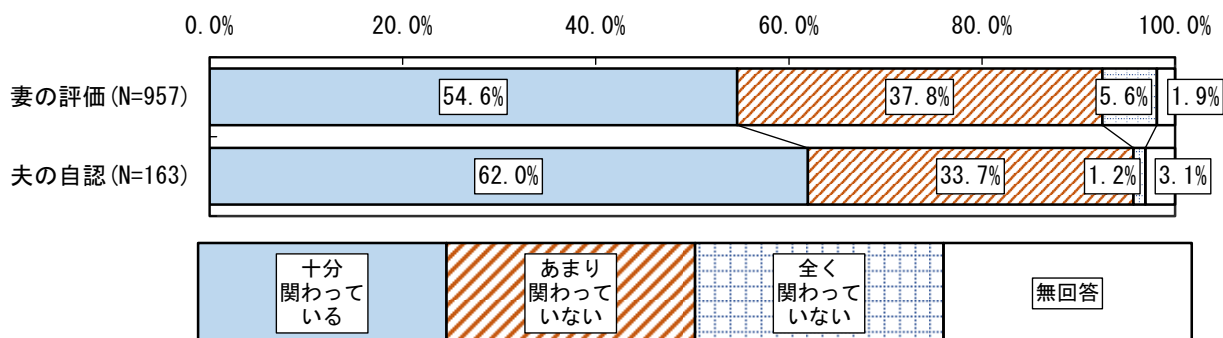
問 21-1 あなたの夫の子育ての関わり方のイメージに近いのはどれですか。（〇は1つ）

お子さんをお持ちの夫にうかがいます。

問 21-2 あなたの子育ての関わり方のイメージに近いのはどれですか。（〇は1つ）

夫は子育てに「十分関わっている」と思う妻は 54.6%であり、夫の自認では 62.0%となっている。また関わっていない（「あまり関わっていない」と「全く関わっていない」の合計）と思う妻は 43.4%、夫の自認では 34.9%となっており、どちらも妻の評価のほうが低い。

図表 夫の子育ての関わり方



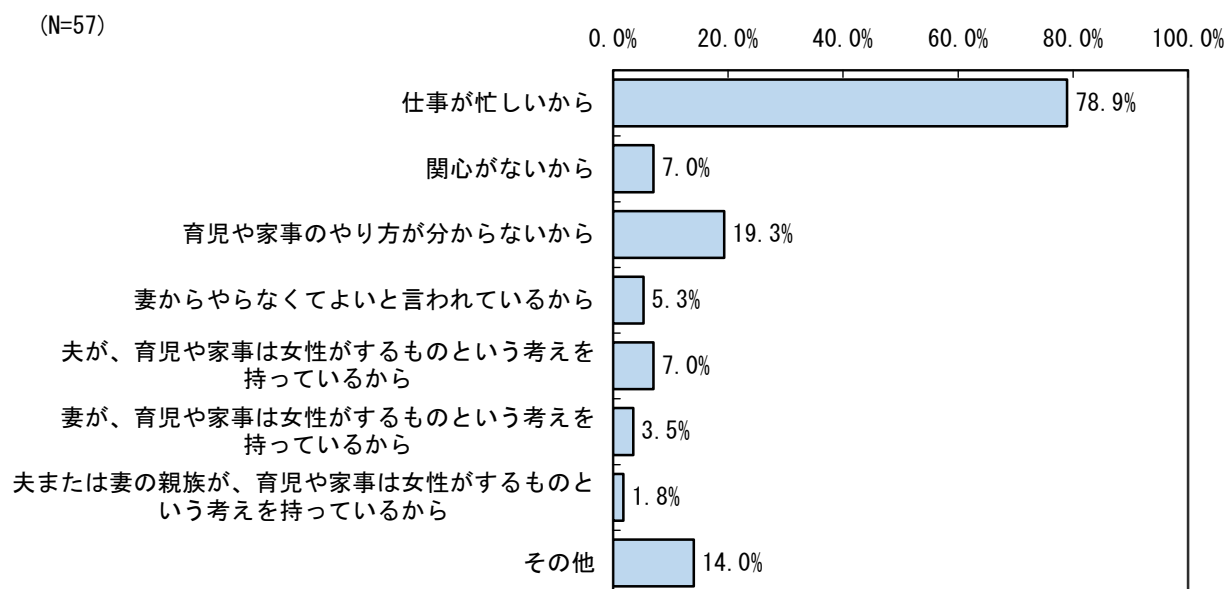
(3) 夫が子育てに関わらない理由

問21-2で「2. あまり関わっていない」「3. 全く関わっていない」を選んだ方に伺います。

問 21-3 子育てに関わらない理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

子育てに関わっていないと自認している夫の理由は、「仕事が忙しいから」が 78.9%で最も多く、次いで「育児や家事のやり方が分からないから」(19.3%)となっている。

図表 夫が子育てに関わらない理由（複数回答）



7 子どもを持つことへの考え

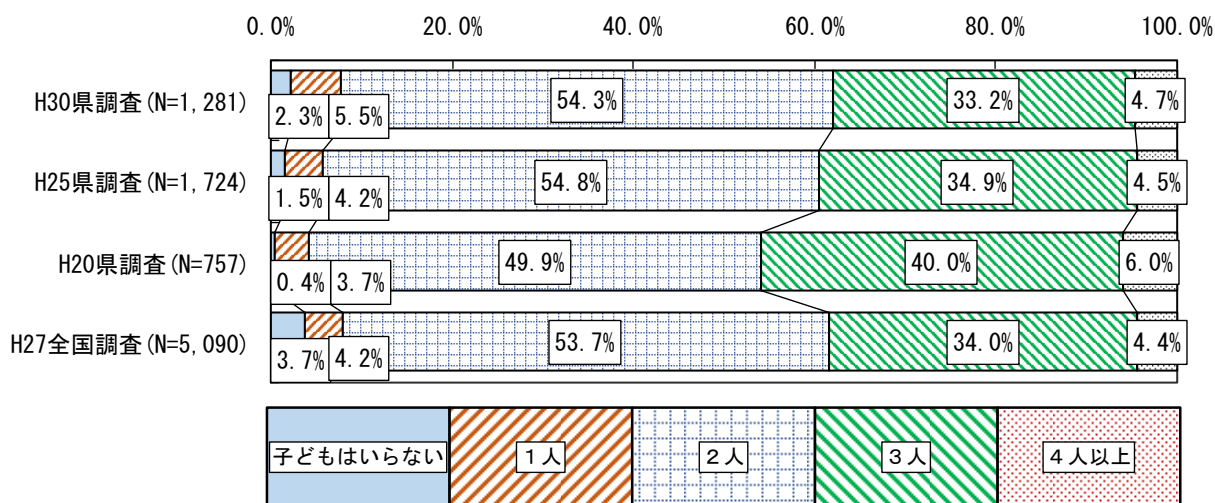
(1) 理想の子どもの人数

問 22 あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの数は何人ですか。(〇は1つ)

理想の子どもの人数の分布は、「2人」が最も多く、次いで「3人」となっている。

夫婦の理想の子どもの数の平均は、2.35人だが、予定している子どもの数の平均(問23)は2.03人で、その差は0.32人となっている。前回調査の差(0.20人)と比較すると、やや差が広がっているが、全国調査の差(0.31人)とは同水準である。

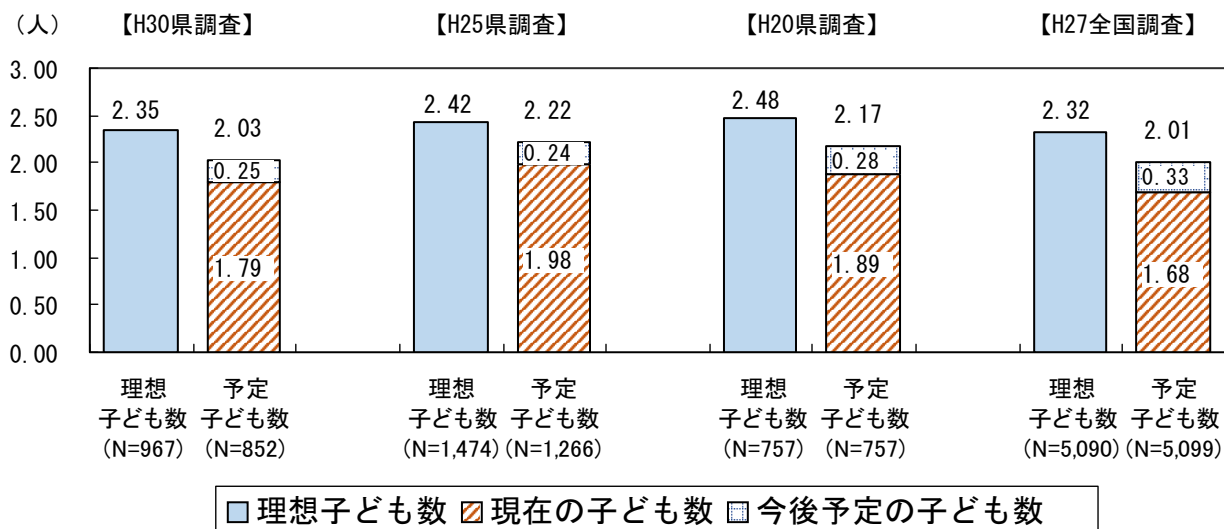
図表 理想の子どもの人数の分布



※無回答及び不詳を除く

※平成30年県調査は初婚どうしの夫婦、平成25年県調査・平成27年全国調査は初婚どうしの夫婦の妻

図表 理想・予定・現在の子どもの平均人数

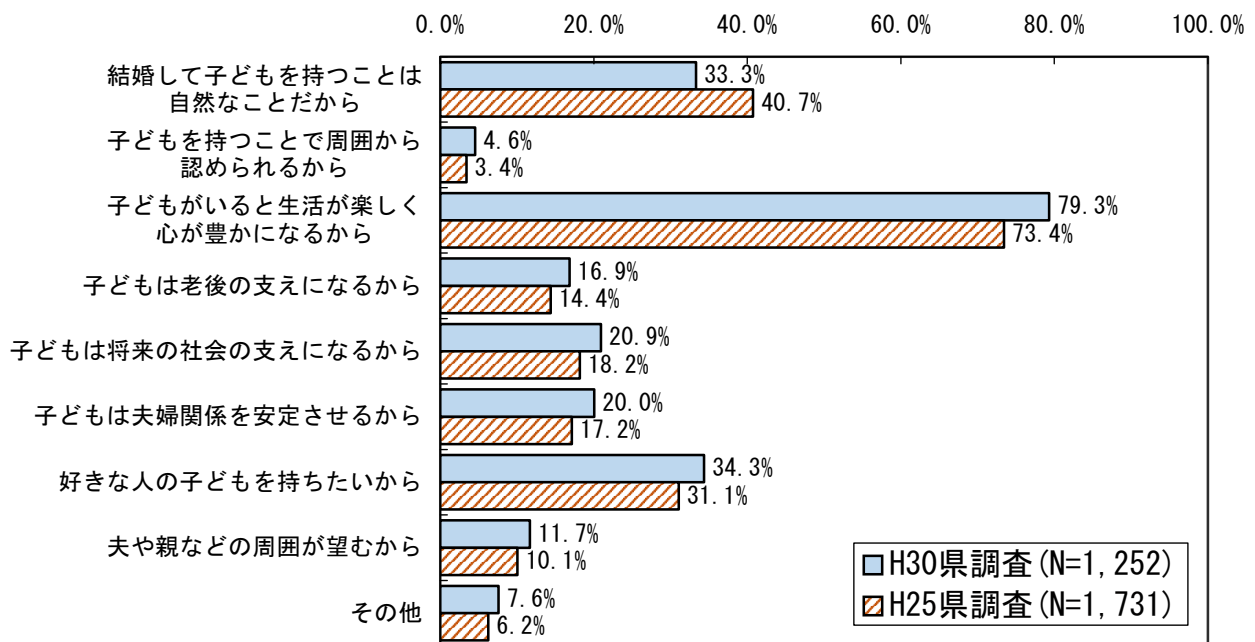


(2) 理想の子ども数を持つ理由

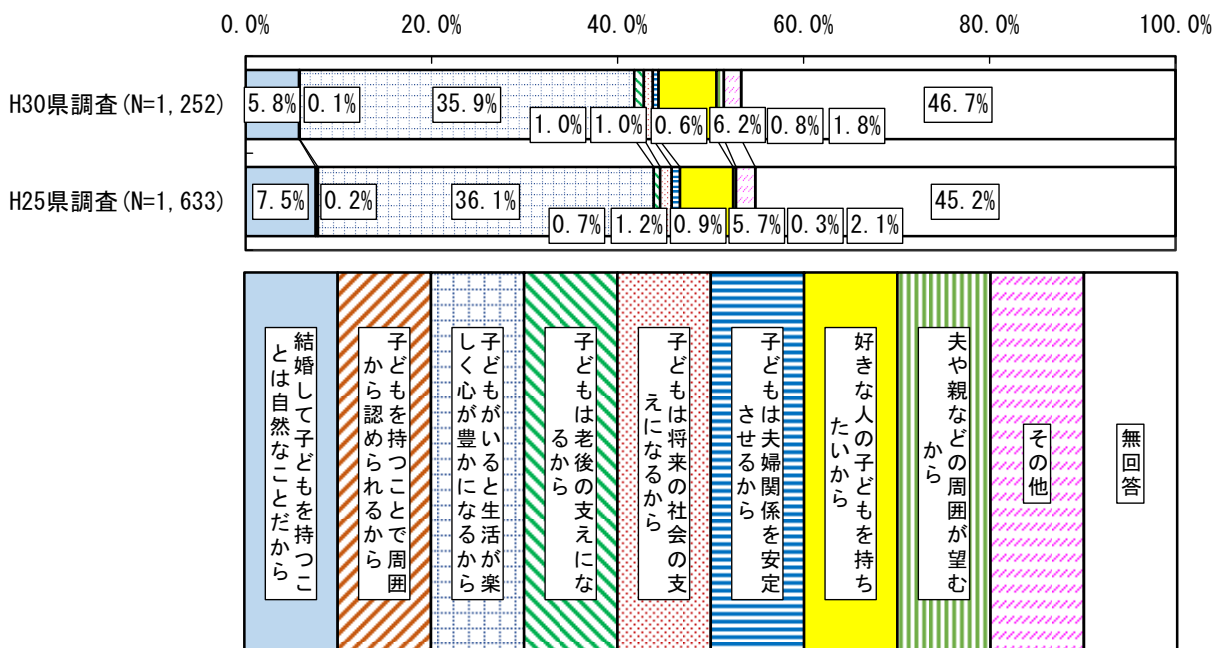
問 22-1 理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

理想子ども数が1人以上と回答した人に、子どもを持つ理由についてたずねると、「子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから」が79.3%で最も多く、次いで「好きな人の子どもを持ちたいから」(34.3%)、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」(33.3%)となっている。前回と比較すると、「結婚して子どもを持つことは自然なことだから」は7.4ポイント低下している。

図表 理想的な子どもを1人以上と考える理由（複数回答）



図表 理想的な子どもを1人以上と考える理由（最大の理由）



(3) 今後の子どもの予定

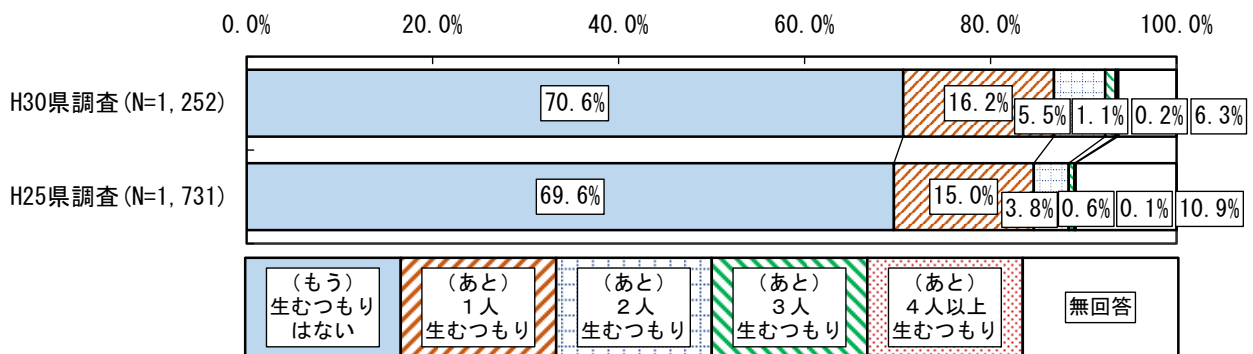
問22で理想的な子どもの数を1人以上と回答した方にうかがいます。それ以外の方は、問26へお進みください。

問23 あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。①今後のお子さんの予定数と②希望の時期について、また、③今後の予定も含めて全部で何人のお子さんを持つつもりかを、あてはまる番号に○をつけてください。

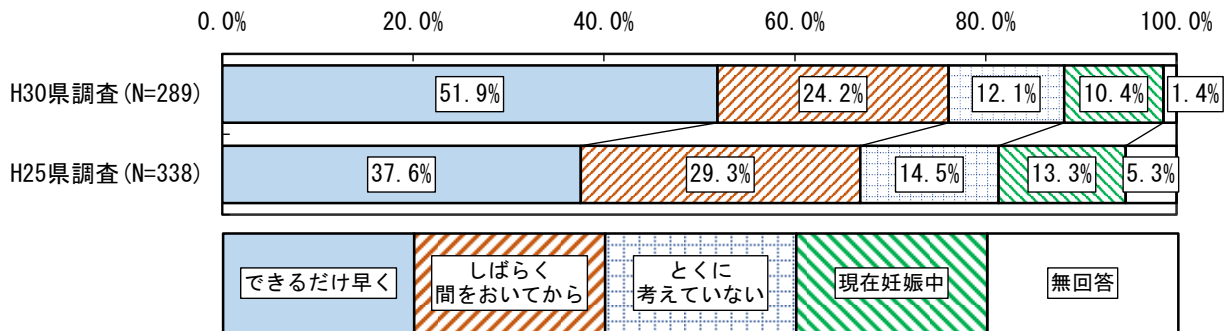
今後の子どもの出産予定は「(もう) 生むつもりはない」が約7割を占めている。子どもを生む予定のある方の希望の時期は「できるだけ早く」が51.9%と半数以上を占めている。

最終的な子どもの予定人数は「2人」が最も多く、平均2.03人で、前回調査から0.19人の減少となっている。

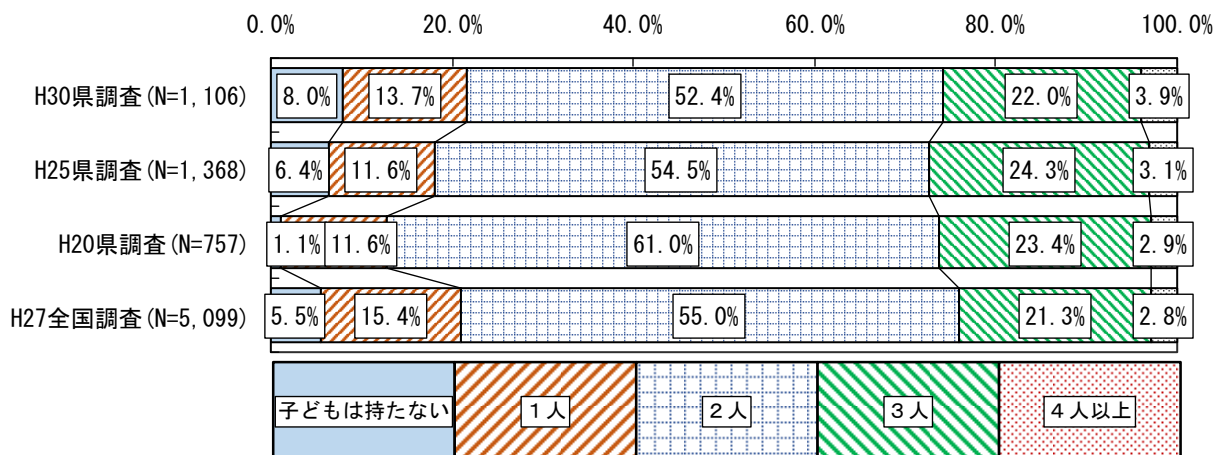
図表 今後のお子さんの予定数



図表 希望の時期



図表 最終的な子どもの予定人数の分布 (初婚同士)



※無回答及び不詳を除く

(4) 予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由

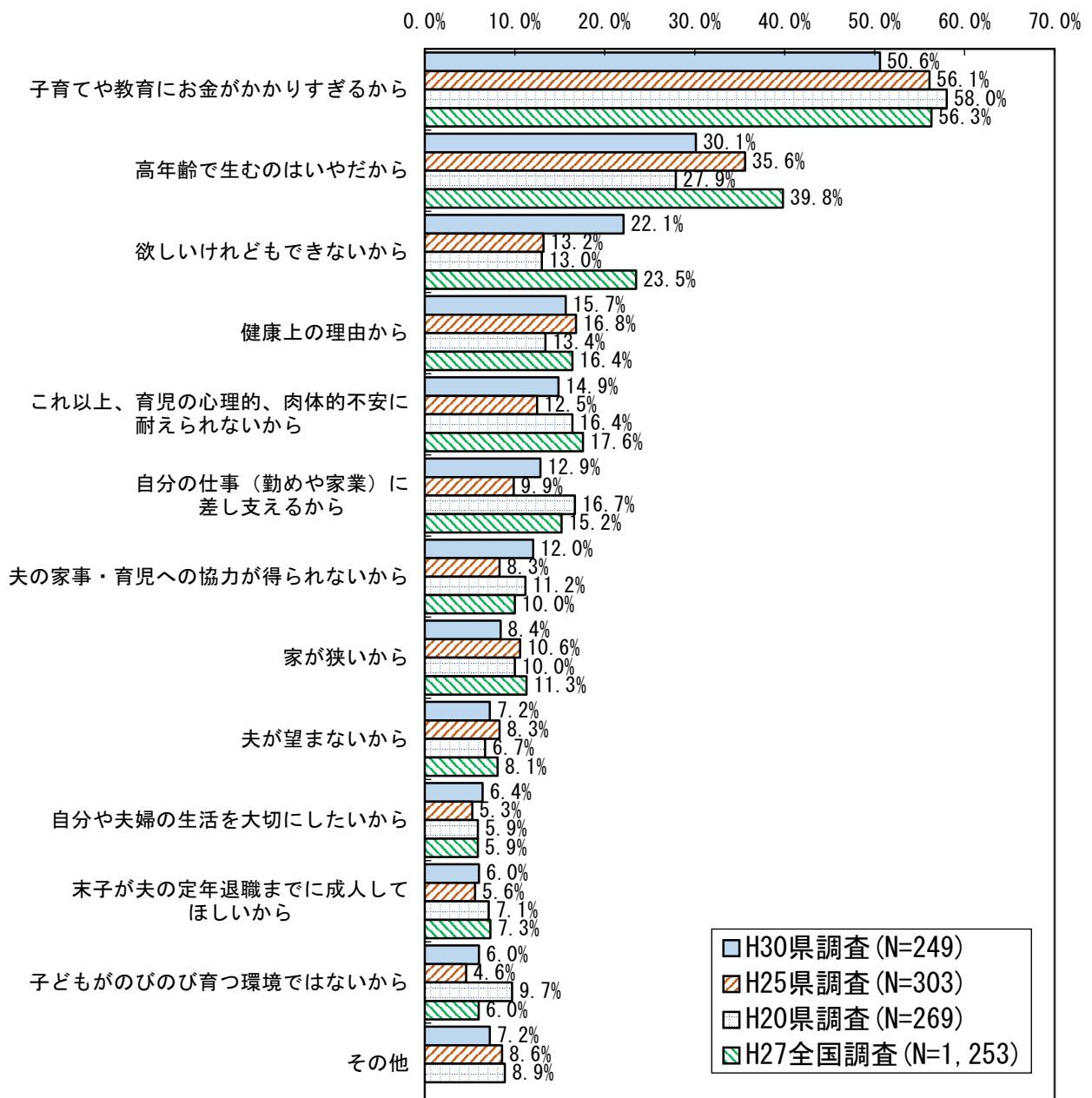
問22と問23で「持つつもりの子どもの数」が「理想とする子どもの数」より少ない方にうかがいます。それ以外の方は、問26へお進みください。

問 24 持つつもりの子どもの数（b：問 23③）が、理想とする子どもの数（a：問 22）より少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 50.6%で、前回調査及び全国調査の結果同様、最も高い。次いで「高年齢で生むのはいやだから」(30.1%)、「欲しいけれどもできないから」(22.1%) となっている。

前回調査に比べ、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 5.5 ポイント低くなっており、「欲しいけれどもできないから」は前回より 8.9 ポイントの増加となっている。

図表 予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由（複数回答）（初婚同士）



図表 予定の子どもの人数が理想の子どもの人数より少ない理由（最大の理由）

	H30県調査 N=139	H25県調査 N=158
子育てや教育にお金がかかりすぎるから	33.1%	38.0%
家が狭いから	0.7%	1.3%
自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから	2.2%	1.3%
子どもがのびのび育つ環境ではないから	0.0%	0.0%
自分や夫婦の生活を大切にしたいから	0.0%	1.3%
高齢で生むのはいやだから	13.7%	16.5%
これ以上、育児の心理的、肉体的不安に耐えられないから	6.5%	5.1%
健康上の理由から	9.4%	12.7%
欲しいけれどもできないから	22.3%	9.5%
夫の家事・育児への協力が得られないから	2.9%	4.4%
夫が望まないから	2.2%	0.6%
末子が夫の定年退職までに成人してほしいから	2.2%	1.9%
その他	5.0%	7.6%

※無回答を除く

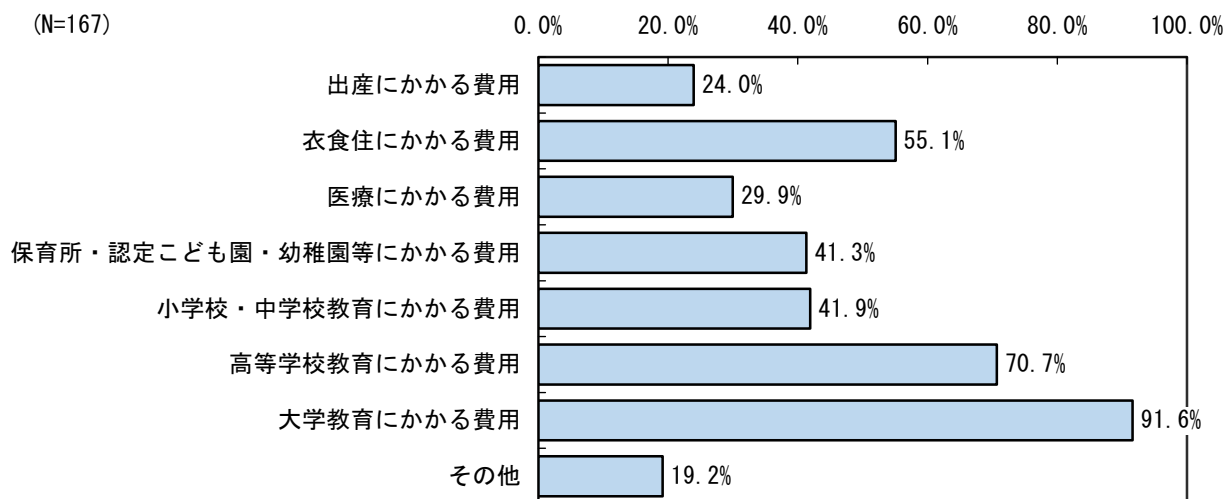
（５）子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因

問24で「1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を選択した方にうかがいます。それ以外の方は、問26へお進みください。

問 25 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因について、下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因は、約9割が「大学教育にかかる費用」、次いで約7割が「高等学校教育にかかる費用」を選択しており、高等教育の費用に負担感があることがわかる。

図表 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因（複数回答）



8 家族観・子ども観

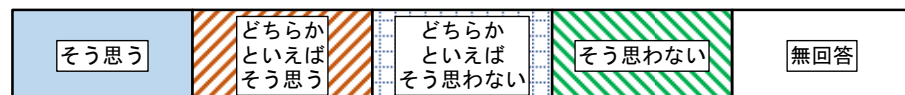
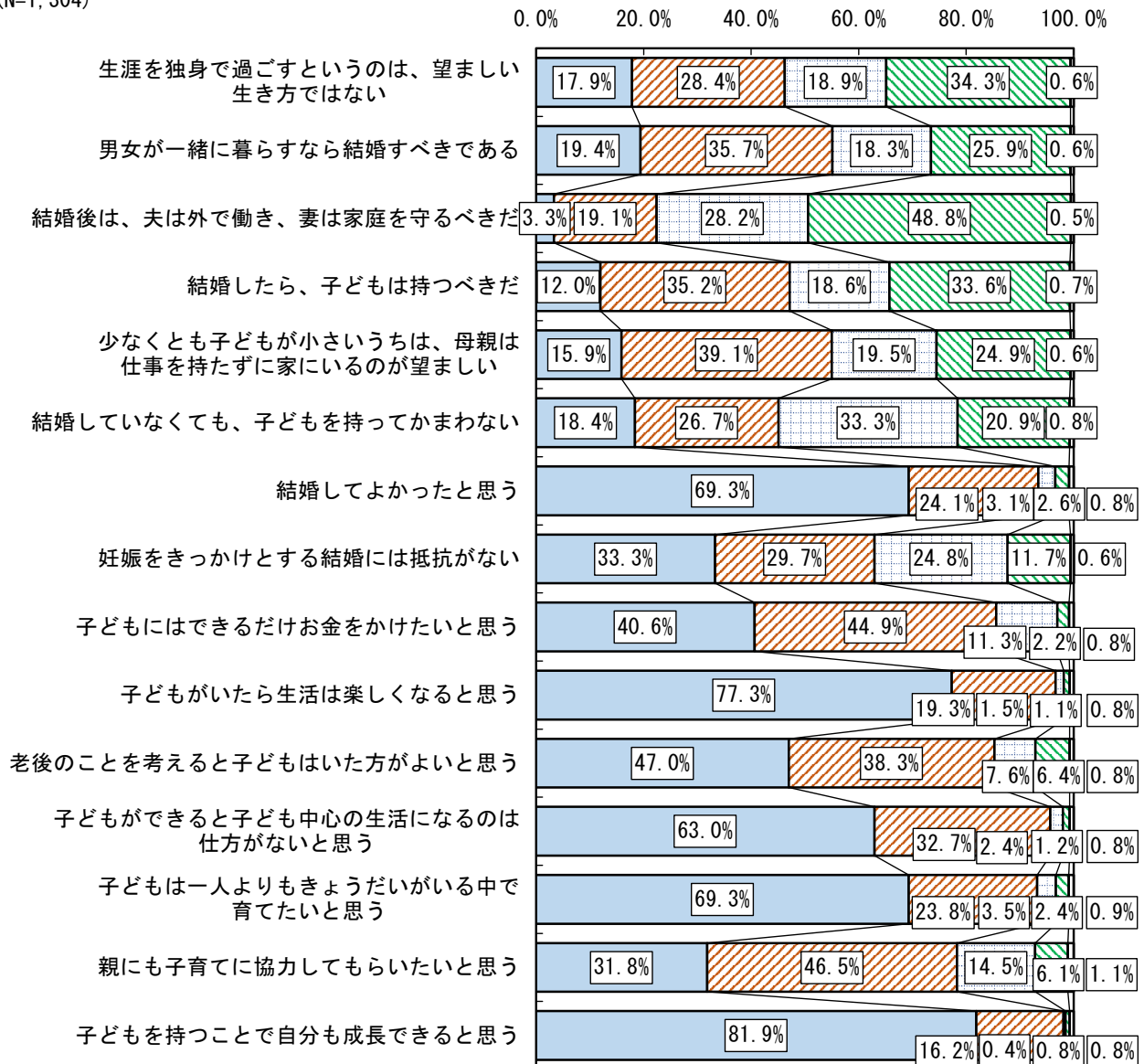
(1) 結婚・家族・子育てに関する意識

問 26 結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考えがありますが、下に例として①～⑮のような考え方を示しました。それぞれについて、あなた自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

結婚・家族・子育てに関する意識について、そう思う（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下問 26 内で同じ）割合が最も多いのは「子どもを持つことで自分も成長できると思う」の 98.1%で、次いで「子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）」（96.6%）、「結婚してよかったと思う」（93.4%）などとなっている。

図表 結婚・家族・子育てに関する意識

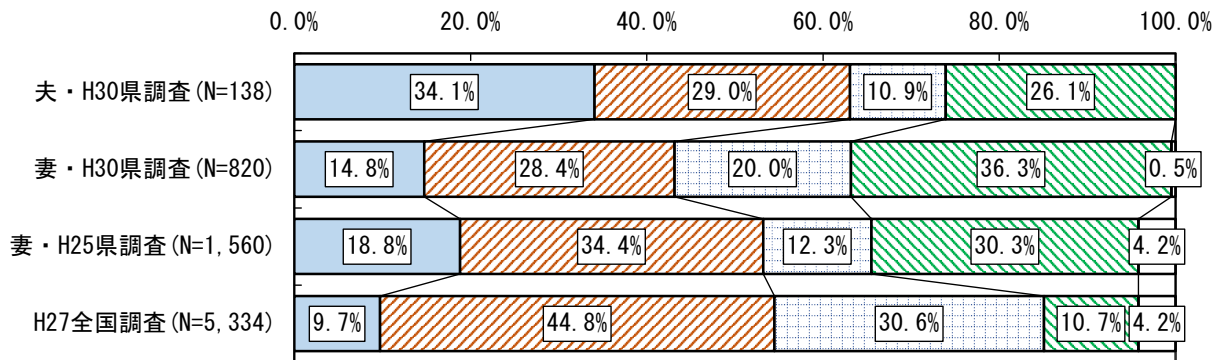
(N=1,304)



①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

そう思う割合は夫では63.1%、妻では43.2%となっており、妻ではそう思わない（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計、以下同 26 内で同じ）割合（56.3%）が上回っている。前回調査と比べると、妻は独身で過ごす人生を肯定している。

図表 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

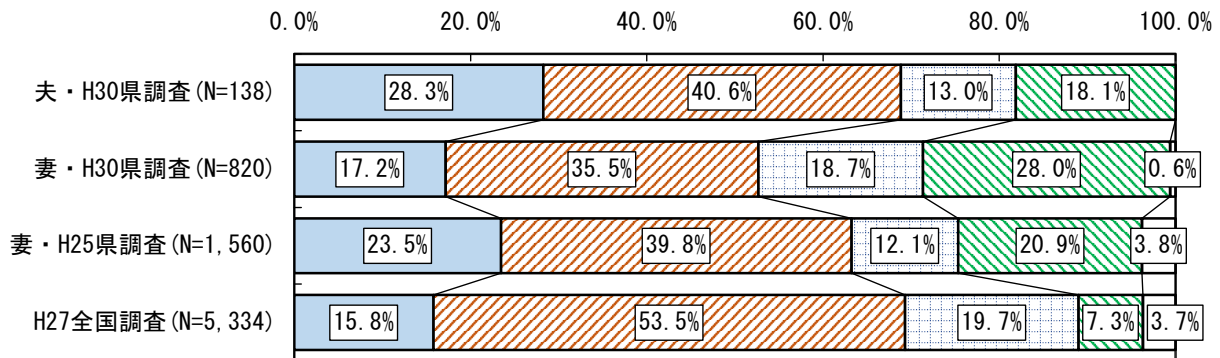


※初婚どうしの夫婦

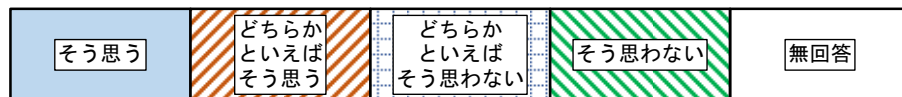
②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである

そう思う割合は夫では68.9%、妻では52.7%となっている。前回調査と比べると妻はそう思うが10.6ポイント低下、そう思わない割合（46.7%）が13.7ポイント上昇している。

図表 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである



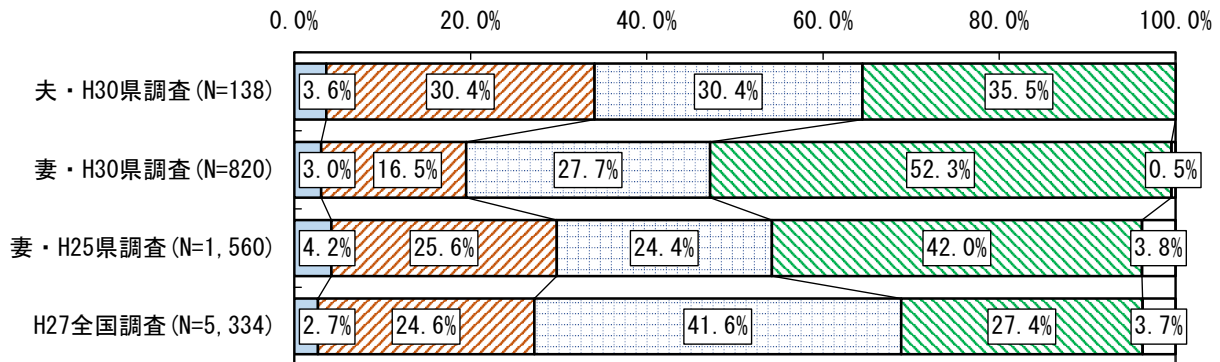
※初婚どうしの夫婦



③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

そう思う割合は夫では 34.0%、妻では 19.5%となっている。前回調査と比べると妻はそう思うが 10.3 ポイント低下、そう思わない割合 (80.0%) が 13.6 ポイント上昇している。

図表 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

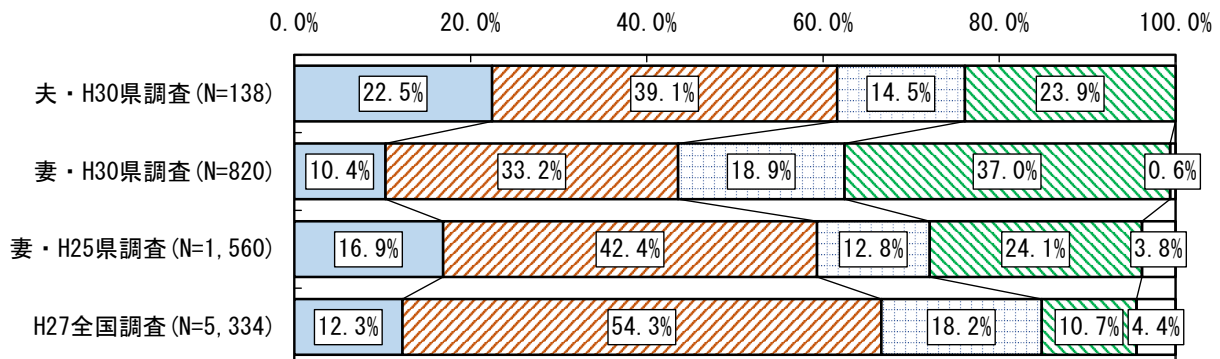


※初婚どうしの夫婦

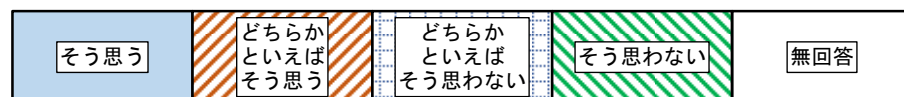
④結婚したら、子どもは持つべきだ

そう思う割合は夫では 61.6%、妻では 43.6%となっている。前回調査と比べると妻はそう思うが 15.7 ポイント低下、そう思わない割合 (55.9%) が 19.0 ポイント上昇している。

図表 結婚したら、子どもは持つべきだ



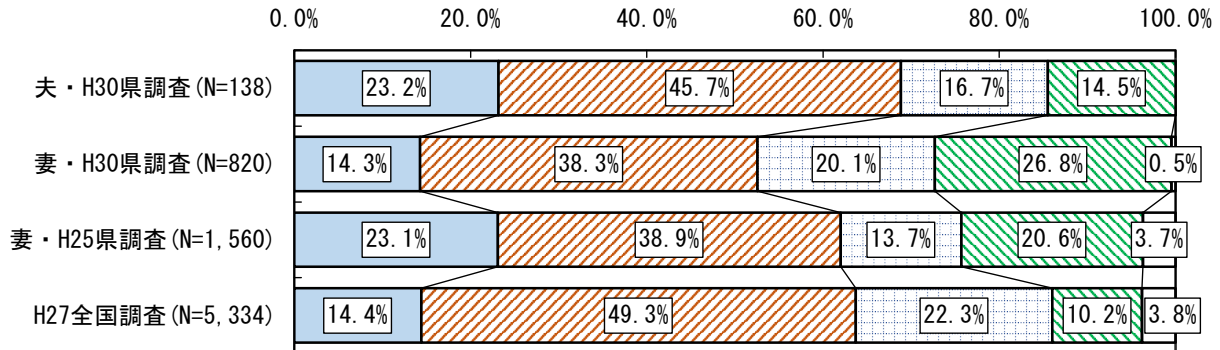
※初婚どうしの夫婦



⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい

そう思う割合は夫では 68.9%、妻では 52.6%となっている。前回調査と比べると妻はそう思うが 9.4 ポイント低下、そう思わない割合 (46.9%) が 12.6 ポイント上昇している。

図表 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい

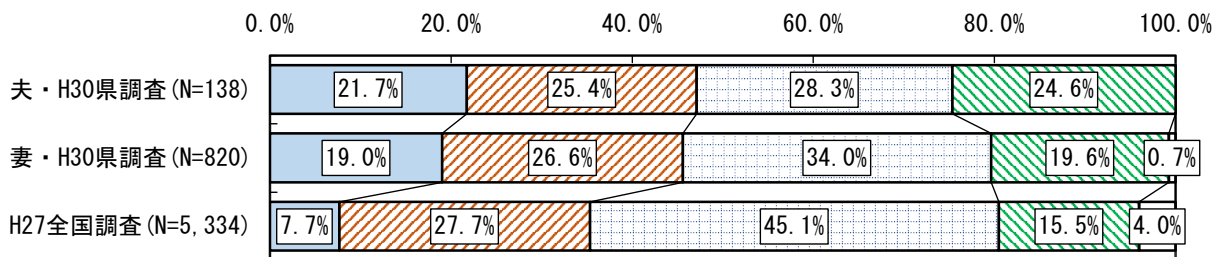


※初婚どうしの夫婦

⑥結婚していなくても、子どもを持ってかまわない

そう思う割合は夫では 47.1%、妻では 45.6%となっており、男女でそれほど意識に差はみられない。

図表 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない

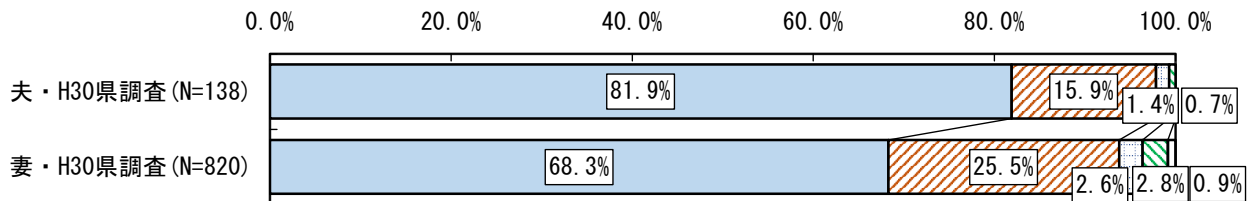


※初婚どうしの夫婦

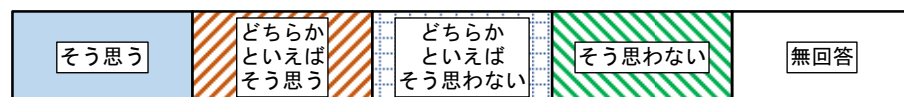
⑦結婚してよかったと思う

そう思う割合は夫では 97.8%、妻では 93.8%となっており、9割以上が結婚してよかったと考えている。

図表 結婚してよかったと思う



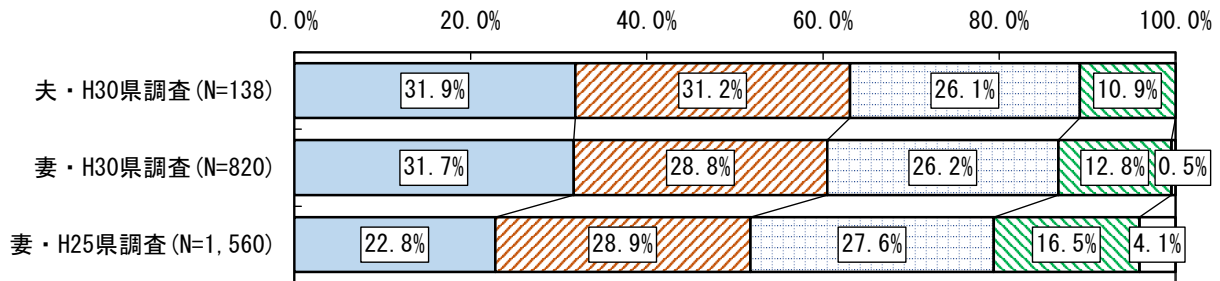
※初婚どうしの夫婦



⑧妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない

そう思う割合は夫では 63.1%、妻では 60.5%となっている。前回調査と比べると妻はそう思うが 8.8 ポイント上昇、そう思わない割合（39.0%）が 5.1 ポイント低下している。

図表 妊娠をきっかけとする結婚には抵抗がない

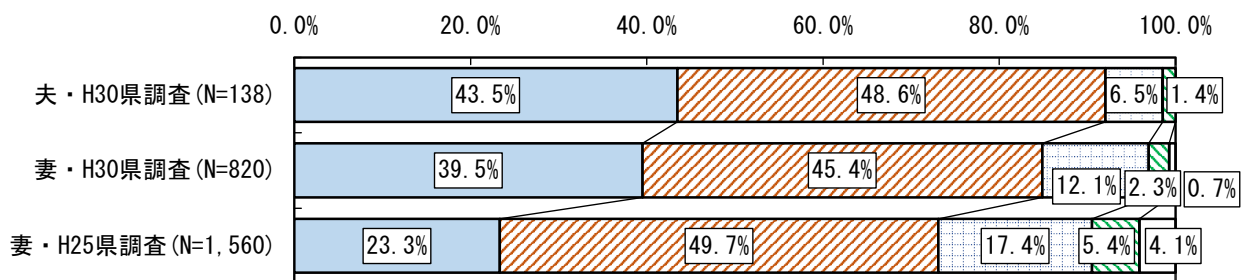


※初婚どうしの夫婦

⑨子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う

そう思う割合は夫では 92.1%、妻では 84.9%となっている。前回調査と比べると妻はそう思うが 11.9 ポイント上昇している。

図表 子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う

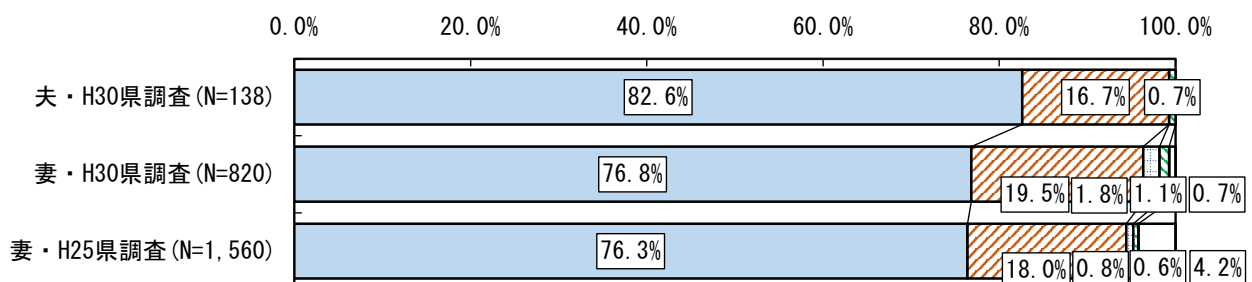


※初婚どうしの夫婦

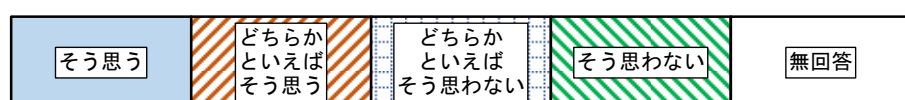
⑩子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）

そう思う割合は夫では 99.3%、妻では 96.3%となっており、9割以上が子どもがいたら生活は楽しくなると考えている。

図表 子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）



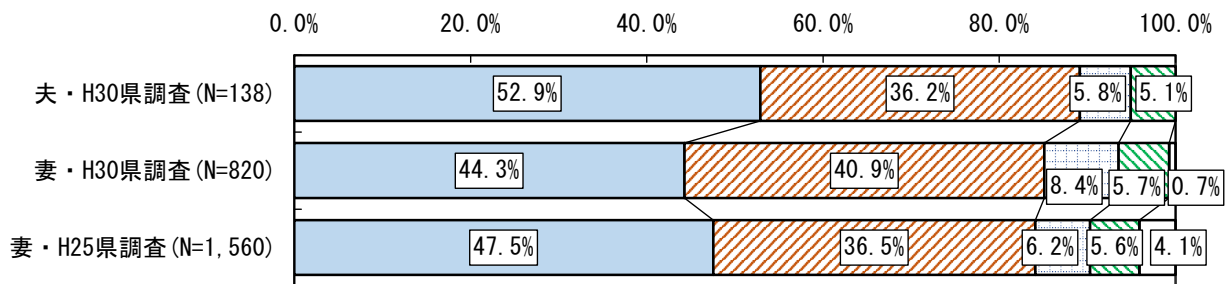
※初婚どうしの夫婦



⑪老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う

そう思う割合は夫では 89.1%、妻では 85.2%となっている。前回調査から大きな変化はみられない。

図表 老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う

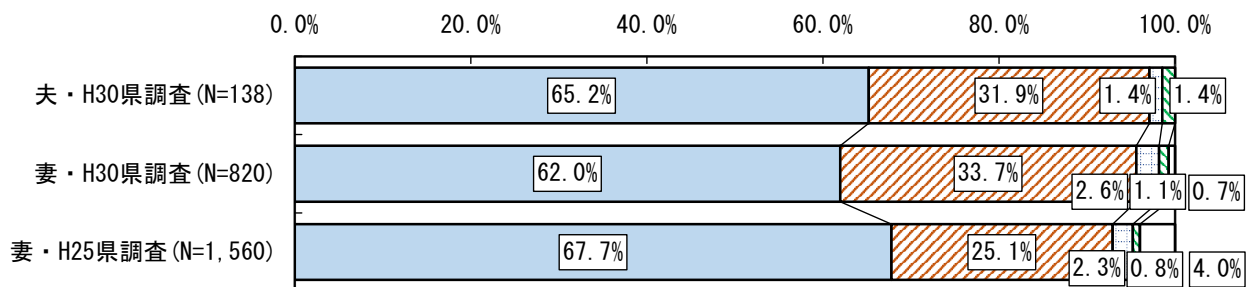


※初婚どうしの夫婦

⑫子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う

そう思う割合は夫では 97.1%、妻では 95.7%と 9割以上を占めている。

図表 子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う

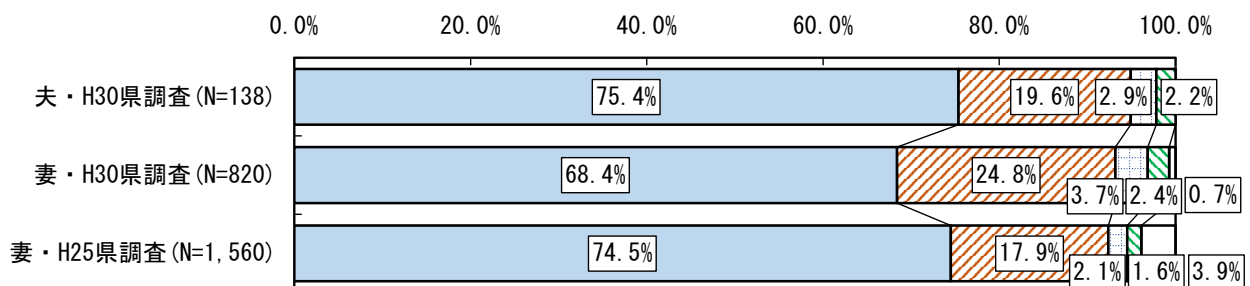


※初婚どうしの夫婦

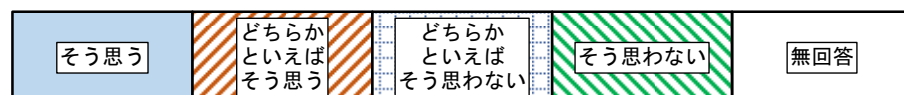
⑬子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う

そう思う割合は夫では 95.0%、妻では 93.2%となっている。9割以上がきょうだいがいる中で育てたいと考えている。

図表 子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う



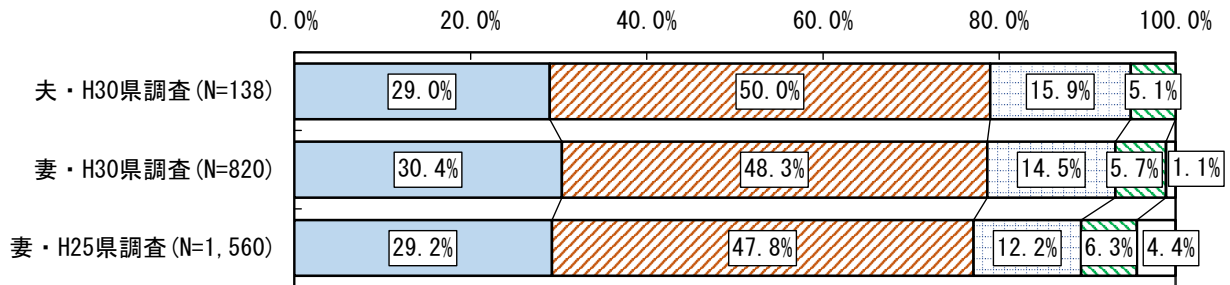
※初婚どうしの夫婦



⑭親にも子育てに協力してもらいたいと思う

そう思う割合は夫では 79.0%、妻では 78.7%となっている。前回調査から大きな変化はみられない。

図表 親にも子育てに協力してもらいたいと思う

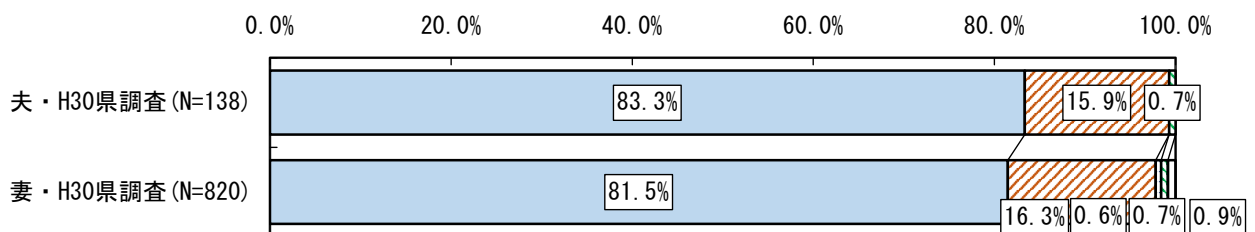


※初婚どうしの夫婦

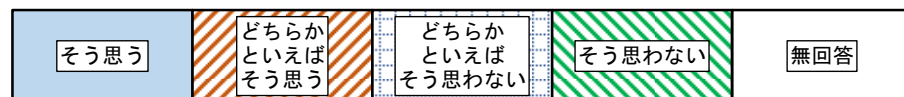
⑮子どもを持つことで自分も成長できると思う

そう思う割合は夫では 99.2%、妻では 97.8%と、夫婦ともにほとんどの人が子どもを持つことで自分も成長できると考えている。

図表 子どもを持つことで自分も成長できると思う



※初婚どうしの夫婦



9 子育て支援策

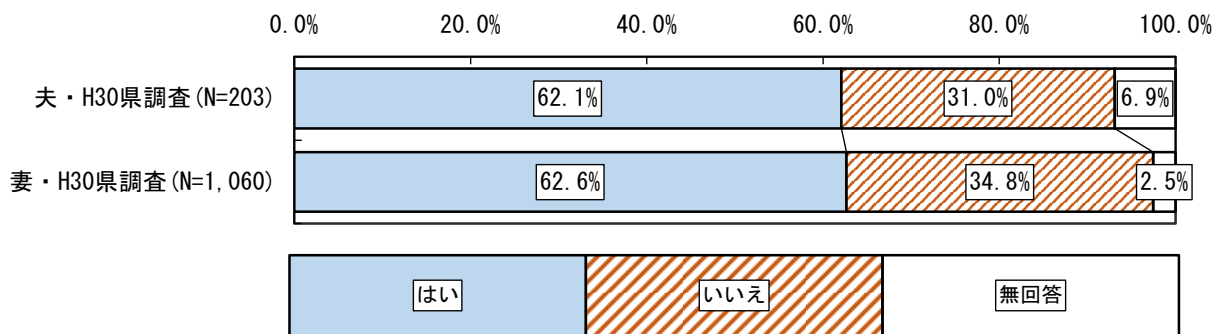
(1) 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思うか

問 27 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

①奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思いますか

奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思う人は、妻では 62.6%、夫では 62.1% となっている。

図表 奈良県は結婚して子どもを産み育てやすいところだと思いますか

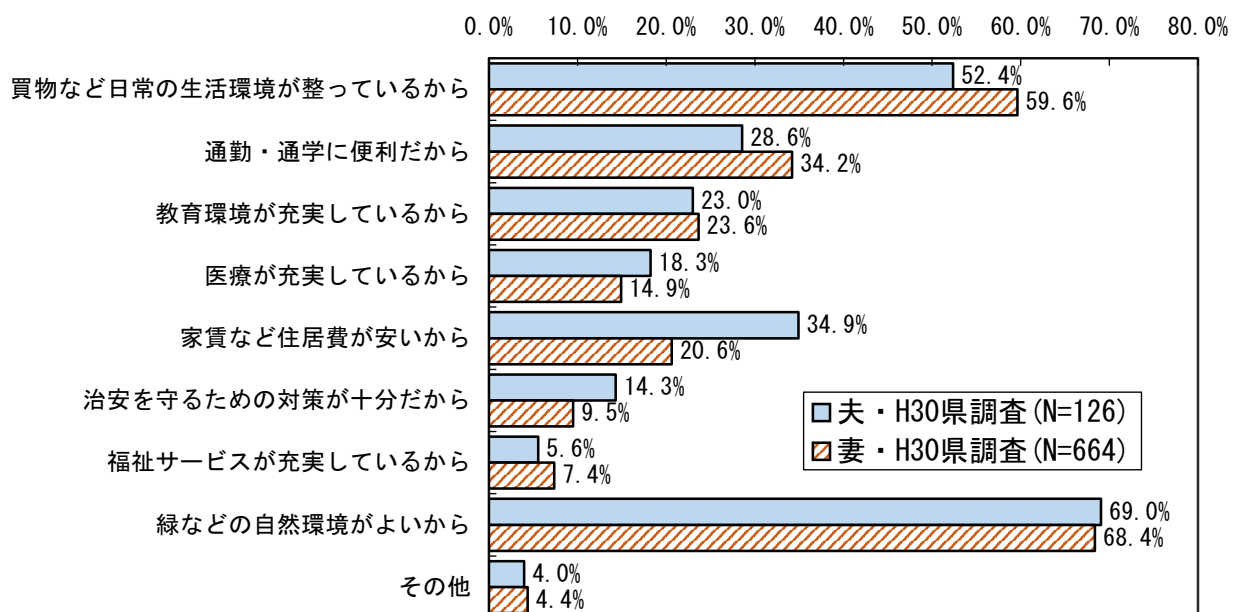


②子どもを産み育てやすいところだと思う理由

子どもを産み育てやすいところだと思う理由をみると、妻では「緑などの自然環境がよいから」が 68.4%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っているから」(59.6%)、「通勤・通学に便利だから」(34.2%) となっている。

夫では「緑などの自然環境がよいから」が 69.0%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っているから」(52.4%)、「家賃など住居費が安いから」(34.9%) となっている。

図表 子どもを産み育てやすいところだと思う理由 (複数回答)

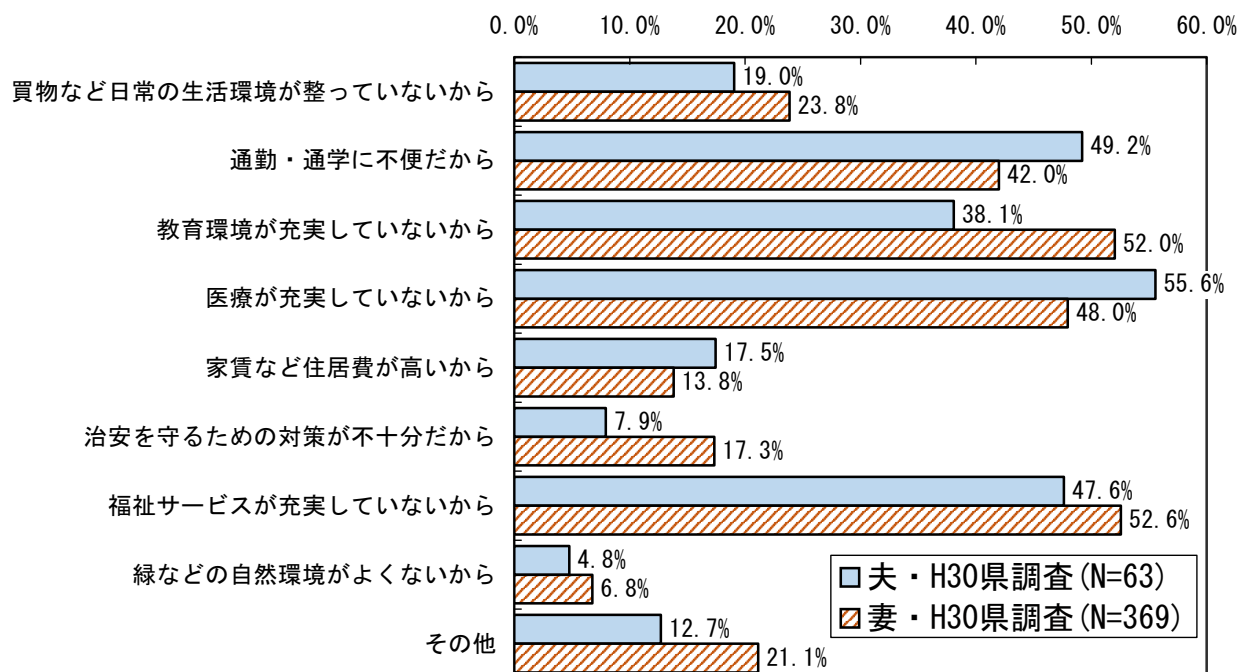


③子どもを生き育てやすいところだと思わない理由

子どもを生き育てやすいところだと思わない理由をみると、妻では「福祉サービスが充実していないから」が 52.6%で最も多く、次いで「教育環境が充実していないから」(52.0%)、「医療が充実していないから」(48.0%) となっている。

夫では「医療が充実していないから」が 55.6%で最も多く、次いで「通勤・通学に不便だから」(49.2%)、「福祉サービスが充実していないから」(47.6%) となっている。

図表 子どもを生き育てやすいところだと思わない理由（複数回答）

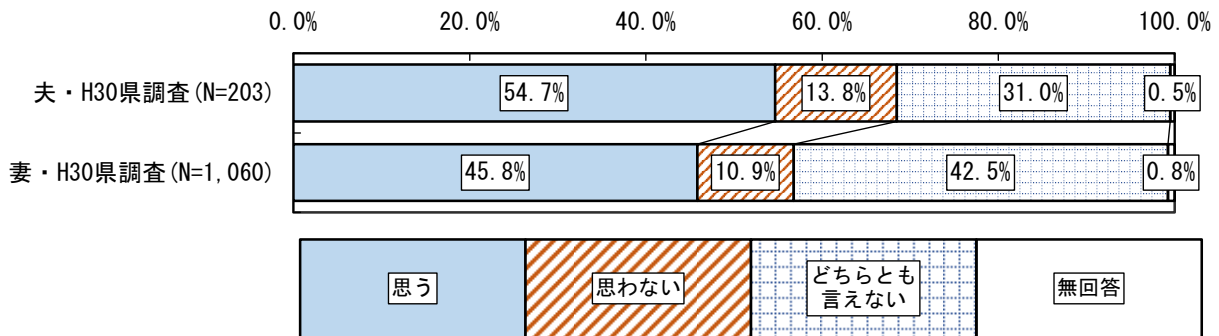


(2) 父親の育児休暇・休業取得

問 28 父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思いますか。(○は1つ)

父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思う人は、妻(45.8%)に比べ、夫(54.7%)の方が高い結果となっている。

図表 父親の育児休暇・休業取得



(3) 父親の育児休暇・休業の取得期間

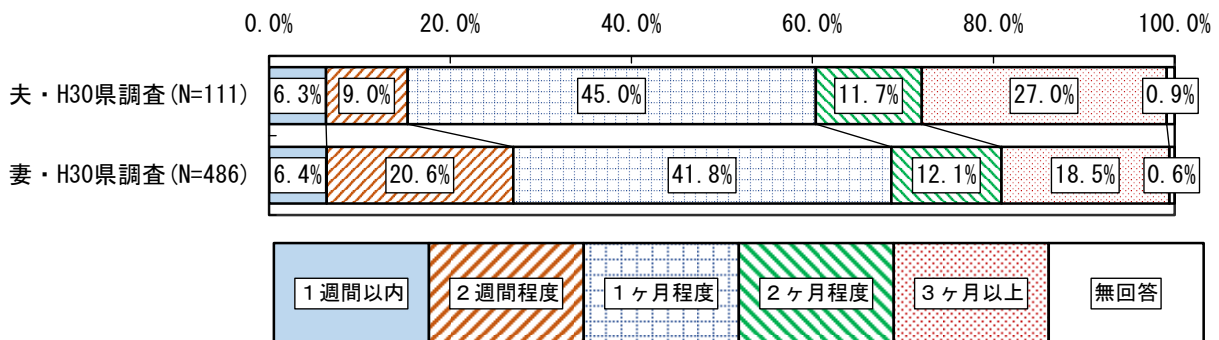
問28で「1. 思う」を選んだ方に伺います。

問 28-1 父親の育児休暇・休業の取得期間はどれくらい必要だと思いますか。(○は1つ)

必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間をみると、妻では「1ヶ月程度」が41.8%で最も多く、次いで「2週間程度」(20.6%)、「3ヶ月以上」(18.5%)となっている。

夫では「1ヶ月程度」が45.0%で最も多く、次いで「3ヶ月以上」(27.0%)、「2ヶ月程度」(11.7%)となっている。

図表 父親の育児休暇・休業の取得期間



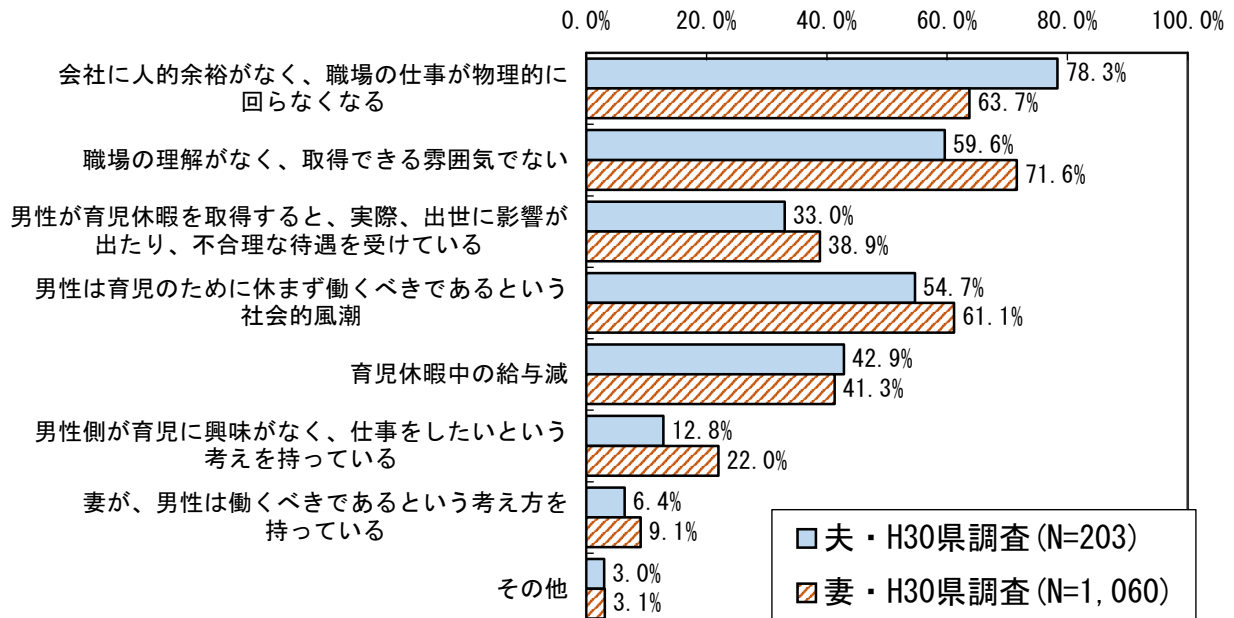
(4) 男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由

問 28-2 企業における男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由（H28：奈良県 3.2%・全国：5.14%）は何だと思えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由をみると、妻では「職場の理解がなく、取得できる雰囲気でない」が 71.6%で最も多く、次いで「会社に人的余裕がなく、職場の仕事が物理的に回らなくなる」(63.7%)、「男性は育児のために休まず働くべきであるという社会的風潮」(61.1%)となっている。

夫では「会社に人的余裕がなく、職場の仕事が物理的に回らなくなる」が 78.3%で最も多く、次いで「職場の理解がなく、取得できる雰囲気でない」(59.6%)、「男性は育児のために休まず働くべきであるという社会的風潮」(54.7%)となっている。

図表 男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由（複数回答）



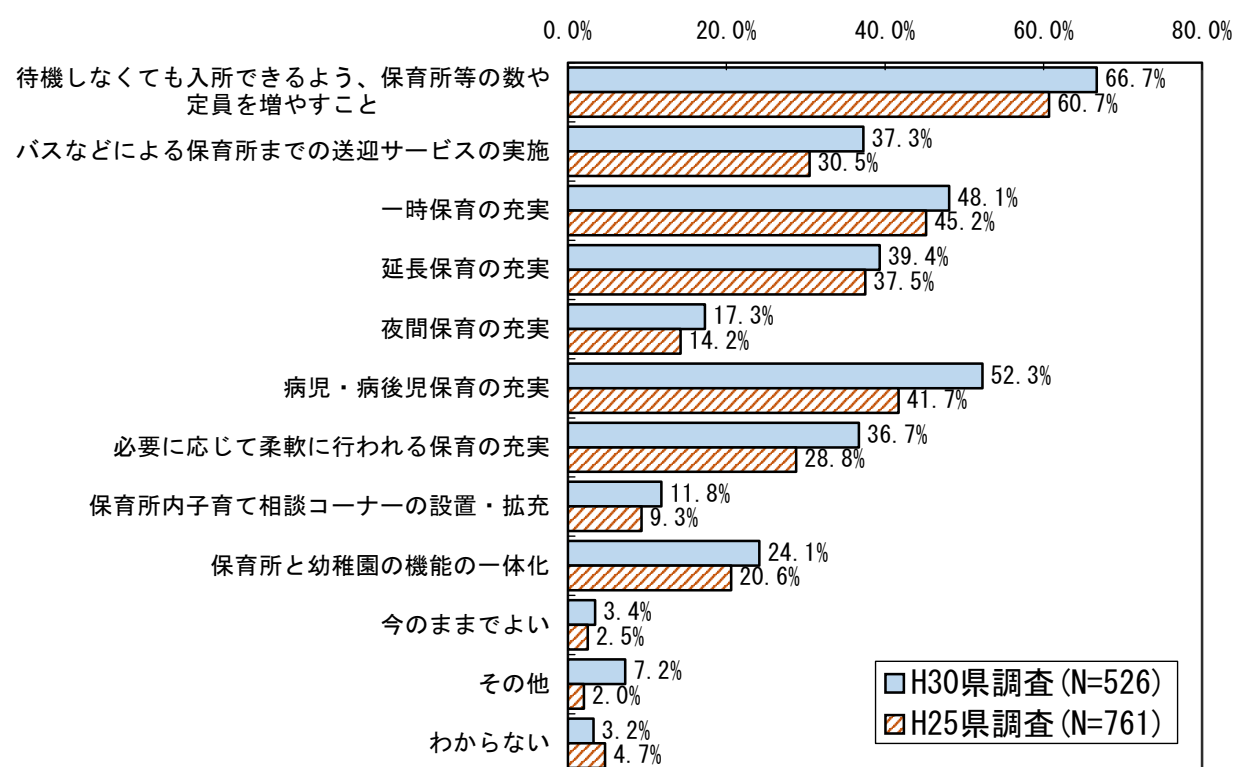
(5) 保育サービスで望むこと

問 29 あなたは、保育所等のサービスに対し、どのようなことを望みますか。(〇はあてはまるものすべて)

保育サービスで望むことをみると、「待機しなくても入所できるよう、保育所等の数や定員を増やすこと」が 66.7%で最も多く、次いで「病児・病後児保育（風邪などの病児又は病後児を預かること）の充実」(52.3%)、「一時保育（緊急時など、一時的に利用すること）の充実」(48.1%)となっている。

前回調査に比べて、すべての選択肢の割合が上昇しており、とくに「病児・病後児保育（風邪などの病児又は病後児を預かること）の充実」で 10.6 ポイント、「必要に応じて柔軟に行われる保育（週 2～3 日程度又は午前か午後のみ）の充実」で 7.9 ポイントと、上昇の幅が他の選択肢に比べて大きくなっている。

図表 保育サービスで望むこと（複数回答）



※平成 30 年県調査は 6 歳未満の子どもがいる夫婦。平成 25 年県調査は 6 歳未満の子どもがいる夫婦の妻

※他に H25 にのみ存在する選択肢として、「休日保育の充実」、「0 歳児保育の充実」がある。

図表 末子の年齢別 保育サービスで望むこと

	有効回答数	数や定員を増やすこと	待機しなくても入所できるよう、保育所等の	実施までの送迎サービスの実施	バスなどによる保育所の	一時保育の充実	延長保育の充実	夜間保育の充実	実病児・病後児保育の充	必要に応じて柔軟に行われる保育の充実	コーナ―の設置・拡充	保育所内子育て相談	の保育所と幼稚園の機能一体化	今のままでよい	その他	わからない
0～1歳	180	75.0%	40.6%	48.9%	40.6%	16.7%	54.4%	41.1%	13.3%	22.2%	1.7%	4.4%	2.2%			
2～3歳	203	65.0%	36.0%	45.3%	36.9%	18.7%	49.8%	34.0%	10.8%	23.6%	3.4%	7.9%	4.4%			
4～5歳	143	58.7%	34.3%	51.0%	40.6%	16.8%	54.5%	35.0%	11.9%	26.6%	5.6%	9.8%	2.1%			
合計	526	66.7%	37.1%	48.1%	39.2%	17.5%	52.7%	36.7%	12.0%	24.0%	3.4%	7.2%	3.0%			

※6歳未満の子どもがいる夫婦

図表 子どもの人数別 保育サービスで望むこと

	有効回答数	数や定員を増やすこと	待機しなくても入所できるよう、保育所等の	実施までの送迎サービスの実施	バスなどによる保育所の	一時保育の充実	延長保育の充実	夜間保育の充実	実病児・病後児保育の充	必要に応じて柔軟に行われる保育の充実	コーナ―の設置・拡充	保育所内子育て相談	の保育所と幼稚園の機能一体化	今のままでよい	その他	わからない
1人	184	69.6%	38.6%	50.0%	37.0%	16.3%	51.6%	39.1%	13.0%	27.2%	1.6%	6.0%	2.7%			
2人	236	68.6%	35.2%	46.2%	39.4%	18.6%	54.7%	38.1%	12.7%	22.5%	3.4%	8.5%	2.5%			
3人	86	55.8%	40.7%	44.2%	41.9%	14.0%	43.0%	26.7%	5.8%	19.8%	8.1%	4.7%	7.0%			
4人以上	20	65.0%	35.0%	70.0%	50.0%	25.0%	70.0%	40.0%	15.0%	35.0%	0.0%	15.0%	0.0%			
合計	526	66.7%	37.3%	48.1%	39.4%	17.3%	52.3%	36.7%	11.8%	24.1%	3.4%	7.2%	3.2%			

※6歳未満の子どもがいる夫婦

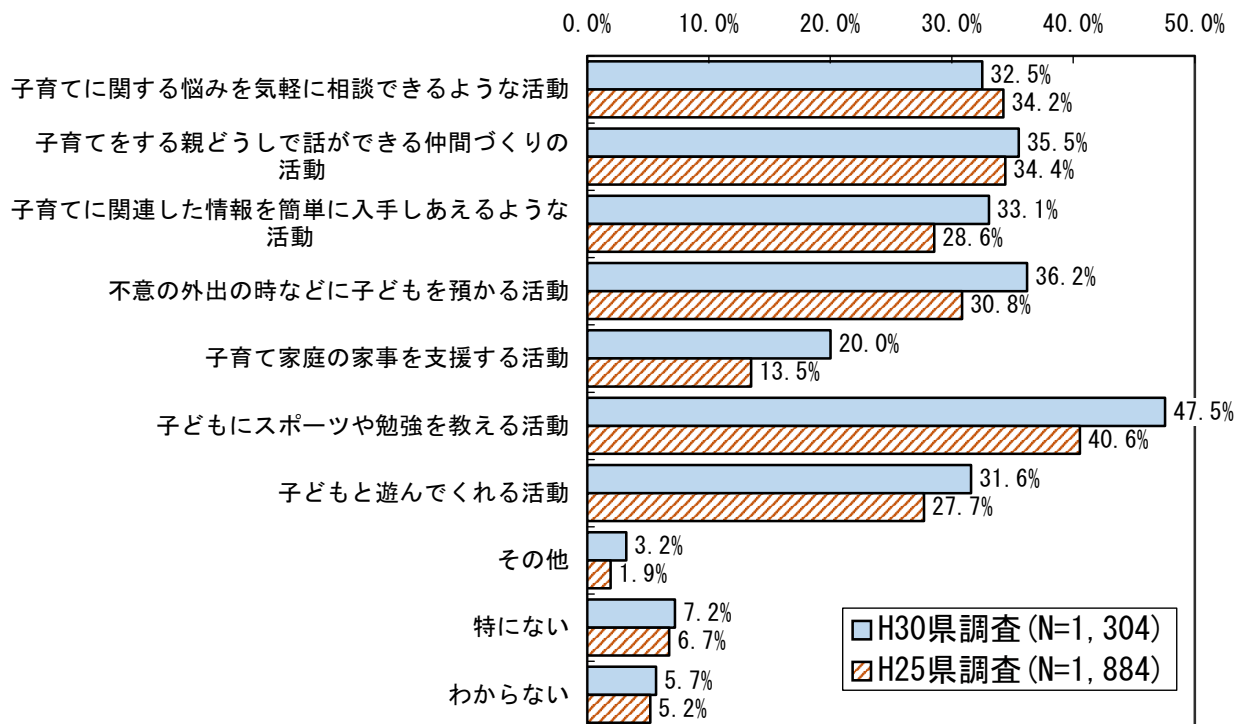
(6) あればいいと思う住民同士の助け合い

問 30 あなたは、子育てをする際に、地域住民が主体的に実施する活動として、どのようなものがあればいいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

あればいいと思う住民同士の助け合いをみると、「子どもにスポーツや勉強を教える活動」が47.5%で最も多く、次いで「不意の外出の時などに子どもを預かる活動」(36.2%)、「子育てをする親どうして話ができる仲間づくりの活動」(35.5%)となっている。

前回調査に比べて、「子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動」を除くすべての項目で割合が上昇しており、とくに「子どもにスポーツや勉強を教える活動」で6.9ポイント、「子育て家庭の家事を支援する活動」で6.5ポイントと、上昇の幅が他の活動に比べて大きくなっている。

図表 あればいいと思う住民同士の助け合い（複数回答）



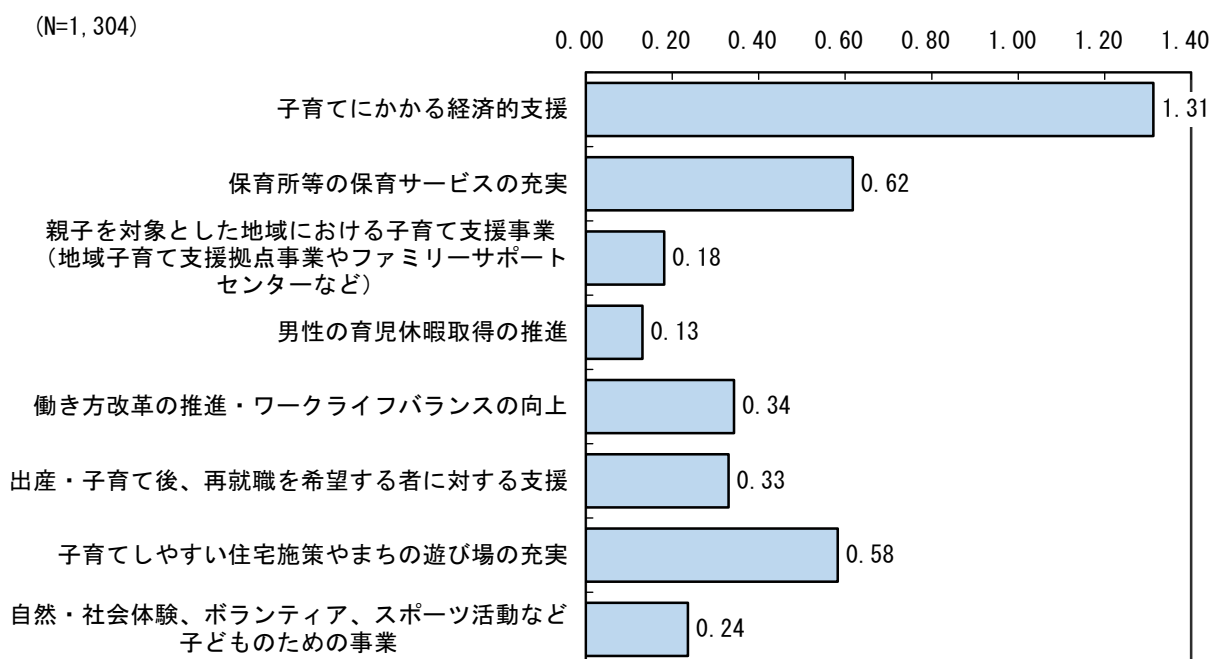
(7) 子育て支援に関する重要度

問 31 奈良県で子育てをするにあたり、下記問 32 の①～⑧の各項目について、最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入して下さい。

①子育て支援策に関する重要度

子育て支援策に関する重要度をみると、「子育てにかかる経済的支援」が1.31点で最も多く、次いで「保育所等の保育サービスの充実」(0.62点)、「子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実」(0.58点)となっている。

図表 子育て支援策に関する重要度(2つ選択)



※最重要=2点、次に重要=1点として合計し、対象母数で割った値を得点とした。

(8) 子育て支援に関する満足度

お子さんをお持ちの方にかがいます。

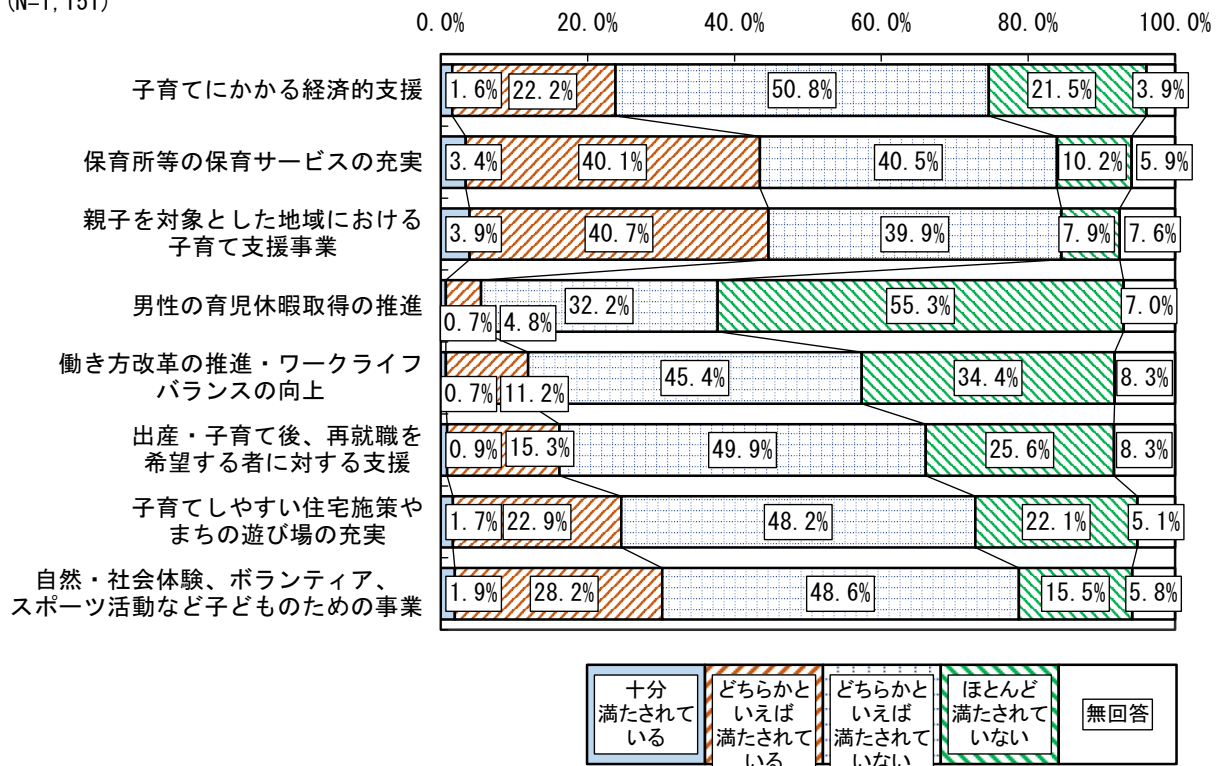
問 32 奈良県で子育てをするにあたり、次の①～⑧の各項目について、どれくらいの「満足度」を感じていますか。各項目それぞれの「満足度」について、あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

「十分満たされている」と「どちらかといえば満たされている」の割合の合計は、「親子を対象とした地域における子育て支援事業」が 44.6%で最も多く、次いで「保育所等の保育サービスの充実」(43.5%)、「自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業」(30.1%)となっている。

また、「ほとんど満たされていない」「どちらかといえば満たされていない」の割合の合計は、「男性の育児休暇取得の推進」が 87.5%で最も多く、次いで「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」(79.8%)、「出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」(75.5%)となっている。

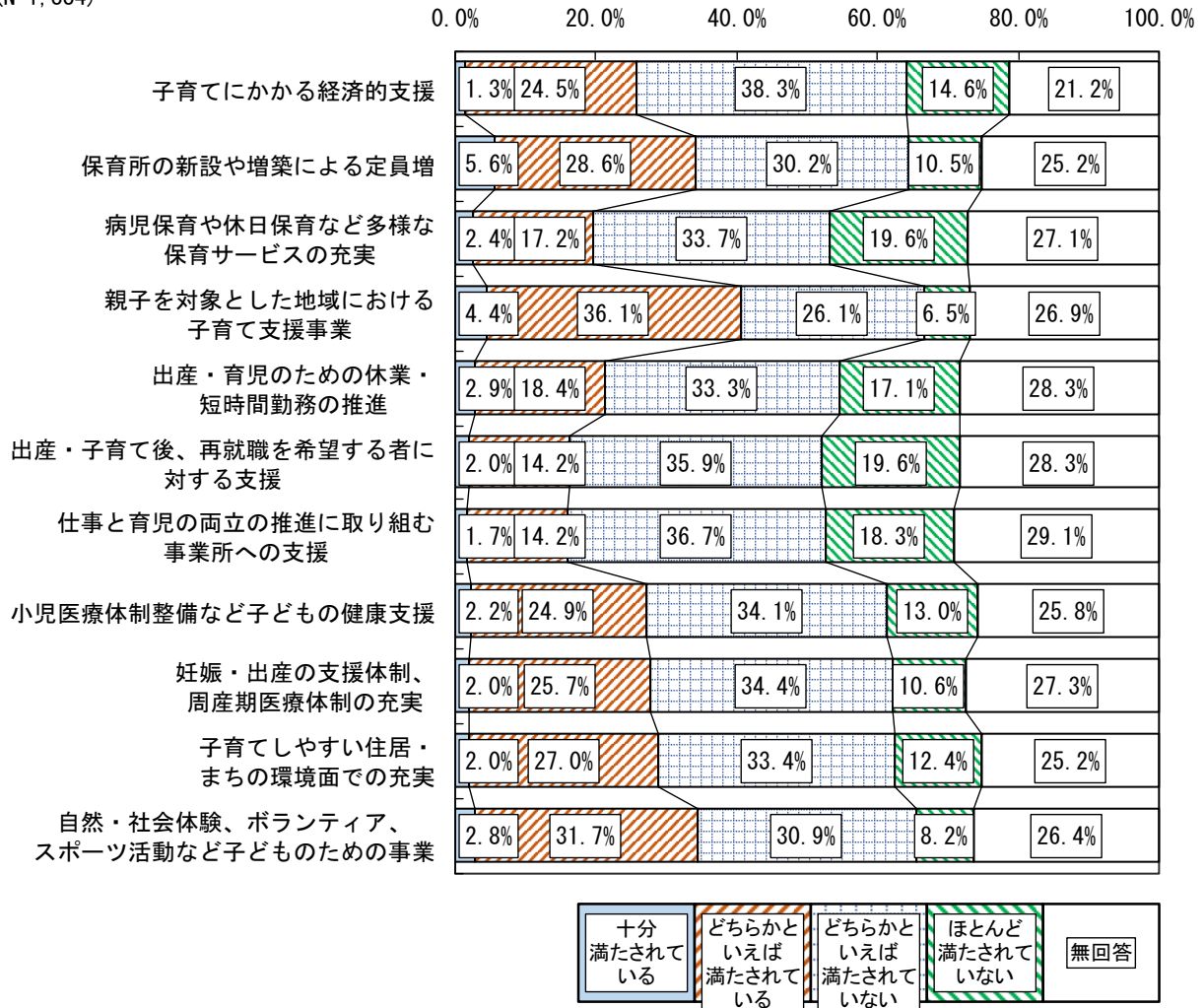
図表 子育て支援に関する満足度

(N=1,151)



図表 子育て支援に関する満足度（前回）

(N=1,884)



図表 末子年齢別 「問32① 子育てにかかる経済的支援」満足度

	件数	て十分 いる満 たさ れ	てえど いばち る満ら たかさ とれい	てえど いばち な満ら いたかさ とれい	さほと れとん でいど いな満 いた	無回 答	満足	不満
0～1歳	180	2.2%	22.2%	48.9%	21.7%	5.0%	24.4%	70.6%
2～3歳	203	1.0%	26.6%	45.8%	23.2%	3.4%	27.6%	69.0%
4～6歳	212	2.4%	19.8%	53.8%	21.7%	2.4%	22.2%	75.5%
7～9歳	164	1.8%	23.8%	55.5%	17.1%	1.8%	25.6%	72.6%
10～12歳	141	0.7%	26.2%	46.8%	20.6%	5.7%	26.9%	67.4%
13歳以上	230	0.9%	17.8%	53.0%	23.5%	4.8%	18.7%	76.5%

図表 末子年齢別 「問32② 保育所等の保育サービスの充実」満足度

	件数	て十分 いる満 たさ れ	てえど いばち る満ら たかさ とれい	てえど いばち な満ら いたかさ とれい	さほと れとん でいど いな満 いた	無回 答	満足	不満
0～1歳	180	2.8%	34.4%	40.0%	16.1%	6.7%	37.2%	56.1%
2～3歳	203	3.4%	41.9%	35.5%	14.8%	4.4%	45.3%	50.3%
4～6歳	212	3.3%	35.8%	47.6%	9.4%	3.8%	39.1%	57.0%
7～9歳	164	5.5%	43.9%	39.6%	6.7%	4.3%	49.4%	46.3%
10～12歳	141	2.1%	48.9%	37.6%	3.5%	7.8%	51.0%	41.1%
13歳以上	230	3.5%	39.6%	39.6%	9.1%	8.3%	43.1%	48.7%

図表 末子年齢別 「問32③ 親子を対象とした地域における子育て支援事業
(地域子育て支援拠点事業やファミリーサポートセンターなど)」満足度

	件数	て十分 いる満 たさ れ	てえど いばち る満ら たかさ とれい	てえど いばち な満ら いたかさ とれい	さほと れとん でいど いな満 いた	無回 答	満足	不満
0～1歳	180	7.8%	44.4%	32.8%	7.8%	7.2%	52.2%	40.6%
2～3歳	203	4.4%	40.4%	42.4%	8.4%	4.4%	44.8%	50.8%
4～6歳	212	3.3%	38.7%	42.5%	8.0%	7.5%	42.0%	50.5%
7～9歳	164	2.4%	36.0%	45.1%	8.5%	7.9%	38.4%	53.6%
10～12歳	141	2.8%	49.6%	30.5%	8.5%	8.5%	52.4%	39.0%
13歳以上	230	3.0%	38.7%	42.2%	6.5%	9.6%	41.7%	48.7%

図表 末子年齢別 「問32④ 男性の育児休暇取得の推進」満足度

	件数	て十分 いる満 たさ れ	てえど いばち る満ら たかさ とれい	てえど いばち な満ら いたかさ とれい	さほと れとん でいど いな満 いた	無回 答	満足	不満
0～1歳	180	0.0%	5.0%	28.3%	60.0%	6.7%	5.0%	88.3%
2～3歳	203	2.0%	3.4%	31.0%	58.1%	5.4%	5.4%	89.1%
4～6歳	212	0.9%	6.6%	26.4%	58.5%	7.5%	7.5%	84.9%
7～9歳	164	0.6%	3.7%	34.8%	53.0%	7.9%	4.3%	87.8%
10～12歳	141	0.0%	4.3%	38.3%	51.8%	5.7%	4.3%	90.1%
13歳以上	230	0.4%	5.2%	34.8%	51.3%	8.3%	5.6%	86.1%

図表 末子年齢別 「問32⑤ 働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」満足度

	件数	て十分 いる満 たさ れ	てえど いばち る満ら たかさ とれい	てえど いばち な満ら いたかさ とれい	さほと れとん でいど いな満 いた	無回 答	満足	不満
0～1歳	180	1.1%	11.7%	46.7%	33.3%	7.2%	12.8%	80.0%
2～3歳	203	0.5%	15.8%	40.4%	37.4%	5.9%	16.3%	77.8%
4～6歳	212	0.9%	12.7%	40.6%	38.7%	7.1%	13.6%	79.3%
7～9歳	164	0.6%	7.3%	51.8%	30.5%	9.8%	7.9%	82.3%
10～12歳	141	0.0%	13.5%	41.8%	34.8%	9.9%	13.5%	76.6%
13歳以上	230	0.9%	7.4%	50.4%	31.3%	10.0%	8.3%	81.7%

図表 末子年齢別 「問32⑥ 出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」満足度

	件数	て十分満たされ	てえどいばちる満たかさとれい	てえどいばちな満たかさとれい	さほとてんどいな満た	無回答	満足	不満
0～1歳	180	1.7%	17.2%	50.6%	22.2%	8.3%	18.9%	72.8%
2～3歳	203	1.0%	19.7%	49.8%	22.7%	6.9%	20.7%	72.5%
4～6歳	212	0.9%	13.2%	48.1%	29.7%	8.0%	14.1%	77.8%
7～9歳	164	0.6%	11.6%	52.4%	27.4%	7.9%	12.2%	79.8%
10～12歳	141	0.0%	17.0%	53.2%	22.0%	7.8%	17.0%	75.2%
13歳以上	230	0.9%	13.9%	48.3%	26.5%	10.4%	14.8%	74.8%

図表 末子年齢別 「問32⑦ 子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実」満足度

	件数	て十分満たされ	てえどいばちる満たかさとれい	てえどいばちな満たかさとれい	さほとてんどいな満た	無回答	満足	不満
0～1歳	180	1.7%	25.6%	50.0%	17.8%	5.0%	27.3%	67.8%
2～3歳	203	2.5%	20.2%	53.2%	20.7%	3.4%	22.7%	73.9%
4～6歳	212	1.9%	18.4%	52.8%	22.6%	4.2%	20.3%	75.4%
7～9歳	164	0.6%	17.7%	52.4%	25.0%	4.3%	18.3%	77.4%
10～12歳	141	2.1%	24.1%	41.8%	24.8%	7.1%	26.2%	66.6%
13歳以上	230	1.3%	30.9%	40.4%	20.9%	6.5%	32.2%	61.3%

図表 末子年齢別 「問32⑧ 自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業」満足度

	件数	て十分満たされ	てえどいばちる満たかさとれい	てえどいばちな満たかさとれい	さほとてんどいな満た	無回答	満足	不満
0～1歳	180	1.1%	21.1%	57.8%	12.8%	7.2%	22.2%	70.6%
2～3歳	203	2.5%	25.1%	53.2%	14.8%	4.4%	27.6%	68.0%
4～6歳	212	1.9%	23.6%	50.0%	19.3%	5.2%	25.5%	69.3%
7～9歳	164	2.4%	30.5%	46.3%	16.5%	4.3%	32.9%	62.8%
10～12歳	141	3.5%	36.2%	41.1%	12.8%	6.4%	39.7%	53.9%
13歳以上	230	0.9%	34.3%	43.5%	14.3%	7.0%	35.2%	57.8%

図表 保育サービスの利用 × 「保育所等の保育サービスの充実」満足度

	十分満たされている	どちらかといえば満たされている	どちらかといえば満たされていない	ほとんど満たされていない	無回答	合計
利用した	30 4.8%	286 45.4%	236 37.5%	51 8.1%	27 4.3%	630 100.0%
利用しなかった	9 1.7%	175 33.6%	230 44.1%	66 12.7%	41 7.9%	521 100.0%
合計	39 3.4%	461 40.1%	466 40.5%	117 10.2%	68 5.9%	1,151 100.0%

※子どものいる夫婦

※上下区分は、問 33「子どもが3歳になるまでの間利用した制度や施設」のうち、「公立の認可保育所」から「企業主導型保育事業」までの利用有無で区分

図表 地域の子育て支援拠点事業の利用 × 「親子を対象とした地域における子育て支援事業」満足度

	十分満たされている	どちらかといえば満たされている	どちらかといえば満たされていない	ほとんど満たされていない	無回答	合計
利用した	26 4.7%	275 49.2%	196 35.1%	25 4.5%	37 6.6%	559 100.0%
利用しなかった	19 3.2%	194 32.8%	263 44.4%	66 11.1%	50 8.4%	592 100.0%
合計	45 3.9%	469 40.7%	459 39.9%	91 7.9%	87 7.6%	1,151 100.0%

※子どものいる夫婦

※上下区分は、問 33「子どもが3歳になるまでの間利用した制度や施設」のうち、「地域の子育て支援拠点」の利用有無で区分

(9) 子どもが3歳になるまでの間の制度や施設の利用状況

問 33 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、子育てに関する各制度や施設を利用しましたか。(○はあてはまるものすべて)

①子どもが3歳になるまでの間利用した制度や施設

制度・施設の利用状況について、いずれの子どもも「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」が最も多くなっている。

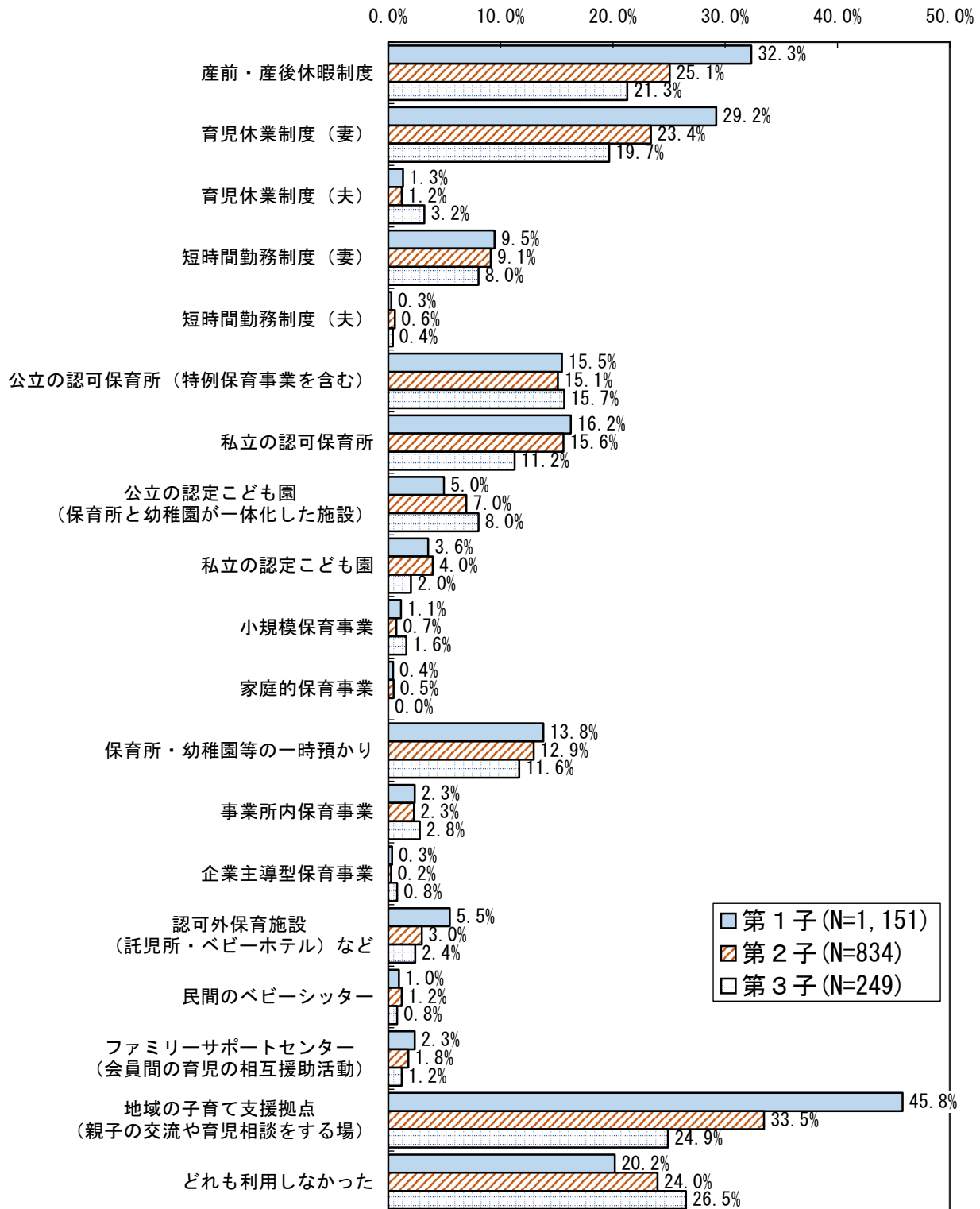
「どれも利用しなかった」はいずれの子どもも2割台となっており、下の子になるほど割合が高くなっている。

前回調査に比べて、第1子では、すべての制度・施設の割合が上昇しており、とくに「地域の子育て支援拠点」で19.7ポイント、「育児休業制度（妻）」で15.8ポイント、「産前・産後休暇制度」で15.7ポイントと、上昇の幅が他の制度・施設に比べて大きくなっている。

前回調査に比べて、第2子でも、すべての制度・施設の割合が上昇しており、とくに「地域の子育て支援拠点」で14.9ポイント、「育児休業制度（妻）」で12.8ポイント、「産前・産後休暇制度」で12.6ポイントと、上昇の幅が他の制度・施設に比べて大きくなっている。

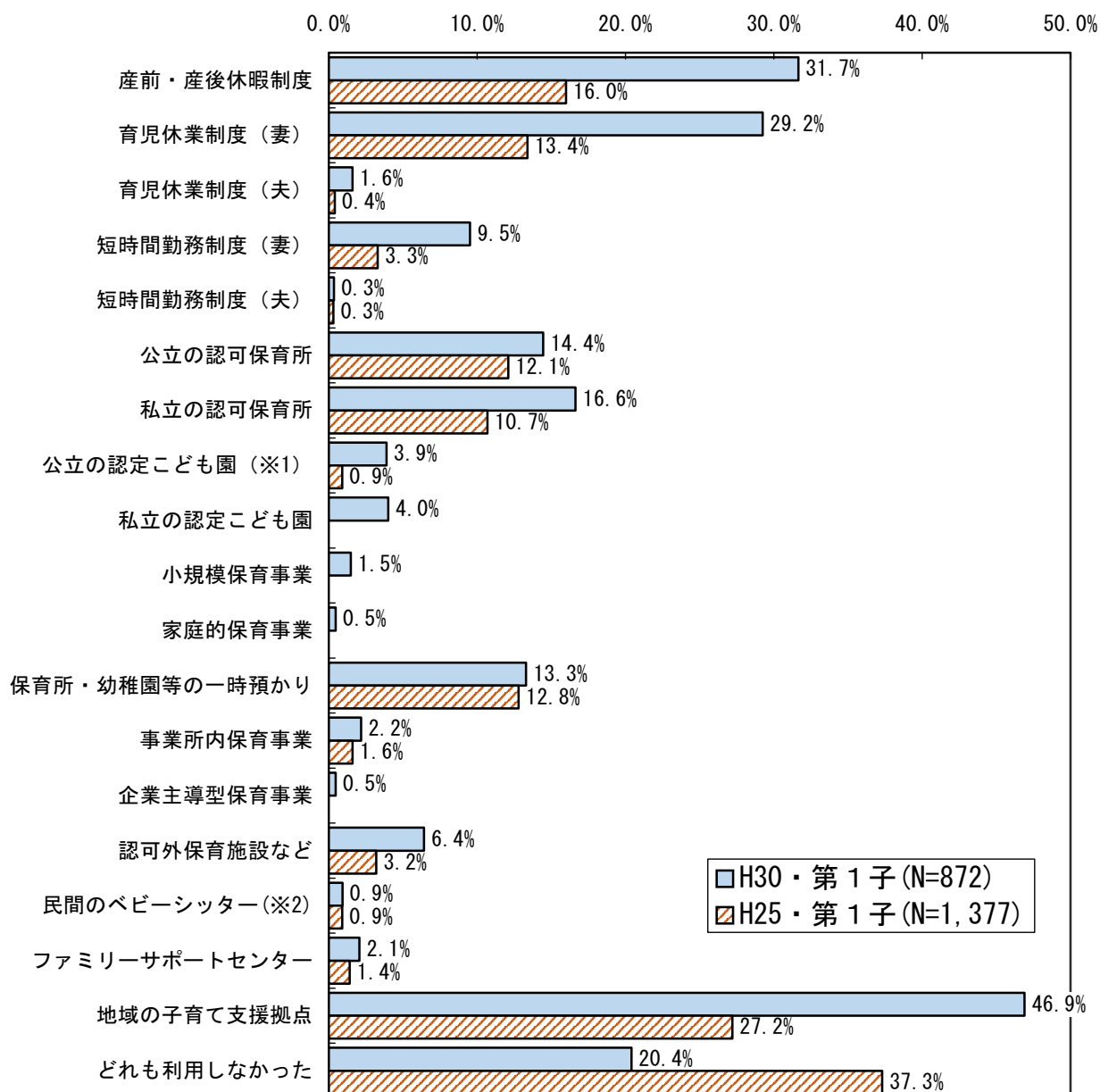
前回調査に比べて、第3子でも、すべての制度・施設の割合が上昇しており、とくに「地域の子育て支援拠点」で15.9ポイント、「育児休業制度（妻）」「産前・産後休暇制度」でともに9.2ポイントと、上昇の幅が他の制度・施設に比べて大きくなっている。

図表 子どもが3歳になるまでの間利用した制度や施設（複数回答）



※子どものいる夫婦

図表 第一子が3歳になるまでの間利用した制度や施設（複数回答）

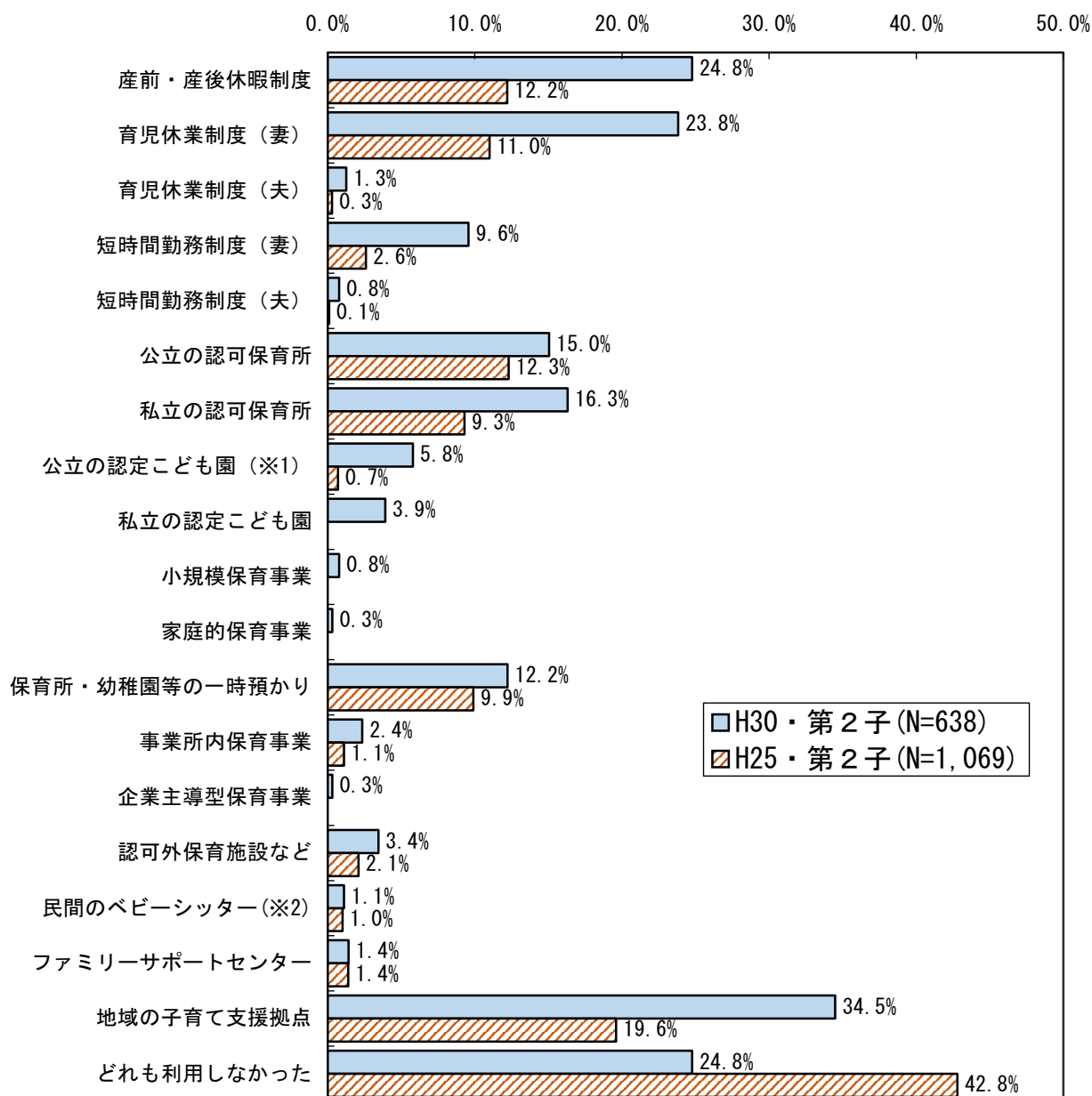


（※1）H25は公立・私立の区別無し

（※2）H25は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」

（※3）H30は子どもがいる初婚どうしの夫婦・H25は子どもがいる初婚どうしの夫婦の妻

図表 第二子が3歳になるまでの間利用した制度や施設（複数回答）

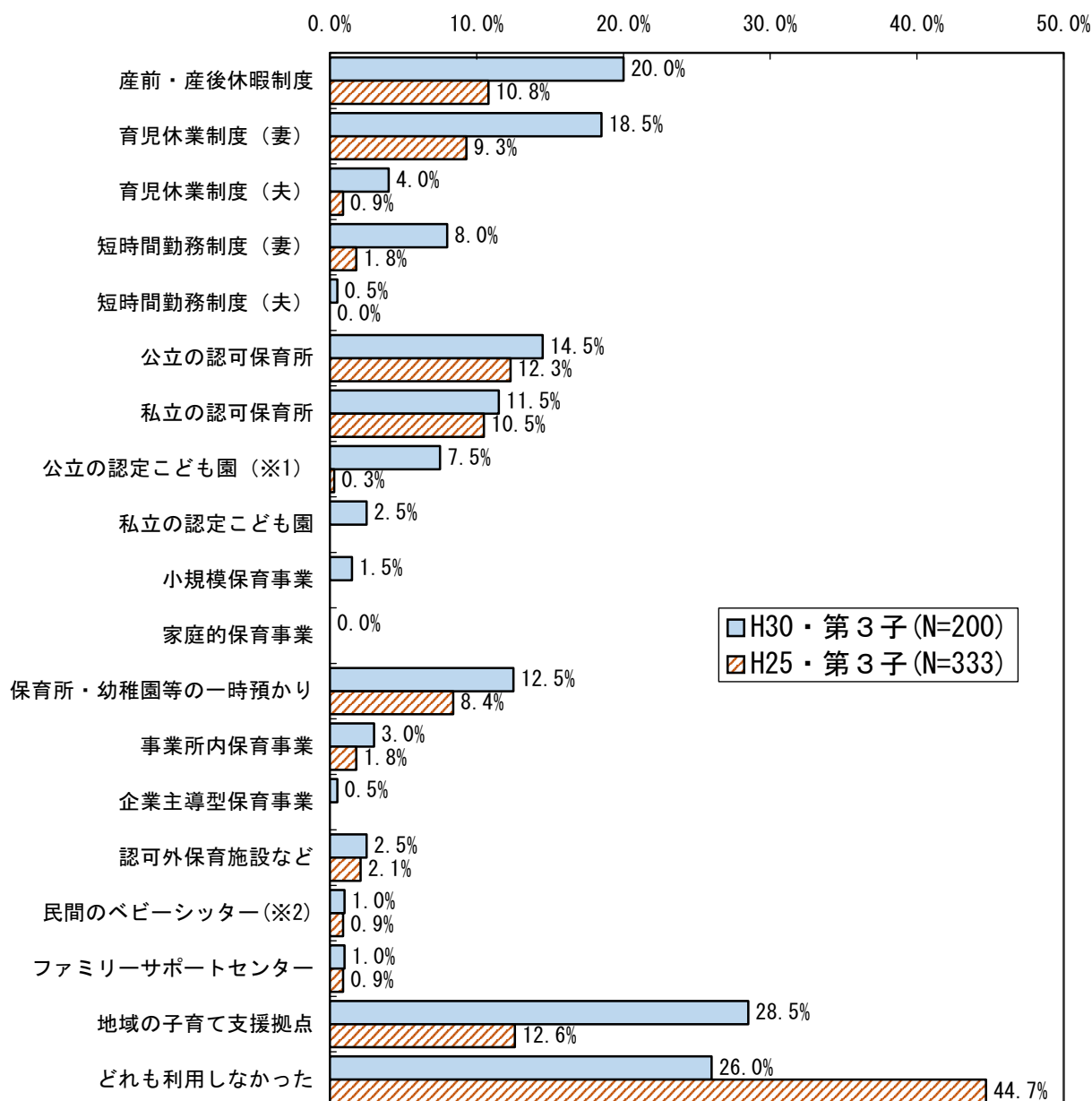


（※1）H25は公立・私立の区別無し

（※2）H25は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」

（※3）H30は子どもがいる初婚どうしの夫婦・H25は子どもがいる初婚どうしの夫婦の妻

図表 第三子が3歳になるまでの間利用した制度や施設（複数回答）



（※1） H25 は公立・私立の区別無し

（※2） H25 は「保育ママ（少人数の家庭的保育）・民間のベビーシッターなど」

（※3） H30 は子どもがいる初婚どうしの夫婦・H25 は子どもがいる初婚どうしの夫婦の妻

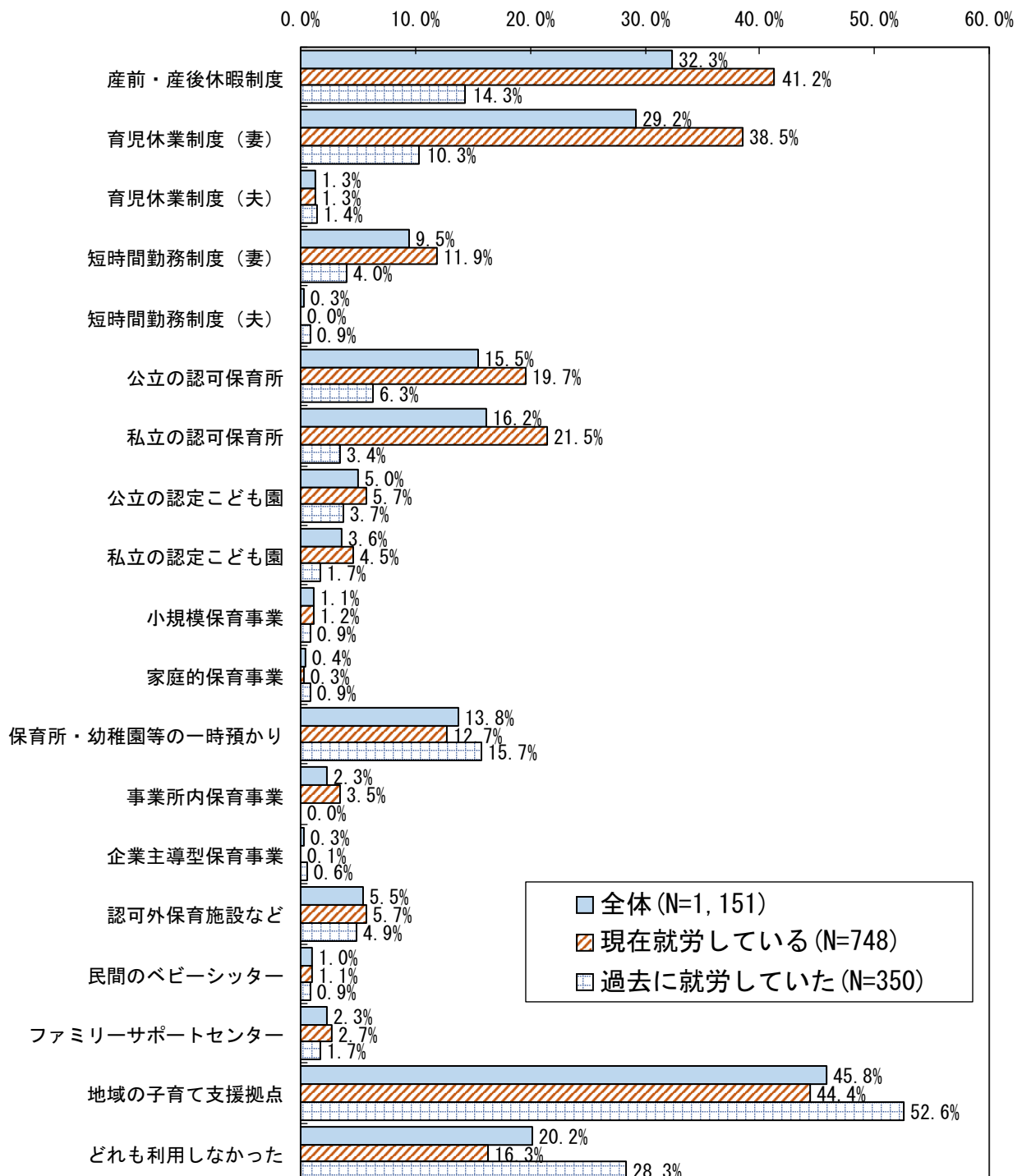
②第1子が3歳になるまでの間、現在就労中の母親が利用した制度や施設

現在就労中の母親の第1子が3歳になるまでの間に利用した制度・施設は、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」が44.4%で最も多く、次いで「産前・産後休暇制度」（41.2%）、「育児休業制度（妻）」（38.5%）となっている。また、「どれも利用しなかった」は16.3%となっている。

③第1子が3歳になるまでの間、過去就労経験のある母親が利用したことがある制度や施設

過去就労経験がある母親の第1子が3歳になるまでの間に利用した制度・施設は、「地域の子育て支援拠点（親子の交流や育児相談をする場）」が52.6%で最も多く、次いで「保育所・幼稚園等の一時預かり」（15.7%）、「産前・産後休暇制度」（14.3%）となっている。また、「どれも利用しなかった」は28.3%となっている。

図表 妻の就労状況別 第1子が3歳になるまでの間母親が利用した制度や施設（複数回答）



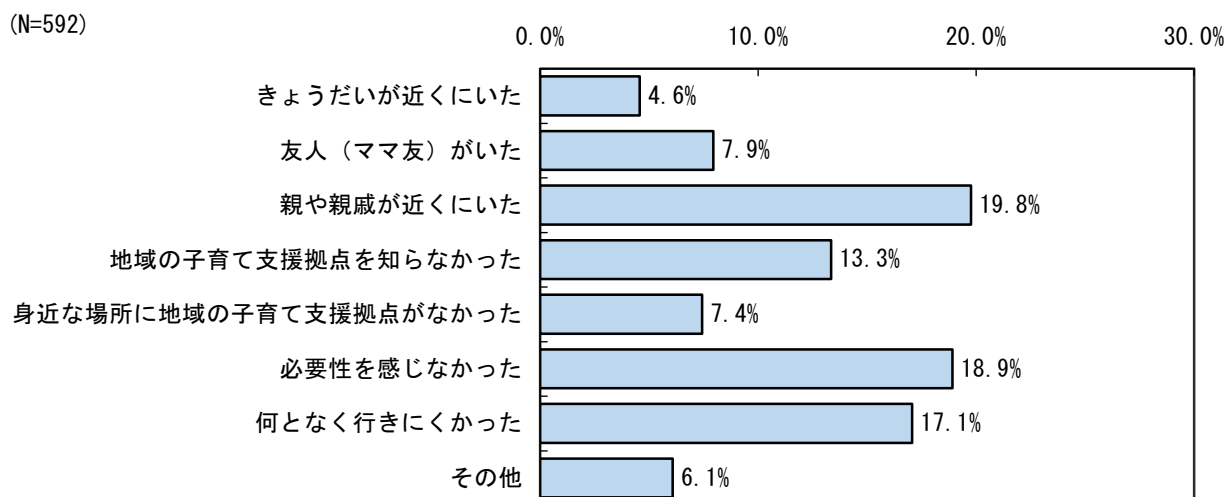
(10)「地域の子育て支援拠点」を利用しなかった理由

「18. 地域の子育て支援拠点」を利用しなかった方にお伺いします。

問 33-1 なぜ利用しなかったのか、あてはまるものに○を1つつけてください。

地域の子育て支援拠点を利用しなかった理由をみると、「親や親戚が近くにいた」が 19.8%で最も多く、次いで「必要性を感じなかった」(18.9%)、「何となく行きにくかった」(17.1%)となっている。

図表 「地域の子育て支援拠点」を利用しなかった理由



※単数回答だが、複数の選択肢に○をつけた回答が多数あったため、複数回答結果を記載

10 自由記述意見

番号	項目	件数	主な意見	夫	妻	不明	計
1	結婚に関する こと	5	結婚応援の取り組みを充実させてほしい	1	3	1	5
2	妊娠・出産に 関すること	43	不妊に悩む人への支援・助成を充実させて ほしい、不妊治療に年齢・収入制限がある のは不満である	3	17	0	20
3			妊婦検診・出産に対する助成を手厚くして ほしい	1	7	0	8
4			産婦人科が少ない、遠い	2	5	1	8
5			妊娠・出産に関する知識が乏しかった	0	4	0	4
6			その他、妊娠・出産に関する意見がある	0	3	0	3
7	子育て支援制 度に関するこ と	73	子育て支援制度を充実させてほしい	1	20	0	21
8			子育て支援制度の周知を図ってほしい、子 育てに関する情報がほしい	3	10	1	14
9			子どもと一緒に参加できるイベント・施設 を充実させてほしい	1	9	0	10
10			子育て支援制度は充実している	0	8	1	9
11			子育て相談を充実させてほしい	0	7	0	7
12			保健センター・子育て支援センターを充実 させてほしい	0	6	0	6
13			職員の対応・手続きを改善すべきである	1	5	0	6
14	子育て環境・ 地域連携に関 すること	92	公園・子どもの遊び場を増やしてほしい・ 整備してほしい	3	35	1	39
15			地域住民が子育てを理解し、地域ぐるみで 協力してほしい	2	20	1	23
16			道路・歩道の整備をしてほしい	0	12	1	13
17			小児科・休日夜間診療所を増やしてほしい	5	4	0	9
18			PTA活動・役員の仕事が負担である、学校行 事が多い	0	7	1	8
19	経済的な子育 て支援に関す ること	134	教育費に対する助成を手厚くしてほしい、 授業料を無償化してほしい	1	32	2	35
20			子ども医療に対する助成を手厚くしてほしい、 医療費・ワクチンを無償化してほしい	4	25	1	30
21			子育てに対する経済的支援を手厚くしてほ しい	2	21	1	24
22			子ども医療費の窓口負担を廃止してほしい	1	13	0	14
23			保育料が高い、保育料を減額・無償化して ほしい	0	12	0	12
24			所得制限など、支援・助成が不平等であり 不満である	1	10	0	11
25			子どもの人数に応じて支援・助成される制 度を作ってほしい	1	5	0	6
26			児童手当を増額してほしい	0	2	0	2

番号	項目	件数	主な意見	夫	妻	不明	計
27	ワークライフ バランスに関 すること	106	女性が仕事と子育てを両立できる労働環境 に改善してほしい	0	28	0	28
28			男性が育児・家事をしない、もっと協力す べきである	1	19	0	20
29			子育て中の人の復職・再就職をサポートし てほしい	1	15	0	16
30			子育てと仕事を両立させるには職場の理解 が不可欠である	0	16	0	16
31			県内の就業先を増やしてほしい、給与など 労働条件を改善してほしい	3	6	0	9
32			男性が育児・家事に取り組めるような労働 環境に改善してほしい	1	7	0	8
33			子育て中の女性が子育てに専念できる環境 を整備してほしい	3	4	0	7
34			子育て中でも職場で特別扱いされるべきで はない	0	2	0	2
35	保育に関する こと	94	待機児童問題を解消し、希望者全員が希望 の保育園を利用できるようにしてほしい	4	35	0	39
36			病児保育・一時預かり・早朝保育・夜間保 育・休日保育を充実させてほしい	0	27	0	27
37			希望者全員が学童保育を利用できるように してほしい、学童保育を充実させてほしい	1	13	0	14
38			保育施設・児童館の設備を整備してほしい	0	7	0	7
39			保育士の確保・待遇改善が必要である	0	6	0	6
40			その他、保育に関する意見がある	0	1	0	1
41	教育に関する こと	64	幼稚園・学校の設備を整備してほしい	1	20	0	21
42			障がい・発達障害のある子ども、不登校の 子どもに対する支援を強化してほしい	0	9	0	9
43			高校の統廃合には反対である	1	6	0	7
44			幼稚園を3年制にしてほしい	0	5	0	5
45			こども園は問題がある、幼稚園と保育園の 統合は反対である	1	3	0	4
46			幼稚園と保育園の統合に賛成である	0	2	0	2
47			その他、教育に関する意見がある	1	14	1	16
48	本調査に関す ること	57	設問が多い・問題がある(不妊の問題など)	4	24	3	31
49			調査方法に問題がある、調査自体が問題で ある、個人情報の流出が心配である	2	13	1	16
50			調査結果を有効活用してほしい	2	5	0	7
51			調査結果を公表してほしい	2	1	0	3
52	その他の意 見・要望	58	行政・政策に対して意見・要望がある	6	14	0	20
53			県内の自治体ごとに制度・サービスが異なり 不満である、県南部と北部で地域格差がある	0	12	0	12
54			少子化対策を推進すべきである	4	5	1	10
55			少子高齢化対策以外の政策を推進すべきである	1	4	1	6
56			その他、意見・要望がある	3	6	1	10
意見総数			(427人) 726件	75	631	20	726

第3章 独身者調査の結果

1 回答者の属性

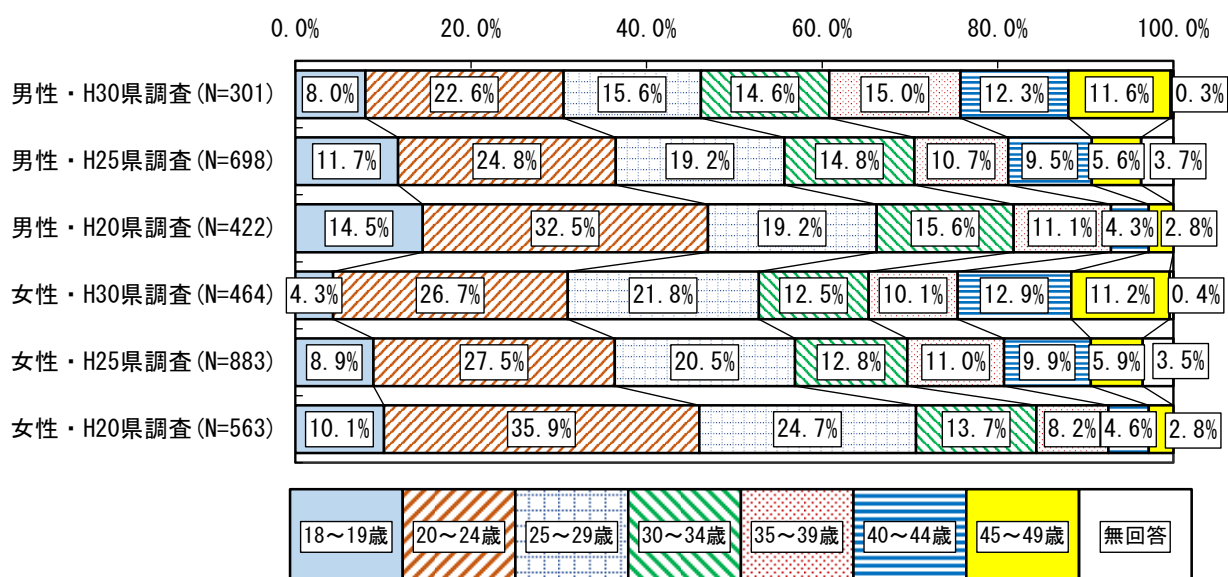
(1) 年齢

問1 ①にあなたの出生年月を記入してください。また、②性別、③親との同居/別居について、あてはまる番号に○をつけてください。

年齢構成をみると、男性では「20～24歳」が22.6%で最も多く、次いで「25～29歳」(15.6%)、「35～39歳」(15.0%)となっている。前回調査に比べて、34歳以下の各年代の割合が低下し、35歳以上の各年代の割合が上昇している。

女性では「20～24歳」が26.7%で最も多く、次いで「25～29歳」(21.8%)、「40～44歳」(12.9%)となっている。前回調査に比べて、24歳以下及び30歳代の各年代の割合が低下し、25～29歳、40歳以上の各年代の割合が上昇している。

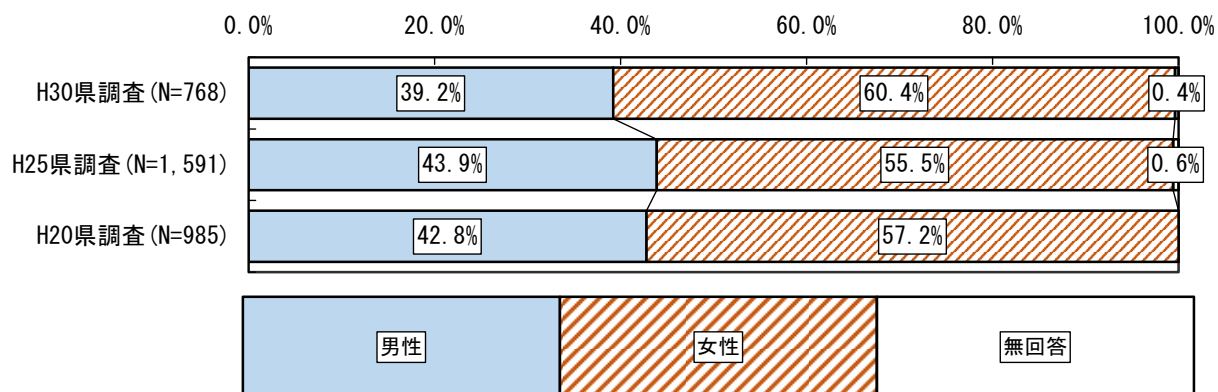
図表 年齢構成



(2) 性別

回答者の性別は、「男性」が39.2%、「女性」が60.4%と、女性のほうが21.2ポイント高い。前回調査に比べて、女性の割合が4.9ポイント上昇し、男性の割合が4.7ポイント低下している。

図表 性別

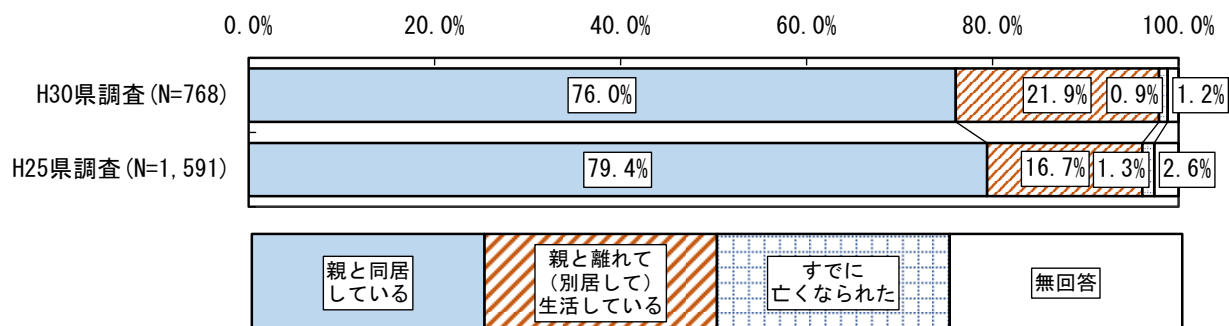


(3) 親との同居／別居

親との同居／別居の状況については、「親と同居している」が76.0%で最も多く、次いで「親と離れて（別居して）生活している」（21.9%）となっている。

前回調査に比べて、「親と離れて（別居して）生活している」の割合が5.2ポイント上昇し、「親と同居している」の割合が3.4ポイント低下している。

図表 親との同居／別居



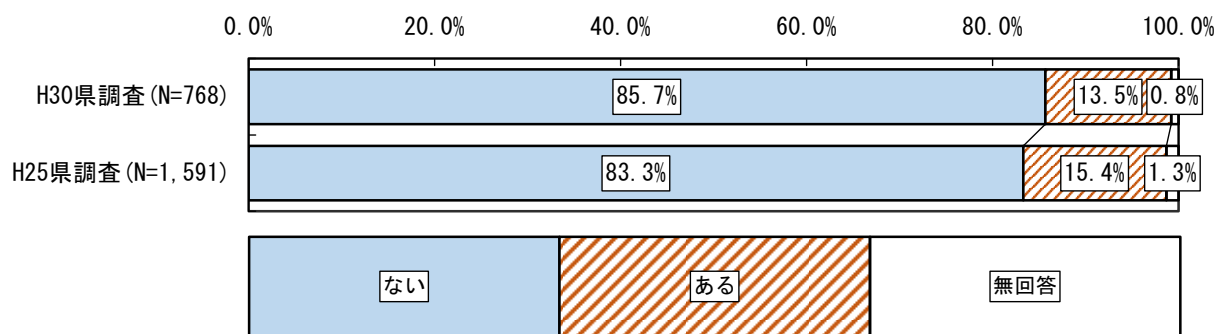
(4) 結婚経験の有無

問2 あなたはこれまでに結婚（届出をしたもの）をしたことがありますか。（○は1つ）

結婚経験の有無については、「ない」が85.7%、「ある」が13.5%と、「ない」ほうが72.2ポイント高い。

前回調査に比べて、有無の割合に大きな変化はない。

図表 結婚経験の有無



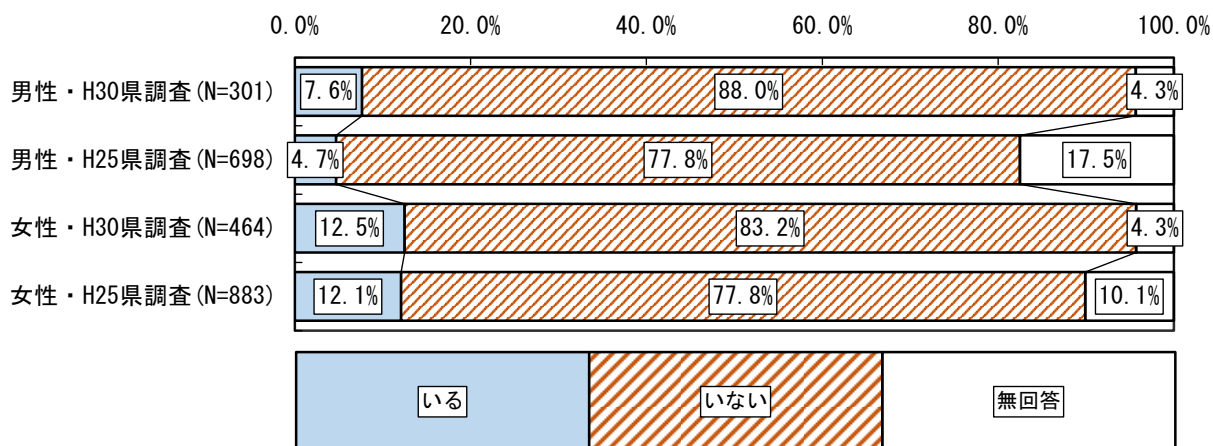
(5) 子どもの有無・人数

問 2-1 あなたに現在お子さんはいますか（成人を含む）。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②にお子さんの数を記入してください。

①子どもの有無

子どもの有無をみると、男性ではいる割合が7.6%となっており、女性ではいる割合が12.5%となっている。

図表 子どもの有無

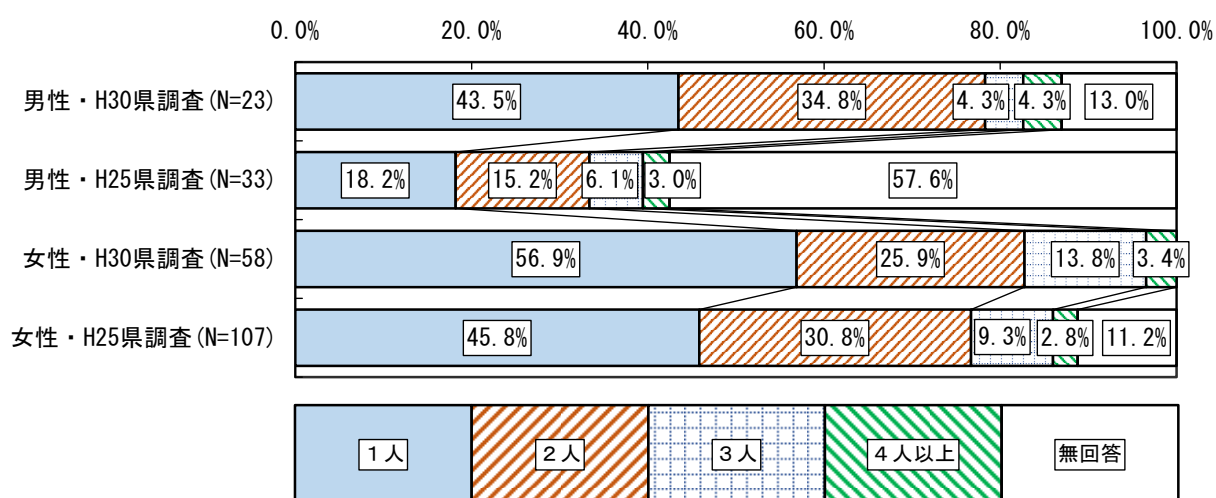


②子どもの数

子どもの数をみると、男性では「1人」が43.5%で最も多く、次いで「2人」(34.8%)、「3人」(4.3%)となっている。

女性では「1人」が56.9%で最も多く、次いで「2人」(25.9%)、「3人」(13.8%)となっている。

図表 子どもの数



2 就労状況

(1) 就労形態・職種・勤め先の従業員数

問3 あなたのお仕事についておたずねします。a, b の2つの時期について、それぞれ①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

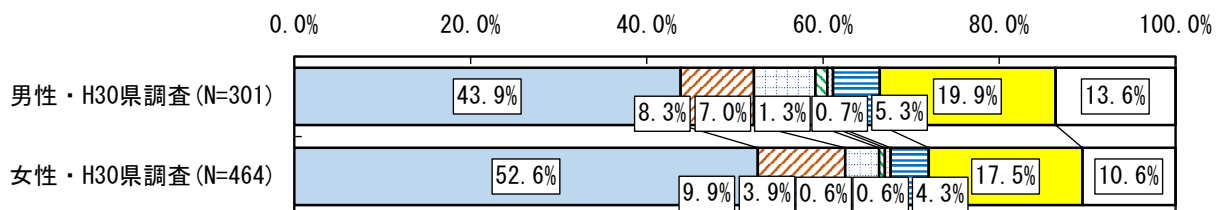
① 就労形態

現在の就労の有無をみると、就労している割合は、男性では 65.1%、女性では 68.3%となっている。前回調査に比べて、就労している割合が、男性では 10.8 ポイント、女性では 8.3 ポイント上昇している。

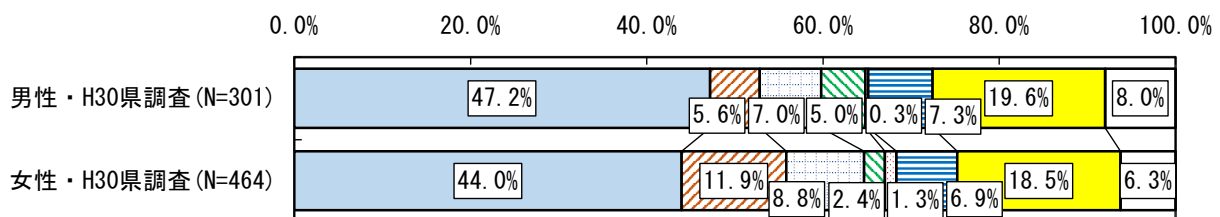
無回答を除く就労形態をみると、男性では「正規職員」が 51.3%で最も多くなっている。「パート・アルバイト」及び「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用職員は 13.7%となっている。前回調査に比べて、「正規職員」の割合が 8.8 ポイント上昇し、非正規雇用職員の割合が 5.9 ポイント低下している。

女性では「正規職員」が 46.9%で最も多くなっている。「パート・アルバイト」及び「派遣・嘱託・契約社員」を合わせた非正規雇用職員は 22.0%となっている。前回調査に比べて、「正規職員」の割合が 9.8 ポイント上昇し、非正規雇用職員の割合が 8.7 ポイント低下している。

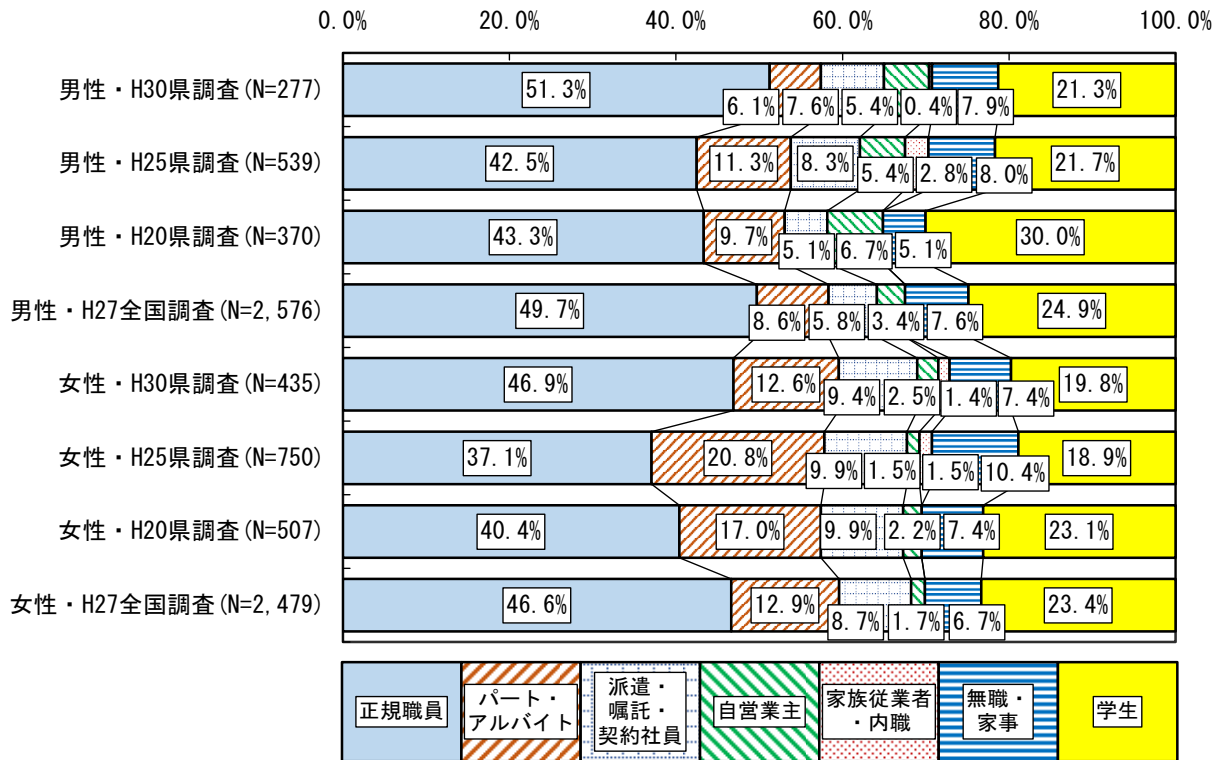
図表 就労形態 a. 最後に学校を卒業した直後



図表 就労形態 b. 現在

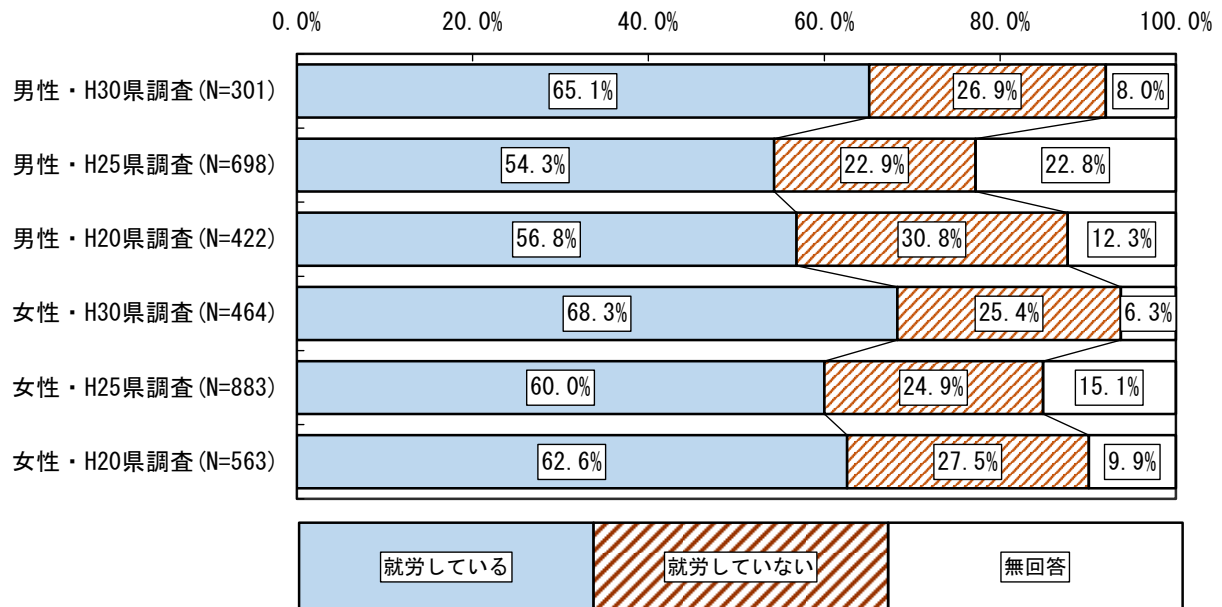


図表 就労形態 b. 現在（無回答を除く）



※全国調査は「自営業主・家族従業者」が1項目にまとめられている。

図表 現在の就労の有無

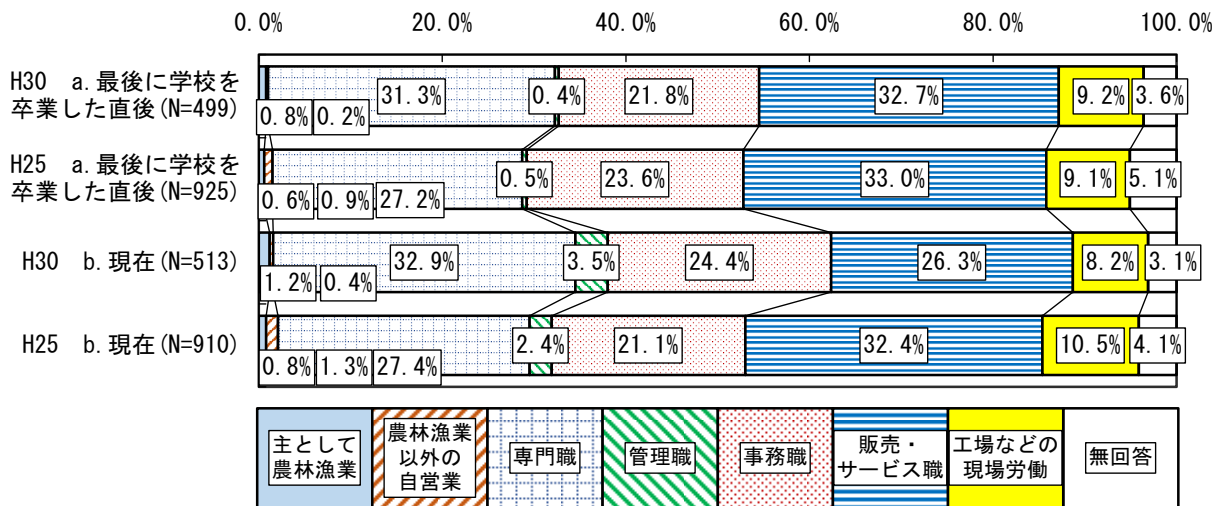


②職種

時期別に職種をみると、最後に学校を卒業した直後では「販売・サービス職」が 32.7%で最も多く、次いで「専門職」(31.3%)、「事務職」(21.8%)となっている。前回調査に比べて、「専門職」の割合が 4.1ポイント上昇している。

現在では「専門職」が 32.9%で最も多く、次いで「販売・サービス職」(26.3%)、「事務職」(24.4%)となっている。前回調査に比べて、「専門職」「事務職」の割合がそれぞれ 5.5ポイント、3.3ポイント上昇し、「販売・サービス職」の割合が 6.1ポイント低下している。

図表 職種

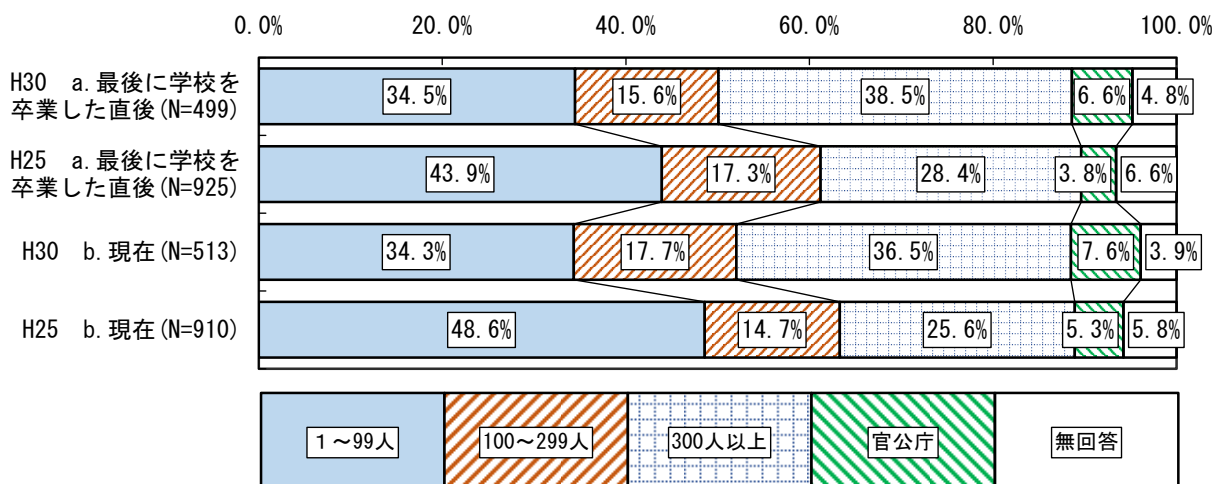


③勤め先の従業員数

時期別に勤め先の従業員数をみると、最後に学校を卒業した直後では「300人以上」が 38.5%で最も多く、次いで「1~99人」(34.5%)、「100~299人」(15.6%)となっている。前回調査に比べて、「300人以上」の割合が 10.1ポイント上昇し、「1~99人」の割合が 9.4ポイント低下している。

現在では「300人以上」が 36.5%で最も多く、次いで「1~99人」(34.3%)、「100~299人」(17.7%)となっている。前回調査に比べて、「300人以上」の割合が 10.9ポイント上昇し、「1~99人」の割合が 14.3ポイント低下している。

図表 勤め先の従業員数



(2) 就労状況

現在お仕事をもちの方にはうかがいます。お仕事をもちでない方は問5に進んでください。

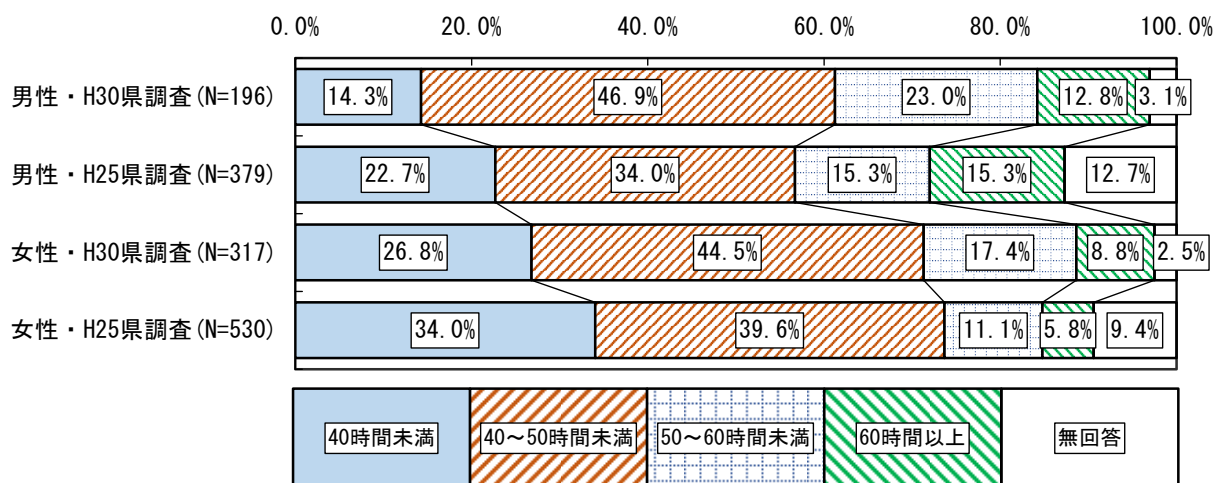
問4 あなたの現在のお仕事について、次の①～⑩までの項目について数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

①一週間の労働時間

1週間の平均的な労働時間をみると、男性では「40～50 時間未満」が 46.9%で最も多く、次いで「50～60 時間未満」(23.0%)となっている。前回調査に比べて、「40～50 時間未満」の割合が12.9ポイント上昇している。また、「50～60 時間未満」の割合も7.7ポイント上昇し、「40 時間未満」の割合が8.4ポイント低下している。

女性では「40～50 時間未満」が 44.5%で最も多く、次いで「40 時間未満」(26.8%)となっている。前回調査に比べて、「40 時間未満」の割合が7.2ポイント低下し、「50～60 時間未満」の割合が6.3ポイント上昇している。

図表 1 週間の平均的な労働時間

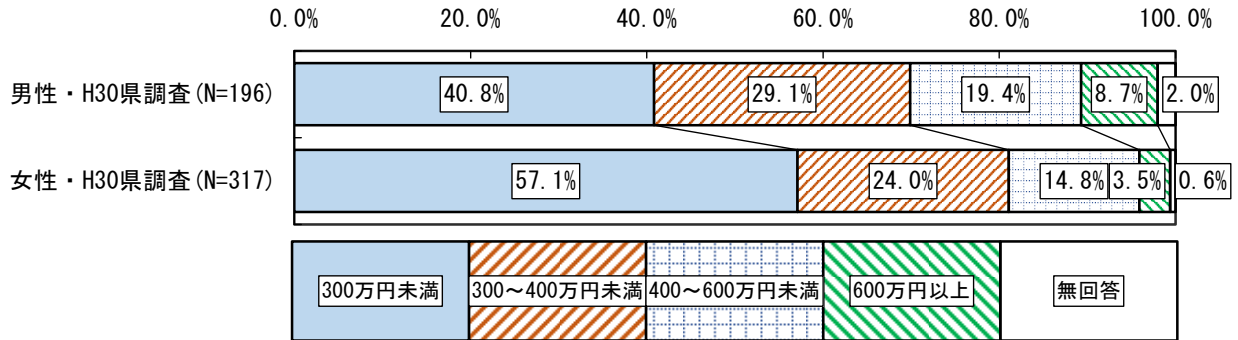


②年間の収入

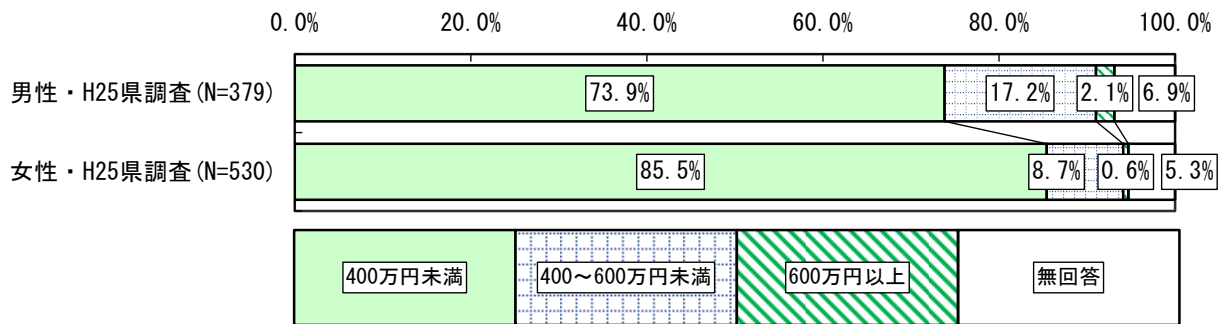
年間の収入をみると、男性では「300万円未満」が40.8%で最も多く、次いで「300～400万円未満」(29.1%)となっている。

女性では「300万円未満」が57.1%で最も多く、次いで「300～400万円未満」(24.0%)となっている。

図表 就労者の年間収入



図表 就労者の年間収入（前回）

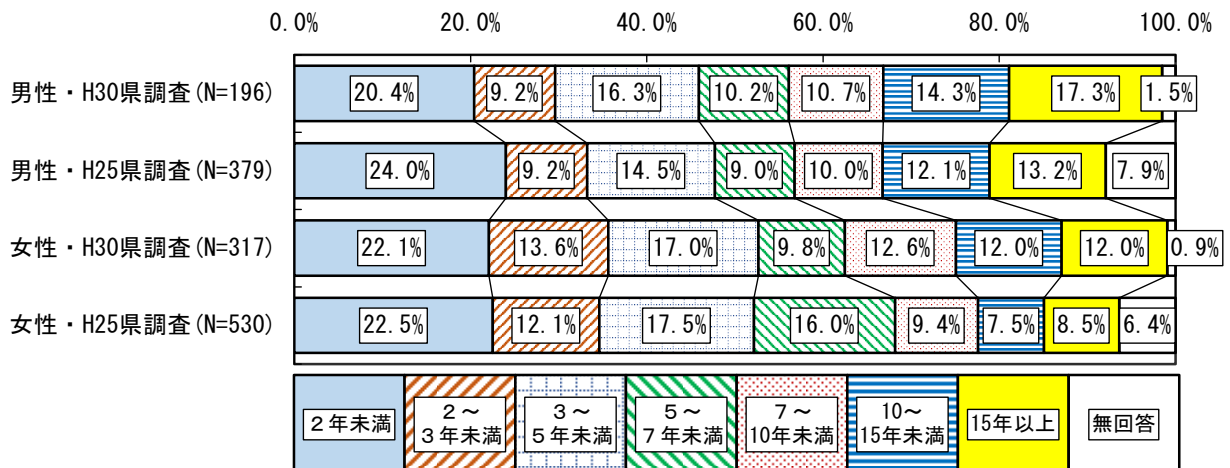


③仕事の継続年数

現在の仕事の継続年数をみると、男性では「2年未満」が20.4%で最も多く、次いで「15年以上」(17.3%)、「3～5年未満」(16.3%)となっている。前回調査に比べて、「2年未満」の割合が3.6ポイント低下し、「15年以上」の割合が4.1ポイント上昇している。

女性では「2年未満」が22.1%で最も多く、次いで「3～5年未満」(17.0%)、「2～3年未満」(13.6%)となっている。前回調査に比べて、「5～7年未満」の割合が6.2ポイント低下している。

図表 現在の仕事の継続年数

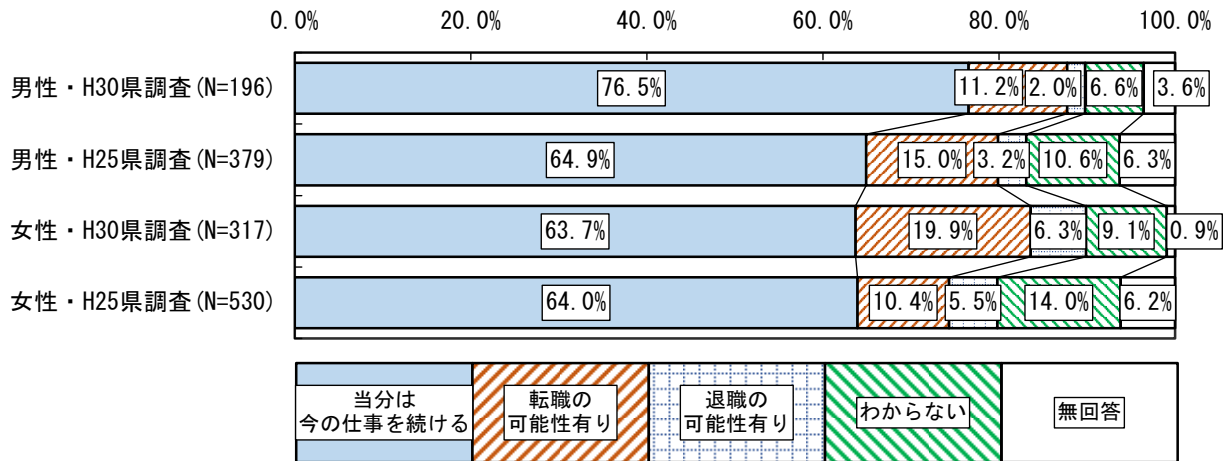


④今後の就労継続の見通し

今後の就労継続の見通しをみると、男性では「当分は今の仕事を続ける」が76.5%で最も多くなっており、転職や退職の可能性は13.2%と就労継続に比べて少ない。前回調査に比べて、「当分は今の仕事を続ける」の割合が11.6ポイント上昇している。

女性では「当分は今の仕事を続ける」が63.7%で最も多くなっており、転職や退職の可能性は26.2%と就労継続に比べて少ない。前回調査に比べて、「転職の可能性有り」の割合が9.5ポイント上昇している。

図表 今後の就労継続の見通し

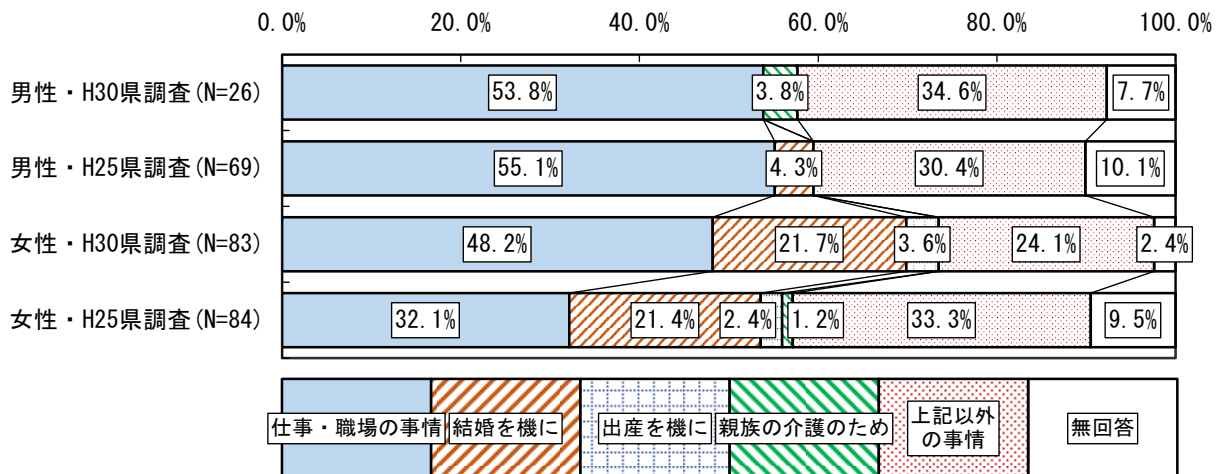


⑩転職・退職が予想される理由 (項目番号は調査票に合わせているため連番でない)

転職・退職の可能性があると回答した人の、予想される転職や退職の理由をみると、男性では、「上記以外の事情」を除いて、「仕事・職場の事情」が53.8%で最も多く、次いで「親族の介護のため」(3.8%)となっている。前回調査に比べて、各転職や退職の理由の割合に大きな変化はない。

女性では、「上記以外の事情」を除いて、「仕事・職場の事情」が48.2%で最も多く、次いで「結婚を機に」(21.7%)となっている。前回調査に比べて、「仕事・職場の事情」の割合が16.1ポイント上昇している。

図表 転職・退職が予想される理由

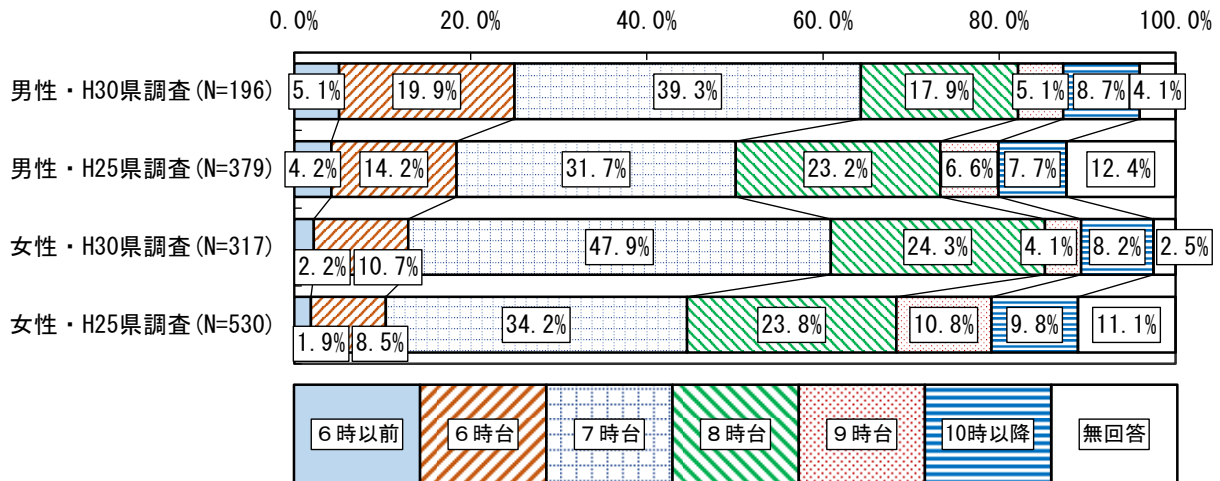


⑤平均的な出勤時刻

平均的な出勤時刻をみると、男性では「7時台」が39.3%で最も多く、次いで「6時台」(19.9%)、「8時台」(17.9%)となっている。前回調査に比べて、「7時台」の割合が7.6ポイント、「6時台」の割合が5.7ポイント上昇し、「8時台」の割合が5.3ポイント低下している。

女性では「7時台」が47.9%で最も多く、次いで「8時台」(24.3%)、「6時台」(10.7%)となっている。前回調査に比べて、「7時台」の割合が13.7ポイント上昇し、「9時台」の割合が6.7ポイント低下している。

図表 平均的な出勤時刻

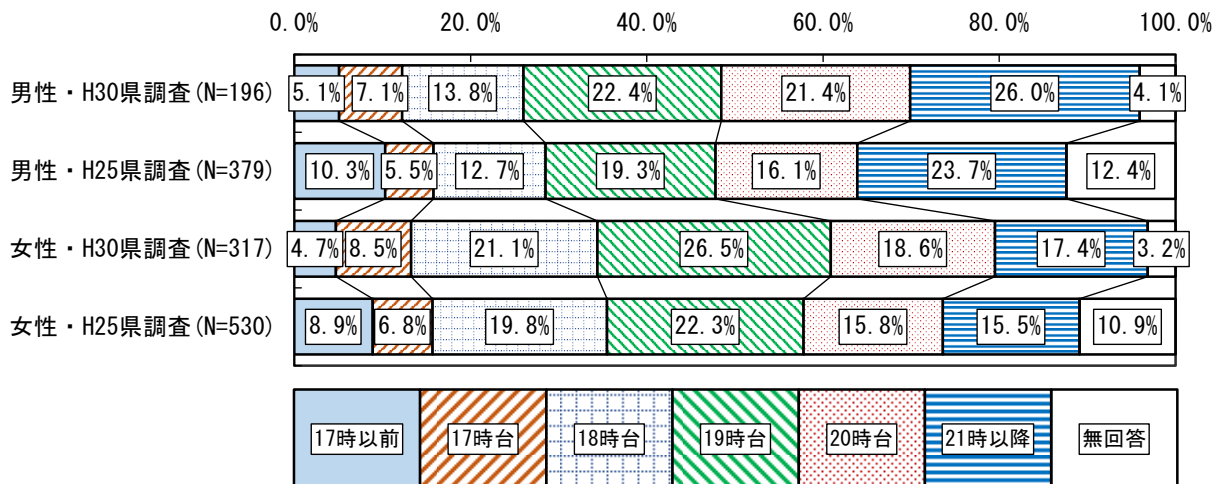


⑥平均的な帰宅時刻

平均的な帰宅時刻をみると、男性では「21時以降」が26.0%で最も多く、次いで「19時台」(22.4%)、「20時台」(21.4%)となっている。前回調査に比べて、「17時以前」の割合が5.2ポイント低下し、「20時台」の割合が5.3ポイント上昇している。

女性では「19時台」が26.5%で最も多く、次いで「18時台」(21.1%)、「20時台」(18.6%)となっている。前回調査に比べて、「17時以前」の割合が4.2ポイント低下し、「19時台」の割合が4.2ポイント上昇している。

図表 平均的な帰宅時刻

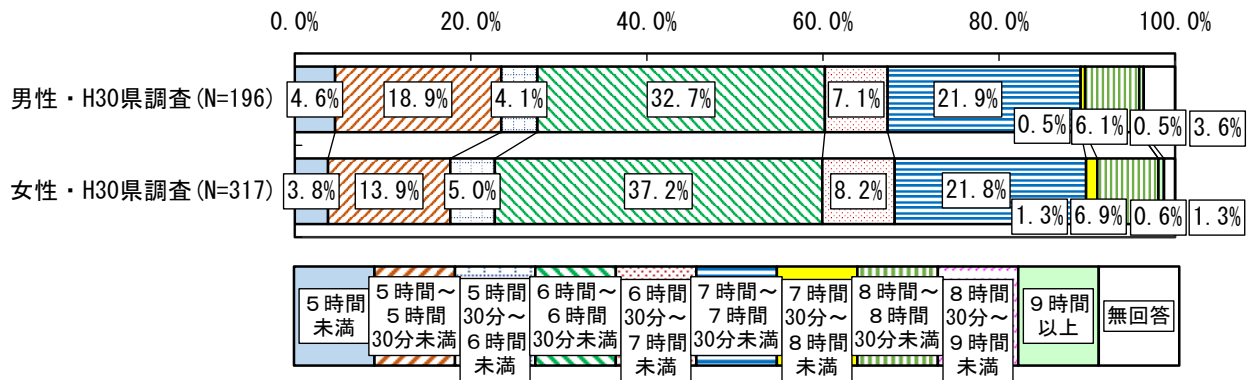


⑦勤務日の睡眠時間

勤務日の睡眠時間をみると、男性では「6時間～6時間30分未満」が32.7%で最も多く、次いで「7時間～7時間30分未満」(21.9%)、「5時間～5時間30分未満」(18.9%)となっている。

女性では「6時間～6時間30分未満」が37.2%で最も多く、次いで「7時間～7時間30分未満」(21.8%)、「5時間～5時間30分未満」(13.9%)となっている。

図表 勤務日の睡眠時間

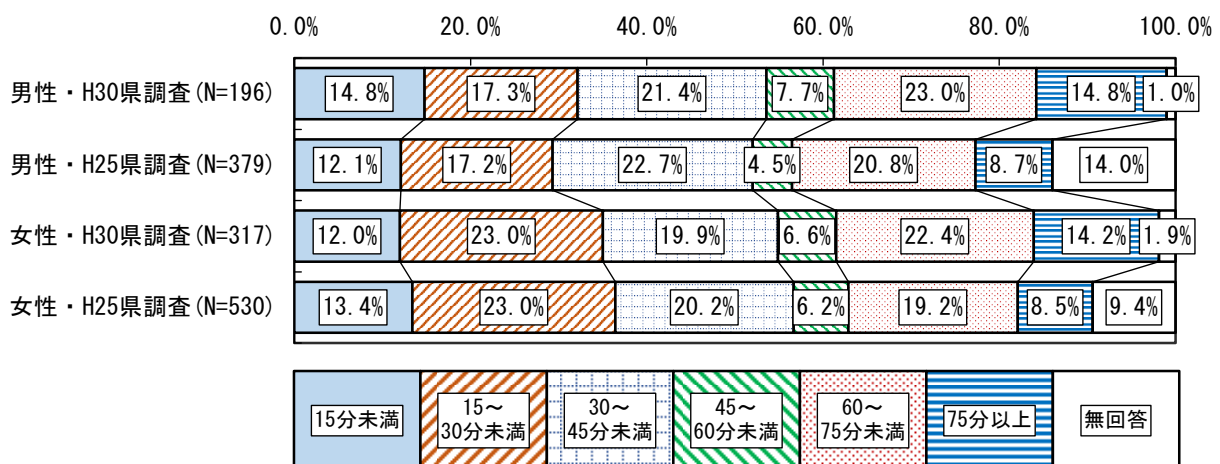


⑧通勤時間（片道）

通勤時間（片道）をみると、男性では「60～75分未満」が23.0%で最も多く、次いで「30～45分未満」(21.4%)、「15～30分未満」(17.3%)となっている。前回調査に比べて、「75分以上」の割合が6.1ポイント上昇している。

女性では「15～30分未満」が23.0%で最も多く、次いで「60～75分未満」(22.4%)、「30～45分未満」(19.9%)となっている。前回調査に比べて、「75分以上」の割合が5.7ポイント上昇している。

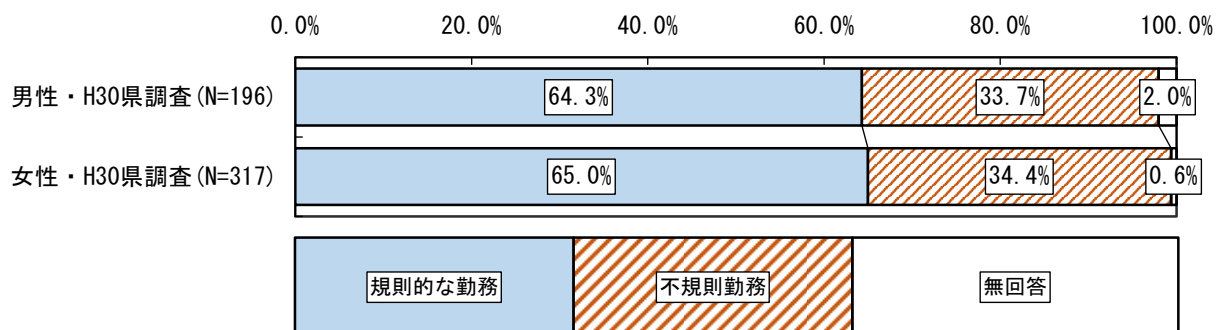
図表 通勤時間



⑨不規則勤務であるか

不規則勤務（夜勤またはシフト制勤務）であるかをみると、男性では「不規則勤務」が 33.7%、女性では「不規則勤務」が 34.4%となっている。

図表 不規則勤務であるか



3 結婚観

(1) 結婚することの利点の有無

問5 今のあなたにとって、結婚することには何か利点があると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の具体的な利点の中から最大の利点と第二の利点をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

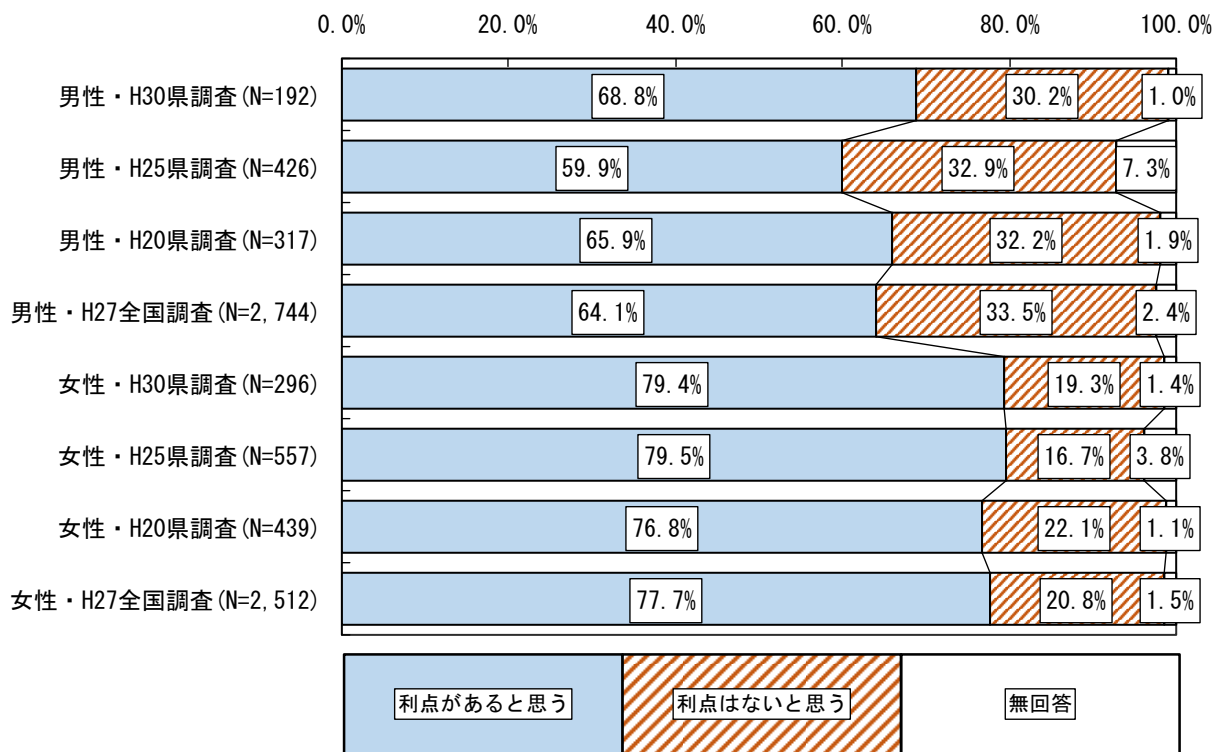
①結婚することの利点の有無

結婚経験のない20～39歳の、結婚することの利点の有無をみると、男性では「利点があると思う」が68.8%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が8.9ポイント上昇している。

女性では「利点があると思う」が79.4%となっている。前回調査に比べて、回答の割合に大きな変化はない。

全国調査と比較すると「利点があると思う」の割合は、男性では4.7ポイント、女性では1.7ポイント上回っている。また、「利点があると思う」男性の割合は、女性に比べて10.6ポイント低い。

図表 結婚することの利点の有無



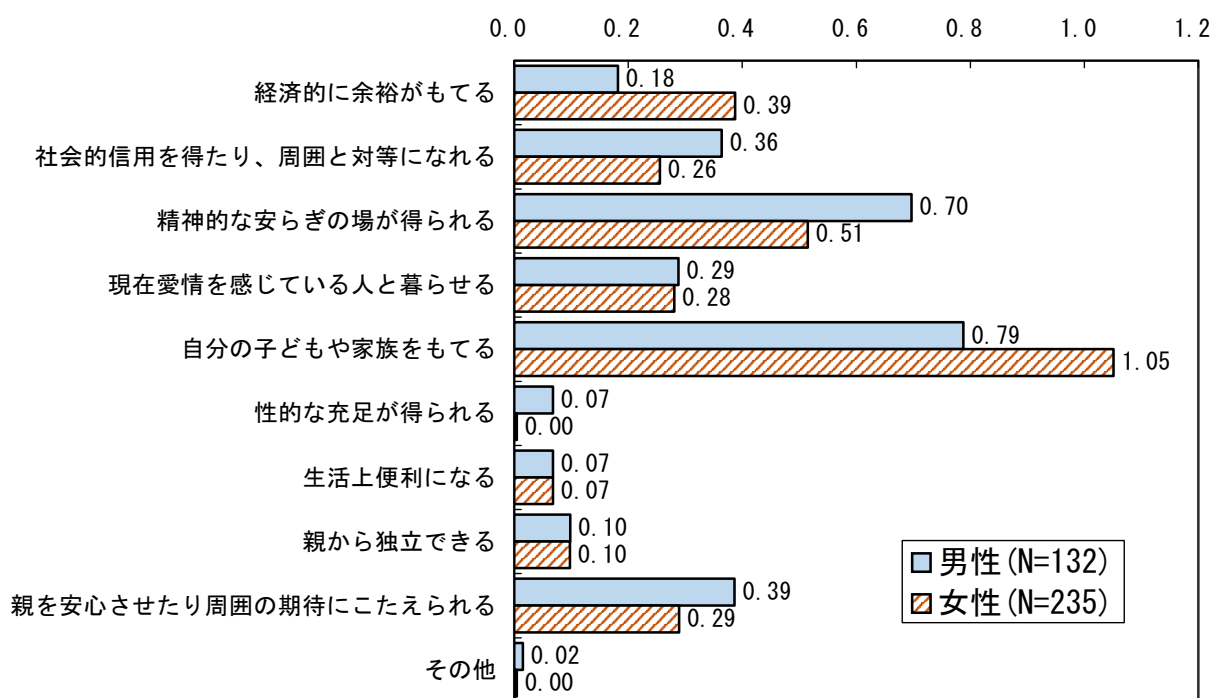
※結婚経験のない20～39歳

②結婚することの具体的な利点

結婚経験のない 20～39 歳の、結婚することの具体的な利点をみると、男性では「自分の子どもや家族をもてる」が 0.79 点で最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」(0.70 点)、「親を安心させたり周囲の期待にこたえられる」(0.39 点)となっている。

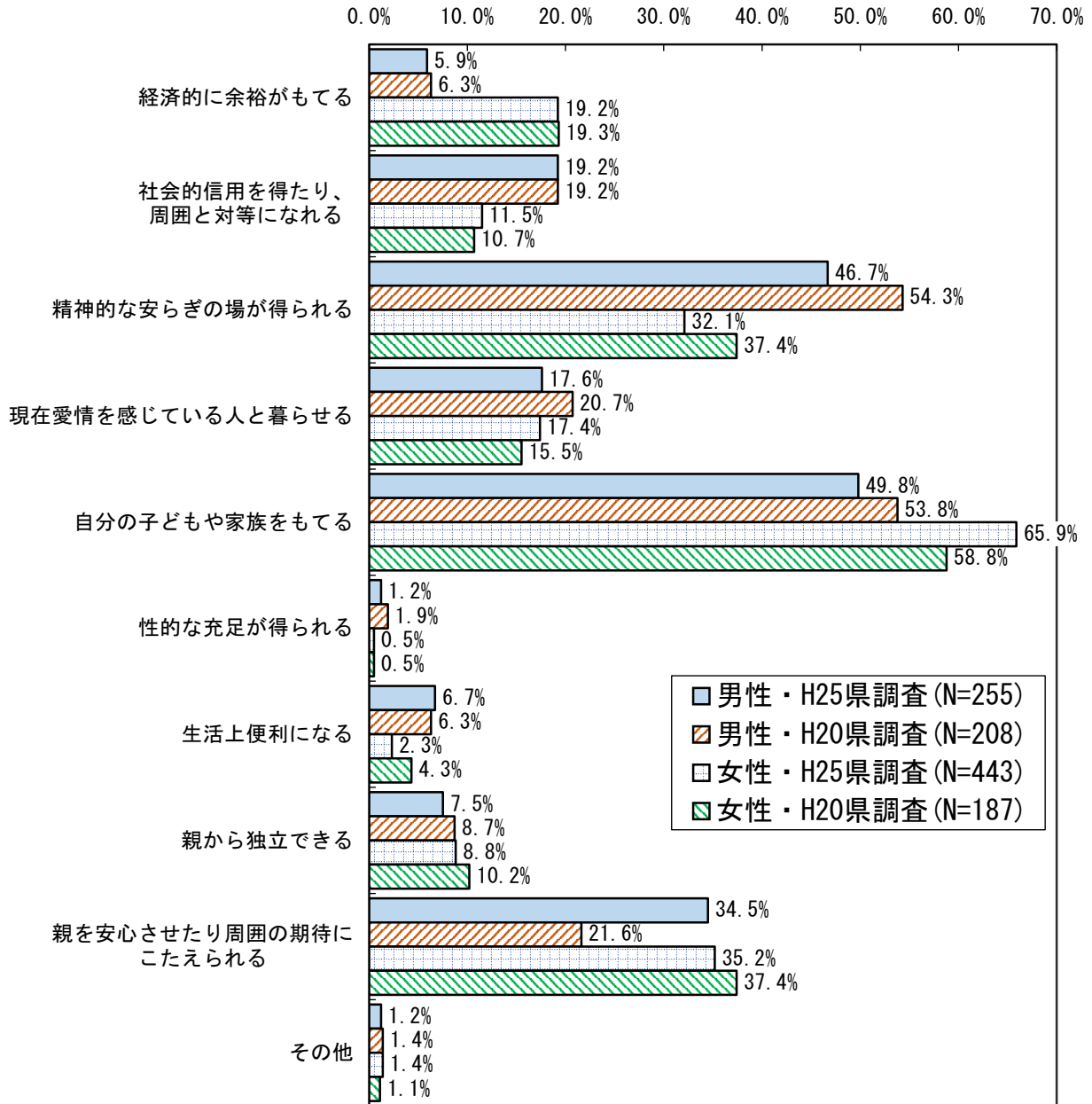
女性では「自分の子どもや家族をもてる」が 1.05 点で最も多く、次いで「精神的な安らぎの場が得られる」(0.51 点)、「経済的に余裕がもてる」(0.39 点)となっている。

図表 結婚することの具体的な利点（2つ選択）



※結婚経験のない 20～39 歳について、最大の理由＝2 点、第二の理由＝1 点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした。

(参考) 図表 結婚することの具体的な利点 (過去調査)



※結婚経験のない20~39歳

(2) 独身生活の利点の有無

問6 それでは逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の具体的な利点の中から最大の利点と第二の利点をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

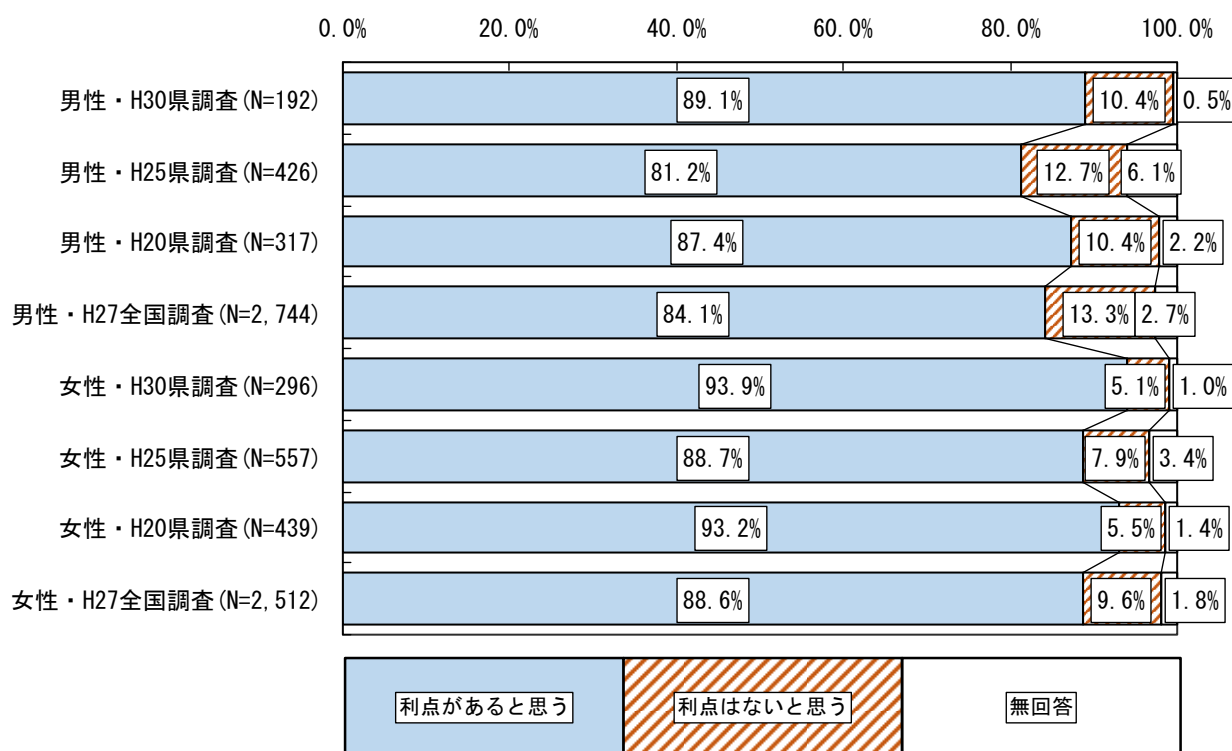
①独身生活の利点の有無

結婚経験のない20～39歳の、独身生活の利点の有無をみると、男性では「利点があると思う」が89.1%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が7.9ポイント上昇している。

女性では「利点があると思う」が93.9%となっている。前回調査に比べて、「利点があると思う」の割合が5.2ポイント上昇している。

全国調査と比較すると「利点があると思う」の割合は、男性では5.0ポイント、女性では5.3ポイント上回っている。また、「利点があると思う」男性の割合は、女性に比べて4.8ポイント低い。

図表 独身生活の利点



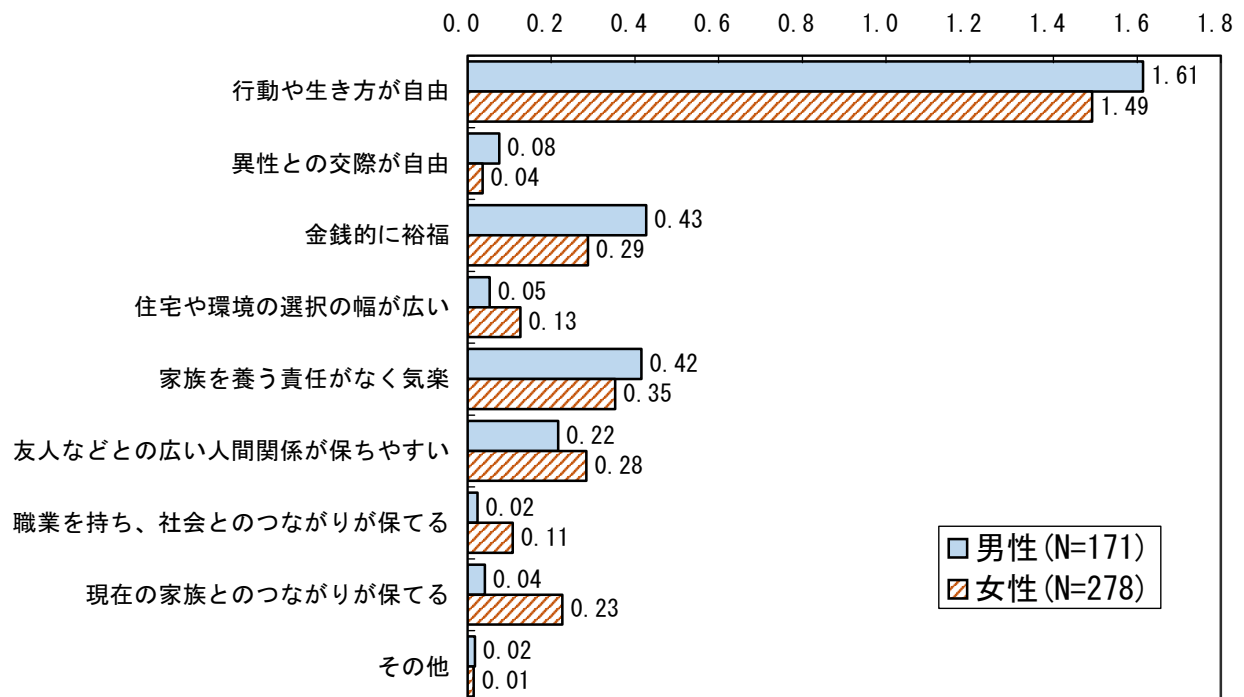
※結婚経験のない20～39歳

②独身生活の具体的な利点

結婚経験のない 20～39 歳の、独身生活の具体的な利点をみると、男性では「行動や生き方が自由」が 1.61 点で最も多く、次いで「金銭的に裕福」(0.43 点)、「家族を養う責任がなく気楽」(0.42 点)となっている。

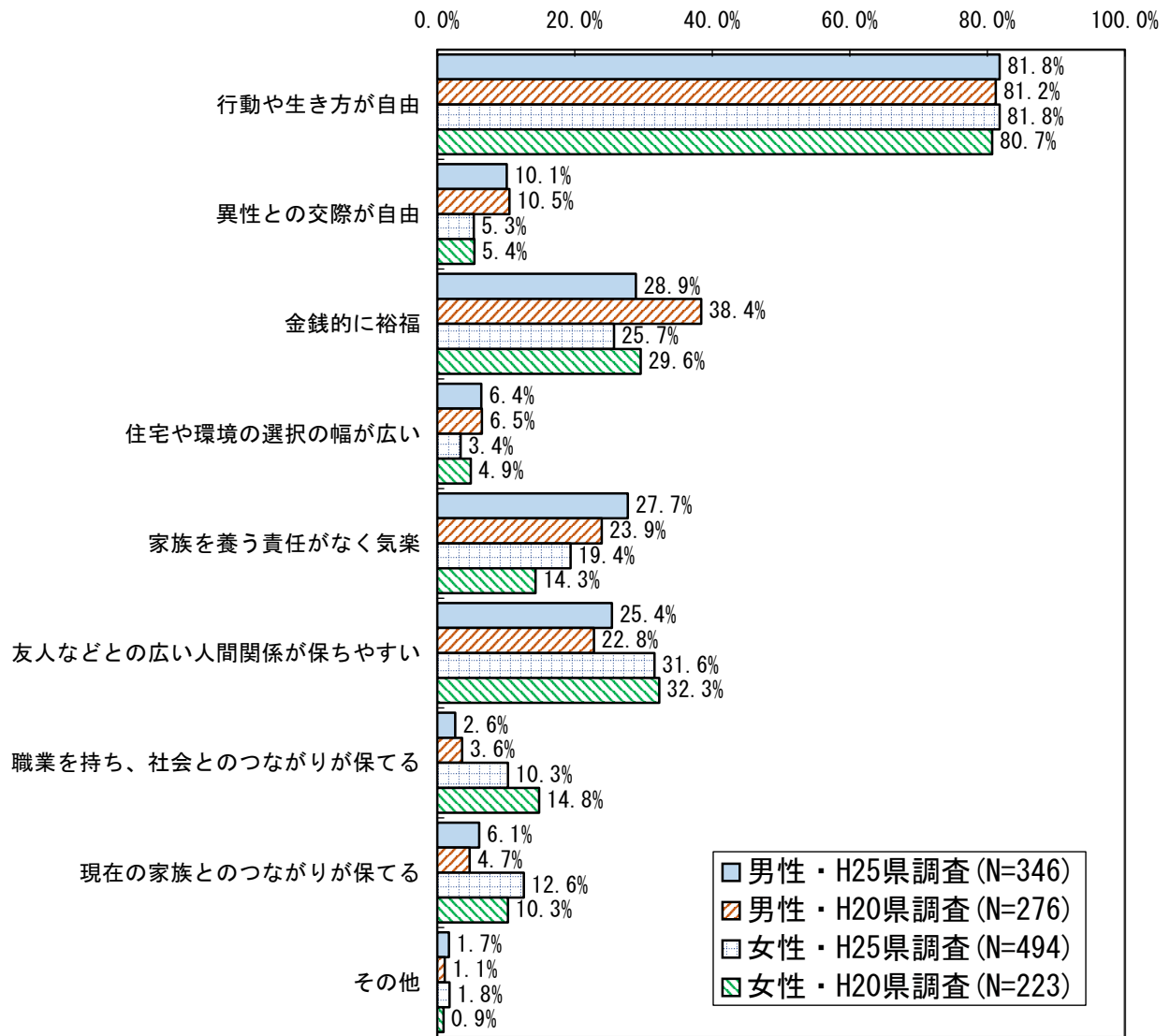
女性では「行動や生き方が自由」が 1.49 点で最も多く、次いで「家族を養う責任がなく気楽」(0.35 点)、「金銭的に裕福」(0.29 点)となっている。

図表 独身生活の具体的な利点 (2つ選択)



※最大の理由=2点、第二の理由=1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした。

(参考) 図表 独身生活の具体的な利点 (過去調査)



※結婚経験のない20～39歳

(3) 希望するライフコース

問7 下記に女性・男性の生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ最も近いと思われるタイプの番号を選択肢から選び、回答欄に記入してください。

独身者は「結婚・出産・子育て」と「就業」との関係をどのように考えているのか、理想とするライフコースと実際になりそうなライフコースについてそれぞれたずねた。

(3) - 1 女性のライフコース

①あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
 ②理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。
 (男性の方へ) ③パートナー(あるいは妻)となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

女性	非婚就業コース	結婚せず、仕事を続ける
	DINKSコース	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
	両立コース	結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける
	再就職コース	結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
	専業主婦コース	結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない

【女性の理想のライフコース】

18～19歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「専業主婦コース」となっている。

20～24歳、25～29歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。

30～34歳では「再就職コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」「専業主婦コース」となっている。

35～39歳、45～49歳では「両立コース」の割合が最も多く、40～44歳では「再就職コース」の割合が最も多い。

【女性の予定のライフコース】

18～19歳では「再就職コース」の割合が最も多く、次いで「非婚就業コース」となっている。

20～24歳、25～29歳では「再就職コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」となっている。

30～34歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。

35～39歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」「再就職コース」が同率となっている。

40～44歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「DINKSコース」「再就職コース」が同率となっている。

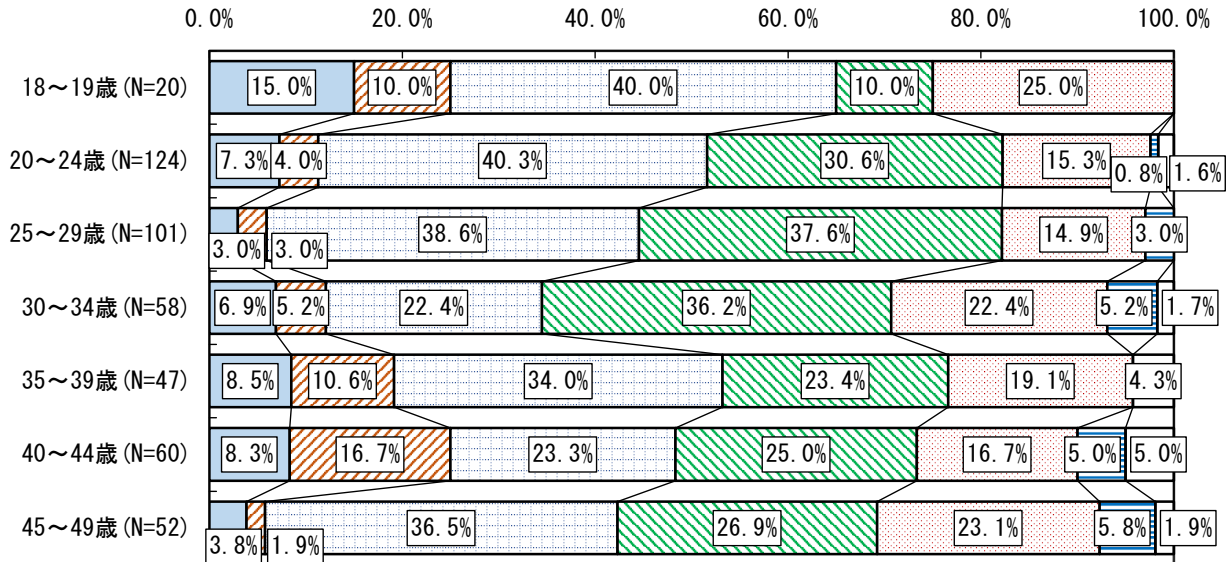
45～49歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。

また、「非婚就業コース」及び「DINKSコース」の割合は、25～29歳(合計25.8%)で最も少なく、40～44歳(合計71.7%)で最も多くなっている。

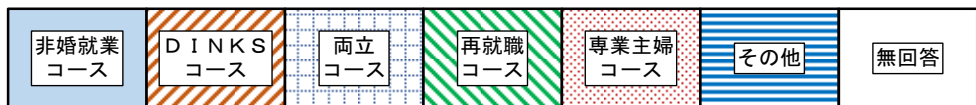
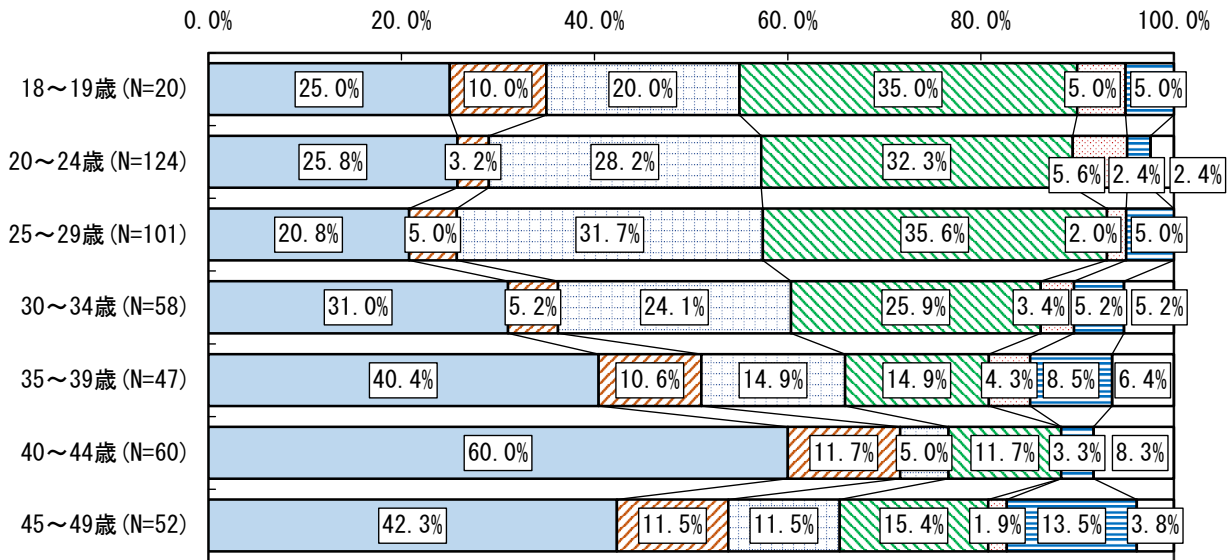
【男性が期待する女性のライフコース】

18～19歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。
 20～24歳では「再就職コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」となっている。
 25～29歳、30～34歳、35～39歳、40～44歳では「両立コース」の割合が最も多く、次いで「再就職コース」となっている。
 45～49歳では「再就職コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース」となっている。

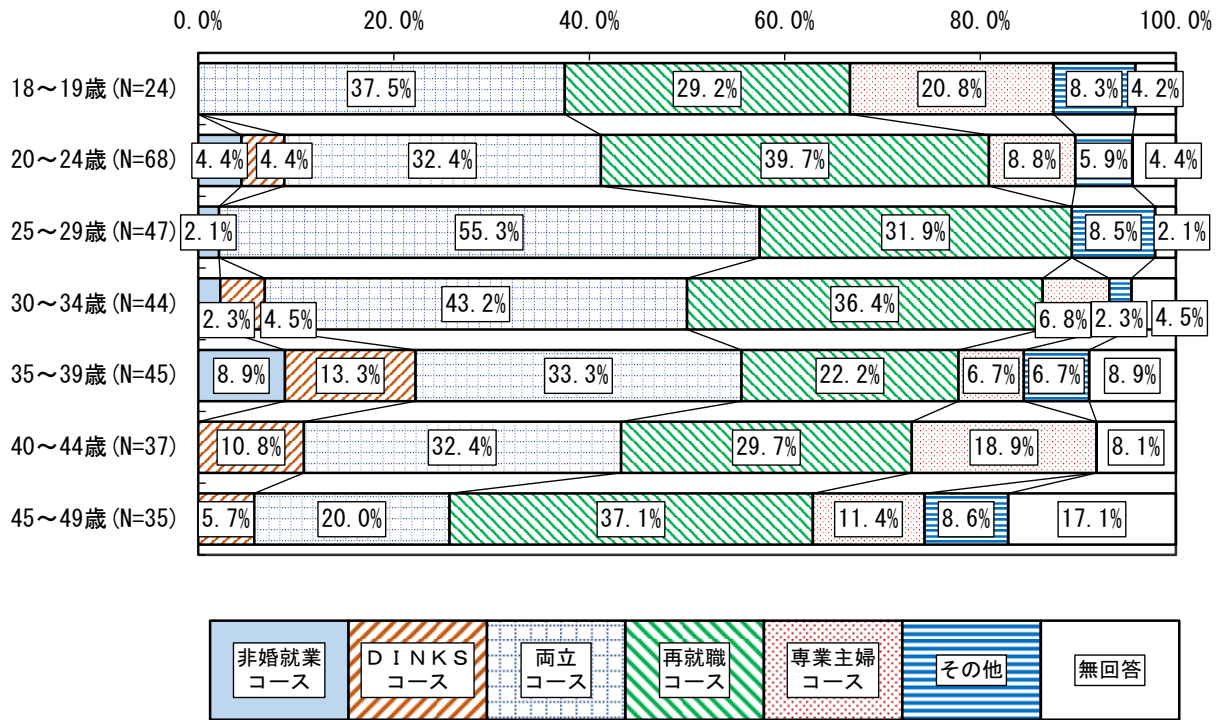
図表 年齢別 女性が理想とするライフコース



図表 年齢別 女性が実際に予定するライフコース



図表 年齢別 男性が女性に期待するライフコース



(3) - 2 男性のライフコース

- ①あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
- ②理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。
- (女性の方へ) ③パートナー(あるいは夫)となる男性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

男性	非婚就業コース	結婚せず、仕事を続ける
	DINKSコース	結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける
	仕事中心コース	結婚し、子どもを持つが、子育てはパートナー(妻)にまかせて、仕事を中心とした生活を送る
	両立コース(できるだけ子育て参加)	結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、できるだけ子育てにも参加する
	両立コース(積極的に子育て参加)	結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、積極的に子育てにも参加する
	専業主夫コース	結婚し、子どもを持つが、仕事はパートナー(妻)にまかせて、仕事を辞め、家庭を中心とした生活を送る

【男性の理想のライフコース】

18～19歳、20～24歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

25～29歳、30～34歳では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(積極的に子育て参加)」となっている。

35～39歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

40～44歳、45～49歳では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(積極的に子育て参加)」となっている。

【男性の予定のライフコース】

18～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳、35～39歳では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「非婚就業コース」となっている。

40～44歳、45～49歳では「非婚就業コース」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

【女性が期待する男性のライフコース】

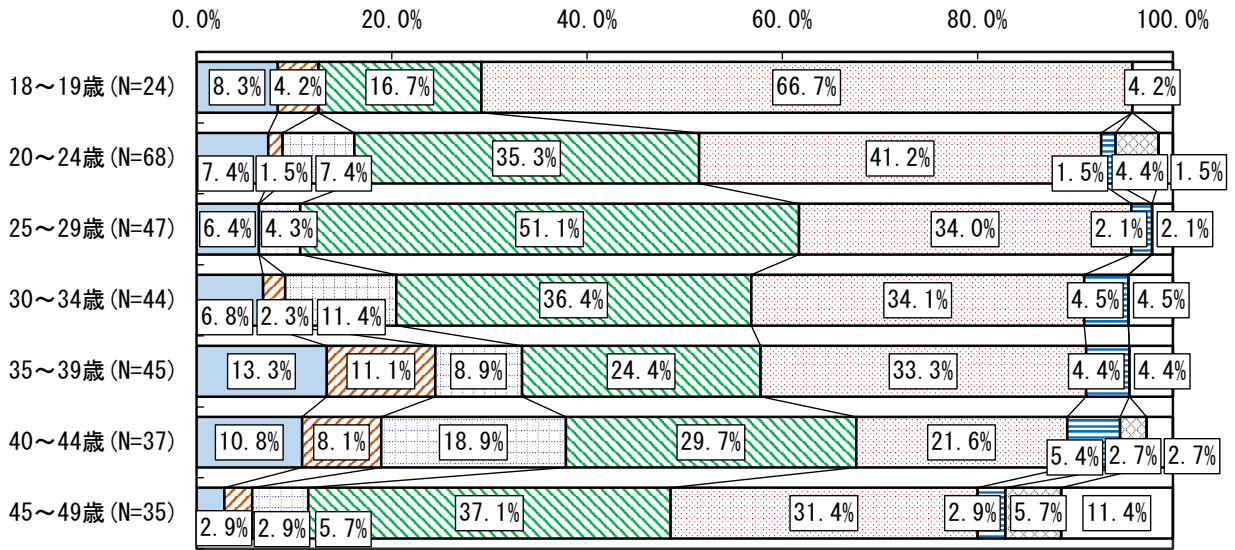
18～19歳、20～24歳、25～29歳、30～34歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

35～39歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く同率となっている。

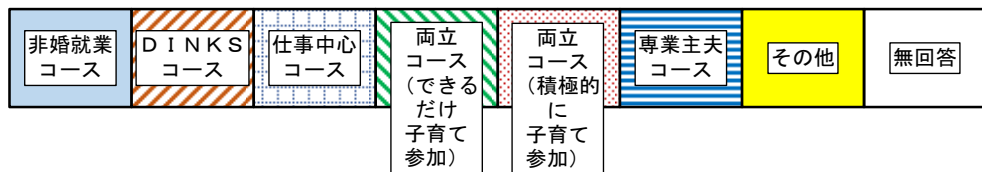
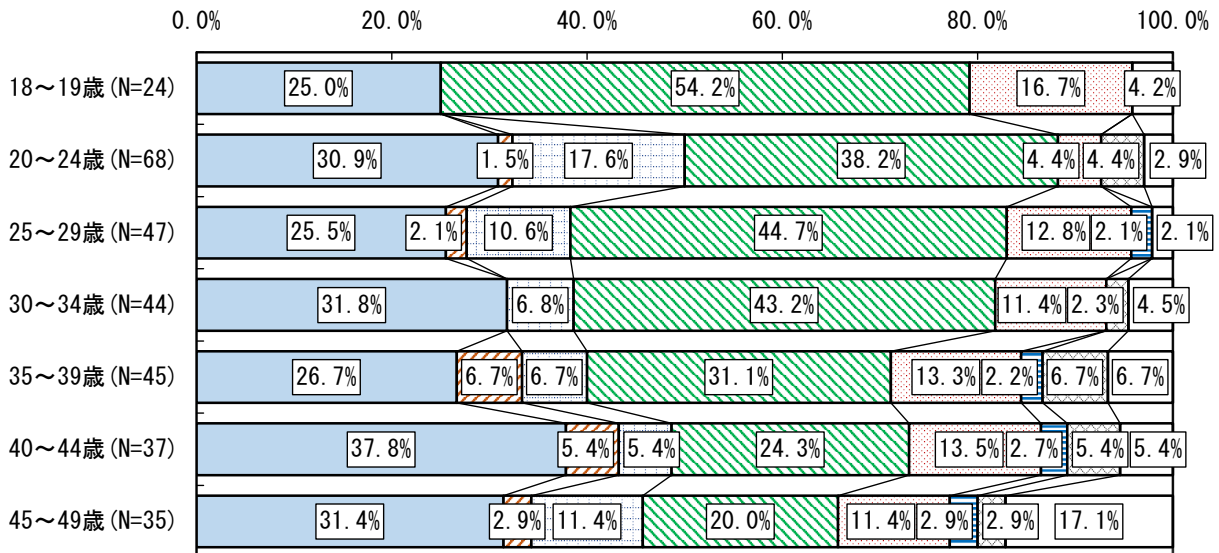
40～44歳では「両立コース(積極的に子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(できるだけ子育て参加)」となっている。

45～49歳では「両立コース(できるだけ子育て参加)」の割合が最も多く、次いで「両立コース(積極的に子育て参加)」となっている。

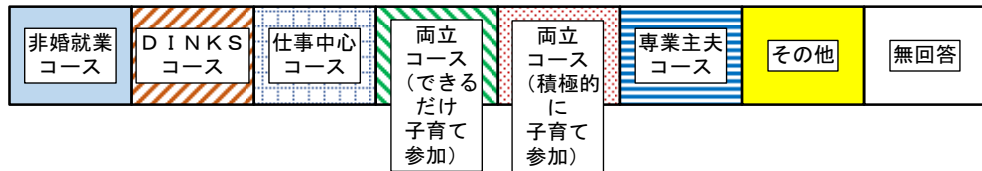
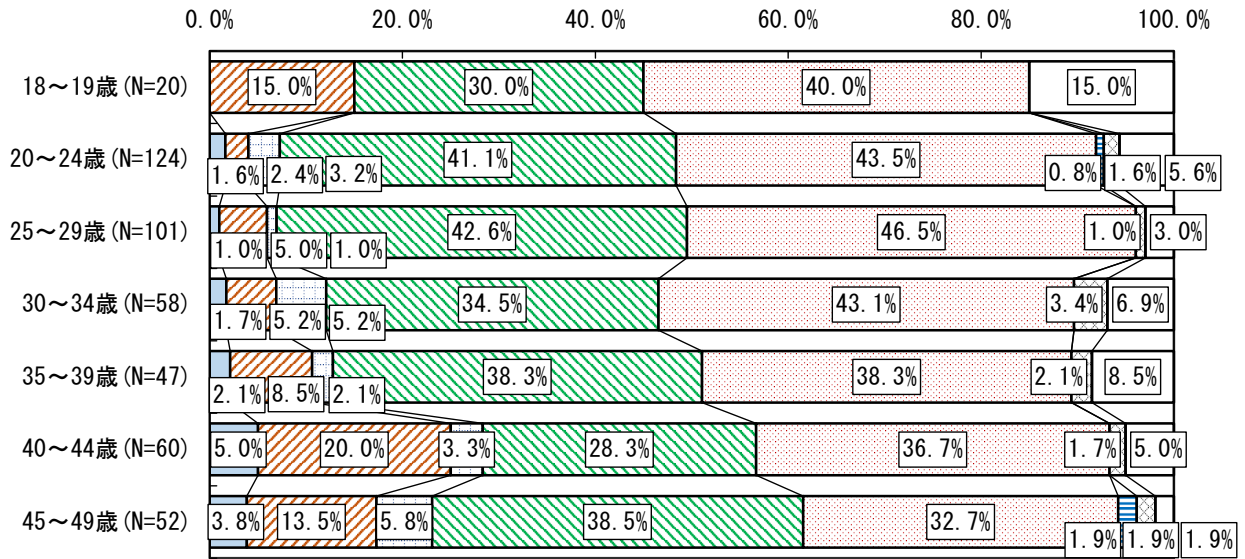
図表 年齢別 男性が理想とするライフコース



図表 年齢別 男性が実際に予定するライフコース



図表 年齢別 女性が男性に期待するライフコース



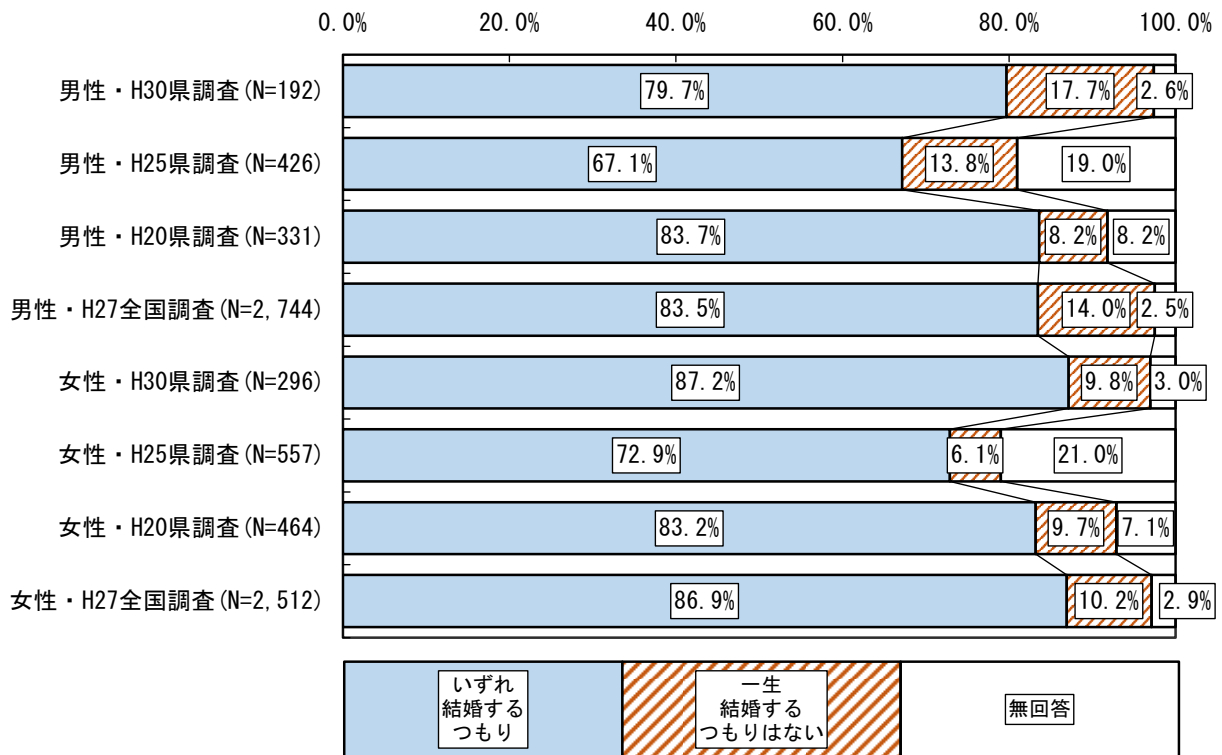
(4) 結婚意欲

問8 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。(〇は1つ)

結婚経験のない20～39歳の、結婚意欲をみると、男性では「いずれ結婚するつもり」が79.7%となり、前回調査に比べて、12.6ポイント上昇している。女性では「いずれ結婚するつもり」が87.2%となっており、前回調査に比べて、14.3ポイント上昇している。

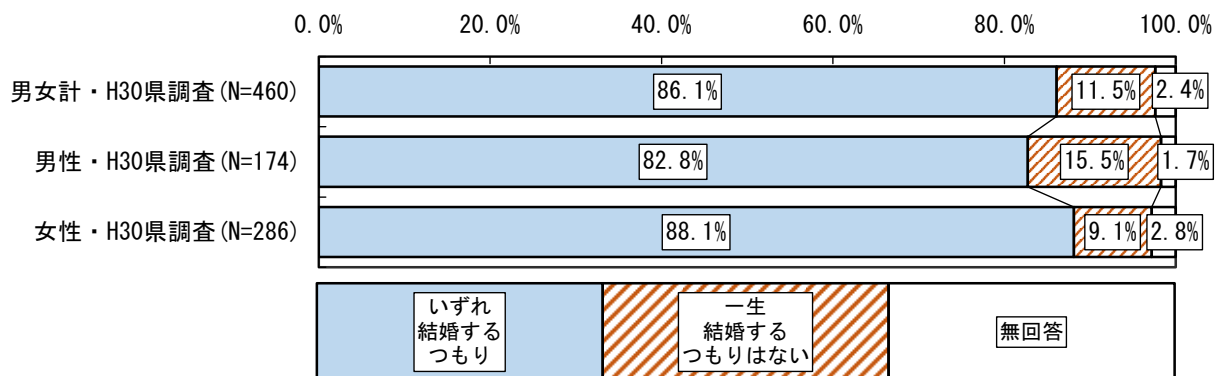
男女ともに、「いずれ結婚するつもり」の割合は全国と比べほぼ同程度であり、若年層をみても結婚意欲は高い。

図表 結婚意欲



※結婚経験のない20～39歳

図表 若年層の結婚意欲



※35歳未満の結婚経験のない未婚者（性別不明を除く）

(5) 結婚時期についての考え

問9～13は、問8で1に○をつけた方（いずれ結婚するつもりの方）にうかがいます。2に○をつけた方は問14に進んでください。

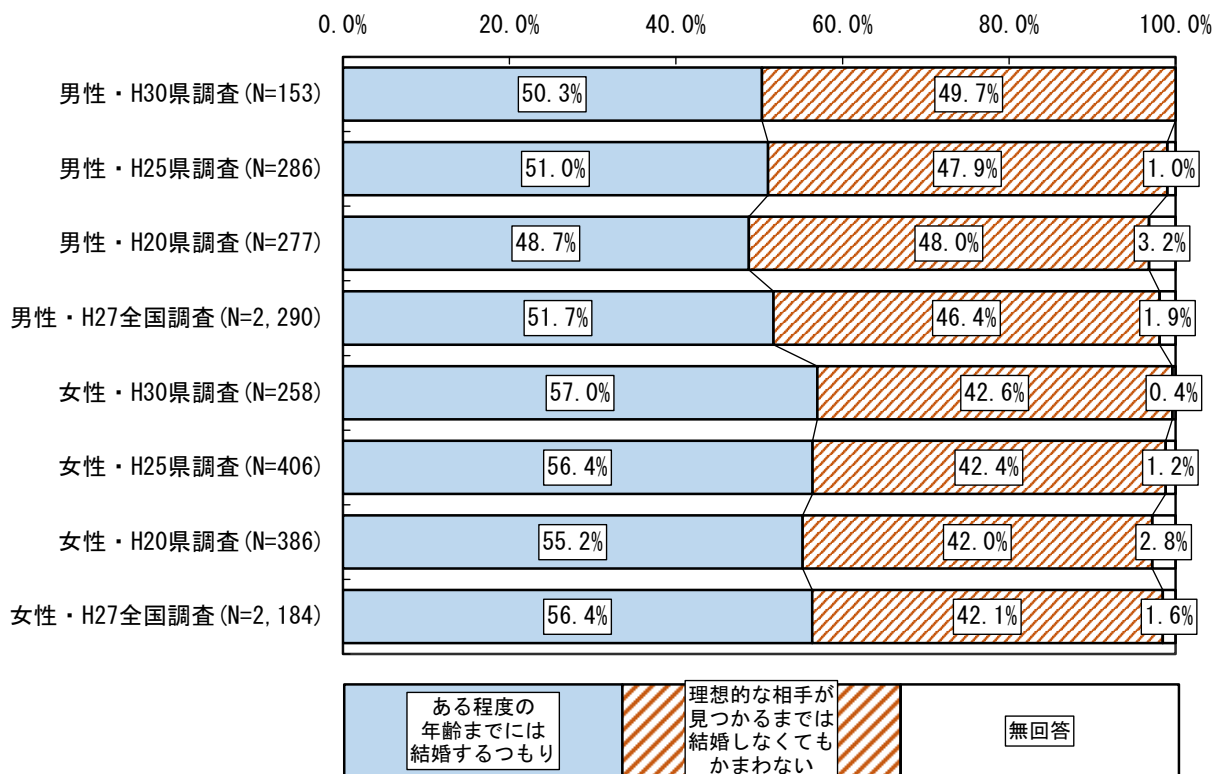
問9 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。（○は1つ）

結婚経験のない20～39歳の、結婚時期についての考えをみると、男性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が50.3%となっており、前回調査に比べて、回答の割合に大きな変化はない。

女性では「ある程度の年齢までには結婚するつもり」が57.0%となっており、前回調査に比べて大きな差はない。

男女ともに、すべての回答結果について、全国調査の結果とほぼ同程度になっている。

図表 結婚時期についての考え



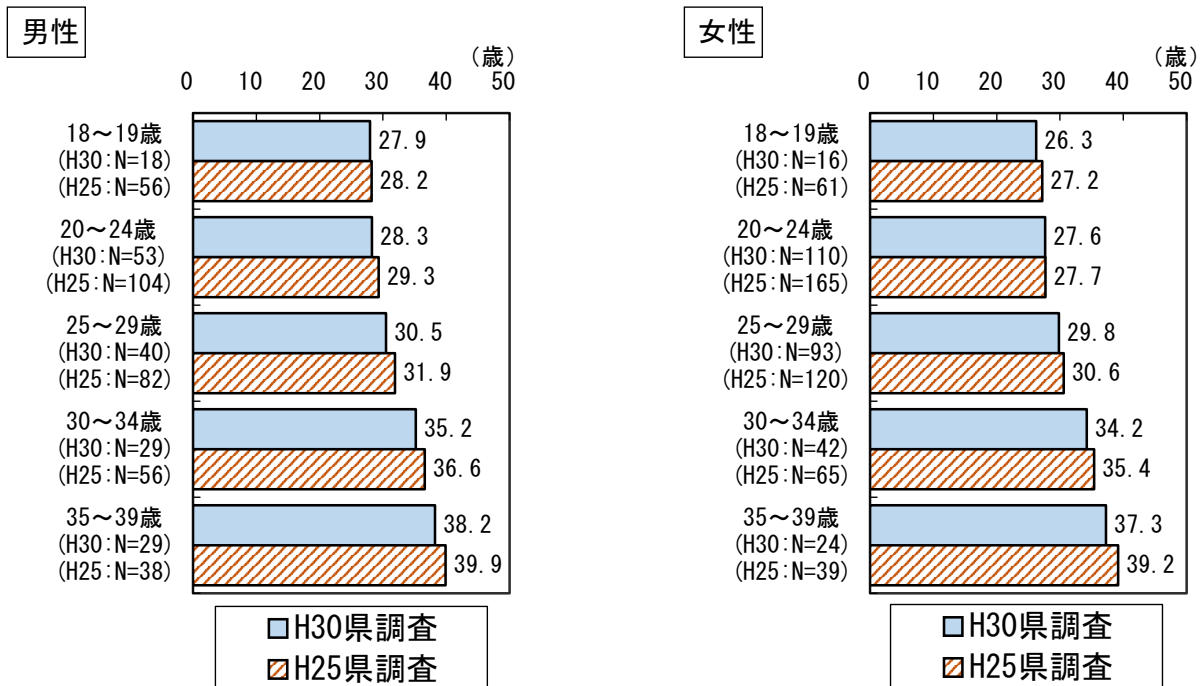
※結婚経験のない20～39歳

(6) 希望結婚年齢

問 10 あなたは何歳ぐらいのときに結婚したいと思いますか。希望する年齢を（ ）内に記入してください。

各年代の独身者が希望する結婚年齢の平均をみると、前回調査の結果に比べて、男女ともにすべての年代で低下している。

図表 希望結婚年齢



※いずれ結婚するつもりの方の独身者（40歳以上及び年齢不詳除く）

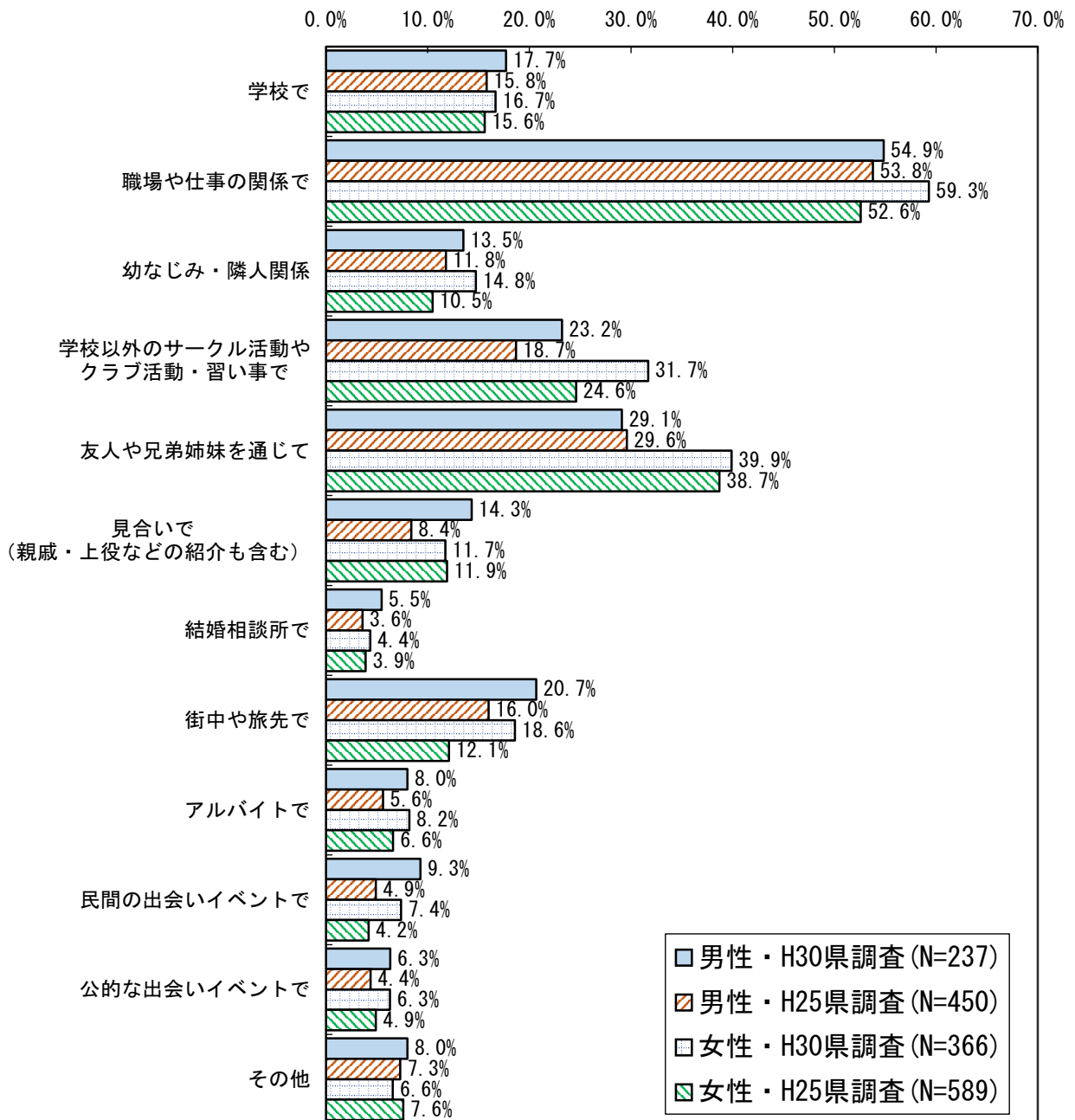
(7) 交際相手と知り合うきっかけの希望

問11 あなたはどのようなきっかけで交際相手と知り合いたいですか。(〇は3つまで)

交際相手と知り合うきっかけの希望をみると、男性では「職場や仕事の関係で」が54.9%で最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」(29.1%)、「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で」(23.2%)となっている。前回調査に比べて、「見合いで」の割合が5.9ポイント上昇している。

女性では「職場や仕事の関係で」が59.3%で最も多く、次いで「友人や兄弟姉妹を通じて」(39.9%)、「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で」(31.7%)となっている。前回調査に比べて、「学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で」「職場や仕事の関係で」「街中や旅先で」の割合がそれぞれ約7ポイント上昇している。

図表 交際相手と知り合うきっかけの希望 (3つ選択)



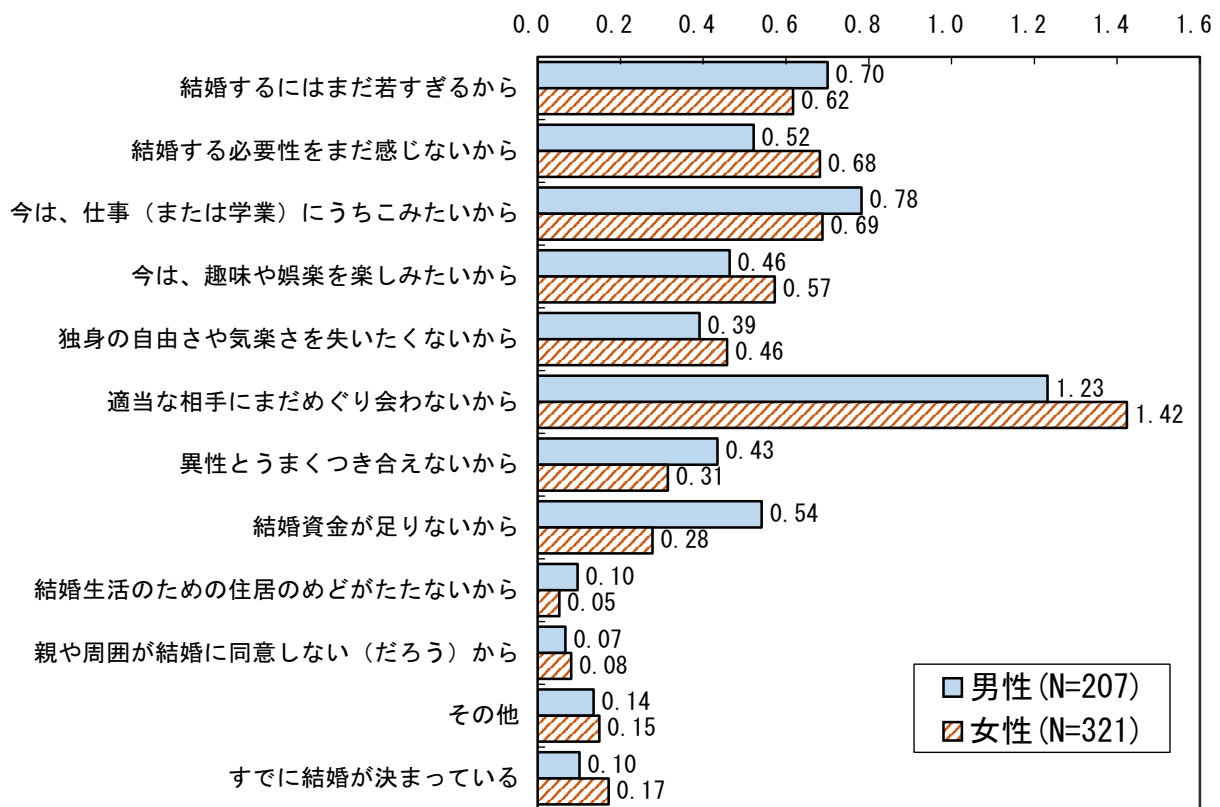
(8) 現在独身でいる理由

問 12 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。自分にあてはまると思われる最大の理由、第二の理由、第三の理由をそれぞれ1つ選んで、右の回答欄に番号を記入してください（すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に12と記入してください）

現在独身でいる理由をみると、男性では「適切な相手にまだめぐり会わないから」が1.23点で最も多く、次いで「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」（0.78点）、「結婚するにはまだ若すぎるから」（0.70点）となっている。

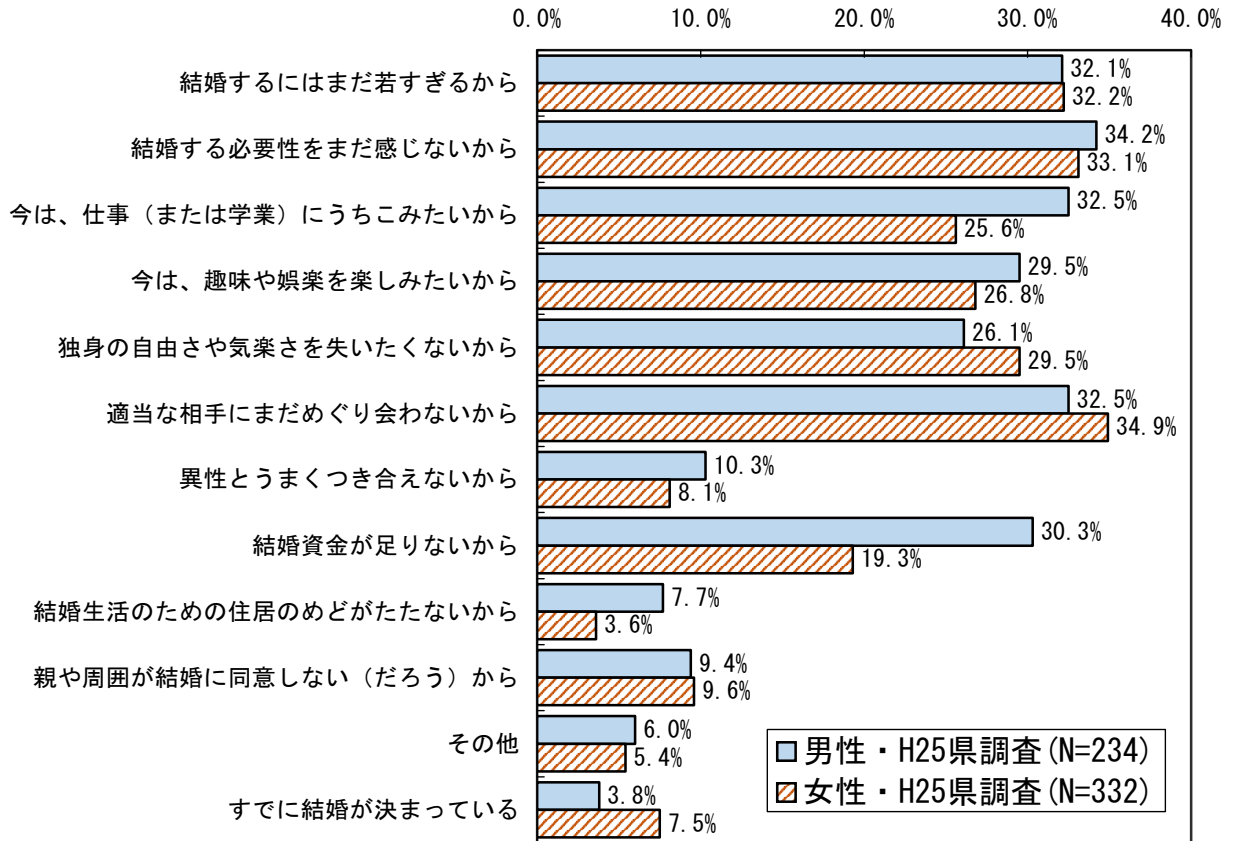
女性では「適切な相手にまだめぐり会わないから」が1.42点で最も多く、次いで「今は、仕事（または学業）にうちこみたいから」（0.69点）、「結婚する必要性をまだ感じないから」（0.68点）となっている。

図表 現在独身でいる理由（あてはまる理由を3つ選択）



※結婚経験のない方について、最大の理由＝3点、第二の理由＝2点、第三の理由＝1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした。

(参考) 図表 現在独身でいる理由 (前回)



(9) 結婚相手を決める際に重視すること

問 13 あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑤の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。また、その他に重視することがある場合は、⑥に具体的に記入ください。

「①相手の経済力」をみると、「重視する」の割合は、男性では 9.0%、女性では 50.4%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 38.9%、女性では 3.2%となっている。

「②相手の性格」をみると、「重視する」の割合は、男性では 77.8%、女性では 92.1%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 0.7%、女性では 0.0%となっている。

「③自分の仕事や生き方に対する理解と協力」をみると、「重視する」の割合は、男性では 68.8%、女性では 65.1%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 2.8%、女性では 2.8%となっている。

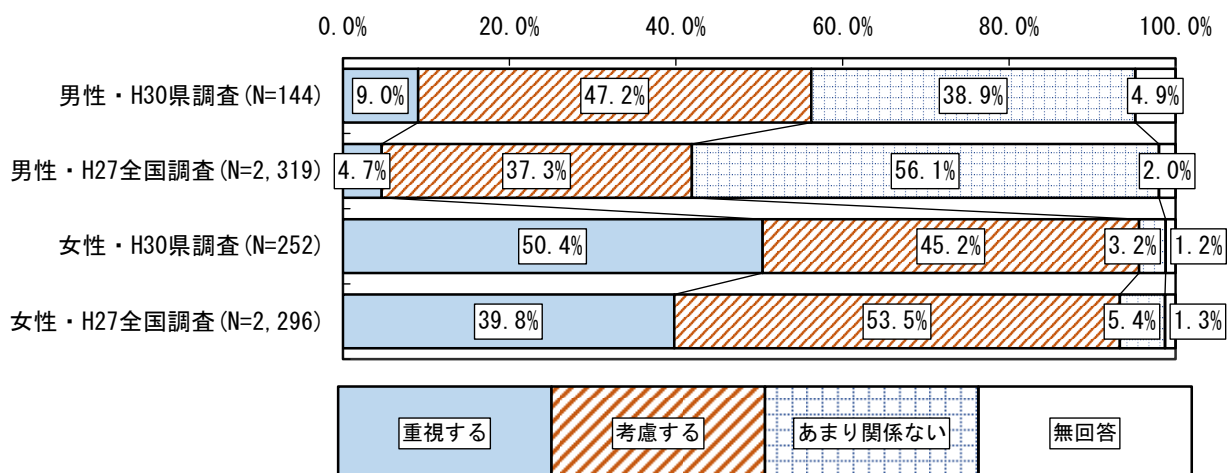
「④家事・育児に対する能力や姿勢」をみると、「重視する」の割合は、男性では 47.9%、女性では 42.9%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 5.6%、女性では 3.6%となっている。

「⑤価値観が合うこと」をみると、「重視する」の割合は、男性では 74.3%、女性では 79.4%となっている。「あまり関係ない」の割合は、男性では 4.2%、女性では 2.4%となっている。

全体として、相手の経済力については、重視する程度の性差が他の項目に比べて大きい。他の項目については、大きな性差はみられない。

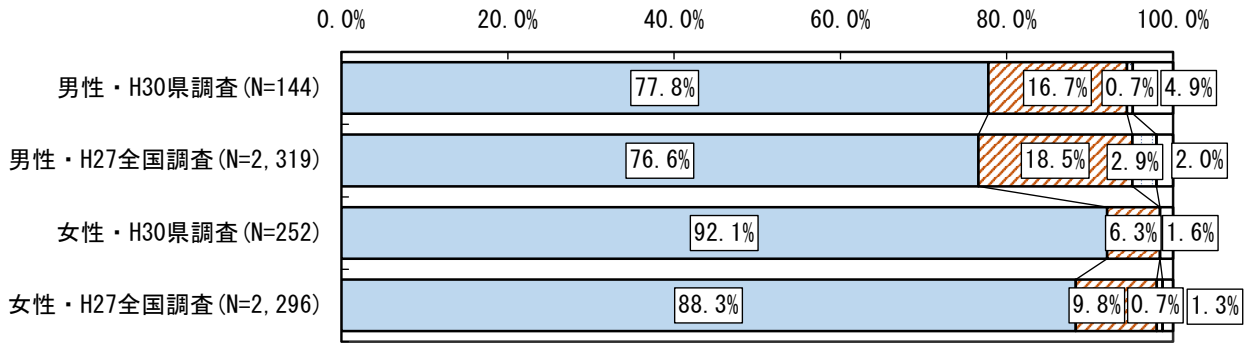
また、奈良県と全国で比較すると、女性では、全国より「相手の経済力」を重視し、「家事・育児に対する能力や姿勢」について重視する人が少ない。「相手の性格」については男女ともほぼ同程度である。

図表 結婚相手を決める際に重視すること ①相手の経済力

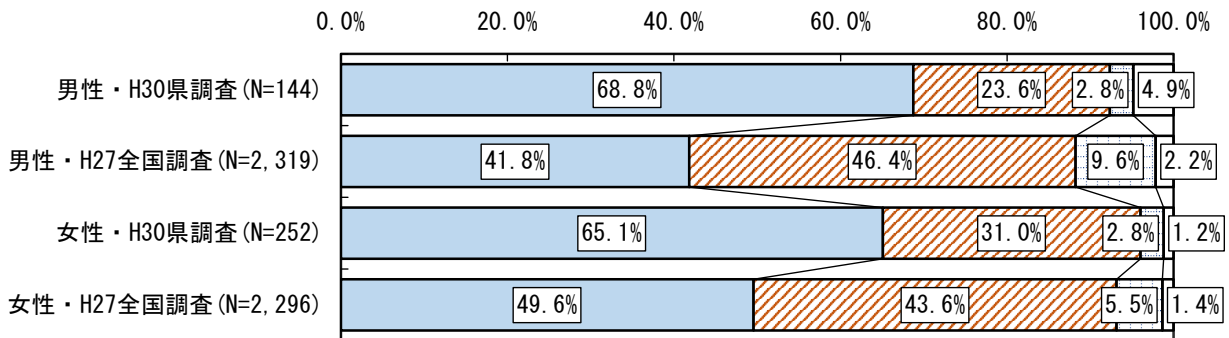


※いずれ結婚するつもりの方の 18～34 歳の未婚者

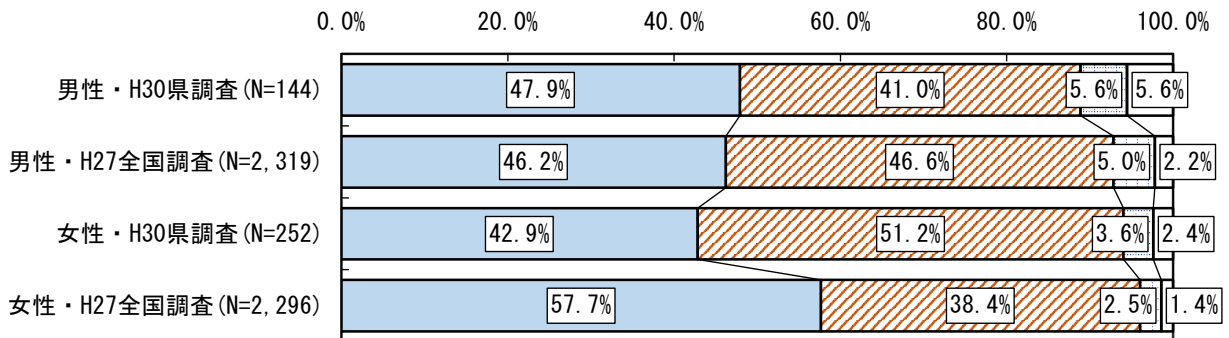
図表 結婚相手を決める際に重視すること ②相手の性格



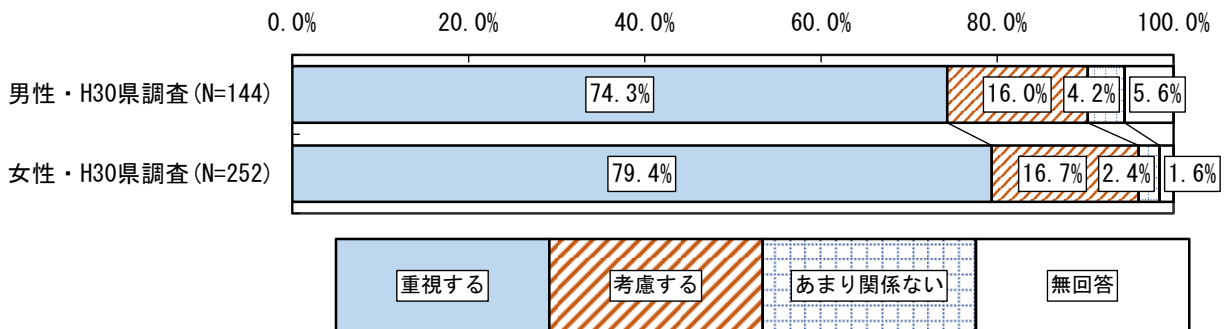
図表 結婚相手を決める際に重視すること ③自分の仕事や生き方に対する理解と協力



図表 結婚相手を決める際に重視すること ④家事・育児に対する能力や姿勢



図表 結婚相手を決める際に重視すること ⑤価値観が合うこと



※いずれ結婚するつもりの方の18~34歳の未婚者

※「③自分の仕事や生き方に対する理解と協力」について、全国調査の質問内容は「自分の仕事に対する理解と協力」

(10) 結婚することの障害

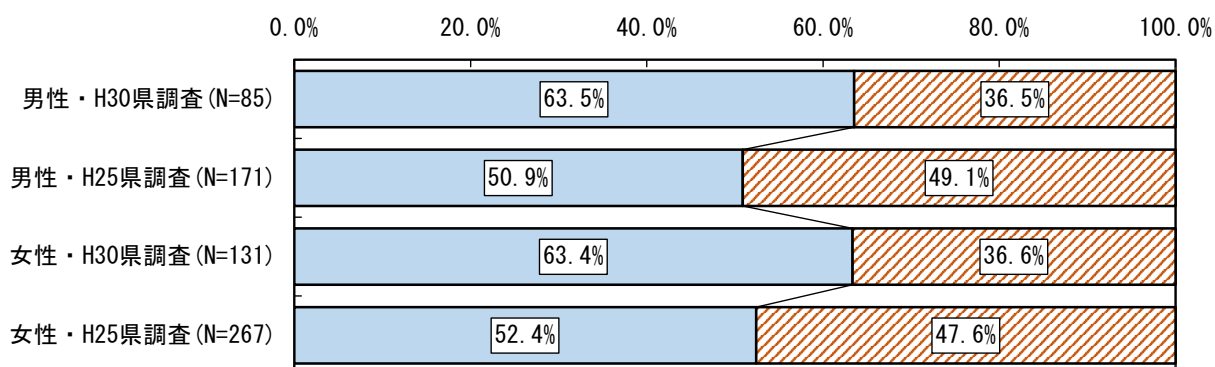
現在交際している方にうかがいます。それ以外の方は問15へお進みください。

問 14 現在交際している人と結婚するとしたら、なにか障害になることがありますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の障害になると思うことの中から、最大の障害と第二の障害をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

①交際相手と結婚をすることを考えた場合の障害になることの有無

男女とも「障害になることがあると思う」の割合が約6割強となっており、両者の差は小さい。

図表 交際相手と結婚をすることを考えた場合の障害になることの有無



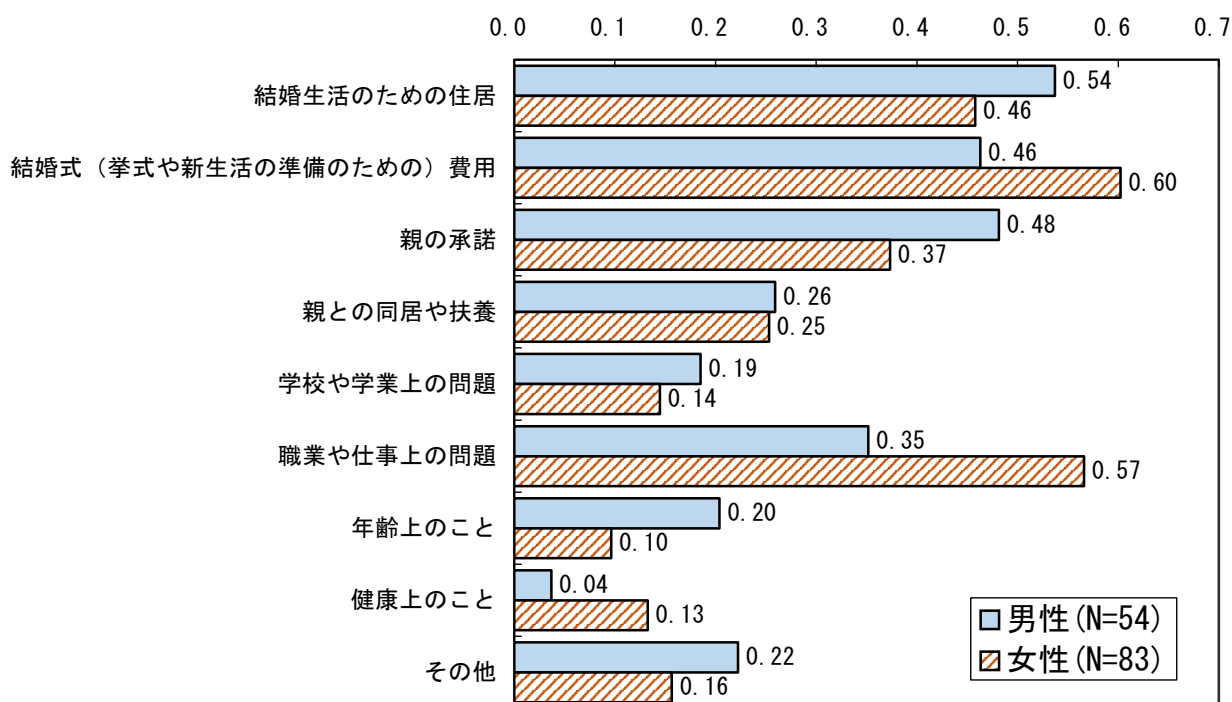
※結婚経験のない方（無回答を除く）

②結婚の障害になる具体的な内容

結婚の障害になる具体的な内容を見ると、男性では「結婚生活のための住居」が 0.54 点で最も多く、次いで「親の承諾」(0.48 点)、「結婚式(挙式や新生活の準備のための)費用」(0.46 点)となっている。

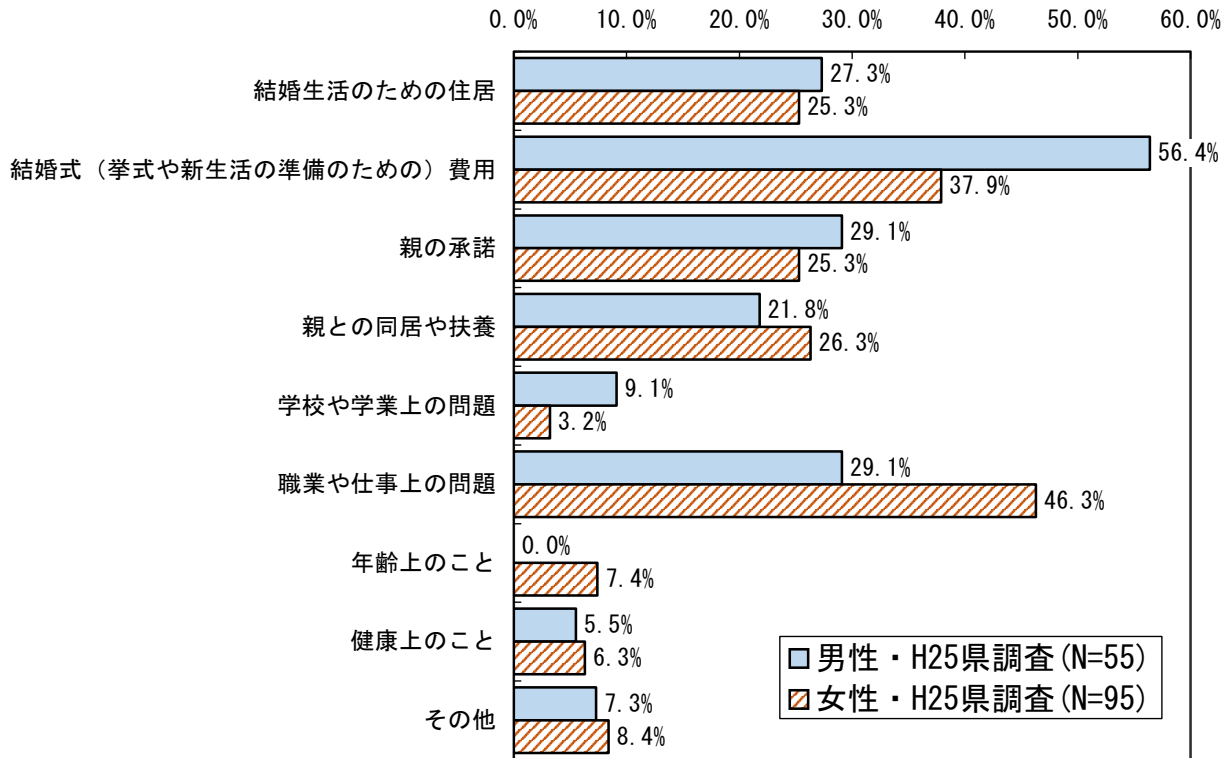
女性では「結婚式(挙式や新生活の準備のための)費用」が 0.60 点で最も多く、次いで「職業や仕事上の問題」(0.57 点)、「結婚生活のための住居」(0.46 点)となっている。

図表 結婚の障害になる具体的な内容(2つ選択)



※結婚経験のない方について、最大の障害=2点、第二の障害=1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした。

(参考) 図表 結婚の障害になる具体的な内容 (前回)



4 子どもに関すること

(1) 希望する子ども数

問15は、子どものいない方にかがいます。それ以外の方は問16へお進みください。

問 15 あなたは、子どもは何人くらいほしいですか。あてはまる番号に○をつけ、()内に人数を記入してください。また、子どもを1人以上希望される方は、最初のお子さんを持ちたい年齢を()内に記入してください。

【年齢別】

各年代の独身者が希望する子ども数の平均をみると、男性では20～34歳、女性では20～24歳で、2人以上の子どもを欲しいと回答している。男性では25歳以上、女性では20～44歳の年代で、年齢の上昇とともに、希望の子ども数は少なくなっており、男性に比べて女性の希望人数の減少の幅が大きい。

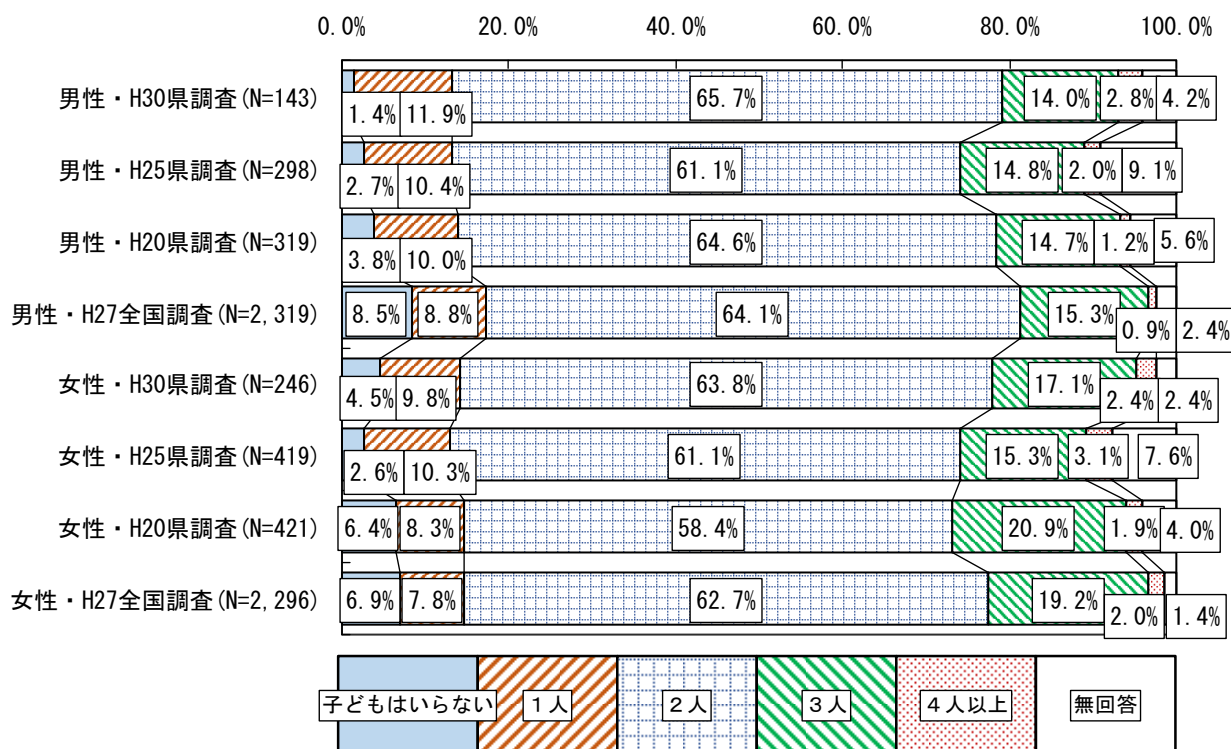
前回調査の結果に比べて、男性では18～24歳、35～39歳、45～49歳、女性では18～29歳、35～44歳で、希望の子ども数が低下している。また、全国調査と比較すると、男性では18～19歳、45～49歳を除くすべての年代、女性では20～24歳、30～34歳、45～49歳で、希望の子ども数が全国調査の結果を上回っている。

希望の子ども数が2人以上の割合は、男性では82.5%、女性では83.3%となっている。

図表 年齢別 平均希望子ども数（いずれ結婚するつもりの方）

	男性・H30 県調査	男性・H25 県調査	男性・H27 全国調査	女性・H30 県調査	女性・H25 県調査	女性・H27 全国調査
18～19歳	1.89	2.27	1.97	1.77	2.15	2.05
20～24歳	2.12	2.19	1.95	2.14	2.19	2.09
25～29歳	2.15	1.90	1.91	1.98	2.04	2.03
30～34歳	2.14	1.90	1.83	1.94	1.82	1.78
35～39歳	1.73	1.74	1.72	1.30	1.58	1.58
40～44歳	1.74	1.70	1.67	0.89	1.33	0.98
45～49歳	1.42	1.50	1.45	1.06	0.67	0.69

図表 希望する子ども数の分布（いずれ結婚するつもりの方の18～34歳）

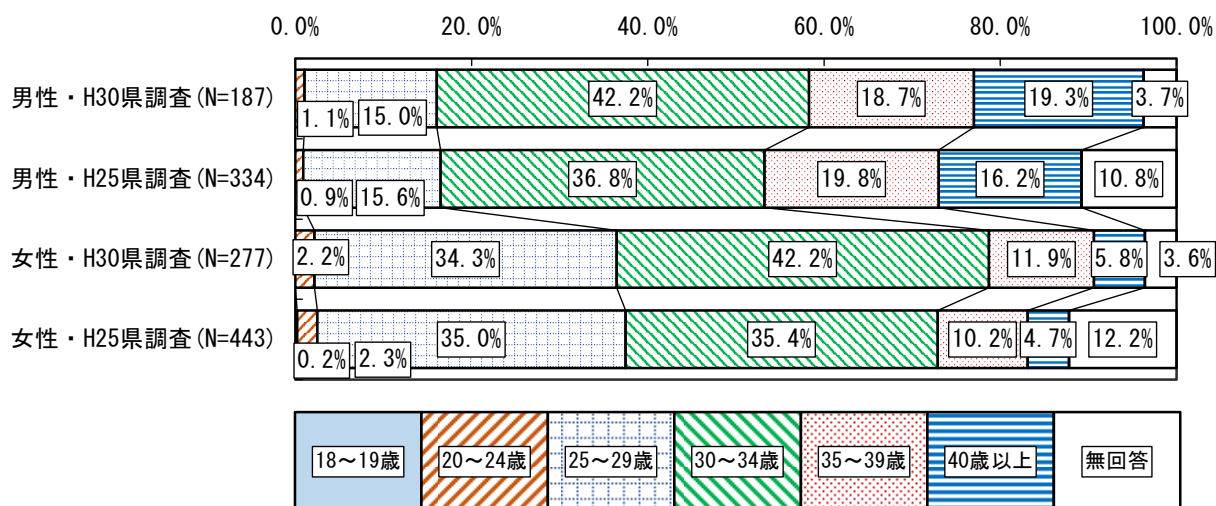


（２）最初の子どもを持ちたい年齢

最初の子どもを持ちたい年齢をみると、男性では「30～34 歳」が 42.2%で最も多く、次いで「40 歳以上」(19.3%)、「35～39 歳」(18.7%) となっている。前回調査に比べて、「30～34 歳」の割合が 5.4 ポイント上昇している。

女性では「30～34 歳」が 42.2%で最も多く、次いで「25～29 歳」(34.3%)、「35～39 歳」(11.9%) となっている。前回調査に比べて、「30～34 歳」の割合が 6.8 ポイント上昇している。

図表 最初の子どもを持ちたい年齢



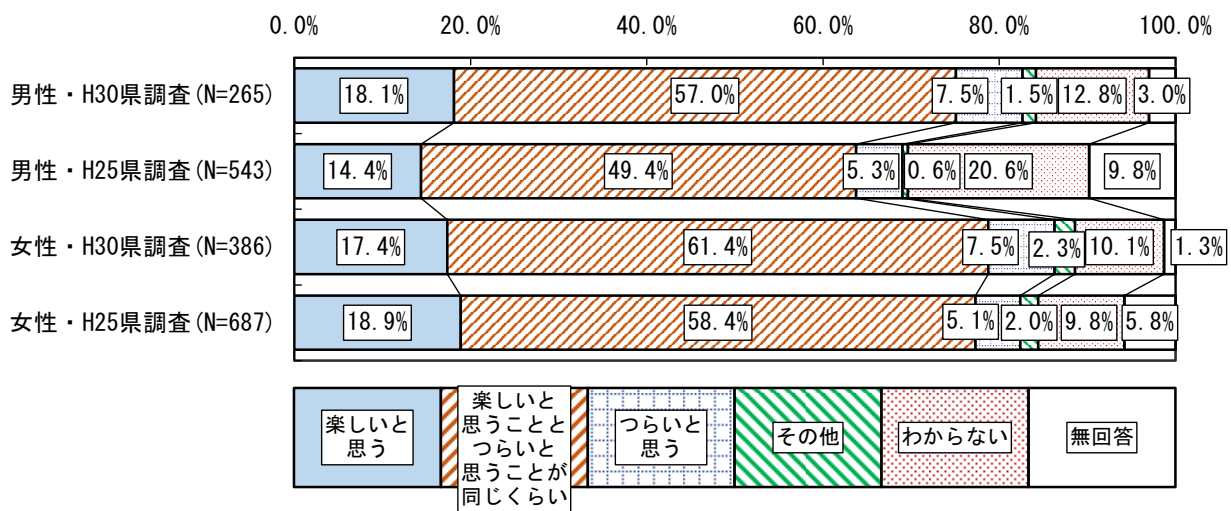
(3) 子育てに対する考え

問16 あなたは、子育てについて、どのように感じておられますか。(〇は1つ)

子どものいない人の、子育てに対する考えをみると、男性では「楽しいと思うこととつらいと思うことが同じくらい」が 57.0%で最も多く、次いで「楽しいと思う」(18.1%)、「わからない」(12.8%) となっている。前回調査に比べて、「楽しいと思うこととつらいと思うことが同じくらい」の割合が7.6ポイント上昇している。

女性では「楽しいと思うこととつらいと思うことが同じくらい」が 61.4%で最も多く、次いで「楽しいと思う」(17.4%)、「わからない」(10.1%) となっている。前回調査に比べて、各考え方の割合に大きな変化はない。

図表 子育てに対する考え



※子どもがいない方

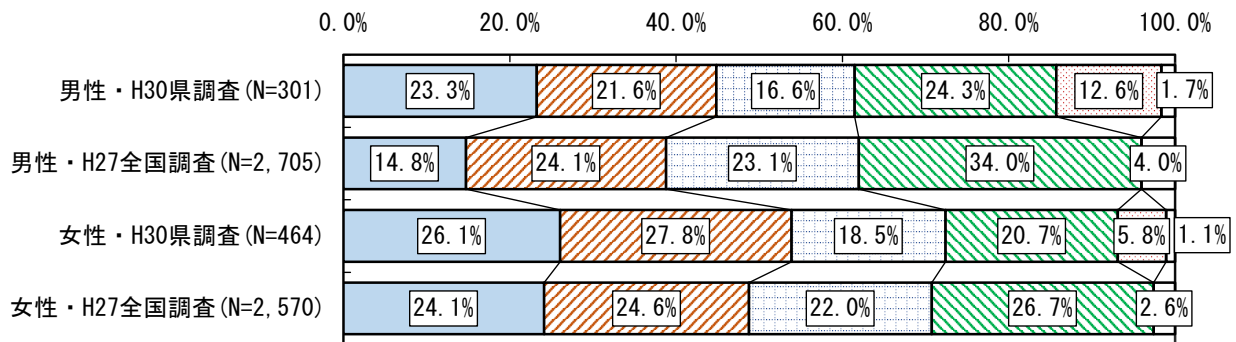
(4) 身近な状況について

問 17 あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。

「①赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（よくある）」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では44.9%となっている。全国調査に比べて、6.0ポイント上回っている。

女性では53.9%となっている。全国調査に比べて、5.2ポイント上回っている。

図表 身近な状況について ①赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（よくある）

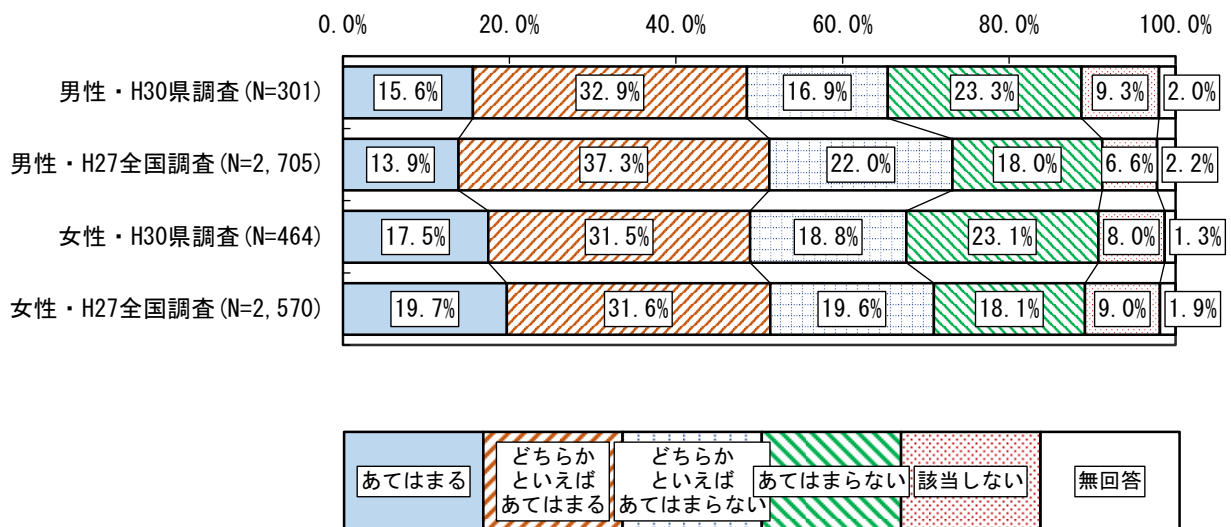


※全国調査では「該当しない」は無し

「②両親のような夫婦関係をうらやましく思う」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では48.5%となっている。全国調査に比べて、2.7ポイント下回っている。

女性では49.0%となっている。全国調査に比べて、2.3ポイント下回っている。

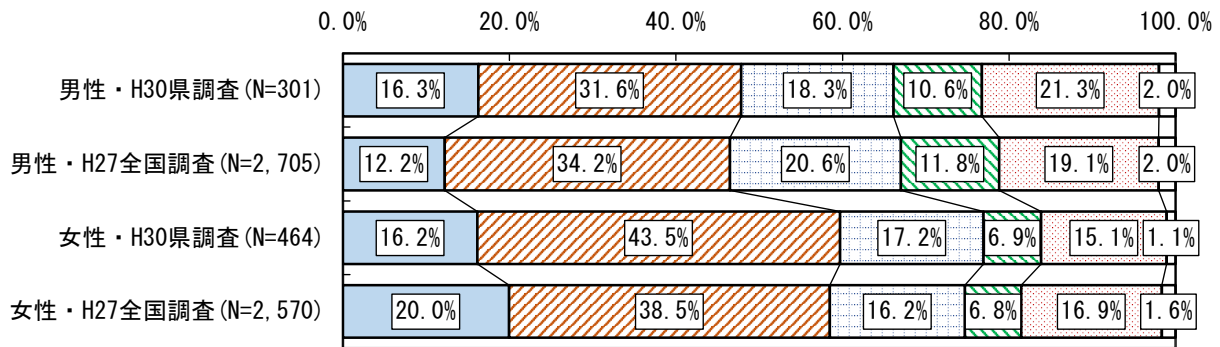
図表 身近な状況について ②両親のような夫婦関係をうらやましく思う



「③結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では 47.9%となっている。全国調査に比べて、1.5 ポイント上回っている。

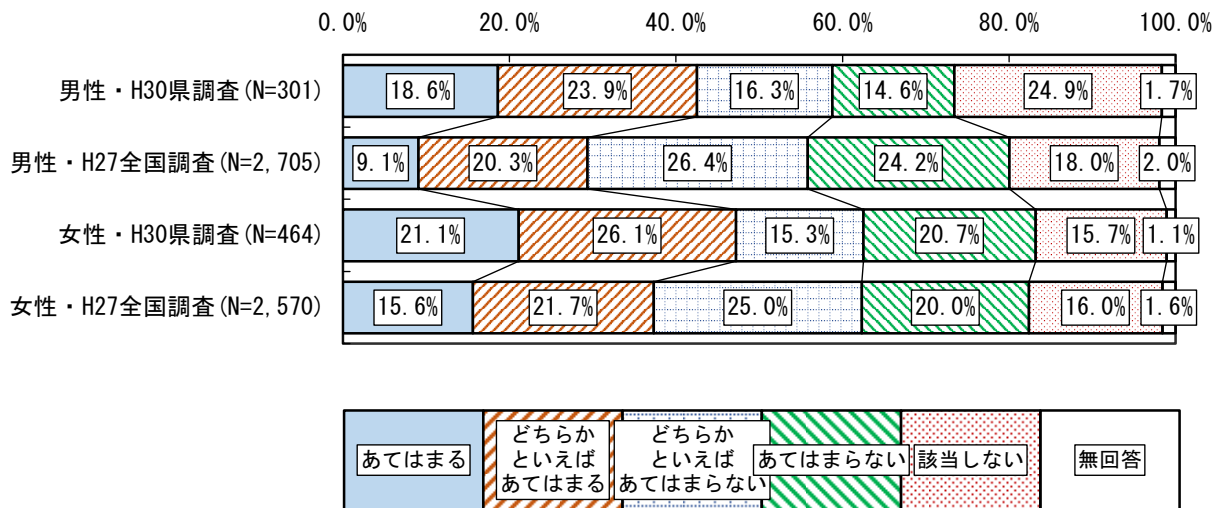
女性では 59.7%となっている。全国調査に比べて、1.2 ポイント上回っている。

図表 身近な状況について ③結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う



「④同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い」をみると、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合の合計は、男性では 42.5%となっており、女性では 47.2%となっている。

図表 身近な状況について ④同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い



5 結婚・家庭・子どもを持つことの考え方

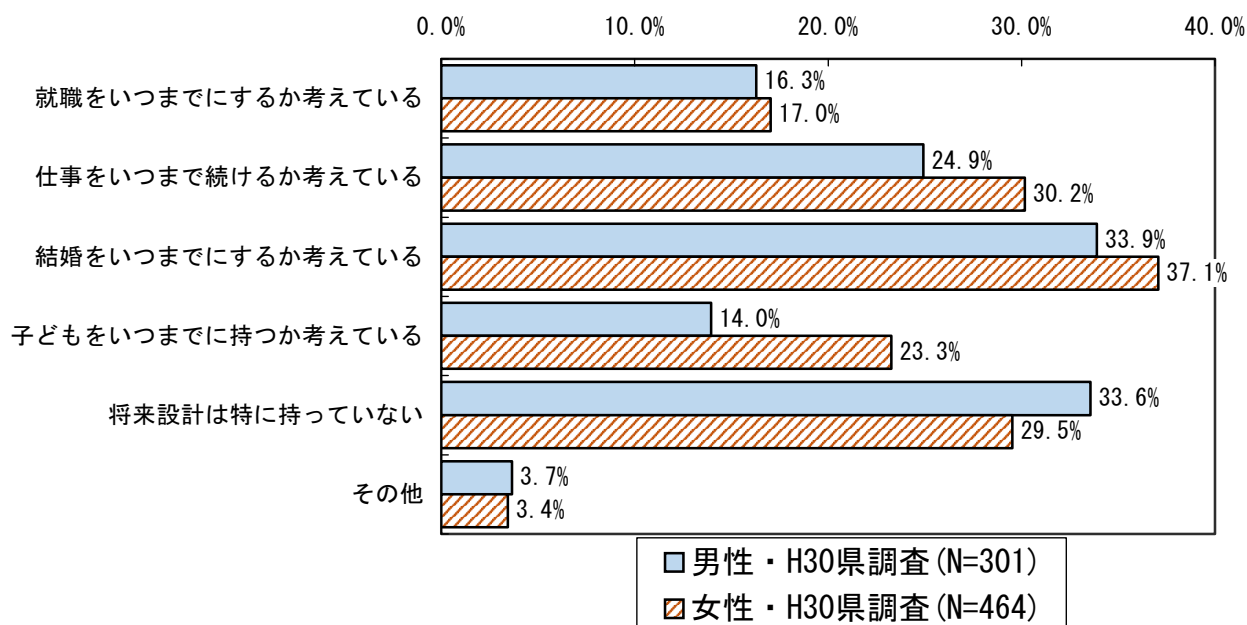
(1) 将来設計について

問 18 あなたの将来設計（いつまでに何をするか）について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

将来設計をみると、男性では「結婚をいつまでにするか考えている」が 33.9%で最も多く、次いで「将来設計は特に持っていない」（33.6%）、「仕事をいつまで続けるか考えている」（24.9%）となっている。

女性では「結婚をいつまでにするか考えている」が 37.1%で最も多く、次いで「仕事をいつまで続けるか考えている」（30.2%）、「将来設計は特に持っていない」（29.5%）となっている。

図表 将来設計について（複数回答）



(2) 結婚、家族、子育てに関する意識

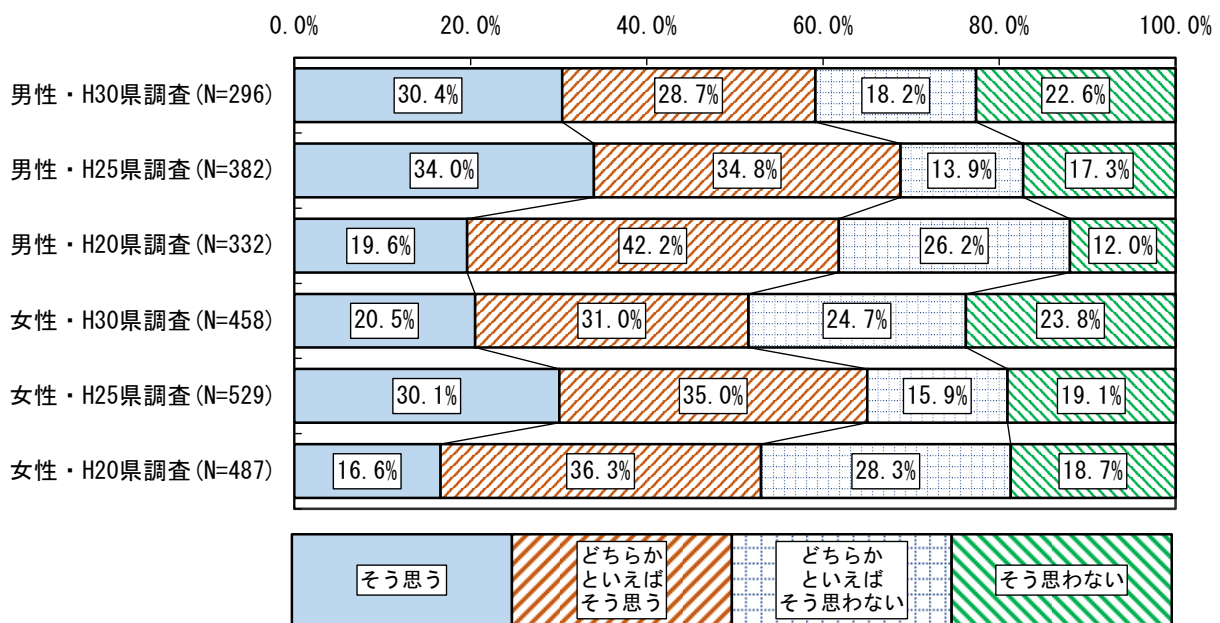
問 19 結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑬のような考え方を示しました。それぞれについて、あなた自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

①生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない

そう思う割合（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計、以下問 19 内で同じ）をみると、男性では 59.1%となっている。前回調査に比べて、9.7 ポイント低下している。

女性では 51.5%となっている。前回調査に比べて、13.6 ポイント低下している。

図表 「生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない」に対する考え



※無回答を除く

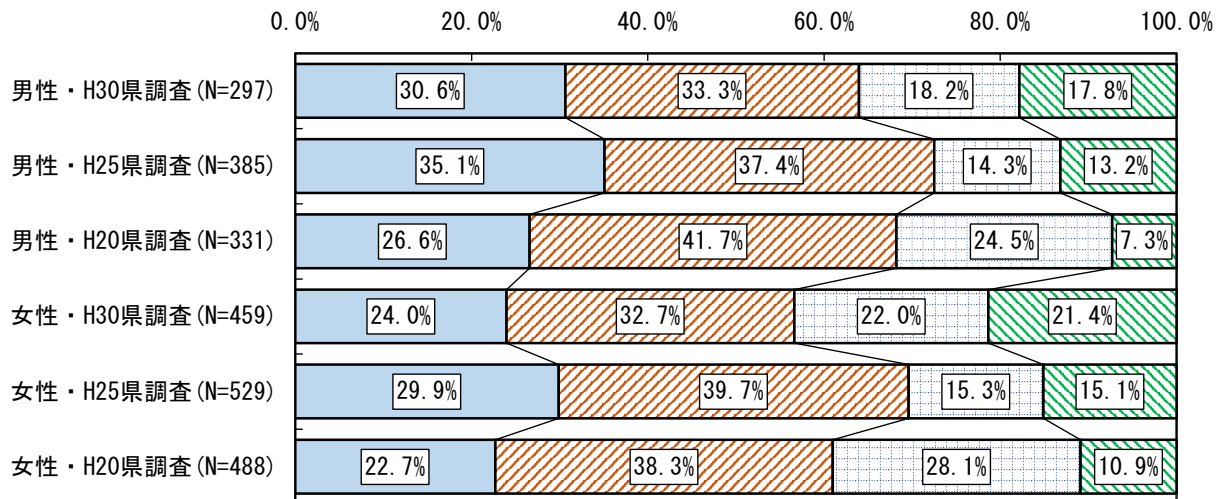
※平成 30 年県調査は回答者全数、平成 25 年県調査・平成 20 年県調査は 18～34 歳。以下問 19 で同じ

②男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである

そう思う割合をみると、男性では63.9%となっている。前回調査に比べて、8.6ポイント低下している。

女性では56.7%となっている。前回調査に比べて、12.9ポイント低下している。

図表 「男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである」に対する考え

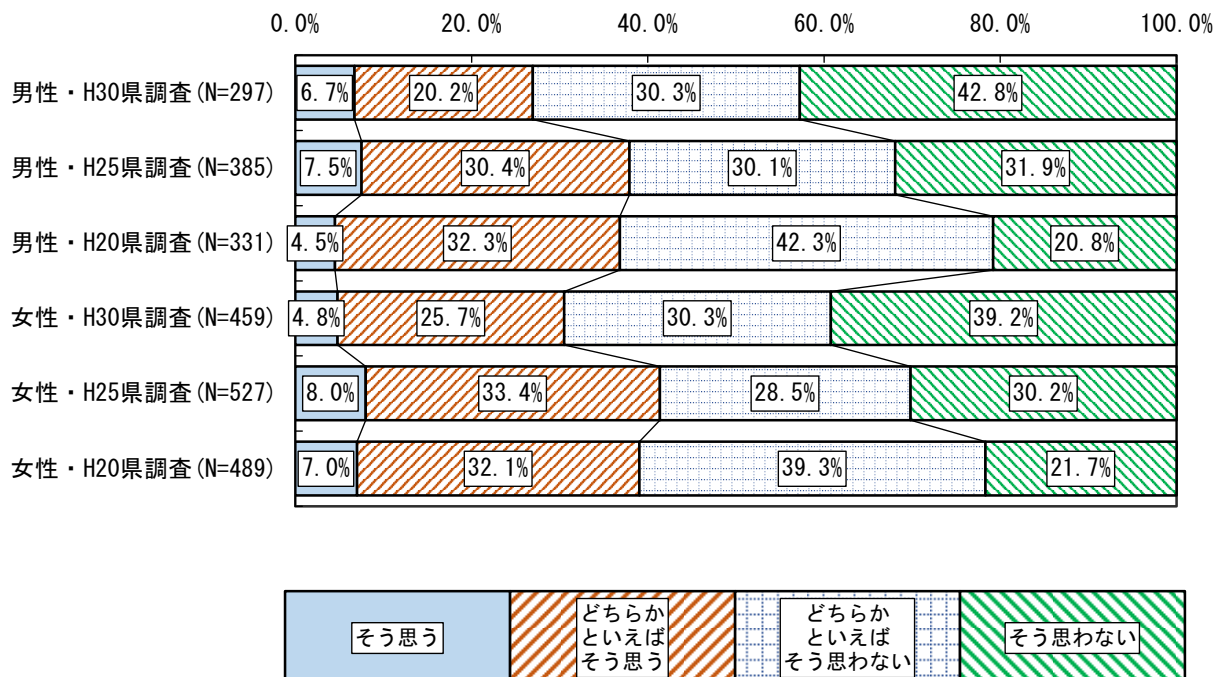


③結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ

そう思う割合をみると、男性では26.9%となっている。前回調査に比べて、11.0ポイント低下している。

女性では30.5%となっている。前回調査に比べて、10.9ポイント低下している。

図表 「結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ」に対する考え

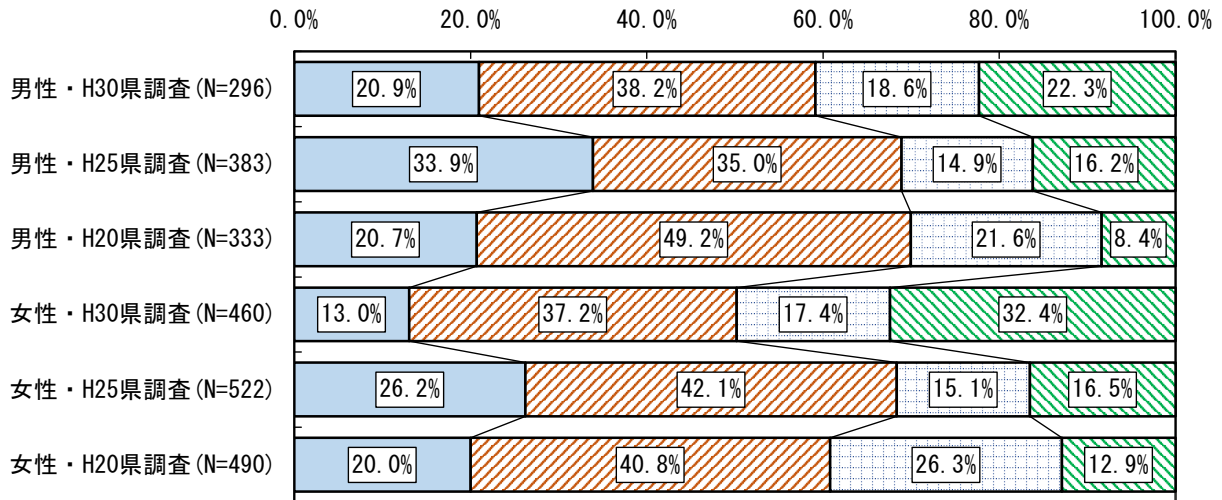


④結婚したら、子どもは持つべきだ

そう思う割合をみると、男性では59.1%となっている。前回調査に比べて、9.8ポイント低下している。

女性では50.2%となっている。前回調査に比べて、18.1ポイント低下している。

図表 「結婚したら、子どもは持つべきだ」に対する考え

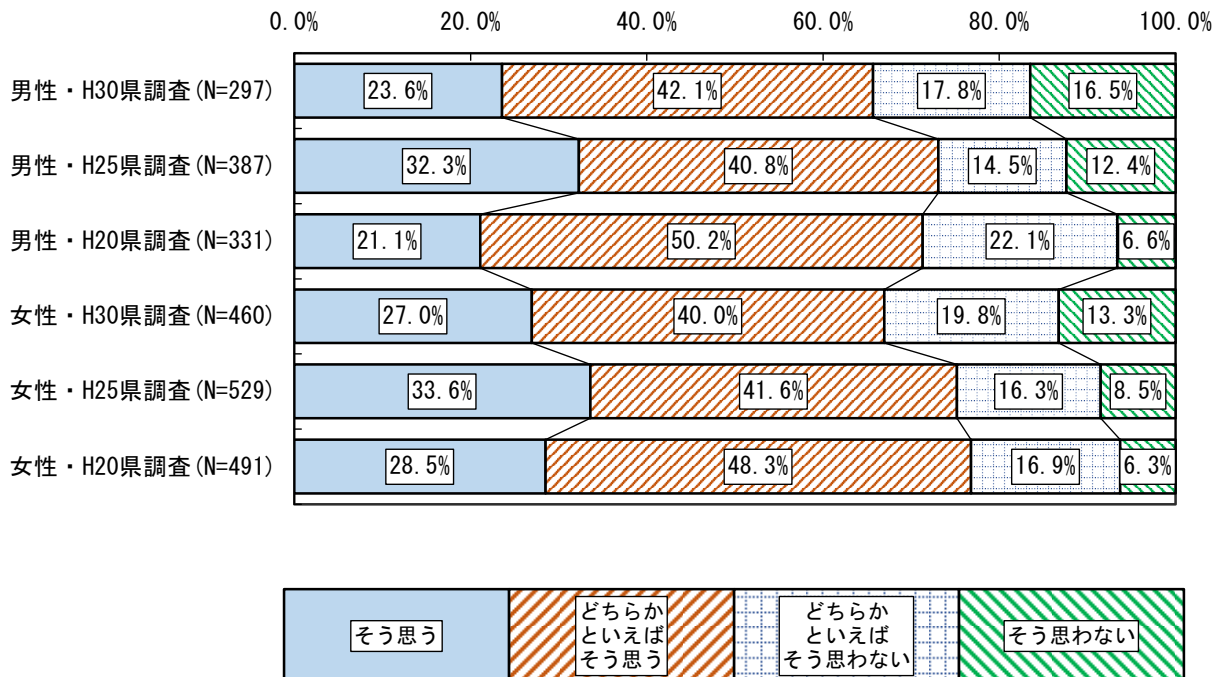


⑤少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい

そう思う割合をみると、男性では65.7%となっている。前回調査に比べて、7.4ポイント低下している。

女性では67.0%となっている。前回調査に比べて、8.2ポイント低下している。

図表 「少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい」に対する考え

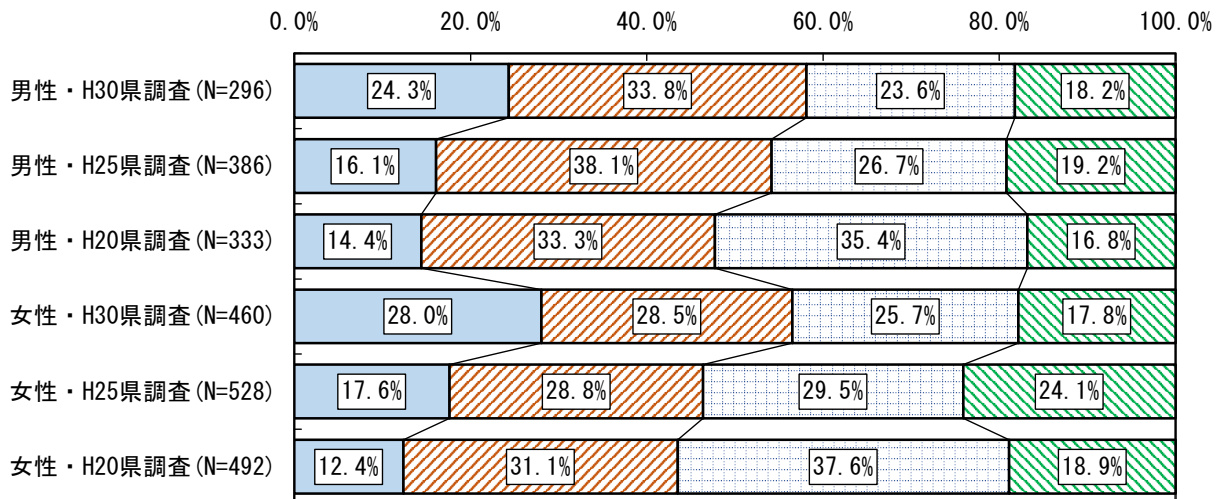


⑥妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない

そう思う割合をみると、男性では58.1%となっている。前回調査に比べて、3.9ポイント上昇している。

女性では56.5%となっている。前回調査に比べて、10.1ポイント上昇している。

図表 「妊娠をきっかけとする結婚には抵抗がない」に対する考え

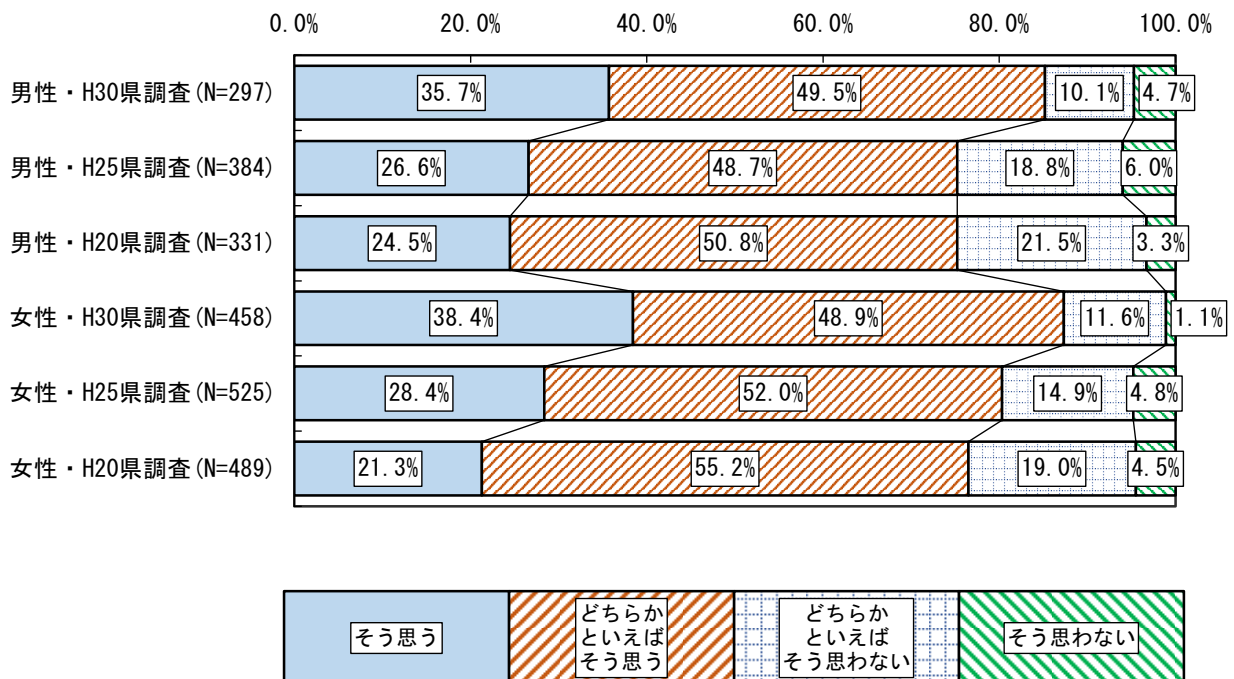


⑦子どもにはできるだけお金をかけたいと思う

そう思う割合をみると、男性では85.2%となっている。前回調査に比べて、9.9ポイント上昇している。

女性では87.3%となっている。前回調査に比べて、6.9ポイント上昇している。

図表 「子どもにはできるだけお金をかけたいと思う」に対する考え

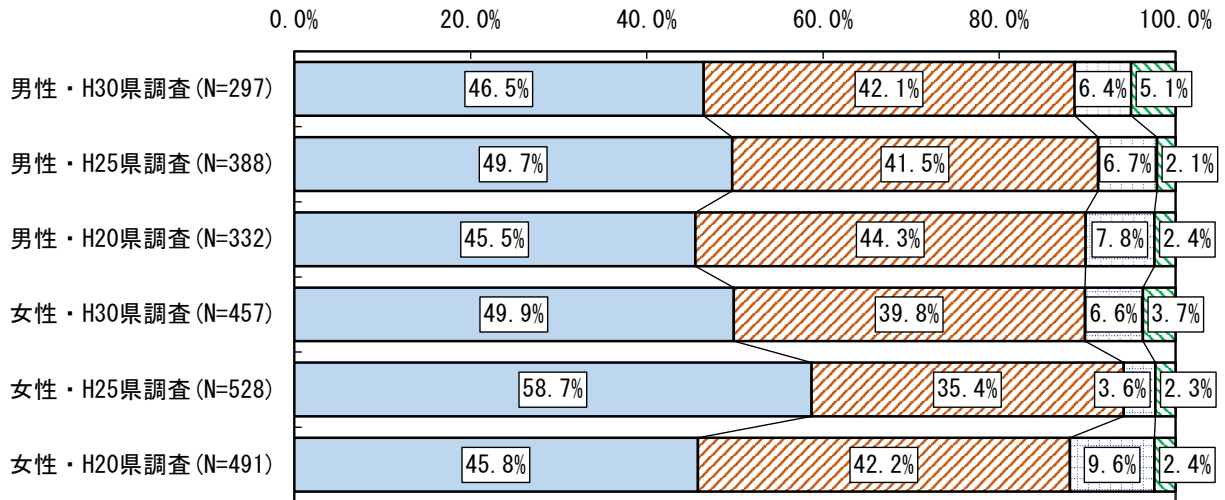


⑧子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）

そう思う割合をみると、男性では88.6%となっている。前回調査に比べて、2.6ポイント低下している。

女性では89.7%となっている。前回調査に比べて、4.4ポイント低下している。

図表 「子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）」に対する考え

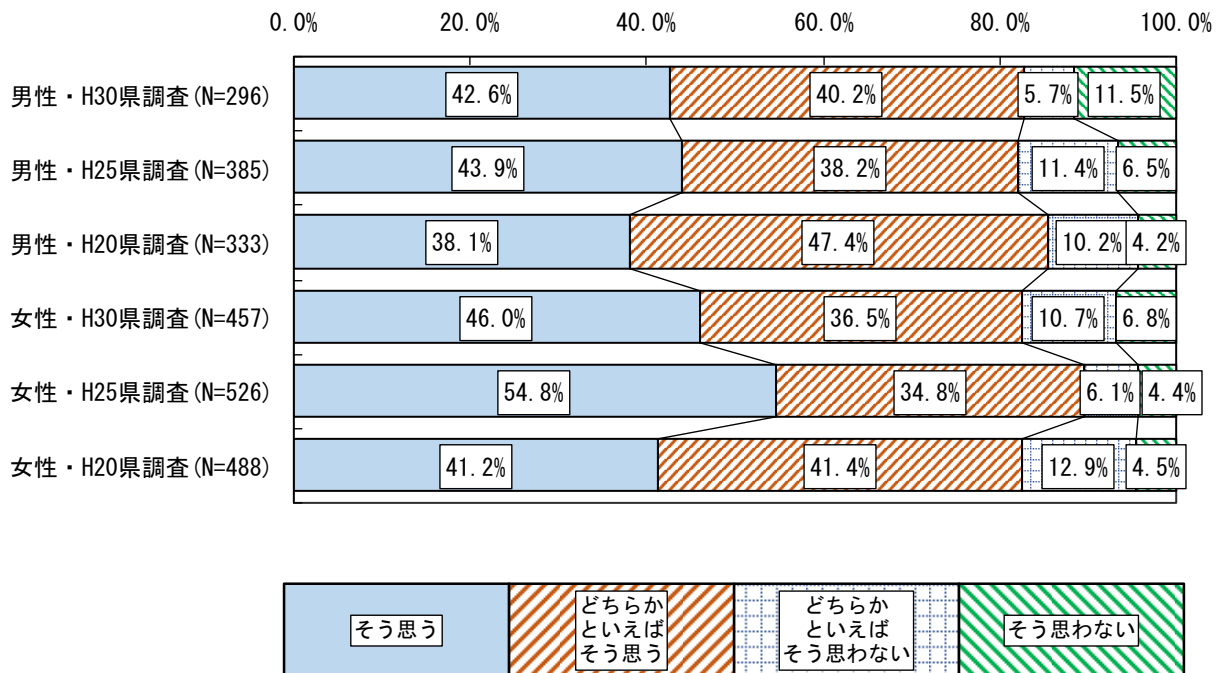


⑨老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う

そう思う割合をみると、男性では82.8%となっている。前回調査に比べて大きな変化はない。

女性では82.5%となっている。前回調査に比べて、7.1ポイント低下している。

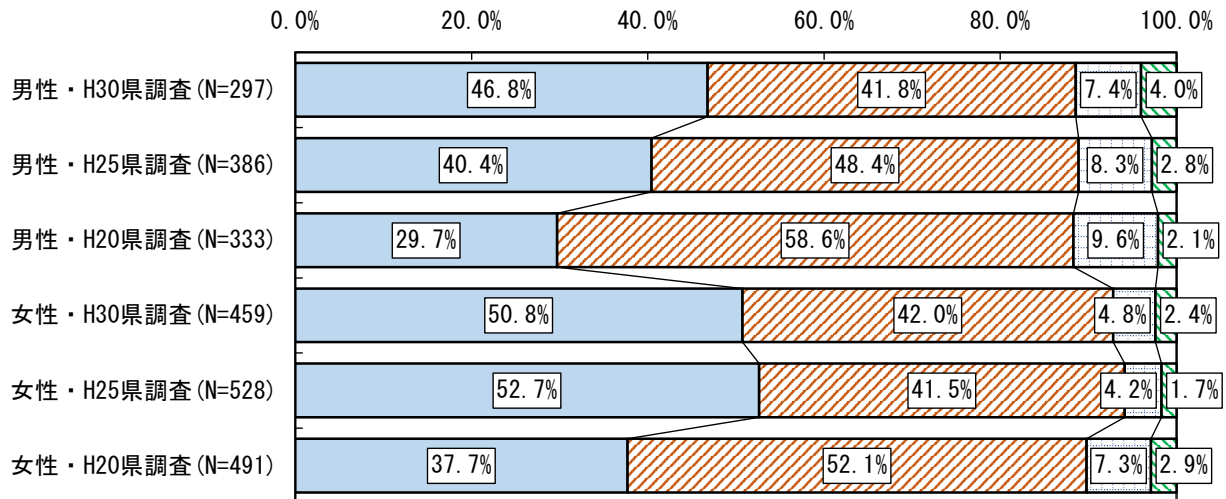
図表 「老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う」に対する考え



⑩子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う

そう思う割合をみると、男性では88.6%となっている。前回調査に比べて大きな変化はない。女性では92.8%となっている。前回調査に比べて大きな変化はない。

図表 「子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う」に対する考え

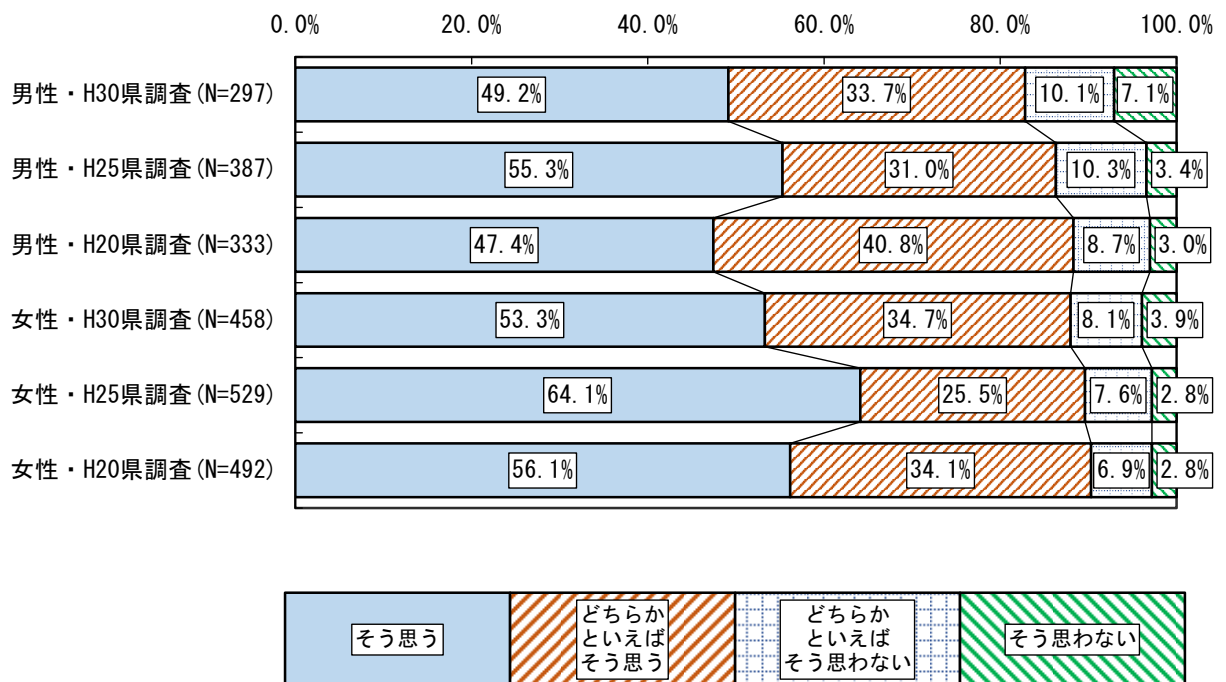


⑪子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う

そう思う割合をみると、男性では82.9%となっている。前回調査に比べて、3.4ポイント低下している。

女性では88.0%となっている。前回調査に比べて大きな変化はない。

図表 「子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う」に対する考え

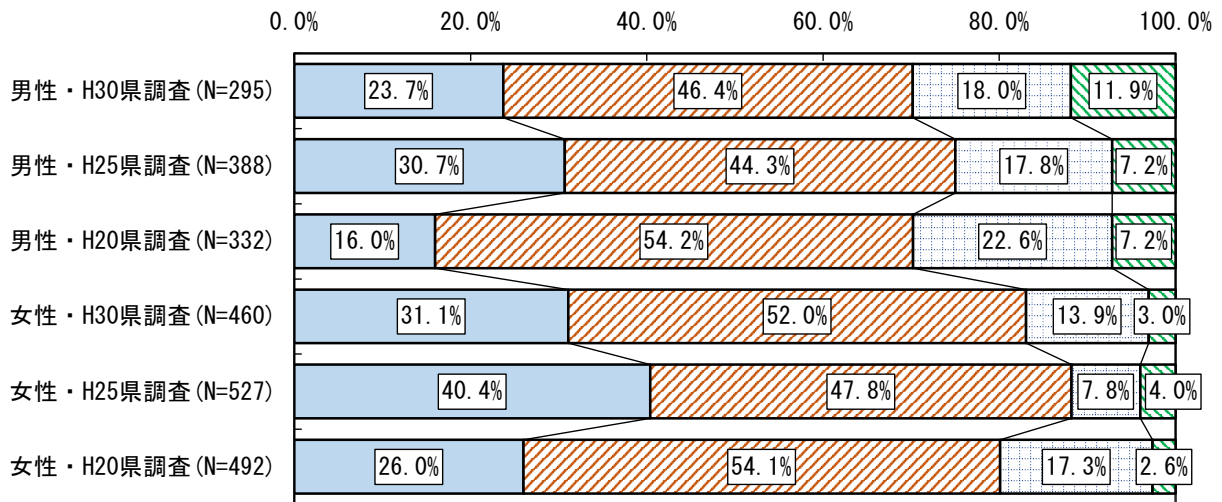


⑫親にも子育てに協力してもらいたいと思う

そう思う割合をみると、男性では70.1%となっている。前回調査に比べて、4.9ポイント低下している。

女性では83.1%となっている。前回調査に比べて、5.1ポイント低下している。

図表 「親にも子育てに協力してもらいたいと思う」に対する考え

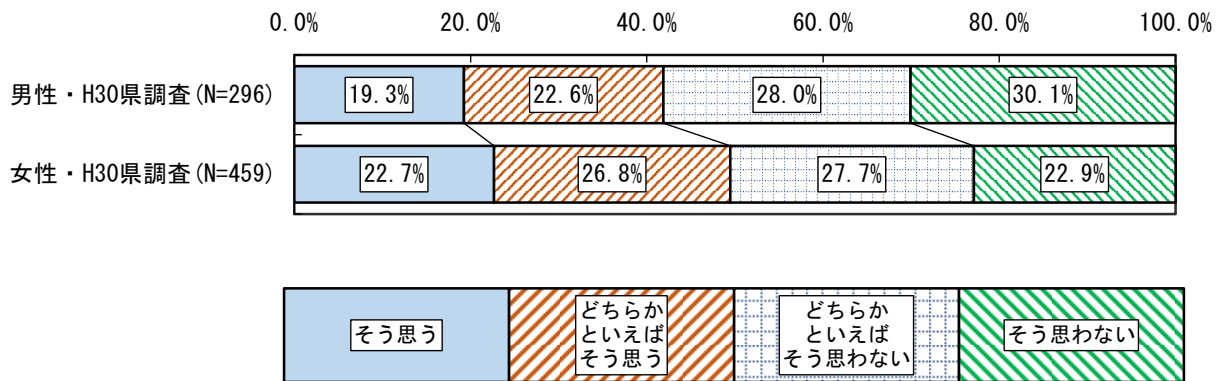


⑬結婚してなくても、子どもを持って構わない

そう思う割合をみると、男性では41.9%となっている。

女性では49.5%となっている。

図表 「結婚してなくても、子どもを持って構わない」に対する考え



6 結婚・子育て支援策

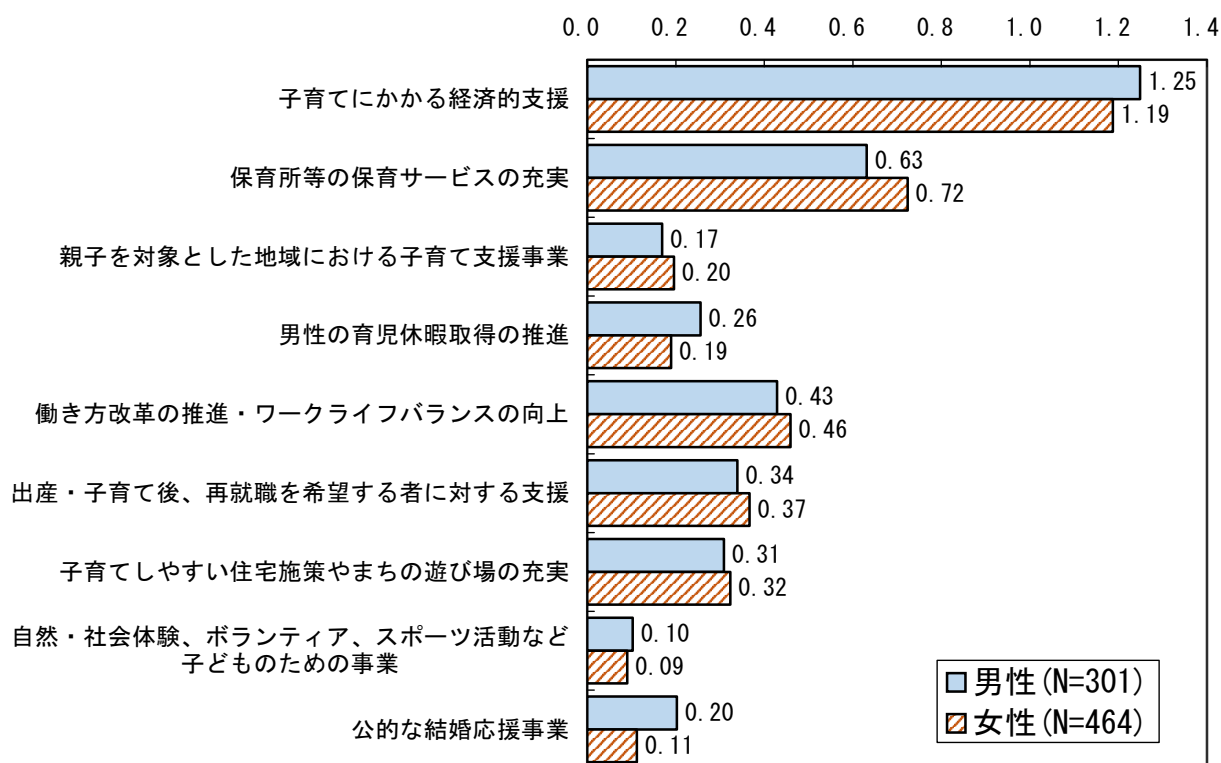
(1) 重要と考える子育て支援策

問 20 あなたが今、あるいは、これから奈良県で結婚・子育てをするにあたり、次の①～⑨の各項目について、重要だと思うものを3つまで選んでください。最重要だと思うもの1つに◎をつけ、次に重要だと思うもの2つに○をつけて下さい。

重要と考える子育て支援策をみると、男性では「子育てにかかる経済的支援」が 1.25 点で最も多く、次いで「保育所等の保育サービスの充実」(0.63 点)、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」(0.43 点)となっている。

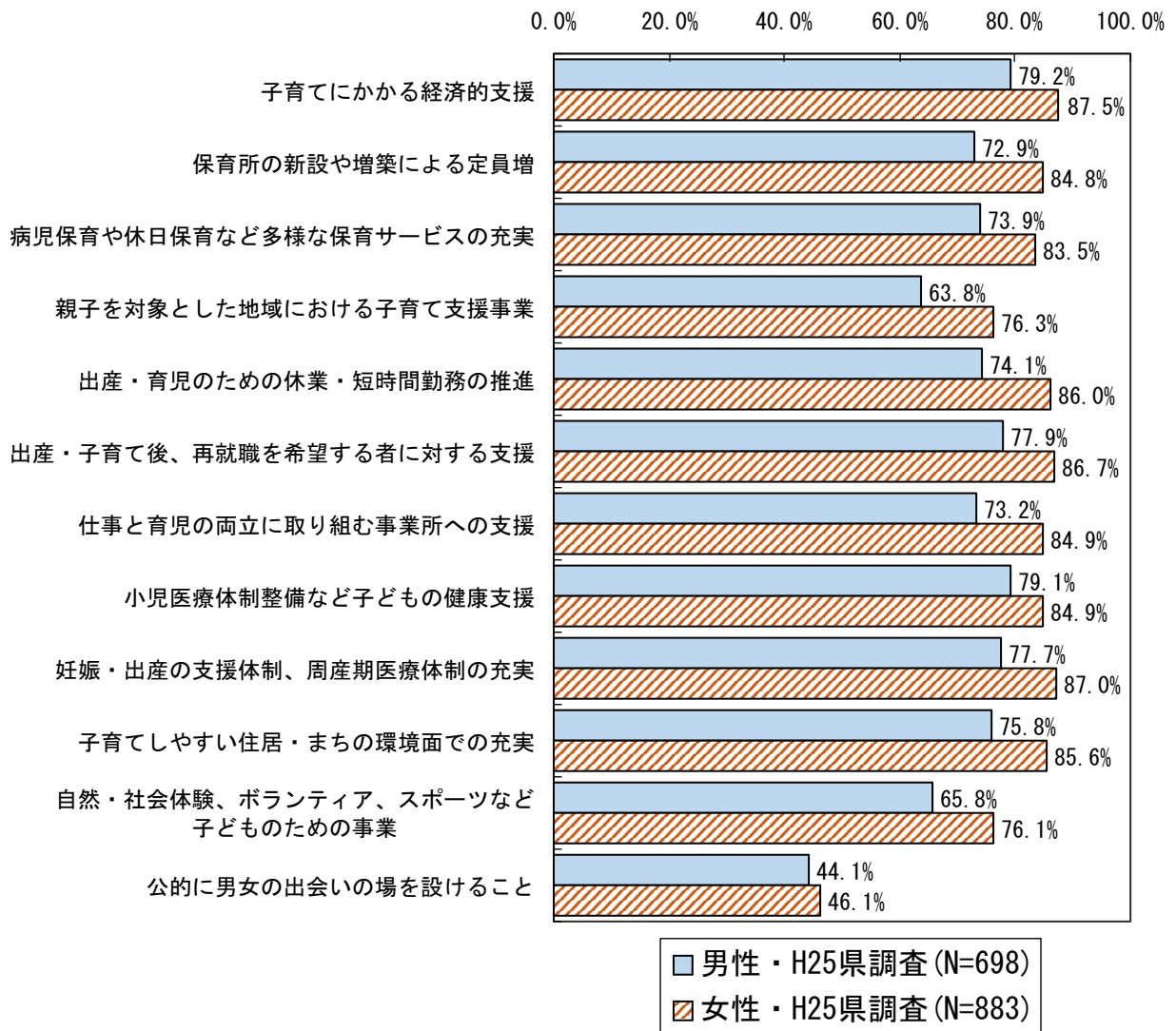
女性では「子育てにかかる経済的支援」が 1.19 点で最も多く、次いで「保育所等の保育サービスの充実」(0.72 点)、「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」(0.46 点)となっている。

図表 重要と考える子育て支援策（3つ選択）



※最重要＝2点、次いで重要＝1点として合計し、対象の母数で割った値を得点とした。

(参考) 図表 重要と考える子育て支援策 (前回)



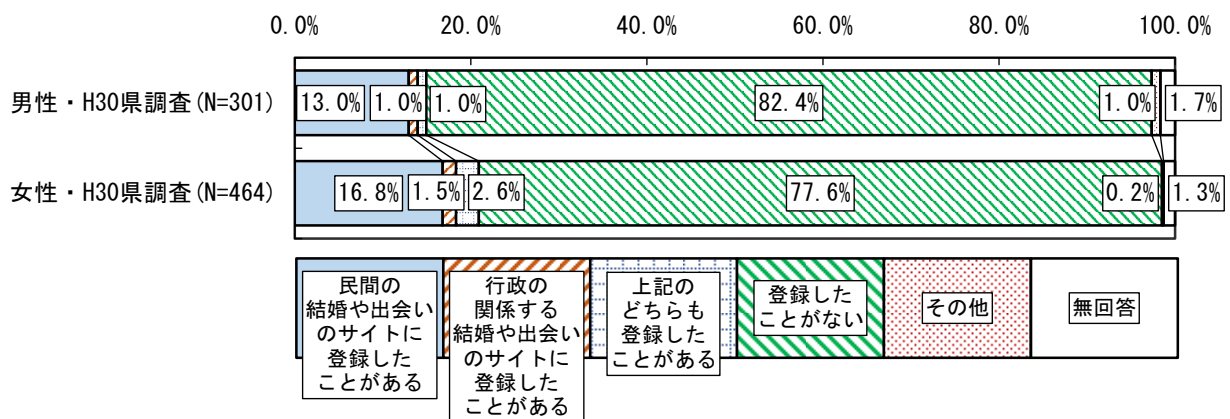
(2) 婚活サイト等の利用状況

問 21 結婚や出会いのサイトに登録したことがありますか。(○は1つ)

婚活サイト等の利用状況をみると、男性では「登録したことがない」が 82.4%で最も多く、次いで「民間の結婚や出会いのサイトに登録したことがある」(13.0%)、「行政の関係する結婚や出会いのサイトに登録したことがある」「上記のどちらも登録したことがある」(ともに 1.0%)となっている。

女性では「登録したことがない」が 77.6%で最も多く、次いで「民間の結婚や出会いのサイトに登録したことがある」(16.8%)、「上記のどちらも登録したことがある」(2.6%)となっている。

図表 婚活サイト等の利用状況



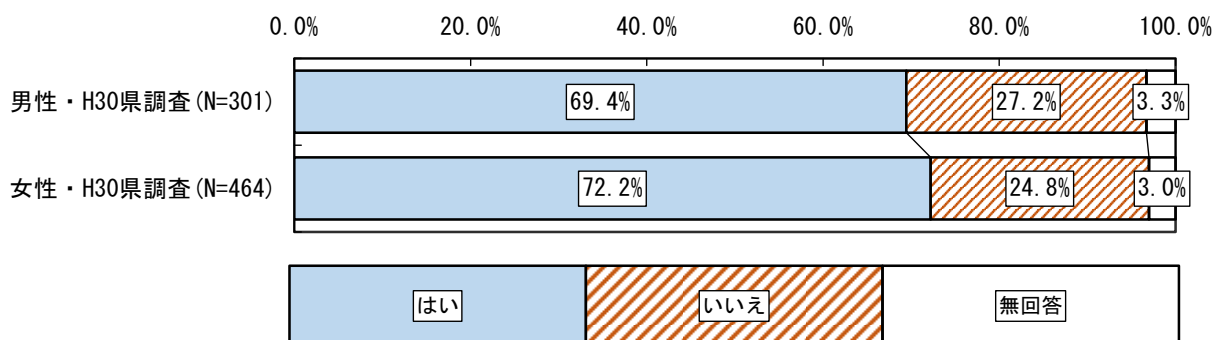
(3) 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思うか

問 22 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

①奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思うか

奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思う人は、男性では 69.4%、女性では 72.2%となっている。

図表 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思うか

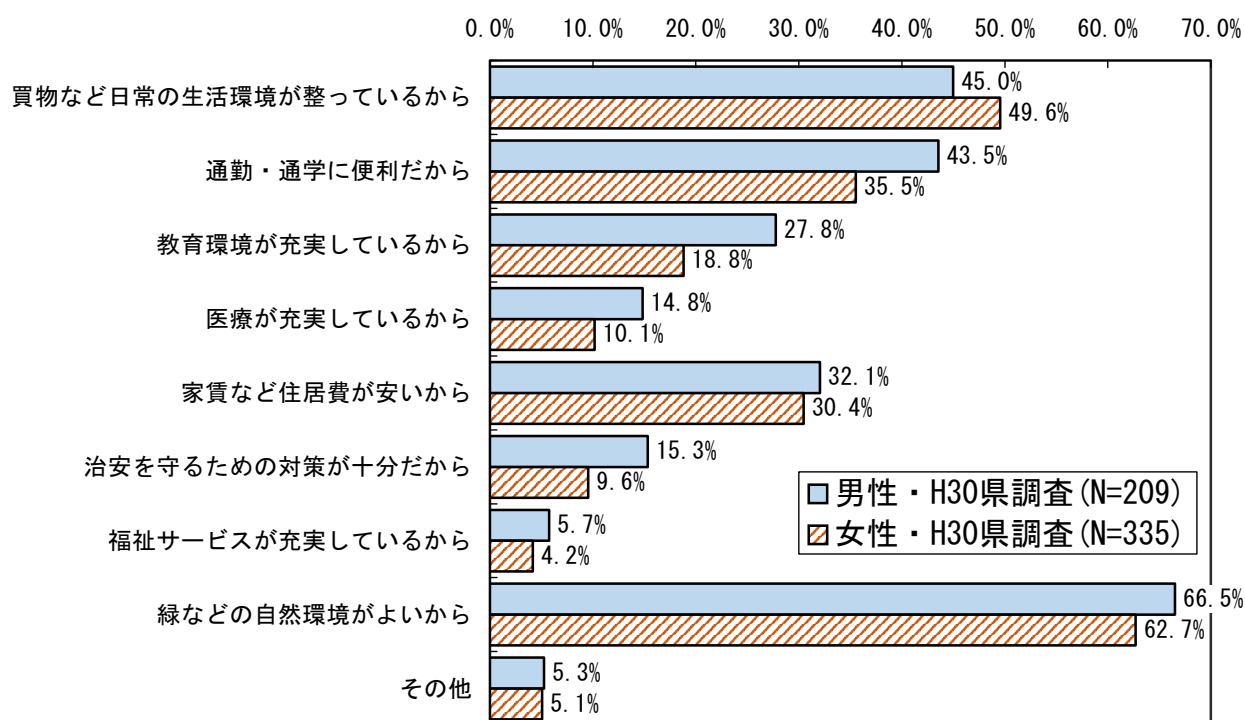


②子どもを生き育てやすいところだと思う理由

子どもを生き育てやすいところだと思う理由をみると、男性では「緑などの自然環境がよいから」が66.5%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っているから」(45.0%)、「通勤・通学に便利だから」(43.5%)となっている。

女性では「緑などの自然環境がよいから」が62.7%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っているから」(49.6%)、「通勤・通学に便利だから」(35.5%)となっている。

図表 子どもを生き育てやすいところだと思う理由（複数回答）

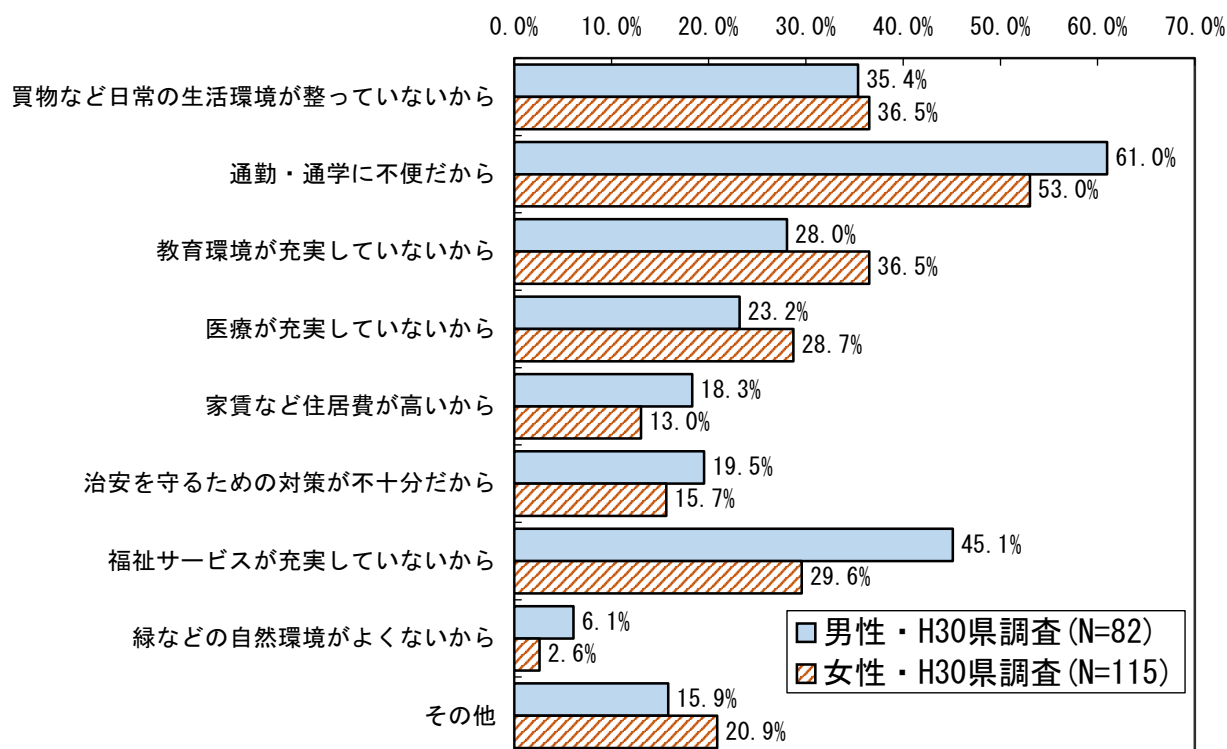


③子どもを生み育てやすいところだと思わない理由

子どもを生み育てやすいところだと思わない理由をみると、男性では「通勤・通学に不便だから」が61.0%で最も多く、次いで「福祉サービスが充実していないから」(45.1%)、「買物など日常の生活環境が整っていないから」(35.4%)となっている。

女性では「通勤・通学に不便だから」が53.0%で最も多く、次いで「買物など日常の生活環境が整っていないから」「教育環境が充実していないから」(ともに36.5%)となっている。

図表 子どもを生み育てやすいところだと思わない理由（複数回答）



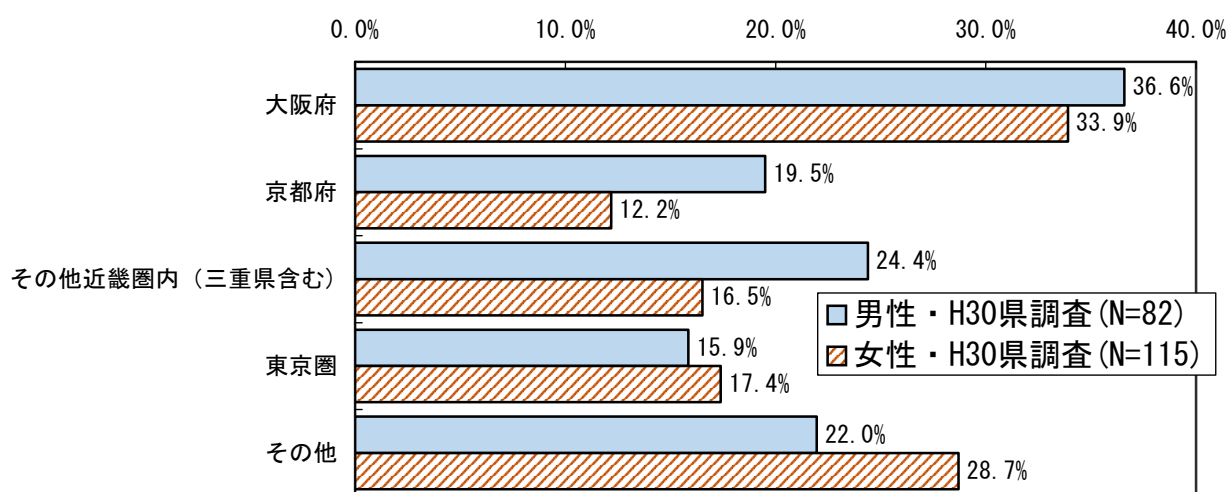
(4) 子どもを生み育てやすいと感じる地域

問 22-1 問 22①で「2. いいえ」と答えた方に伺います。結婚して子どもを生み育てやすいと感じる地域はどこですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

奈良県以外で子どもを生み育てやすいと感じる地域をみると、男性では「その他」を除いて、「大阪府」が 36.6%で最も多く、次いで「その他近畿圏内（三重県含む）」(24.4%)、「京都府」(19.5%)となっている。

女性では「大阪府」が 33.9%で最も多く、次いで「東京圏」(17.4%)、「その他近畿圏内（三重県含む）」(16.5%)となっている。

図表 子どもを生み育てやすいと感じる地域（複数回答）



7 自由記述意見

番号	項目	件数	主な意見	男性	女性	不明	計
1	就労に関する こと	24	経済的に余裕がない、若年層への支援を充実させてほしい	7	4	0	11
2			働き方改革を推進し、出産・子育てしやすい労働環境を整備してほしい	0	7	0	7
3			県内の就業先を増やしてほしい、給与など労働条件を改善してほしい	6	0	0	6
4	結婚に関する こと	23	結婚は望まない・魅力を感じない	3	8	0	11
5			結婚につながる出会いがない	4	3	0	7
6			結婚応援の取り組みを充実させてほしい	3	0	1	4
7			その他、結婚に関する意見がある	0	1	0	1
8	妊娠・出産に 関すること	6	不妊治療・出産に対する経済的支援を手厚くしてほしい	2	1	0	3
9			産婦人科を充実させてほしい	1	1	0	2
10			その他、妊娠・出産に関して意見がある	0	1	0	1
11	子育てに関する こと	48	子どもの保育環境を充実させてほしい	4	9	1	14
12			子育て支援制度を充実させてほしい、少子化対策を推進すべきである	6	6	0	12
13			ひとり親に対する支援を充実させてほしい	2	6	0	8
14			安心して子育てできる環境を整備してほしい	3	4	0	7
15			子育てに関する経済的支援を手厚くしてほしい	0	7	0	7
16	本調査に関する こと	38	設問に問題がある、調査自体が問題である	12	20	1	33
17			調査結果を公表し、有効活用してほしい	3	2	0	5
18	その他の意見・ 要望	53	行政・政策に対して意見・要望がある	3	6	1	10
19			独身であること・子どもがいないことなどに対する固定観念・偏見は払しょくされるべきである	0	8	0	8
20			県内の自治体ごとに制度・サービスが異なり不満である、県南部と北部で地域格差がある	3	3	0	6
21			結婚・子育てに関する制度の多様化を望む	1	4	0	5
22			その他、意見・要望がある	13	11	0	24
意見総数			(158人) 192件	76	112	4	192

第4章 グループインタビュー調査の結果

1 最近の若者の結婚事情について

日 時：平成30年9月28日（金）11：15～12：15

場 所：奈良商工会議所

出席者：なら結婚応援団関係者5名

【1-1 最近の若者の結婚事情】

番号	テーマ	実態
1	将来設計と結婚の関係	婚活イベントでは、何歳までに結婚する、といった将来設計を決めている人は、相手が決まる傾向にある。
2		親の婚活イベントでは、子どもが20歳代だと、親にも焦りが無い。
3		30歳代、40歳代になると、結婚を負担に感じるようになる。
4		結婚の苦労話が強調されすぎている風潮がある。
5		結婚に関する情報が多すぎて決められない。
6		つきあうことに抵抗はないが結婚に進展しない「とりあえずカップル」が多い。
7		20歳前後の若者が抱く結婚のイメージが曖昧。
8	婚活をしている理由は自発的なものか義務的なものか	婚活イベントに、親に言われて来た人は総じて消極的で、発言などに意欲がない。
9	パートナーに求める条件に男女間のギャップはあるのか	年配の男性が若い女性をいつまでも好む傾向がある。
10		女性が家事をするのが当然、といった社会のイメージのすりこみが、男女両方にある。
11		仕事をしている女性は、「仕事の邪魔にならない」男性を求める。
12		40歳代女性の結婚相手に求める年収の条件が、バブル期の感覚から抜け出していない。
13	独身でいる理由は何か	若者は結婚するための条件として必ず「お金」を挙げる。
14		若者にはインターネットなどでの情報のやり取りが普及しているので、まず年収など外側の情報の話になるのではないか。
15	コミュニケーションの不足	婚活イベントでは、わざと参加者の筆記用具を用意せず、参加者同士で貸し借りする「交流」の機会を作っている。
16		婚活イベントでは、自分からアクションしないと結婚にはつながらないので、自発的に「交流」できることを重視している。
17		婚活イベントの後に2回目に会って、それ以後もつきあい続けるのが難しいようだ。

番号	テーマ	実態
18		婚活イベントに何年も出続けている人がいるが、失敗を次に生かせていない。
19		婚活イベントでせっかく話が弾んだのに、イベント後にはもう会わない事例がある。
20		とくに 30 歳代の男性が結婚に向けて動かない傾向にある。
21		30 歳代には、子どもの頃からの積み重ねで、コミュニケーション能力の育っていない人が多くいる。
22		親が、子どもに嫌われたくないため、子どもがいつまでも家にいることを容認してしまう。
23		いわゆる飲みニケーションがなくなるなど、上の世代とお互いの話をしていない。

【1-2 最近の若者の結婚事情を踏まえた対応や意見】

番号	テーマ	対応や意見
1	将来設計と結婚の関係	親の意識も変えて、危機感を持つ必要がある。
2		親が子どもに嫌われなければならない。
3		結婚を施策として進めるのなら、婚活イベントで成立したカップルのその後の進展を追跡する必要がある。
4		個人情報保護の問題に触れずとも、追跡調査は可能。
5		若者に結婚の具体的なイメージを示す必要がある。
6	婚活をしている理由は自発的なものか義務的なものか	イベントをするだけでなく、「交流」させる仕掛けが重要。
7	パートナーに求める条件に男女間のギャップはあるのか	結婚は大変なことであり、やらないといけないことは、やっていかねばならない、という話をする必要がある。
8	コミュニケーションの不足	婚活イベント後にお互いに会っている事例を把握する必要がある。
9		婚活イベントを「2回目以降」のつきあいにつなげる工夫を考える必要がある。
10		1回限りの婚活イベントではなく、最初から複数回を連続してセッティングして、カップルで醸成していくような仕組みづくりが必要。
11		「第2弾」が大事なので、1つの婚活イベントに出席したら、別のイベントを紹介されるような仕組みづくりが必要。

2 最近の若者の子育て事情について

日 時：平成 30 年 11 月 14 日（水）14：30～15：30

場 所：奈良県庁

出席者：県内子育て支援団体関係者 5 名

【2-1 最近の若者の子育て事情】

番号	テーマ	実態
1	父親の育児参画	父親が育休を取って家にいると、妻が夫の昼食を作らないといけない等の状況がある。父親が育休を取る方が、余計妻の負担が増えてしまう現状があるのでは。
2		父親が午後 7 時までに帰宅できると、子どもの入浴などを手伝うことができるが、午後 7 時を過ぎると、母親の子どもの世話の邪魔になることもあり、一段落ついた午後 9 時以降に帰ってきてくれたほうが良いのが現状。
3		母親が里帰りした時、夫の世話をしなくて済むため、ほっとすると聞く。
4		父親が子どもを病院に連れて来ているが、子どもの普段の情報を母親から携帯で教えてもらっている。
5	地域とのつながりの構築	復職することが前提のためかもしれないが、複数の地域子育て支援拠点等を掛け持ちして利用し、他の利用者と距離を置く傾向がある。
6		専業主婦の母親同士、就業している母親同士で話をしたいという要望がある。
7		今の親世代は、子どもの時に小さい子どもと触れ合っていないため、子育ての感覚が分からない。
8		中学生などが子育ての現場を体験すると感動する。
9	夫婦の両親の子育てへの関わり	最近では、子育てに口を出してはいけないということが周知されてきたので、かえって祖父母は遠慮している。
10	子育てに関する悩みの相談	SNS 等の発達により、子育てに関する情報が過多となっており、情報を選ぶことが難しい状況。また、自分の育児と比較をしてしまう。
11		保護者の風潮として、子どもの失敗を嫌い、すぐに結果が出ることを期待する傾向がある。
12		保護者の中に、「子どもは自分の分身」という感覚があり、お人形感覚で着飾らせているが、子どもの普段の状況を答えられない人がいる。
13	母親の就労	積極的に働いて仕事を通じて社会とつながりたい母親がいる。
14		数年間は子どもとつながって育児をしたい母親もいるのに、行政や社会が母親に働くことを求める風潮には問題もある。

番号	テーマ	実態
15		自分は働き、子どもを保育のプロにあずけるほうが、子育てに自信を持てる母親もいる。

【2-2 最近の若者の子育て事情を踏まえた対応や意見】

番号	テーマ	対応や意見
1	父親の育児参画	父親の育休に力を入れていくのではなく、定時退社を保障して父親が子育てに参加するほうが効果的な場合もあるのではないかな。
2		奈良県に住んでいても、勤務先は大阪や京都が多いので、県内の職場での子育て支援だけでは効果が挙がらないのではないかな。
3	地域とのつながりの構築	保護者同士で子育てサークルなどをつくって、今後生活していく地域とのつながりを強めてもらう。
4		地域の中学校などが、つどいの広場などの体験ボランティアを通じて、小さな子どもとふれあう機会を提供する。
5	夫婦の両親の子育てへの関わり	祖父母が古い子育て知識で口を出すことのないように、祖父母世代への子育て知識の周知も必要。
6	子育てに関する悩みの相談	情報過多の状況の中、子育てに正解はないことを分かってもらうため、地域子育て支援拠点等で情報を取捨選択する手助けを行う。
7		保護者が地域子育て支援拠点等を利用することで、色々な子育てのあり方に触れて、育児の方法を学び、自信を持ってもらう。
8		まず支援者と保護者との信頼関係を構築して、相談を引き出すことが必要。
9	母親の就労	行政が母親の就労を推進する際には、母親不在でも父親が子どもの世話ができるよう、父親の育児啓発をセットで実施する必要がある。
10		「女性が輝く社会」のためには、女性にだけ啓発するのではなく、男性側の協力・理解が必要。
11		母親が働き、子どもをあずける場所に行くことが、他の子育て環境を知る機会につながる場合もある。

資 料

奈良県結婚・子育て実態調査

〔結婚されている方へのご質問票〕

ご協力のお願い

初秋の候、あなた様におかれましてはご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

この調査は、県民の皆さまの結婚や子どもを持つこと、子育てに対する意識や実態等を把握し、奈良県において子どもを生み育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施いたします。この調査は無作為抽出により実施しておりますが、このたび、あなた様を調査対象者として選ばせていただきました。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本県の今後の子育て支援策を考えるうえで大変重要な調査となりますので、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた内容につきましては、上記目的以外に使用することは一切なく、内容が他にもれることは絶対にありません。

どうぞ、安心してありのままをお答えいただきますよう、重ねてお願いいたします。

平成30年9月

奈良県知事 荒井 正吾

[記 入 上 の お 願 い]

- 1 この調査票は、結婚している（届出の有無にかかわらずパートナーがいる）50歳未満の女性または男性の方にご夫婦のことについて答えていただくためのものです。おそれいりませんが、対象となられる方ご自身がご記入ください。対象となられる方がいらっしゃらない場合は回答いただく必要はございません。
- 2 平成30年（2018年）9月1日現在の事実について、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書き込むものがあります。
- 4 回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、9月到着分は9月24日(月)、10月到着分は10月24日（水）までにご投函下さい。（調査票や封筒には氏名を書かず無記名でお願いします）
- 5 なお、この設問は、全国との調査比較や本県での経年比較を可能とするため、それらの調査と設問の文言を合わせています。そのため、一部なじみにくい表現もありますが、ご理解ください。

お問合せ先 奈良県福祉医療部 ども・女性局 女性活躍推進課
TEL:0742-27-8729

☆婚姻届の提出有無は問いませんが、便宜上女性を「妻」、男性を「夫」と記載しています。夫妻双方のことを聞く質問がありますが、夫妻のどちらか一方がご回答ください。

問1～問2は、すべての方にかがいます。(夫婦双方のことを回答ください)

問1 あなた方ご夫婦のうち、①回答される方に○をつけていただき、ご夫婦双方の②出生年月、③結婚生活を始めた年月および④初再婚の別について、あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。

夫婦	①回答者	②出生年月	③結婚生活を始めた年月	④初再婚の別
夫	<input type="radio"/>	1. 昭和 2. 平成 _____年____月 3. 西暦	1. 昭和 2. 平成 _____年____月 3. 西暦	1. 初婚 2. 再婚
妻	<input type="radio"/>	1. 昭和 2. 平成 _____年____月 3. 西暦		1. 初婚 2. 再婚

問2 あなたが現在一緒に住んでいる人すべてについて、あてはまる番号すべてに○をつけ、() 内に人数を記入してください。

1. 夫又は妻	5. 妻の母
2. 夫の父	6. 子ども (.....) 人
3. 夫の母	7. その他 (.....) 人
4. 妻の父	(その他を具体的に:)

すべての方にかがいます。

問3 あなた方ご夫婦のお子さん（成人を含む）は現在何人ですか。下記に人数をご記入ください。

全部で (.....) 人 *いない場合は0を記入し、問4へ

問3-1 あなた方ご夫婦のお子さんの誕生の時期を記入してください。里帰り出産をした場合は(県内外は問いません)中央欄に○をつけ、里帰り期間(産後)についてあてはまるものに○をつけてください。(第5子までの記入で結構です)

		里帰り出産	里帰り期間(産後)
第1子	1. 昭和 2. 平成 _____年____月生まれ 3. 西暦	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第2子	1. 昭和 2. 平成 _____年____月生まれ 3. 西暦	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第3子	1. 昭和 2. 平成 _____年____月生まれ 3. 西暦	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第4子	1. 昭和 2. 平成 _____年____月生まれ 3. 西暦	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超
第5子	1. 昭和 2. 平成 _____年____月生まれ 3. 西暦	<input type="radio"/>	1. 1ヶ月未満 2. 1～2ヶ月 3. 2ヶ月超

ご夫婦のお仕事についてうかがいます。

すべての方にかがいます。(夫婦双方のことを回答ください)

問4 あなた方ご夫婦のいろいろな時期のお仕事についておたずねします。下の a～h の各時期におけるご夫婦双方の①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

おたずねの対象者	おたずねの対象の時期	①おつとめの状況 ※1							② 職 種						
		1 正規職員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主	5 家族従業者・内職	6 無職・家事	7 学生	1 主として農林漁業	2 農林漁業以外の自営業	3 専門職	4 管理職	5 事務職	6 販売・サービス職	7 工場などの現場労働
		a～hのすべてについて、1～7のあてはまる番号に○をつける。1～5に○をつけたときは右の欄に進む。							①で1～5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。						
夫	a. 最後に学校を卒業した直後※2	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	b. 現在の結婚を決めたとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	c. 結婚直後	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	d. 現在	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
妻	e. 最後に学校を卒業した直後※2	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	f. 現在の結婚を決めたとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	g. 結婚直後	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	h. 現在	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

※1 産休・育児休業中の場合は、休業前の状況に○をつけてください。

※2 在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

おたずねの対象者	おたずねの対象の時期	③ おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)				④ 通勤時間(片道)			
		1 5 99 人	2 100 ～ 299 人	3 300 ～ 以上	4 官 公 庁	1 30 分 以 内	2 1 時 間 以 内	3 1 時 間 半 以 内	4 1 時 間 半 超
		①で1～5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。				①で1～5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。			
夫	a. 最後に学校を卒業した直後※3	1	2	3	4	1	2	3	4
	b. 現在の結婚を決めたとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	c. 結婚直後	1	2	3	4	1	2	3	4
	d. 現在	1	2	3	4	1	2	3	4
妻	e. 最後に学校を卒業した直後※3	1	2	3	4	1	2	3	4
	f. 現在の結婚を決めたとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	g. 結婚直後	1	2	3	4	1	2	3	4
	h. 現在	1	2	3	4	1	2	3	4

※3 在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

お子さんをお持ちの方にかがいます。それ以外の方は問5へお進みください。

問4-1 あなた方ご夫婦がお子さんをお持ちになったときの妻（妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答）のお仕事についておたずねします。下の a~f の各時期における①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数、④片道の通勤時間について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

おたずねの対象者	おたずねの対象の時期	① おつとめの状況 ※1							② 職 種						
		1 正規職員	2 パート・アルバイト	3 派遣・嘱託・契約社員	4 自営業主	5 家族従業者・内職	6 無職・家事	7 学生	1 主として農林漁業	2 農林漁業以外の自営業	3 専門職	4 管理職	5 事務職	6 販売・サービス職	7 工場などの現場労働
		a~fの該当するすべてについて、1~7のあてはまる番号に○をつける。1~5に○をつけたときは右の欄に進む。							①で1~5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。						
第1子を生んだ方	a. 第1子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	b. 第1子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
第2子を生んだ方	c. 第2子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	d. 第2子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
第3子を生んだ方	e. 第3子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
	f. 第3子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7

※1 産休・育児休業中の場合は、就業と見なします。休業前の状況に○をつけてください。

*お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までの記入で結構です。

おたずねの対象者	おたずねの対象の時期	③ おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)				④ 通勤時間 (片道)			
		1 100 人	2 100 ~ 299 人	3 300 ~ 999 人	4 1000 人以上	1 30分以内	2 1時間以内	3 1時間半以内	4 1時間半超
		①で1~5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。				①で1~5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。			
第1子を生んだ方	a. 第1子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	b. 第1子が1歳になったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
第2子を生んだ方	c. 第2子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	d. 第2子が1歳になったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
第3子を生んだ方	e. 第3子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	1	2	3	4
	f. 第3子が1歳になったとき	1	2	3	4	1	2	3	4

*お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までの記入で結構です。

現在夫婦どちらか、または両方がお仕事をお持ちの方のうちの方がいます（夫婦双方のことを回答ください）。それ以外の方は問6へお進みください。

問5 あなた方ご夫婦の現在のお仕事について、次の①～⑨までの項目に、該当する数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

	夫のお仕事について (現在仕事に就いている場合のみ記入)	妻のお仕事について (現在仕事に就いている場合のみ記入)
① 1週間の平均的な労働時間 (残業時間も含む)	週あたり平均 _____ 時間	週あたり平均 _____ 時間
② 年間の収入 (税込み)	1. 300万円未満 2. 300～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600万円以上	1. 300万円未満 2. 300～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600万円以上
③ 現在の仕事の継続年数	およそ _____ 年 (※1年未満は1年と記入)	およそ _____ 年 (※1年未満は1年と記入)
④ 今後の継続の見通し	1. 当分は今の仕事を続ける。 2. 転職の可能性有り 3. 退職の可能性有り 4. わからない	1. 当分は今の仕事を続ける。 2. 転職の可能性有り 3. 退職の可能性有り 4. わからない
	予想される理由に <u>1つ</u> ○をつけてください。 1. 仕事・職場の事情 2. (次の) 出産を機に 3. 親族の介護のため 4. その他 ()	予想される理由に <u>1つ</u> ○をつけてください。 1. 仕事・職場の事情 2. (次の) 出産を機に 3. 親族の介護のため 4. その他 ()
⑤ 平均的な家を出る(出勤)時刻	_____ 時 _____ 分頃	_____ 時 _____ 分頃
⑥ 平均的な帰宅時刻	_____ 時 _____ 分頃	_____ 時 _____ 分頃
⑦ 勤務日の睡眠時間	_____ 時間 _____ 分程度	_____ 時間 _____ 分程度
⑧ 通勤時間(片道)	_____ 時間 _____ 分程度	_____ 時間 _____ 分程度
⑨ 不規則勤務であるか (夜勤がある又はシフト制勤務)	1. 規則的な勤務 2. 不規則勤務	1. 規則的な勤務 2. 不規則勤務

問6-4 今後どのような条件が整えば就労しようと思いませんか。

(あてはまるものすべてに○をつけてください)

1. 保育所等の保育サービスが利用できること
2. 放課後児童クラブが利用できること
3. 短時間勤務ができる仕事があること
4. 子どもの看護・授業参観・急病等の際に休暇を取りやすい職場であること
5. 自分の知識・能力に合う仕事があること
6. 事前に自分の知識・能力を高めることができること
7. パートナー（夫）の理解・協力を得られること
8. 親の理解・協力を得られること
9. どのような条件が整っても、就労しようと思わない。
10. その他（具体的に： _____）

妻が以前お仕事をされていたが、現在はお仕事をお持ちでない夫婦について（妻は自分の状況、夫は妻の状況を回答）うかがいます。それ以外の方は問8へお進みください。（産休・育児休業は「仕事を辞めた」と捉えません）

問7 あなた（あなたの妻）がお仕事を辞めた時期はいつごろですか。（複数回辞めている場合、初めて辞めた時期に○をつけてください。）

- | | | |
|-------------|------------|-----------------|
| 1. 結婚とほぼ同じ頃 | 4. 第2子出産前 | 7. 第3子出産以降 |
| 2. 第1子出産前 | 5. 第2子出産以降 | 8. その他（ _____ ） |
| 3. 第1子出産以降 | 6. 第3子出産前 | |

問7-1 あなた（あなたの妻）がお仕事を辞めた理由は何でしたか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

1. 家事・子育てに専念したかったから
2. もともと仕事を辞めたかったから
3. 職場では、結婚や出産を機に退職するのが当たり前だったから
4. 出産休暇・育児休暇が取りにくい職場だったから
5. 子育てをしながら仕事を続けられる雰囲気職場になかったから
6. 子どもが生まれ、仕事と子育ての両立が困難となったから
7. 保育所等の保育サービスが利用できなかったから
8. 子どもが小学校に入学したから
9. パートナー（夫）の理解や協力が得られなかったから
10. 親の理解や協力が得られなかったから
11. 職場が遠かったから
12. 奈良県に転入し、職場が遠くなったから
13. その他（具体的に： _____）

ご夫婦の出会いと結婚のきっかけについてうかがいます。

すべての方うかがいます。

問8 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1. 学校で | 8. 街中や旅先で |
| 2. 職場や仕事の関係で | 9. アルバイトで |
| 3. 幼なじみ・隣人関係 | 10. 民間の出会いイベントで |
| 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・
習い事で | 11. 公的な出会いイベントで |
| 5. 友人や兄弟姉妹を通じて | 12. その他
() |
| 6. 見合いで(親戚・上役などの紹介も含む) | |
| 7. 結婚相談所で | |

問9 あなた方ご夫婦が、最終的に結婚を決めたときの直接のきっかけは何ですか。(○は2つまで)

- | |
|--------------------------------|
| 1. 結婚資金(挙式や新生活の準備のための費用)が用意できた |
| 2. 収入や住居など結婚生活のための経済的基盤ができた |
| 3. 自分または相手の仕事の事情 |
| 4. できるだけ早く一緒に暮らしたかった |
| 5. 年齢的に適当な時期だと感じた |
| 6. できるだけ早く子どもがほしかった |
| 7. 子どもができた |
| 8. 友人や同年代の人たちの結婚 |
| 9. 親や周囲のすすめ |
| 10. その他(具体的に:) |

家事・育児の分担や夫婦の関係についてうかがいます。

すべての方にはうかがいます。

問10 あなたとパートナー（夫または妻）との関係についてお聞きします。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 あてはまる	2 どちらかといえばあてはまる	3 どちらかといえばあてはまらない	4 あてはまらない
① パートナー（夫または妻）は家族と一緒に過ごす時間をつくる努力をしている	1	2	3	4
② パートナー（夫または妻）は私の悩みや不満によく耳を傾けてくれる	1	2	3	4
③ パートナー（夫または妻）は私の仕事や家事、子育てをねぎらってくれる	1	2	3	4
④ 子育てについてパートナー（夫または妻）とよく話し合っている	1	2	3	4
⑤ 私とパートナー（夫または妻）は子育てや家事などをお互い分担し助け合っている	1	2	3	4

すべての方にはうかがいます。（夫婦双方のことを回答ください）

問11 あなた方ご夫婦は家事をどれくらいしていますか。

	夫					妻				
	5 いつもしている	4 ほとんどしている	3 半分くらいしている	2 時々している	1 まったくしていない	5 いつもしている	4 ほとんどしている	3 半分くらいしている	2 時々している	1 まったくしていない
① 食事のしたくをする	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
② 食事の後片付けをする	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③ 買い物をする	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④ 洗濯をする	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤ 掃除をする	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥ ごみを出す	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

お子さんをお持ちの方にかかいます（夫婦双方のことを回答ください）。それ以外の方は問22へお進みください

問12 あなた方ご夫婦は育児をどれくらいしていましたか、または、現在どれくらいしていますか。

	夫					妻				
	5 いつもしている	4 ほとんどしている	3 半分くらいしている	2 時々している	1 まったくしていない	5 いつもしている	4 ほとんどしている	3 半分くらいしている	2 時々している	1 まったくしていない
① 子どもをあやす	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
② 子どもを寝かしつける	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
③ 夜泣きの対応	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
④ オムツがえ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑤ 授乳（ミルク育児・混合育児を実施している場合を含みます）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑥ 離乳食・食事	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑦ 入浴・沐浴	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑧ 歯ブラシ・爪切りなどの衛生面のケア	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑨ 健診や予防接種に連れて行く	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑩ 子どもが病気の時、面倒を見る	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑪ 子どもと一緒に遊ぶ	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1
⑫ 保育所・認定こども園・幼稚園等の送り迎え（該当する場合のみ）	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

子育ての不安感・負担感や手助け・相談相手についてうかがいます。

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問13 子育ての不安感や負担感などに関する以下の①～⑤の項目について、あなた自身はどのように感じていますか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 まったく そう感じる	2 どちらかと いえばそう 感じる	3 どちらかと いえばそう 感じない	4 まったく そう感じない
① 子育てに身体的・体力的な不安・負担を感じている	1	2	3	4
② 子育てに心理的・精神的な不安・負担を感じている	1	2	3	4
③ 子育てに金銭的・経済的な不安・負担を感じている	1	2	3	4
④ パートナー（夫または妻）と一緒に子育てをしていると感じている	1	2	3	4
⑤ 子育てをされていて周囲から孤立していると感じている	1	2	3	4

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問14 妻のみに伺います。回答者が夫の場合は、回答不要です。出産前と出産後の各時期において、精神的・肉体的な不安感がどれくらいありましたか。

	1 とても不安	2 少し不安	3 不安はなかった
① 妊娠初期（～13週）	1	2	3
② 妊娠中期（14週～27週）	1	2	3
③ 妊娠後期・臨月（28週～）	1	2	3
④ 出産直前・直後	1	2	3
⑤ 新生児期（生後4週間まで）	1	2	3
⑥ 生後2ヶ月～4ヶ月（〔概ね〕首がすわる時期）	1	2	3
⑦ 生後5ヶ月～8ヶ月 （〔概ね〕ひとりすわり、離乳食を始める時期）	1	2	3
⑧ 生後9ヶ月～11ヶ月 （〔概ね〕ハイハイ・つかまり立ちを始める時期）	1	2	3
⑨ 1歳	1	2	3
⑩ 2歳	1	2	3
⑪ 3歳～5歳	1	2	3

問18～問20は、小学生未満（乳幼児）のお子さんをお持ちの方にうかがいます。それ以外の方は問21へお進みください。

問18 あなたは、子育てについて、気軽に相談できる人がいますか。（○は1つ）

1. 3名以上いる	2. 1～2名いる	3. いない → 問19へ
-----------	-----------	---------------

↓

問18-1 問18で「1.」または「2.」と回答した方にうかがいます。

気軽に相談できる人は誰ですか。（○はあてはまるものすべて）

1. 親や家族	5. 学校や教員
2. 友人	6. 行政の相談窓口
3. 近所の人	7. その他
4. 子育ての支援者	(具体的に:)

問19 あなたは、子育てを楽しんでいることが多いですか、それともつらいと感じることが多いですか。（○は1つ）

1. 楽しいと感じることの方が多い
2. 楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい
3. つらいと感じることの方が多い
4. その他（具体的に:)
5. わからない

問20 以下のような不安や悩みがありましたか（現在ありますか）。（○はあてはまるものすべて）

1. 仕事や家事が忙しくて、子どもとのふれあいが十分できない
2. 仕事や家事が忙しくて、子どものしつけが十分できない
3. 自分の自由な時間がない
4. 子ども連れで行動したい場合、不自由を感じる
5. 安全な遊び場がない
6. 出産や育児に費用がかかりすぎる
7. パートナー（夫または妻）が家事や育児に協力的でない
8. 安心して子どもを預けられるところがないため、仕事との両立が難しい
9. 保育所・幼稚園の行事や健康診断、予防接種などの時、仕事を休みにくい
10. 乳児（0歳児）を預けられるところがない
11. 子どもが病気の時、預かってくれるところがない
12. 保育時間が限定されており、子どもの送り迎えが困難
13. 早朝や深夜などに仕事をする場合、子どもを預けるところがない
14. 育児方針について、子どもの祖父母と意見が合わない
15. 悩み事の相談先がわからない
16. その他（具体的に:)
17. 不安や悩みは特にない

男性の育児や家事への関わりについてうかがいます。

お子さんをお持ちの方全員にうかがいます。

問21 あなた（あなたの夫は）はイクメン（育児を積極的にする男性）だと思いますか。（○は1つ）

- | | |
|-----------------|---------|
| 1. 思う | 3. 思わない |
| 2. どちらかと言えばそう思う | |

お子さんをお持ちの妻にうかがいます。

問21-1 妻のみに伺います。回答者が夫の場合は回答不要です。あなたの夫の子育ての関わり方のイメージに近いのはどれですか。（○は1つ）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 十分関わっている | 3. 全く関わっていない |
| 2. あまり関わっていない | |

お子さんをお持ちの夫にうかがいます。

問21-2 夫のみに伺います。回答者が妻の場合は、回答不要です。あなたの子育ての関わり方のイメージに近いのはどれですか。（○は1つ）

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 十分関わっている | 3. 全く関わっていない |
| 2. あまり関わっていない | |

問21-3 問21-2で「2. あまり関わっていない」「3. 全く関わっていない」を選んだ方に伺います。子育てに関わらない理由は何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|---|------------|
| 1. 仕事が忙しいから | 2. 関心がないから |
| 3. 育児や家事のやり方が分からないから | |
| 4. 妻からやらなくてよいと言われているから | |
| 5. 夫が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから | |
| 6. 妻が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから | |
| 7. 夫または妻の親族が、育児や家事は女性がするものという考えを持っているから | |
| 8. その他（ | ） |

子どもを持つことについてうかがいます。

すべての方へうかがいます。

問22 あなた方ご夫婦にとって、理想的な子どもの数は何人ですか。(○は1つ)

理想とする子どもの数 (a)	
0. 子どもはいらない → 問26へ	
1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 (.....)人	

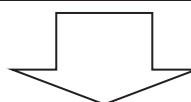
問22-1 理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから 2. 子どもを持つことで周囲から認められるから 3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから 4. 子どもは老後の支えになるから 5. 子どもは将来の社会の支えになるから 6. 子どもは夫婦関係を安定させるから 7. 好きな人の子どもを持ちたいから 8. 夫や親などの周囲が望むから 9. その他 (具体的に: _____)
--

問22で理想的な子どもの数を1人以上と回答した方へうかがいます。それ以外の方は、問26へお進みください。

問23 あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。①今後のお子さんの予定数と②希望の時期について、また、③今後の予定も含めて全部で何人のお子さんを持つおつもりかを、あてはまる番号に○をつけてください。

① 今後のお子さんの予定 (現在妊娠中のお子さんも含めて)	
0. (もう) 生むつもりはない → ③へ	
1. (あと) 1人生むつもり 2. (あと) 2人生むつもり 3. (あと) 3人生むつもり 4. (あと) 4人以上生むつもり	② (次の) お子さんを希望する時期 1. できるだけ早く 2. しばらく間をおいてから 3. とくに考えていない 4. 現在妊娠中



③ 今後の予定も含めて全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。(b)			
0. 子どもは持たない	1. 1人	2. 2人	3. 3人
4. 4人	5. 5人以上 (.....人)		

問22と問23で「持つつもりの子どもの数」が「理想とする子どもの数」より少ない方に
うかがいます。それ以外の方は、問26へお進みください。

問24 持つつもりの子どもの数（b：問23③）が、理想とする子どもの数（a：問
22）より少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号す
べてに○をつけ、その中で最大の理由には◎をつけてください。

1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
2. 家が狭いから
3. 自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから
4. 子どもがのびのび育つ環境ではないから
5. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
6. 高年齢で生むのはいやだから
7. これ以上、育児の心理的、肉体的不安に耐えられないから
8. 健康上の理由から
9. 欲しいけれどもできないから
10. 夫の家事・育児への協力が得られないから
11. 夫が望まないから
12. 末子が夫の定年退職までに成人してほしいから
13. その他（具体的に： _____)

問24で「1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから」を選択した方にうかがいます。そ
れ以外の方は、問26へお進みください。

問25 子育てや教育にお金がかかりすぎると考える要因について、下の理由のう
ちから、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 出産にかかる費用
2. 衣食住にかかる費用
3. 医療にかかる費用
4. 保育所・認定こども園・幼稚園等にかかる費用
5. 小学校・中学校教育にかかる費用
6. 高等学校教育にかかる費用
7. 大学教育にかかる費用
8. その他（具体的に： _____)

家族観・子ども観についてうかがいます。

すべての方にうかがいます。

問26 結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考えがありますが、下に例として①～⑮のような考え方を示しました。それぞれについて、あなた自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 そう 思う	2 どちら かとい えば そう 思う	3 どち らか とい えば そう 思わ ない	4 そう 思わ ない
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
④ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑤ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑥ 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない	1	2	3	4
⑦ 結婚してよかったと思う	1	2	3	4
⑧ 妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない	1	2	3	4
⑨ 子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う	1	2	3	4
⑩ 子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）	1	2	3	4
⑪ 老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う	1	2	3	4
⑫ 子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う	1	2	3	4
⑬ 子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う	1	2	3	4
⑭ 親にも子育てに協力してもらいたいと思う	1	2	3	4
⑮ 子どもを持つことで自分も成長できると思う	1	2	3	4

子育て支援策についてうかがいます。

すべての方にはうかがいます。

問27 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

①奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思いますか
1. はい
2. いいえ



②「1. はい」の理由
1. 買物など日常の生活環境が整っているから 2. 通勤・通学に便利だから 3. 教育環境が充実しているから 4. 医療が充実しているから 5. 家賃など住居費が安いから 6. 治安を守るための対策が十分だから 7. 福祉サービスが充実しているから 8. 緑などの自然環境がよいから 9. その他（具体的に： _____）
③「2. いいえ」の理由
1. 買物など日常の生活環境が整っていないから 2. 通勤・通学に不便だから 3. 教育環境が充実していないから 4. 医療が充実していないから 5. 家賃など住居費が高いから 6. 治安を守るための対策が不十分だから 7. 福祉サービスが充実していないから 8. 緑などの自然環境がよくないから 9. その他（具体的に： _____）

すべての方にはうかがいます。

問28 父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思いますか。（○は1つ）

1. 思う 2. 思わない	3. どちらとも言えない
------------------	--------------

問28-1 問28で「1. 思う」を選んだ方に伺います。父親の育児休暇・休業の取得期間はどれくらい必要だと思いますか。（○は1つ）

1. 1週間以内 2. 2週間程度 3. 1ヶ月程度	4. 2ヶ月程度 5. 3ヶ月以上
----------------------------------	----------------------

すべての方にうかがいます。

問28-2 すべての方に伺います。企業における男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由（H28：奈良県3.2%・全国：5.14%）は何だと思えますか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1. 会社に人的余裕がなく、職場の仕事が物理的に回らなくなる
2. 職場の理解がなく、取得できる雰囲気でない
3. 男性が育児休暇を取得すると、実際、出世に影響が出たり、不合理な待遇を受けている。
4. 男性は育児のために休まず働くべきであるという社会的風潮
5. 育児休暇中の給与減
6. 男性側が育児に興味がなく、仕事をしたいという考えを持っている。
7. 妻が、男性は働くべきであるという考え方を持っている。
8. その他（)

すべての方にうかがいます。

問29 あなたは、保育所等のサービスに対し、どのようなことを望みますか。（○はあてはまるものすべて）

1. 待機しなくても入所できるよう、保育所等の数や定員を増やすこと
2. バスなどによる保育所までの送迎サービスの実施
3. 一時保育（緊急時など、一時的に利用すること）の充実
4. 延長保育（通常の開所時間を超えて行われる保育）の充実
5. 夜間保育（22時頃まで行われる保育）の充実
6. 病児・病後児保育（風邪などの病児又は病後児を預かること）の充実
7. 必要に応じて柔軟に行われる保育（週2～3日程度又は午前か午後のみ）の充実
8. 保育所内子育て相談コーナー（地域子育て支援拠点（地域子育て支援センターなど））の設置・拡充
9. 保育所と幼稚園の機能の一体化
10. 今のままでよい
11. その他（具体的に：)
12. わからない

問30 あなたは、子育てをする際に、地域住民が主体的に実施する活動として、どのようなものがあればいいと思えますか。（○はあてはまるものすべて）

1. 子育てに関する悩みを気軽に相談できるような活動
2. 子育てをする親どうしで話ができる仲間づくりの活動
3. 子育てに関連した情報を簡単に入手しあえるような活動
4. 不意の外出の時などに子どもを預かる活動
5. 子育て家庭の家事を支援する活動
6. 子どもにスポーツや勉強を教える活動
7. 子どもと遊んでくれる活動
8. その他（具体的に：)
9. 特にない
10. わからない

すべての方にかがいます。お子さんをお持ちでない方はこの質問で回答が終了します。
 自由意見がある場合は、最終ページに記載欄がありますので、記入願います。

問31 奈良県で子育てをするにあたり、下記問32の①～⑧の各項目について、最重要だと思うものを1つ、次に重要だと思うものを2つ選んで記入して下さい。

最重要と 思う番号	
--------------	--

次に重要と 思う番号		
---------------	--	--

お子さんをお持ちの方にかがいます。

問32 奈良県で子育てをするにあたり、次の①～⑧の各項目について、どれくらいの「満足度」を感じていますか。各項目それぞれの「満足度」について、あなたのお気持ちに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

	満足度			
	4	3	2	1
	て い る	て い る	て い ない	さ れ て い ない
	十分 満 た さ れ	ど ち ら か と れ い	ど ち ら か と れ い	ほと んど 満 た
① 子育てにかかる経済的支援	4	3	2	1
② 保育所等の保育サービスの充実	4	3	2	1
③ 親子を対象とした地域における子育て支援事業 (地域子育て支援拠点事業やファミリーサポート センターなど)	4	3	2	1
④ 男性の育児休暇取得の推進	4	3	2	1
⑤ 働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上	4	3	2	1
⑥ 出産・子育て後、再就職を希望する者に対する 支援	4	3	2	1
⑦ 子育てしやすい住宅施策やまちの遊び場の充実	4	3	2	1
⑧ 自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動 など子どものための事業	4	3	2	1

お子さんをお持ちの方にはうかがいます。

問33 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、子育てに関する各制度や施設を利用しましたか。(○はあてはまるものすべて)

	利用した制度や施設																		
	1 産前・産後休暇制度	2 育児休業制度(妻)	3 育児休業制度(夫)	4 短時間勤務制度(妻)	5 短時間勤務制度(夫)	6 公立の認可保育所(特例保育事業を含む)	7 私立の認可保育所	8 公立の認定こども園(保育所と幼稚園が一体化した施設)	9 私立の認定こども園	10 小規模保育事業	11 家庭的保育事業	12 保育所・幼稚園等の一時預かり	13 事業所内保育事業	14 企業主導型保育事業	15 認可外保育施設(託児所・ベビーホテル)など	16 民間のベビシッター	17 ファミリーサポートセンター(会員間の育児の相互援助活動)	18 地域の子育て支援拠点(親子の交流や育児相談をする場)	19 どれも利用しなかった
おたずねのお子さん	○はあてはまるものすべて																		
第1子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
第2子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
第3子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19

問33-1 「18. 地域の子育て支援拠点」を利用しなかった方にお伺いします。なぜ利用しなかったのか、あてはまるものに○を1つつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------------|
| 1. きょうだい近く | 6. 必要性を感じなかった |
| 2. 友人(ママ友)がいた | 7. 何となく行きにくかった |
| 3. 親や親戚が近く | 8. その他 () |
| 4. 地域の子育て支援拠点を知らなかった | |
| 5. 身近な場所に地域の子育て支援拠点がなかった | |

本調査について、あるいは結婚、出産、子育て、少子化などにつきまして、ご意見等がございましたら、下記の欄にどのようなことでもご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、9月到着分は9月24日(月)、10月到着分は10月24日(水)までにご投函下さい。(調査票や封筒には氏名を書かず無記名でお願いします)

お問合せ先 奈良県福祉医療部 こども・女性局女性活躍推進課
TEL:0742-27-8729

奈良県結婚・子育て実態調査

〔独身の方へのご質問票〕

ご協力 の お 願 い

初秋の候、あなた様におかれましてはご清祥にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

この調査は、県民の皆さまの結婚や子どもを持つこと、子育てに対する意識や実態等を把握し、奈良県において子どもを生み育てやすい環境づくりを進める取組を検討するための基礎資料を得ることを目的に実施いたします。この調査は無作為抽出により実施しておりますが、このたび、あなた様を調査対象者として選ばせていただきました。

ご多用のところ誠に恐縮ですが、本県の今後の子育て支援策を考えるうえで大変重要な調査となりますので、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた内容につきましては、上記目的以外に使用することは一切なく、内容が他にもれることは絶対にありません。

どうぞ、安心してありのままをお答えいただきますよう、重ねてお願いいたします。

平成30年 9月

奈良県知事 荒井 正吾

〔記入上のお願い〕

- 1 この調査票は18歳以上50歳未満の独身の男性および女性に答えていただくためのものです。おそれいりますが、対象となられる方ご自身がご記入ください。対象となられる方がいらっしゃらない場合は回答いただく必要はございません。
- 2 平成30年（2018年）9月1日現在の事実について、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書き込むものがあります。
- 4 回答後の調査票は、同封の返信用封筒に入れ、9月到着分は9月24日（月）、10月到着分は10月24日（水）までにご投函下さい。（調査票や封筒には氏名を書かず無記名でお願いします）
- 5 なお、この設問は、全国との調査比較や本県での経年比較を可能とするため、それらの調査と設問の文言を合わせています。そのため、一部なじみにくい表現もありますが、ご理解ください。

お問合せ先 奈良県福祉医療部 こども・女性局女性活躍推進課
TEL:0742-27-8729

問1～3は、すべての方にかがいます。

問1 ①にあなたの出生年月を記入してください。また、②性別、③親との同居/別居について、あてはまる番号に○をつけてください。

① 出生年月	② 性別	③ 親との同居/別居
1. 昭和 2. 平成 _____年____月____日 3. 西暦	1. 男 2. 女	1. 親と同居している 2. 親と離れて（別居して）生活している 3. すでに亡くなられた

問2 あなたはこれまでに結婚（届出をしたもの）をしたことがありますか。（○は1つ）

1. ない	2. ある
-------	-------

問2-1 あなたに現在お子さんはいますか（成人を含む）。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②にお子さんの数を記入してください。

① お子さんが	② お子さんの数
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;"> 1. いる </div> 2. いない	() 人

あなたのお仕事についておうかがいします。

問3 あなたのお仕事についておたずねします。a, b の2つの時期について、それぞれ①おつとめの状況、②職種、③おつとめ先の従業員数のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	① おつとめの状況							② 職 種							③ おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)			
	1 正 規 職 員	2 パ ー ト ・ ア ル バ イ ト	3 派 遣 ・ 嘱 託 ・ 契 約 社 員	4 自 営 業 主	5 家 族 従 業 者 ・ 内 職	6 無 職 ・ 家 事	7 学 生	1 主 と し て 農 林 漁 業	2 農 林 漁 業 以 外 の 自 営 業	3 専 門 職	4 管 理 職	5 事 務 職	6 販 売 ・ サ ー ビ ス 職	7 工 場 な ど の 現 場 労 働	1 〜 99 人	2 100 〜 299 人	3 300 人 以 上	4 官 公 庁
おたずねの対 象の時期	1～7のあてはまる番号に○をつける。1～5に○をつけたときは右の欄に進む。							①で1～5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。							①で1～5に○をつけたときだけあてはまる番号に○をつける。			
a. 最後に学校を 卒業した直後※	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4
b. 現在	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4

※在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

現在お仕事をお持ちの方にうかがいます。お仕事をお持ちでない方は問5に進んでください。

問4 あなたの現在のお仕事について、次の①～⑩までの項目について数字を記入し、あてはまる番号に○をつけてください。

	あなたの仕事について (現在お仕事を <u>お持ちの方</u>)
① 1週間の平均的な労働時間(残業時間も含む)	週あたり平均 _____ 時間
② 年間の収入 ※(税込み)	1. 300万円未満 2. 300～400万円未満 3. 400～600万円未満 4. 600万円以上
③ 現在の仕事の継続年数	およそ _____ 年 1年未満は1年としてください
④ 今後の継続の見通し	1. 当分は今の仕事を続ける。 2. 転職の可能性有り 3. 退職の可能性有り 4. わからない
⑤ 平均的な家を出る(出勤)時刻	_____ 時 _____ 分頃
⑥ 平均的な帰宅時刻	_____ 時 _____ 分頃
⑦ 勤務日の睡眠時間	_____ 時間 _____ 分程度
⑧ 通勤時間(片道)	_____ 時間 _____ 分程度
⑨ 不規則勤務であるか (夜勤がある又はシフト制勤務)	1. 規則的な勤務 2. 不規則勤務

⑩ 2または3と回答した方は、予想される理由1つに○をつけてください。
 1. 仕事・職場の事情
 2. 結婚を機に
 3. 出産を機に
 4. 親族の介護のため
 5. 上記以外の事情

問7 下記に女性・男性の生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ最も近いと思われるタイプの番号を選択肢から選び、回答欄に記入してください。

(1) 女性の生き方のタイプ

女性の方へ

- ① あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
 ② 理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

女性回答欄 (回答はそれぞれ1つずつ)	
① 理想とする人生	② 実際になりそうな人生



男性の方へ

- ③ パートナー (あるいは妻) となる女性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

男性回答欄 (回答は1つだけ)
③ パートナー (あるいは妻) となる女性に望む人生



選 択 肢	1. 結婚せず、仕事を続ける 2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける 3. 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける 4. 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ 5. 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない 6. その他 ()
-------------	---

(2) 男性の生き方のタイプ

男性の方へ

- ① あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
 ② 理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

男性回答欄 (回答はそれぞれ1つずつ)	
① 理想とする人生	② 実際になりそうな人生



女性の方へ

- ③ パートナー (あるいは夫) となる男性にはどのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

女性回答欄 (回答は1つだけ)
③ パートナー (あるいは夫) となる男性に望む人生



選 択 肢	1. 結婚せず、仕事を続ける 2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける 3. 結婚し、子どもを持つが、子育てはパートナー (妻) にまかせて、仕事を中心とした生活を送る 4. 結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、できる範囲内で子育てにも参加する 5. 結婚し、子どもを持ち仕事を続けるが、積極的に子育てにも参加する 6. 結婚し、子どもを持つが、仕事はパートナー(妻)にまかせて、夫が仕事を辞め、家庭を中心とした生活を送る 7. その他 ()
-------------	--

すべての方にうかがいます。

問8 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。(○は1つ)

- | |
|------------------------|
| 1. いずれ結婚するつもり → 問9へ |
| 2. 一生結婚するつもりはない → 問14へ |

問9～13は、問8で1に○をつけた方(いずれ結婚するつもりの方)にうかがいます。
2に○をつけた方は問14に進んでください。

問9 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。(○は1つ)

- | |
|-------------------------------|
| 1. ある程度の年齢までには結婚するつもり |
| 2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない |

問10 あなたは何歳ぐらいのときに結婚したいと思いますか。希望する年齢を()内に記入してください。

自分が(.....)歳ぐらいの時に結婚したい

問11 あなたはどのようなきっかけで交際相手と知り会いたいですか。(○は3つまで)

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 学校で | 8. 街中や旅先で |
| 2. 職場や仕事の関係で | 9. アルバイトで |
| 3. 幼なじみ・隣人関係 | 10. 民間の出会いイベントで |
| 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習い事で | 11. 公的な出会いイベントで |
| 5. 友人や兄弟姉妹を通じて | 12. その他 |
| 6. 見合いで(親戚・上役などの紹介も含む) | () |
| 7. 結婚相談所で | |

問12 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。自分にあてはまると思われる最大の理由、第二の理由、第三の理由をそれぞれ1つ選んで、右の回答欄に番号を記入してください(すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に12と記入してください)

- | |
|--------------------------|
| 1. 結婚するにはまだ若すぎるから |
| 2. 結婚する必要性をまだ感じないから |
| 3. 今は、仕事(または学業)にうちこみたいから |
| 4. 今は、趣味や娯楽を楽しみたいから |
| 5. 独身の自由さや気楽さを失いたくないから |
| 6. 適当な相手にまだめぐり合わないから |
| 7. 異性とうまくつき合えないから |
| 8. 結婚資金が足りないから |
| 9. 結婚生活のための住居のめどがたたないから |
| 10. 親や周囲が結婚に同意しない(だろう)から |
| 11. その他
(具体的に:) |
| 12. すでに結婚が決まっている |

回答欄		
最大の理由	第二の理由	第三の理由

問13 あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑤の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。また、その他に重視することがある場合は、⑥に具体的に記入ください。

	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
① 相手の経済力	1	2	3
② 相手の性格	1	2	3
③ 自分の仕事や生き方に対する理解と協力	1	2	3
④ 家事・育児に対する能力や姿勢	1	2	3
⑤ 価値観が合うこと	1	2	3
⑥ その他（具体的に： _____）			

現在交際している方につながります。それ以外の方は問15へお進みください。

問14 現在交際している人と結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。左下①のあてはまる番号に○をつけてください。また、①の1. に○をつけた方は、右側②の障害になると思うことの中から、最大の障害と第二の障害をそれぞれ1つ選んで右の回答欄に番号を記入してください。

① 結婚するとしたら	② 障害になると思うこと	回答欄				
1. 障害になることがあると思う 2. 障害になることはないと思う	1. 結婚生活のための住居 2. 結婚式（挙式や新生活の準備のための）費用 3. 親の承諾 4. 親との同居や扶養 5. 学校や学業上の問題 6. 職業や仕事上の問題 7. 年齢上のこと 8. 健康上のこと 9. その他（具体的に： _____）	<table border="1"> <thead> <tr> <th>最大の障害</th> <th>第二の障害</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="height: 40px;"></td> </tr> </tbody> </table>	最大の障害	第二の障害		
最大の障害	第二の障害					

子どもに関することについておうかがいします。

問15は、子どものいない方につながります。それ以外の方は問16へお進みください。

問15 あなたは、子どもは何人くらいほしいですか。あてはまる番号に○をつけ、（ ）内に人数を記入してください。また、子どもを1人以上希望される方は、最初のお子さんを持ちたい年齢を（ ）内に記入してください。

① 希望する子どもの数	② 最初のお子さんを持ちたい年齢
0. 子どもはいらない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上（ _____ ）人	あなたが （ _____ ）歳くらいのとき

すべての方にかがいます。

問16 あなたは、子育てについて、どのように感じておられますか。(○は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1. 楽しいと思う
2. 楽しいと思うこととつらいと思うことが同じくらい
3. つらいと思う
4. その他 (具体的に：
5. わからない |) |
|---|---|

問17 あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない(いなかった)場合は、5に○をつけてください。

	1. あてはまる	2. どちらかといえばあてはまる	3. どちらかといえばあてはまらない	4. あてはまらない	4. 該当しない
① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった(よくある)	1	2	3	4	5
② 両親のような夫婦関係をうらやましく思う	1	2	3	4	5
③ 結婚しているまわりの友人を見ると、幸せそうだと思う	1	2	3	4	5
④ 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い	1	2	3	4	5

結婚、家庭、子どもを持つことのお考え方についておうかがいします。

すべての方にかがいます。

問18 あなたの将来設計(いつまでに何をするか)について、あてはまるもの全てに○をつけてください。

- | | |
|---|---|
| 1. 就職をいつまでにするか考えている
2. 仕事をいつまで続けるか考えている
3. 結婚をいつまでにするか考えている
4. 子どもをいつまでに持つか考えている
5. 上記1～4の将来設計は特に持っていない
6. その他 (|) |
|---|---|

すべての方にかがいます。

問19 結婚、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑬のような考え方を示しました。それぞれについて、あなた自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれ右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	1 そう思う	2 どちらかといえば そう思う	3 どちらかといえば そう思わない	4 そう思わない
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
④ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑤ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たずに家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑥ 妊娠をきっかけとする結婚（いわゆる「授かり婚」）には抵抗がない	1	2	3	4
⑦ 子どもにはできるだけお金（十分な教育費用など）をかけたいと思う	1	2	3	4
⑧ 子どもがいたら生活は楽しくなると思う（楽しい）	1	2	3	4
⑨ 老後のことを考えると子どもはいた方がよいと思う	1	2	3	4
⑩ 子どもができると子ども中心の生活になるのは仕方がないと思う	1	2	3	4
⑪ 子どもは一人よりもきょうだいがいる中で育てたいと思う	1	2	3	4
⑫ 親にも子育てに協力してもらいたいと思う	1	2	3	4
⑬ 結婚していなくても、子どもを持って構わない	1	2	3	4

すべての方にかがいます

問22 奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思いますか。①あてはまる番号に○をつけ、②③その理由について、あなたが感じている奈良県のイメージにあてはまる番号すべてに○をつけてください。

①奈良県は結婚して子どもを生き育てやすいところだと思いますか
1. はい
2. いいえ



②「1. はい」の理由
1. 買物など日常の生活環境が整っているから 2. 通勤・通学に便利だから 3. 教育環境が充実しているから 4. 医療が充実しているから 5. 家賃など住居費が安いから 6. 治安を守るための対策が十分だから 7. 福祉サービスが充実しているから 8. 緑などの自然環境がよいから 9. その他（具体的に： _____）
③「2. いいえ」の理由
1. 買物など日常の生活環境が整っていないから 2. 通勤・通学に不便だから 3. 教育環境が充実していないから 4. 医療が充実していないから 5. 家賃など住居費が高いから 6. 治安を守るための対策が不十分だから 7. 福祉サービスが充実していないから 8. 緑などの自然環境がよくないから 9. その他（具体的に： _____）

問22-1 問22①で「2. いいえ」と答えた方に伺います。結婚して子どもを生き育てやすいと感じる地域はどこですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

1. 大阪府	2. 京都府
3. その他近畿圏内（三重県含む）	4. 東京圏
5. その他（ _____ ）	

本調査について、あるいは結婚、出産、子育て、少子化などにつきまして、ご意見等がございましたら、下記の欄にどのようなことでもご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

回答後の調査票は同封の返信用封筒に入れ、9月到着分は9月24日(月)、10月到着分は10月24日(水)までにご投函下さい。(調査票や封筒には氏名を書かず無記名でお願いします)

お問合せ先 奈良県福祉医療部こども・女性局女性活躍推進課
TEL:0742-27-8729

奈良県結婚・子育て実態調査報告書

平成 31 年 3 月

編集・発行 奈良県福祉医療部こども・女性局
女性活躍推進課

〒630-8501 奈良市登大路町 30

電話 0742-27-8603

